

太宰府市の文化財 第44集

# 太宰府・佐野地区遺跡群 IX

前田遺跡第8・9・10・11次調査



1999

太宰府市教育委員会

# 太宰府・佐野地区遺跡群 IX

前田遺跡第8・9・10・11次調査



1999

太宰府市教育委員会

# 序

本書は平成2年度から7年度にかけて佐野区画整理事業にともない太宰府市が発掘調査をおこないました佐野地区遺跡群のうち、大字向佐野に所在します前田遺跡の第8次から第11次までの調査報告を集成したものです。

前田遺跡は弥生時代、古代を中心とした遺跡ですが、旧石器時代の石器から中世の遺構面までを検出しました。

今回はコンピュータの普及にともない情報提供の新たな試みとして報告書の体裁を印刷物からCD-ROM版に重心をおいてデジタル化を進めました。これによりさらに多くの情報を盛り込むことができたと考えております。本書が太宰府市の歴史を考え、これからの太宰府市を創造していく一助になれば幸いです。

最後になりましたが資料の提供やご指導いただきました各機関、先生方、さらには発掘調査および整理作業に御協力いただきました作業員の皆様に感謝申し上げる次第です。

平成11年3月  
太宰府市教育委員会  
教育長 長野 治己

## 例 言

1. 本書は平成2年から7年までに太宰府市教育委員会が、太宰府市がおこなう佐野区画整理事業にともない緊急発掘調査をおこなった前田遺跡第8～11次調査の報告書である。
2. 遺構の実測及び写真撮影は、各調査担当者のほか瓜生秀文・塩地潤一・井上信正・河田聡・柴田剛・立田理・林大智がおこなった。調査地の空中写真は(有)空中写真企画がおこなった。遺構全体図はアジア航測(株)に委託した。
3. 遺構の実測には、国土調査法第II座標系を使用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限り座標北(G.N.)を示し、本文中に記される遺構の角度及び距離もこれを基準としている。
4. 出土した金属製品及び木製品の保存処理は下川可容子がおこなった。
5. 遺物の実測と写真撮影及び図版の浄書は、各整理担当者のほか塩地潤一・井上由紀子・松隈里恵子・酒井三保子・阿部浩子・白水文恵・黒木美幸・時津裕子がおこなった。
6. 本書の執筆分担は目次に記した。編集作業はデジタルデータ化まで各整理担当者がおこない、とりまとめを城戸康利がおこなった。

## 目 次

I. この報告書の使用方法について	
II. 調査地の位置と歴史的環境	山村信榮
III. 調査の概要	
1. 第8次調査	山村
2. 第9次調査	城戸康利
3. 第10次調査	井上信正
4. 第11次調査	高橋学

## CD-ROM目次

I. はじめに	山村
II. 調査組織	山村
III. 調査記録	
1. 前田遺跡第8次調査	山村
2. 前田遺跡第9次調査	城戸
3. 前田遺跡第10次調査	井上
4. 前田遺跡第11次調査	高橋

# I. この報告書の使用方法について

## 1. 報告書の構成

本報告書は印刷物とCD-ROMにより構成されており、印刷物では遺跡の概要をいかんなく述べています。CD-ROMに収納しているファイルが従来の印刷された報告書の内容を持つもので、遺跡の詳細についてはこれをご覧ください。

## 2. CD-ROMについて

本CD-ROMはMacintosh/Windowsどちらの環境でも閲覧できる様、ハイブリッド形式で記録しております。

報告書はPDF形式にて作成されていますので、これを表示させるためにはAcrobat Readerがコンピュータにインストールされている必要があります。

また、Acrobat Reader (米、アドビシステムズ社製、フリーウェア) は本CD-ROM内に添付してあります。ただし、Macintosh用Acrobat Reader4.0はPower Macintosh専用になっていますので、それ以前のもの (CPUが68040シリーズのもの) にはAcrobat Reader3.0の方をご使用ください。その他、動作環境及びインストールの詳細に関しては、ソフトウェア内に添付の説明テキストがございますので、そちらの方をご参照願います。

### PDFドキュメントの説明

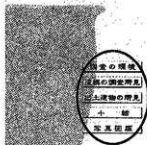
・PDFドキュメントは全部で5ファイルの構成になっています。(序から総説までがtop.pdf。以下、各次の報告書がM08.pdfからM11.pdfにそれぞれ対応します。)

・各ファイルは独立して起動できますが、それぞれのファイル間は表紙のボタンをクリックすることで、インタラクティブに移動できるようにリンクが設定してあります。

・各項目へは各次表紙のメニューボタンと詳細な内容のしおりが用意してありますので、クリックで移動できます。また、サムネールをダブルクリックしても該当のページにジャンプすることができます。



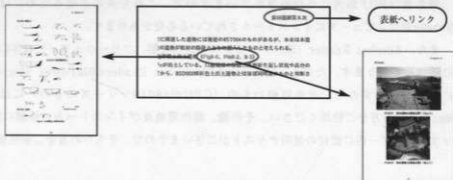
### 第8次調査



・しおりの左側に三角マーク（Mac版のみ、Win版は「+」マーク）が表示しているものは、それをクリックするとより詳細な階層メニューが現れます。



・また、本文中の色文字（水色、緑、青）になっているものは、その該当ページにリンクが設定してありますので、クリックするとそれぞれ挿図や写真や表紙にジャンプできます。

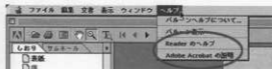


・Acrobat Readerのツールバーにも様々な機能が用意されています。



- しおり、サムネールの表示/非表示
- ドキュメントのプリントアウト
- 最初/最後のページへ
- ズームインツール (拡大)  
Mac/Option, Win/Ctrl キーと合わせてズームアウトツール (縮小)
- 前/次のページへ
- 手のひらツール (画面スクロール)  
AcrobatReader 4.0 の場合スペースバーでこのツールが使えます
- 前/次の画面へ (表示履歴に準拠)
- 画面の表示モード切替 (原寸、全体、縮合せ)

・より詳細なソフトウェアの解説がヘルプメニューから呼び出せますので、そちらもご覧下さい。



・以上、Macintosh版のキャプチャーを使っていますが、Windows 版も機能は同じです。

## II 調査地の位置と歴史的環境

佐野地区は玄界灘に開けた福岡平野の南端、太宰府市の南西に位置する。南西方向には標高1000m級の背振山があり、本報告の前田遺跡はそこから派生する丘陵裾と福岡平野の最南部が接する位置にあり、地区内を南西から北西に流れる大佐野川は南の筑紫野市二日市方面から流れる鷺田川と合流し、水城を越えて博多湾に北流する。太宰府市は玄界灘に連なる博多湾に面した福岡平野と有明海に面した筑後平野を溝状に繋ぐ一番狭い場所にあたり、古代にはこの地形を利用して防衛施設としての水城が築かれている。

弥生時代では遺跡の密度からいえば北の春日市の岡本丘陵を中心とした大集落群と南の筑紫野市から小郡市にまたがる三国丘陵から夜須町にかけての筑紫平野北側の大集落群に挟まれた形となり、両地域に比べれば点々とその痕跡が辿れるに過ぎないと考えられてきた。しかし、この佐野地区ではじまった調査によって、すでに報告した地区の北にある原口遺跡では弥生前期中頃（板付Ⅱ式期）に5棟の円形住居からなる集落跡が、前田遺跡とは大佐野川を挟んで対峙する難川、フケ遺跡では弥生後期から終末、古墳時代の初頭にかけての低湿地を利用した木製品貯蔵、加工の場所や堀立柱建物からなる集落の跡などが検出され、さらにそれに切られる形で板付式期に該当する円形に展開する前期集落が発見された。近年では御笠川北岸の四王寺山裾の国分～水城地域で濠を伴った中期の集落も発見され、不鮮明であったこの地域の弥生時代の様相が次第に明らかにされつつある。

歴史時代にあつては地区内を東西に横たわる字宮ノ本の丘陵は過去の調査で「買地券」（墓誌）を伴った大宰府官人（推定）の葬送の場所として利用されていたことが判明しており、その後の調査でこの墳墓群の葬送の時期が奈良時代に遡り、下限は10世紀代におかれることがわかってきた。また、隣接する前田遺跡において水城西門から大宰府政庁にいたる道幅約10mの古代官道が発見され、先の宮ノ本墳墓群の地理的位置づけに、付加すべき新たな情報を提供している。

今回の前田遺跡10、11次調査は弥生時代前期、後期の集落の中核部分の一角を開けた調査であり10次では古代官道の一部が検出されている。前田遺跡8、9次調査は古代の墳墓のあり方や広がり、官衙的な建物群の外縁部に存在する金属関連や水稲の生産を伴う集落、中世の集落などを考察するためには重要な発掘調査である。

### 参考文献

- 【太宰府・佐野地区遺跡群I～VIII】 1989～97 太宰府市教育委員会
- 【宮ノ本遺跡】 1980 太宰府市教育委員会
- 【宮ノ本遺跡Ⅱ】 1992 太宰府市教育委員会
- 【太宰府市史考古資料編】 1993 太宰府市

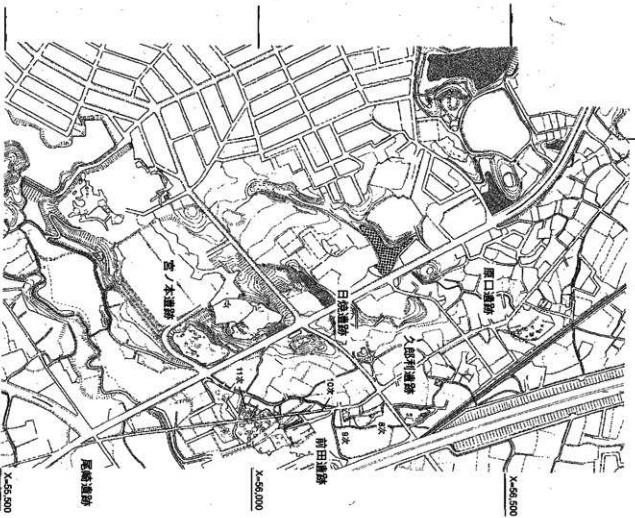


図1 佐野地区周辺の遺跡



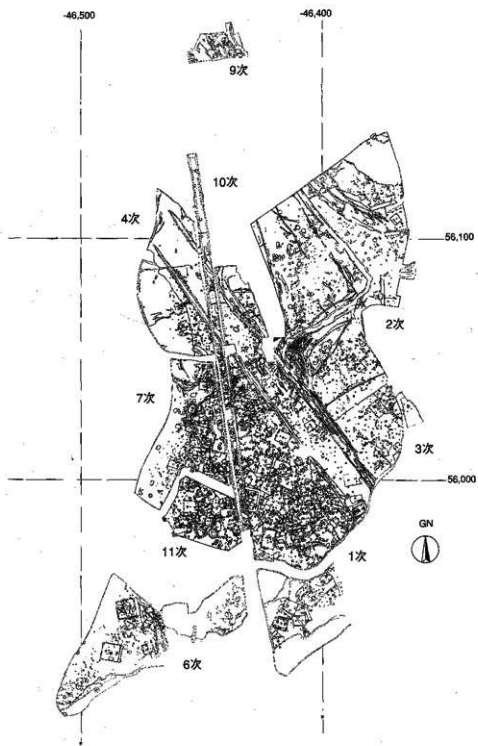


图2 前田遗迹调查区位置图

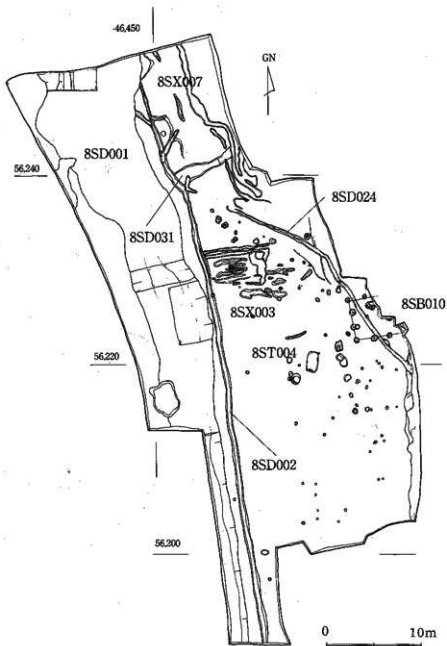


図3 第8次遺構配置図 (1/400)

### III 調査の概要

#### 1. 第8次調査

前田遺跡8次調査で明確にされた所見は、古代にあっては金属生産に関連した遺物を伴う8世紀中頃以降の遺物の分布が認められ、その時期に該当する掘立柱建物と水田給水施設としての

一定の方向性を持った溝が検出されたことが挙げられる。中世では古代の水路とはほぼ同じ方向を踏襲する大きな溝があり、13世紀後半から14世紀前半頃の生活廃棄物がその埋没過程で投棄された状況が見られ、至近に集落が存在することを示唆している。

8世紀については周辺の調査所見をあわせて考えると、この丘陵裾の平坦部には8世紀前半に幅12mの古代官道が敷設され、中頃から後半にかけて官道の側溝が埋没する過程で金属生産を伴う掘立柱建物を中心とした水田を伴う生活空間が現れる。この空間の北側に近接する原口、久郎利遺跡では官衛的な建物群が展開している。

8世紀後半から9世紀には官道が廃絶する、という展開が見られる。

## 2. 第9次調査

旧水田面の下で南東から北西または北に向かう溝を数条検出した。前9SD001は幅約3m、深さ1m程で、12世紀中頃までの遺物を含む。前9SD002の掘り直しの可能性がある。前8SD001に続くものである。前9SD002は幅約3m、深さ約0.6mである。前9SD005は幅約3m、深さ約0.4mで、前9SD002に切られている。前9SD004は幅約2.5m、深さ約0.2mで、近世以降の埋没である。前9SD006は幅約0.7m、深さ約0.2mを測る。前8SD002と同一のものである。奈良時代までの遺物を出土している。前9SD001から剥片尖頭器を出土した。

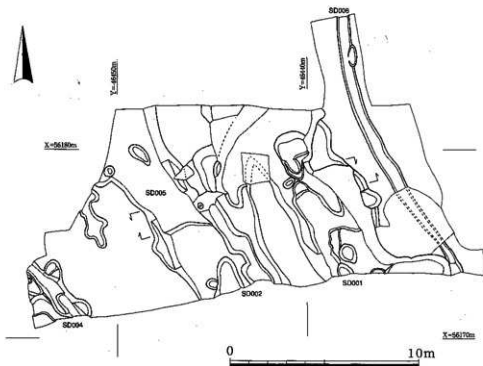


図4 第9次調査遺構配置図 (1/200)



第8次調査全景（北から 奥は天拝山）



第9次調査全景（上が東）

### 3. 第10次調査

佐野地区区画整理事業に伴い道路の付け替えが行われ、その旧道部分を調査した。いずれも調査範囲が狭いため、詳細については今後の周辺調査区での成果に委ねる部分が多い。

#### 【弥生時代前期】

本調査区の西側の前田遺跡第7次調査（既報告）を中心に弥生時代前期の集落が同心円状に展開しているが、本調査区の南側がこの集落の東側にあたる。ここでは住居は検出されなかったが、貯蔵穴が6基検出された。各遺構とも遺物量は少ないが、前10SK025は比較的まとまって遺物が出土している。

#### 【弥生時代後期～古墳時代前期】

調査区南側一体で、当時の堅穴住居・溝等を検出した。本調査区の範囲が狭いため、隣地調査区で同一遺構が検出される場合が多く、本調査区のみでは全体像を把握するのが困難である。周辺調査の整理報告とあわせて、今後再検討する必要がある。なお前10SD005および前10SD035について、本調査区内では直接両遺構の関連はわからないが、周辺調査区の成果よりこの両者は同一遺構とみられ、方形周溝等と考えられる。

#### 【奈良時代】

調査区北側で、北西～南東方向に走行する溝が2本平行に検出された（前10SD001・前10SD100）。周辺調査成果より水城西門を通る官道側溝とみられる。なお両遺構に挟まれた

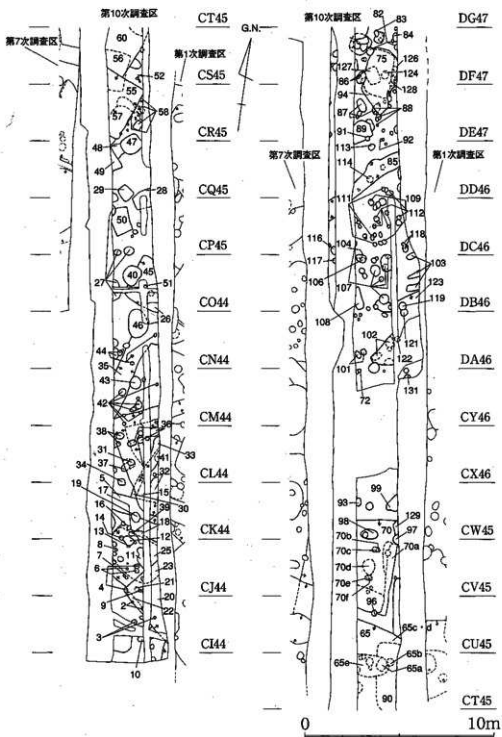


図5 第10次調査遺構配置図 (1) (1/200)

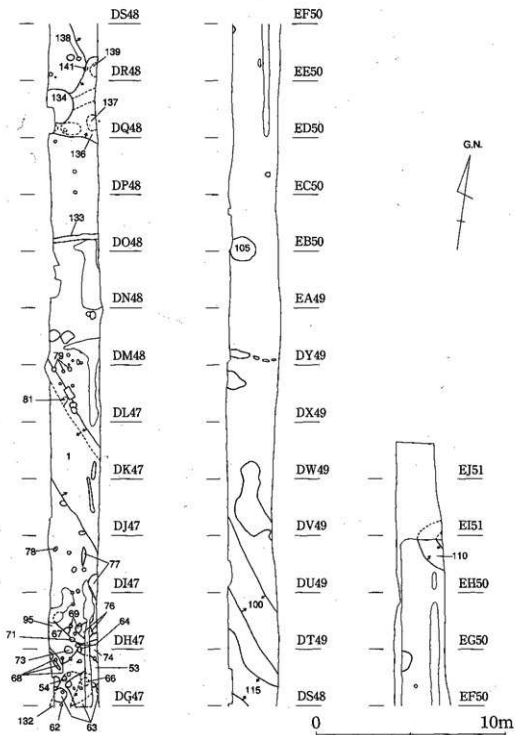


図6 第10次調査遺構配置図 (2) (1/200)

部分に路面痕跡は残存していなかった。このほか奈良期の溝・土壌等が調査区中央～北側にかけて検出されている。

最後に、官道西側溝とみられる前10SD001の溝底において直径20cm強程度の小穴状遺構を複数確認した。これは溝を掘削したときの鋤痕跡とみられる。

鋤で地面を掘削するという事は、まず地面に対して垂直または垂直に近い方向に鋤を突き刺し、鋤先を地中深く押し込み、それから鋤を傾けて土を掘り起こすという作業となる。このことを念頭におきながら鋤痕跡を観察した。

鋤痕跡の平面プランはほぼ円形を呈しているが、詳細をみると、鋤を突き刺したとみられる部分の地山との境界は

比較的直線状を呈しており、他の部分は平面プランがやや乱れている。そこで鋤が当たったとみられる直線状の部分に対して垂直にたち割り、断面観察すると、地面を掘りこんで鋤先があたった最下部は鋭角を呈し、土を掘り起こした部分は半月状に土が堆積している状況がみられた。このことは、実験的にスコップを使用して溝底を掘り、埋め戻したものを同様に断面観察した場合も同じ結果が得られた。(なお、溝底はシルト質～砂質の軟質の地盤である。)

こうして得られた鋤痕跡を追ってみると、溝底のみならず溝肩の東側(官道路面側)にも幅1m程度の範囲でも確認され、土層観察とあわせてこの溝がテラス状の段を有することが判明した。また鋤の方向から掘削作業単位を一部確認できたことも大きな成果であった(本文PL10-7参照)。

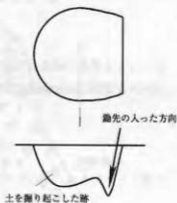
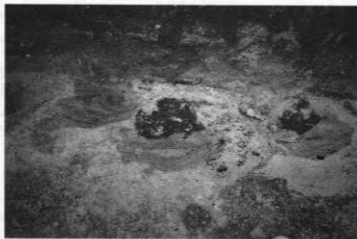


図7 鋤痕跡断面模式図



前10SD001溝底の鋤痕跡断面観察(西から撮影)

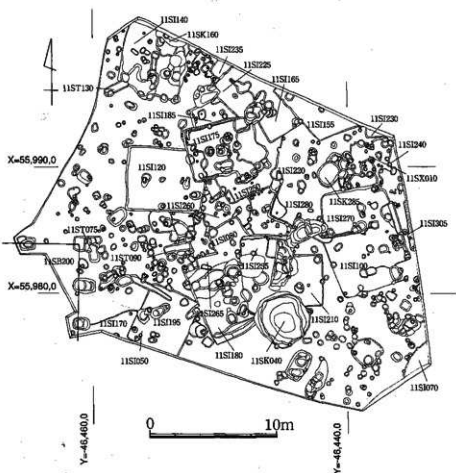


図8 第11次調査遺構配置図 (1/300)

#### 4. 第11次調査

前田遺跡第11次調査の調査区は、前田遺跡第6・7・10次調査地点に囲まれた土地である。この土地は大佐野川の北岸にあたり、宮ノ本丘陵の東裾に位置する。地形は宮ノ本丘陵から東の平野に向かって延びている傾斜地の中位にあたる。遺構は主に黄灰色粘質土層を掘削して構築されている。

以下、時代別に概観していく。

##### 【弥生時代以前】

本調査区内では旧石器時代の遺構、遺物は検出されなかった。縄文時代については、弥生時代の住居内埋土から後期、晩期の土器片が若干量出土している。出土土器の分布をみると、





前田遺跡第11次調査 調査区全景（上が北）

後期の土器片は前11SB100・210・280から、晩期の土器片は前11SB180から出土しており、傾向として調査区中央部東よりに集中して分布していることがわかる。このあたりに当該期の遺構が存在していたとすれば、明確な遺構を伴わない利用形態だったと思われる。これは前田遺跡の前報告で述べられているような小規模なキャンプ地という性格があてはまるだろう。

【弥生時代前期】

この時期に該当する遺構は前11SI255・260・265、前11SK285があげられる。ただし前11SI260・305は積極的な時期比定が難しいため可能性があるという程度にとどめておきた

い。前田遺跡全体からみた場合に本調査地区は、前期前田集落の中心部からやや南西に外れた場所に位置する。それは遺構の展開にも表れており、住居とそれに付随する貯蔵穴という組み合わせとしては検出例が少ないため、判断は付けにくい。集落内の位置づけなどは連接する調査の成果が出された時点で考えていくべきと思われる。

#### 【弥生時代後期】

本調査では当該期の住居が密集しており活動が盛んだったことを思わせる。時期別にみると、後期前半～中頃の住居は前11SI070、中頃～後半は前11SI100.195.210.230、後半～末期は前11SI140.175.185.220.225.270などである。厳密な時期の特定はできないが後期の住居として前11SI170.240.250も含まれる。それぞれの時期で頻繁な建て替えが行われているが、明確な方向などの規則性は認められない。とくに後期から末期にかけては調査区北部に帯状に密集しており、住居の建て替えが盛んだったことを示している。

#### 【古墳時代前期】

前期初頭の布留式段階の住居が多く、弥生時代後期末葉から連続して形成されたと思われる。前11SI120.155.165.180があげられる。ただしこれに継続する遺構は検出していない。

#### 【奈良時代】

8世紀中頃～後半に掘立柱建物1棟、竈付き堅穴住居2棟、大型土坑2個が併存している。前11SB200は正方位に近い振れを持つ大型掘立柱建物で、各々の掘り方の断面形状が有段を持つ特色を有する。同様な構造を持つ掘立柱建物が前田遺跡第1次調査でも検出されている。竈付き堅穴住居は出入口を2棟とも南西方向に向けている。その理由としては前田遺跡第4次調査で検出されている古代官道（西門ルート）と同時期に併存していることが理由の1つと思われる。つまり官道から堅穴住居の入口が直接見えないようにする視覚的な規制が存在した可能性がある。周辺の調査事例と合わせて今後検討していきたい。前11SK040は最終的に



前田遺跡第11次調査SI050床面検出状況（西から）

は8世紀後半から末期に埋没しているが、最初に掘られたのは8世紀前半である。多量の土器が廃棄されていた土坑だが、その大きさをゆえ生活に関連する性格とは考え難い。何らかの祭祀に関連した土器を継続して廃棄した土坑の可能性もあるだろう。これらの奈良時代の遺構群は前田遺跡第7次調査の奈良時代の遺構群とほぼ同時期であるため密接な関連性があると考えている。ただし、前11SB200と前11SK090はそれらよりも若干先行する可能性を示唆しておきたい。

#### 【平安時代】

古代末以降、隣接する宮ノ本丘陵を中心に展開していた墳墓群は前田遺跡の範囲まで下ってくる。前11ST090は木棺墓で、副葬品から9世紀前半から中頃と考えられ、方位は東へ大きく振れる。前11ST130は削平を受けているため不明な点が多いが、方位の振れが近いため11ST090と同じ時期の木棺墓と推定しておきたい。また前11ST075は副葬品の土器から10世紀中頃の時期に帰属すると思われ方位の振れもほぼ正方位に近い。

#### 【中世】

11世紀以降、土地利用としては鎌倉時代までは何らかの土地利用がされていたと思われるが、ピットや土坑などが主で遺構の性格の把握は難しい。前11SX010は墓の可能性が指摘できるが大きく削平を受けており判断が難しい。それら以後、昨今まで耕作面として利用されていたと思われる。

上記の様に本調査地は縄文時代から中世までの複合遺跡であり、特に注目されるのは弥生時代前期、弥生時代後期～古墳時代初頭、奈良時代の大きく3期の集落としての利用がされていることである。今後は周辺の調査成果と合わせて検討していき、前田遺跡の全貌を明らかにしていくことが課題であろう。

### 佐野地区遺跡群 IX

前田遺跡第8・9・10・11次調査  
太宰府市の文化財第44集

1999年3月15日

発行 太宰府市教育委員会

太宰府市観世音寺1-1-1

# 太宰府・佐野地区遺跡群 IX

第8次調査

写真図版

第9次調査

写真図版

第10次調査

写真図版

第11次調査

写真図版

# 序

本書は平成2年度から7年度にかけて佐野区画整理事業にともない太宰府市が発掘調査をおこないました佐野地区遺跡群のうち、大字向佐野に所在します前田遺跡の第8次から第11次までの調査報告を集成したものです。

前田遺跡は弥生時代、古代を中心とした遺跡ですが、旧石器時代の石器から中世の遺構面までを検出しました。

今回はコンピュータの普及にともない情報提供の新たな試みとして報告書の体裁を印刷物からCD-ROM版に重心をおいてデジタル化を進めました。これによりさらに多くの情報を盛り込むことができたと考えております。本書が太宰府市の歴史を考え、これからの太宰府市を創造していく一助になれば幸いです。

最後になりましたが資料の提供やご指導いただきました各機関、先生方、さらには発掘調査および整理事業に御協力いただきました作業員の皆様に感謝申し上げる次第です。

平成11年3月  
太宰府市教育委員会  
教育長 長野 治己

## 例 言

- 1 本書は平成 2年 から 7年 までに太宰府市教育委員会が、太宰府市がおこなう佐野区画整理事業にともない緊急発掘調査をおこなった前田遺跡第 8～11 次調査の報告書である。
- 2 遺構の実測及び写真撮影は、各調査担当者のほか瓜生秀文・塩地潤一・井上信正・河田聡・柴田剛・立田理・林大智がおこなった。調査地の空中写真は(有)空中写真企画がおこなった。遺構全体図はアジア航測(株)に委託した。
- 3 遺構の実測には、国土調査法第 I 座標系を使用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限り座標北(GN)を示し、本文中に記される遺構の角度及び距離もこれを基準としている。
- 4 出土した金属製品及び木製品の保存処理は下川可容子がおこなった。
- 5 遺物の実測と写真撮影及び図版の浄書は、各整理担当者のほか塩地潤一・井上由紀子・松隈里恵子・酒井三保子・阿部浩子・黒木美幸・白水文恵・時津裕子がおこなった。
- 6 本書の執筆分担は調査組織の最後に記した。編集作業はデジタルデータ化まで各整理担当者がおこない、とりまとめを城戸康利がおこなった。
- 7 遺物の分類は、以下に記載された分類によっている。

土器	太宰府市教育委員会(1983)『太宰府条坊跡 II』 太宰府市教育委員会(1992)『宮ノ本遺跡 II 窯跡篇』
陶磁器	太宰府市教育委員会(1983)『太宰府条坊跡 II』 山本信夫(1995)『中世前期の貿易陶磁器』『概説 中世の土器・陶磁器』
焼塩壺	森田勉(1983)『焼塩壺考』『大宰府古文化論叢 下巻』
石鍋	森田勉(1983)『滑石製容器 特に石鍋を中心として』『佛教藝術』 148号

- 8 掲載したデータの収蔵管理は下記の場所でおこなっている。

太宰府市文化ふれあい館

(福岡県太宰府市国分491 tel092 924 8533 fax 092 924 8609)

## 総説

## (1) 佐野地区遺跡群の歴史的環境

佐野地区は玄界灘に開けた福岡平野の南端、太宰府市の南西に位置する。南西方向には標高1000m級の背振山があり、本報告の前田遺跡はそこから派生する丘陵裾と福岡平野の最南部が接する位置にあり、地区内を南西から北西に流れる大佐野川は南の筑紫野市二日市方面から流れる鷲田川と合流し、水城を越えて博多湾に北流する。太宰府市は玄界灘に連なる博多湾に面した福岡平野と有明海に面した筑後平野を溝状に繋ぐ一番狭い場所にあたり、古代にはこの地形を利用して防衛施設としての水城が築かれている。

弥生時代では遺跡の密度からいえば北の春日市の岡本丘陵を中心とした大集落群と南の筑紫野市から小都市にまたがる三国丘陵から夜須町にかけての筑紫平野北側の大集落群に挟まれた形となり、両地域に比べれば点々とその痕跡が迎れるに過ぎないと考えられてきた。しかし、この佐野地区ではじまった調査によって、すでに報告した地区の北にある原口遺跡では弥生前期中頃(板付Ⅱ期)に煉の円形住居からなる集落跡が、前田遺跡とは大佐野川を挟んで対峙する難川、フケ遺跡では弥生後期から終末、古墳時代の初頭にかけての低湿地を利用した木製品貯蔵、加工の場所や堀立柱建物からなる集落の跡などが検出され、さらにそれに切られる形で板付式期に該当する円形に展開する前期集落が発見された。近年では御笠川北岸の四王寺山裾の国分一水城地域で濠を伴った中期の集落も発見され、不鮮明であったこの地域の弥生時代の様相が次第に明らかにされつつある。

歴史時代においては地区内を東西に横たわる字宮ノ本の丘陵は過去の調査で「買地券」(墓誌)を伴った大宰府官人(推定)の葬送の場所として利用されていたことが判明しており、その後の調査でこの墳墓群の葬送の時期が奈良時代に遡り、下限は10世紀代におかれることがわかってきた。また、隣接する前田遺跡において水城西門から大宰府政庁にいたる道幅約10mの古代官道が発見され、先の宮の本墳墓群の地理的位置づけに、付加すべき新たな情報を提供している。

今回の前田遺跡10・11次調査は弥生時代前期、後期の集落の中枢部分の一角を開けた調査であり10次では古代官道の一部が検出されている。前田遺跡8・9次調査は古代の墳墓のあり方や広がり、官衛的な建物群の外縁部に存在する金属関連や水稲の生産を伴う集落、中世の集落などを考察するためには重要な

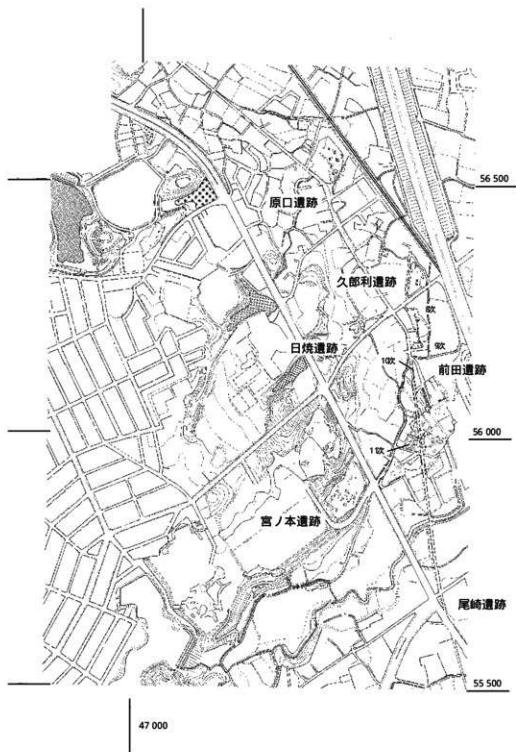


図1 佐野地区周辺の遺跡



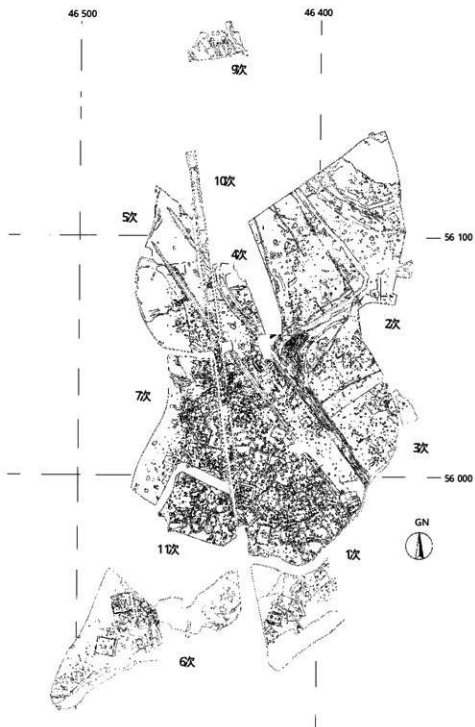


图 2 前田遺跡調査区位置图

発掘調査である。

参考文献

- 『太宰府・佐野地区遺跡群 I-V II』 1989～97 太宰府市教育委員会  
 『宮ノ本遺跡』 1980 太宰府市教育委員会  
 『宮ノ本遺跡 II』 1992 太宰府市教育委員会  
 『太宰府市史考古資料編』 1993 太宰府市

調査に至る経緯および調査・整理の方法

基本的な調査に至る経緯および本市における調査・整理の流れや分類基準に関する参考文献については以下の文献をご参照いただきたい。

- 『太宰府・佐野地区遺跡群 I』 1989太宰府市教育委員会

(2) 調査組織

報告する調査が多年度にまたがるため、ここで一括して調査体制を列挙する。

(平成2/1999年度)前田8次調査

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	西山義則
	社会教育課長	関岡 勉
	文化財係長	鬼木富士夫
	主任主事	岡部大治
主 事		白水伸司
	主任技師	山本信夫
調査		狭川真一
		城戸康利(平成18～)
	技 師	城戸康利(～平成26年3月30日)
		緒方俊輔
		山村信榮(調査担当)
技師(囑託)		中島恒次郎
		狭川麻子(保存処理担当)

(平成3/1999年度)前田9次調査

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	中川シゲ子
	文化課長	佐藤恭宏
	埋蔵文化財係長	富田 譲
	文化振興係長	大田重信

	主任主事	岡部大治
		川谷 豊
調査	主任技師	山本信夫
		狭川真一
		城戸康利（調査担当）
		緒方俊輔
	技 師	山村信榮
		中島恒次郎
		塩地潤一
（平成4/1992年度）前田10次調査		
総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	中川シゲ子
	文化課長	佐藤恭宏
	埋蔵文化財係長	高田克二
	文化振興係長	大田重信
	主任主事	岡部大治
		川谷 豊
調査	主任技師	山本信夫
		狭川真一（調査担当）
		城戸康利
		緒方俊輔
		山村信榮（4年7月1日～）
	技 師	山村信榮（～4年6月30日）
		中島恒次郎
		塩地潤一
	技師（嘱託）	田中克子
（平成7/1995年度）前田1次調査		
総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	白木三男
	文化課長	花田勝彦
	文化財保護係長	高田克二（～7年5月31日）
		和田敏信（7年6月1日～）
	文化振興係長	大田重信
	主任主事	岡部大治
		川谷 豊
	主 事	今村江利子
調査	技術主査	山本信夫

	主任技師	狭川真一 城戸康利 山村信榮 中島恒次郎 重松麻里子（一 斉 6月 30日）
	技 師	井上信正 高橋 学（調査担当）
	技師（嘱託）	下川可容子（保存処理担当）
（平成 10/ 1998年度）整理作業		
総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	小田勝弥
	文化財課長	津田秀司
	文化財保護係長	和田敬信
	文化財調査係長	山本信夫
	主任主事	藤井泰人
	主 事	今村江利子
調査	技術主査	狭川真一
	主任技師	城戸康利（整理担当） 山村信榮（整理担当） 中島恒次郎 井上信正（整理担当）
	技 師	高橋 学（整理担当） 宮崎亮一
	技師（嘱託）	下川可容子（保存処理担当） 森田レイ子

また、このほか工事関係者をはじめとする多くの方々のご協力とご教示をいただき調査をおこなうことができました。記して感謝申し上げます。

このCD ROMに收容されているデータの内容と編集責任者は次のようになっている。

太宰府市 前田遺跡

総説	山村信榮
第8次調査	山村信榮
第9次調査	城戸康利
第10次調査	井上信正
第11次調査	高橋学

総説

9次

10次

11次

# 第8次調査

調査の環境

遺構の調査所見

出土遺物の所見

小 結

写真図版

## 前田遺跡8次調査

### 調査の環境

8次調査は太宰府市大字向佐野字久郎利465-1の水田で1990年10月19日から、同年11月3日の期間におこなわれた区画整理事業に伴う緊急調査である。調査対象面積は3300㎡である。調査は山村信榮、狭川真一が担当し、測量・実測には瓜生秀文（現前原市教育委員会）が参加した。

調査は現代の水田耕作土（灰色土、暗灰色土）とその下の床土（黄色土）を重機で除去し、遺構検出をおこなった。遺構検出の結果、溝、掘立柱建物跡、ピット群、畝状遺構、水田跡と考えられる土壌堆積層などが確認された。調査期間の確保など十分な状況が確保できず溝8SD001は完全に掘り上げることができなかった。溝8SD001と溝8SD002は両側の隣地でおこなわれた前田遺跡9次調査でその延長が確認されている。

遺物には古代の須恵器、土師器、金属生産関連の土製品が8SD002から、中世では8SD001から土師器皿、天目椀、白磁坏（IX類、枢府系）、青磁椀、国産陶器（東播系）こね鉢、木製下駄、蓋、8SX00からはそれら以外に青磁香炉、国産陶器（中世須恵器）甕などが出土している。この9次、8次調査地点の南側には弥生時代前期から古墳時代前期にかけての拠点的な集落が検出されているが、当箇所では弥生時代に属する遺物の出土はほとんど認められない。

遺構、遺物の総合的な所見から、古代には一棟の掘立柱建物を中心とした生活空間とそのかたわらに水田水利に関わる小規模な水路がある空間が、中世（鎌倉時代後半ころ）には至近に拠点的な集落があったことを物語る廃棄機能を持った水路が調査区西側を縦断する形となっている。

以下にその詳細を述べる。

### 遺構の調査所見

#### a 古代の遺構

##### 溝状遺構

8SD002( F<sub>8</sub>85 86 P<sub>8</sub>83 84 85 86)

調査区の中央を縦断する幅約30cm、深さ30cmの溝状遺構で、検出した南と北側間での値では約N11 18 Wの、遺構中央から南半分の直線的な部分ではN8 19 Wの振れを持つ溝で、北に流れている。

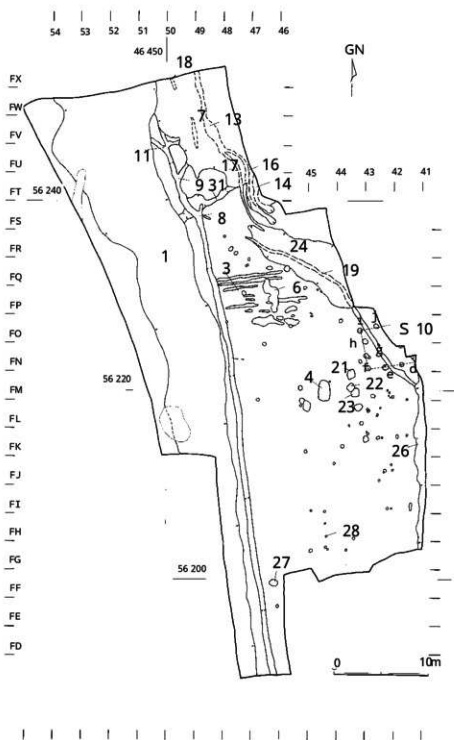


Fig 8 1 前田遺跡第 8 次調査遺構略図



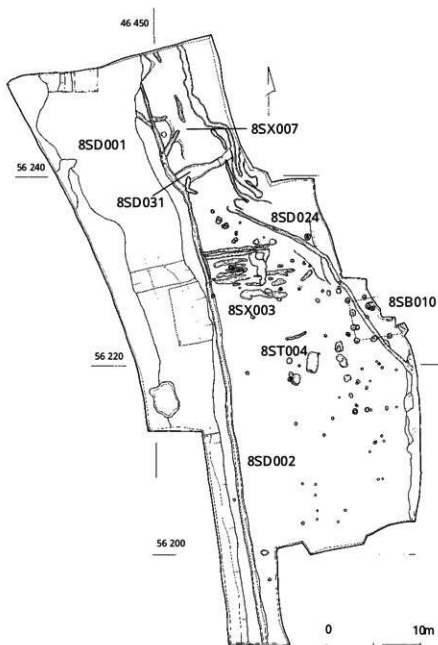


Fig 8 2 前田遺跡第 8 次調査遺構配置図

北側には3箇所の分水点があり、それぞれには南から順に 8SX 008、8SX 009、8SX 010の個別番号を充てている。分水はこの溝を中心に東西両方向におこなわれているが、分水部分の構造を観察すると、本線から枝別れた溝底の高さが本線溝の midpoint から上位にあり、本線の一定の水量が満たされたときにオーバーフローするように設定されていたことが考えられる。分水、流下したその先は残念ながら中世の 8SX 007(水田土壌堆積)、8SD 001(大溝)によって切られて消滅している。おそらく両側に奈良時代の水田が広がっていたことと考えられる。

土層の堆積状況は縦方向の観察状況では大きく3つの層群に分けられ、上から暗灰土、暗灰褐色土、淡灰褐色砂質土であり、出土遺物もこの層名によって取り上げている。土層状態から、溝は初期には花崗岩風化土に由来する白色の砂粒が流される流量を保っていたが、後に流量が落ちて褐色、灰色系の周辺の土壌が流入し、やがて被覆されるプロセスが観察される。溝が埋没した後に杭が、E-F間を中心に数カ所に打ち込まれている。現代の水田床土直下で検出されており、上面は多少削平されている可能性がある。

溝の平面形状は後述する建物 8SB 03以北の分水点近くまでは直線的で、分水点 8SX 008でさらに西に向きを変えている。出土遺物は上位の暗灰土に多く、破片状態のものばかりであるが、割れ口の磨耗の度合いは低い。時期は8世紀中頃に降に想定される。

8SD 031( F 8 2 P 8 5 8 6 )

溝 8SD 002の分水点 8SX 008付近の下で検出された南西から北東に向かう溝状遺構で、8世紀に属す須恵器環と蓋の破片が出土しており、8SD 002に先行する8世紀代の遺構である。上下二つの層群に分けられる。

#### 掘立柱建物

8SB 010( F 8 3 P 8 15 8 16 8 17 )

東西2間以上(3.5m)、南北2間(4.5m)の掘立柱建物である。柱間は東西列が1.8m・1.7mで、南北列は1.4m・1.5m・1.6mである。土層観察では全ての柱穴に柱痕跡が残されていた。建物の規模はその一部が調査区域外に延びているので全容は掘めていない。柱掘り方は概ね円形で、柱痕跡下端が掘り方底より浅いものがある(gif)。柱の太さは10~20cmと多少幅がある。

遺構の掘り方の深さは遺構面から10~30cmと浅い。建物の主軸方向の振れはN10 57 Wである。

出土遺物は図化しがたい小片ばかりで、柱穴gで土師器の髹、hで須恵器の鉢片

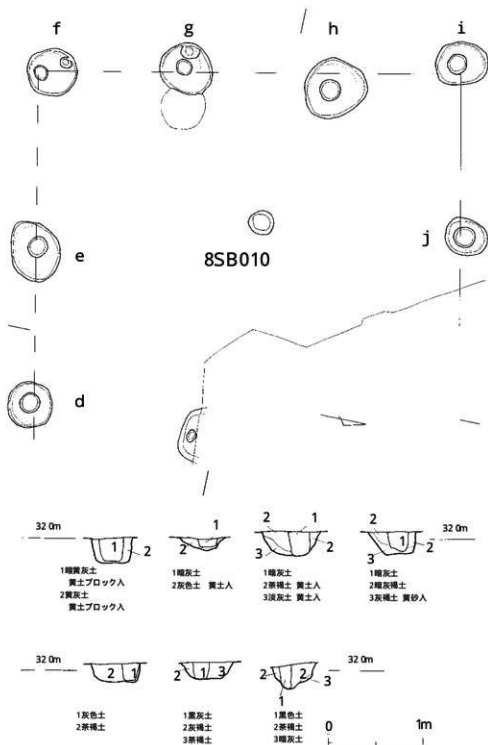


Fig 8 3 8SB010掘立柱建物実測図

が、Hで須恵器坏片が出土し、奈良時代に帰属する遺構と判断できる。

#### 墳墓

8ST004( F 図8 4 P 1a8 13 8 14)

規模は2.1m 0.9m、深さ1.0mを測る。角が丸い長方形の掘り方を持つが、平面的には棺のプランを見つけることはできなかった。断面観察では北側で明確な黒色粘質土の立ち上がりが観察され、棺小口の痕跡と判断した。床面に近い高さまで掘り下げたところ北側に土師器坏が3点が出土した。釘は一点もなく、木釘を使用したか組み木であったかのいずれかであろう。遺物は正置に近い形で出ており、棺内に副葬されたものと考えている。土器の所属時期から9世紀末から10世紀前半頃の所産と考えられる。

西の丘陵部を主体とする宮の本遺跡からここ前田遺跡にかけては、8世紀以降は都市大宰府における官人の葬送地の一つとして利用されているが、本例は平地を占める前田遺跡の墳墓群にあっては最北端での検出例として注目される。

#### b 中世の遺構

##### 溝状遺構

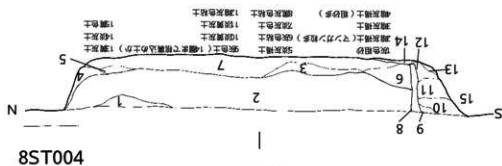
8SD001( F 図8 7 P 1a8 18 8 19)

調査区の西側を8SD002に沿うような形で北流する、幅6~9m、深さ1.3m以上の規模の溝で、その8SD002を踏襲するような方向性から初期には人為的に開削されたものと考えられる。調査は諸般の事情から一部に止まってしまった。土層の堆積状況は大きく上下に二分され、上層は淡黄灰色土、淡灰色土、下層は灰色系の砂と粘土の互層群からなる。下層は湧水が著しい状況であり、この粘土層中には下駄や蓋などの木製の遺物が遺存していた。下層群はかなりの流量があったことを示している。

遺物には土師器皿、天目椀、白磁坏（IX類、枢府系）、青磁椀、国産陶器（東播系）こね鉢、木製下駄、蓋などが見られる。土器は上層群に多く見られる。下駄以外はいずれも破片資料であり、廃棄行為に伴うものであると考えられる。調査区南西側に13世紀後半から14世紀前半頃にかけての集落が隣接していたものと考えられる。

8SD019( F 図8 2 P 1a8 3 8 4)

調査区の東側を8SX024の溜まり状遺構を通じて水田土壌の堆積層と考えられる8SX007に繋がる溝である。平均的な部位では幅約40cm、深さ約15cmの断面形が



8ST004

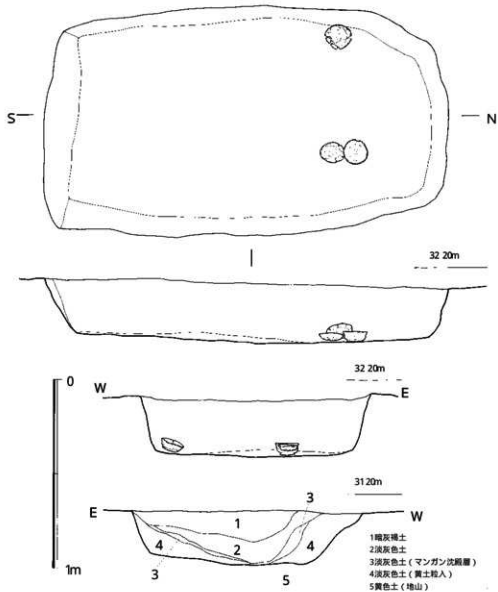


Fig 8.4 ST004墳墓実測図

8SD002

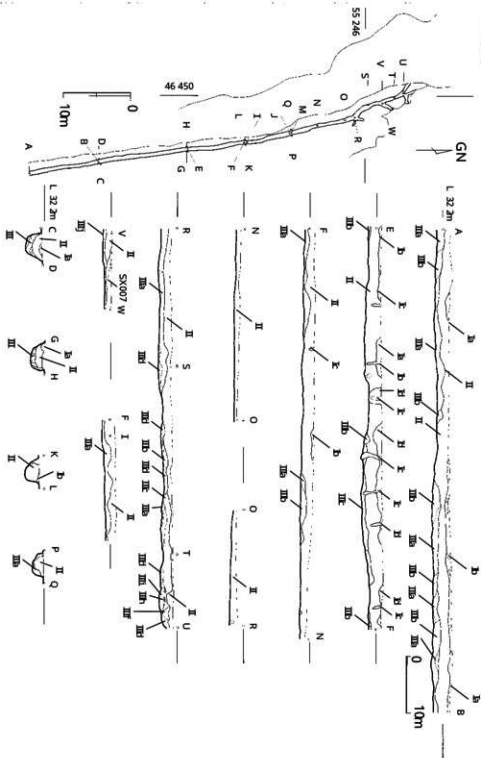
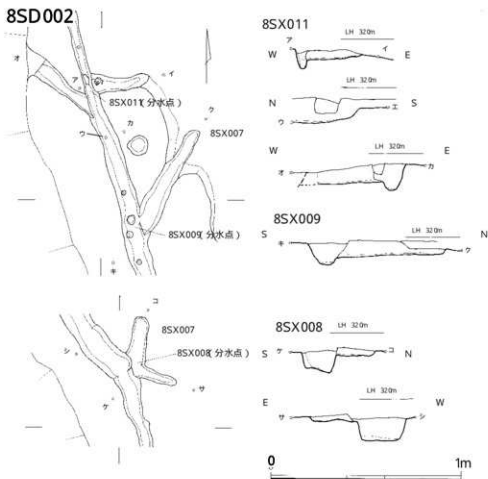


Fig 85 8SD002土層実測図



8SX007北壁土層

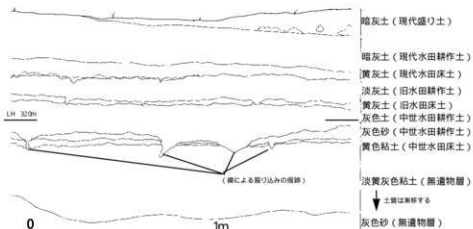
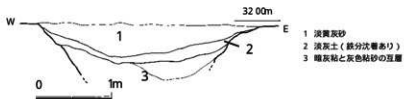
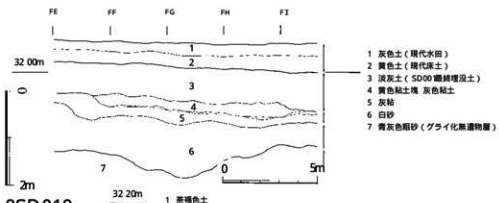


Fig 8 6 SD002 SX007実測図

## 8SD001



## 8SD00 縦断面



## 8SD019

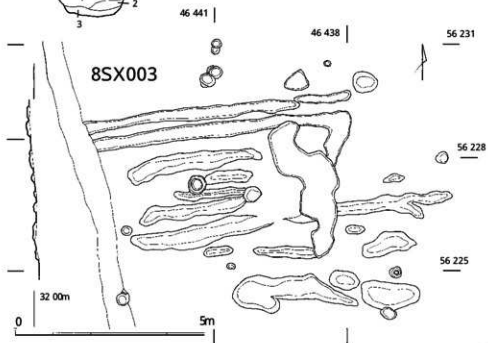
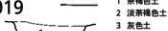


Fig 8 7 8SD001 8SX003実測図



逆台形を呈する。下層は細かな砂が混じる灰色土が、上層には茶褐色の土層が堆積している。8SX007に繋がることから灌漑用の水路である可能性がある。

#### 水田関連遺構

8SX007( [Fig8 2](#) , [Pl8 20](#) )

調査区の北東部にある灰色土を上層、灰色砂を下層とする土壌堆積部分を水田土壌と推定した。調査区北壁面の土層観察によれば灰色土が所々で楔状に下位の土層に食い込んでいる。この箇所を起耕痕跡と認識した。このような現象は下層の灰色砂の一部にも認められることから、上下2面の耕作土壌として考えることが可能であろうと思う。この2層の下に床土と考えられる黄色粘土層があり、この層を中心としたレベルから下に向かって鉄分の斑状の凝集が見られる。

プラントオパール分析の土壌採取をおこなっているが未分析のため現時点では水田関連遺構としている。

出土遺物には12世紀から13世紀代に属する陶磁器片が出土しており、土層関係では13世紀後半以降の8SD0010の最終堆積層に切られていることから、本遺構は出土土器が示す時期に相当するものと思われる。

#### 畑状遺構

8SX003( [Fig8 7](#) , [Pl8 21](#) )

調査区中央やや北寄りの場所に幅約15cm程度の数条の東西方向の小溝が並列している箇所がある。8SD002の埋土を切っておりこの遺構より後出する。類例から畑の畝立ての際の溝の形成痕跡と考えている。埋土の状態から中世に属す可能性がある。

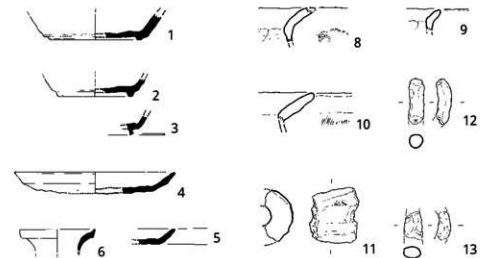
### 出土遺物の所見

図示した遺物の個々の所見、図示していない遺物については遺物観察表、出土遺物一覧表を参照いただきたい。ここでは全体の様相と特徴的な所見について述べる。

8SD002陪灰土出土遺物( [Fig8 8](#) , [Pl8 2](#) , 83 )

須恵器の坏c、皿、壺、鉢b、土師器襷aと金属製品生産に関係するフイゴ羽口、棒状土製品などが出土している。坏は角のある底平なaタイプのものが主体となっている。皿は底平と突形の両者がある。8世紀中頃から後半にかけての時期を示す

8SD002暗灰土



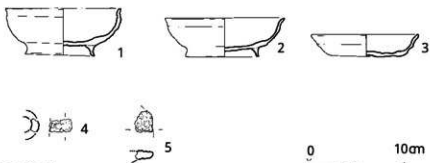
8SD002淡灰褐砂質土



8SB010



8ST004

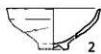


8SD031灰砂



Fig 8 8 8次調査出土遺物実測図 1

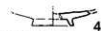
8SD001



2



3



4

8SD00 淡黄灰土



1



1



5



2



4



6

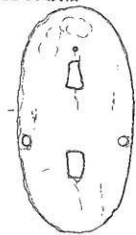


3

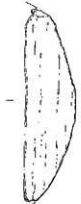
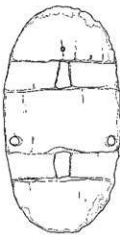


5

8SD001 灰粘



1



2



8SX00 灰色土



1



2



3

8SD00 灰砂



2



3



4



1



Fig 8 9 8次調査出土遺物実測図 2

ものである。生産に関連した遺物には後述の8ST004のものがあるが、本来は本遺構の埋没時期前後の遺物が棺材の陥没とともに混入したものと考えられる。

8SD002 淡灰褐色砂質土出土遺物 (F 8 8 2 P 8 2 8 3)

須恵器坏蓋と坏が出土している。口縁端部の断面三角形折り返し状況や高台の取り付く位置などから、8SD002 暗灰色土出土遺物とはほぼ同時期のものと判断される。

8SB010 出土遺物 (F 8 8 P 8 24)

柱跡gから土師器襖の口縁片、hから須恵器鉢の口縁片、と坏が出土している。鉢の端部はナデによって小さな玉縁状になっている。8世紀の所産である。

8ST004 出土遺物 (F 8 8 P 8 25)

土師器椀と坏 a フィゴ羽口小片と椀型滓片が出土している。生産関連のものは8世紀に属す遺物と考えられ、小規模な鍛冶などがおこなわれていた可能性を示唆している。南約50mの前田遺跡4次の古代官道の側溝から、多量の鉄と思われる金属滓が出土しており、また、7次調査では8世紀の建物周辺の遺構から金属生産に関わる取瓶などが見つかったことから、一体でこれらの存在を位置付けていく必要がある。本調査区北側の久部利遺跡や原口遺跡では8世紀代の官衛的建物群が検出されており、これらとの関わりも考慮しなければならない。

墳墓の棺内副葬品と考えられる土師器の椀は体部が張って口縁端部が屈曲する要素が認められ、坏は高さが3mを越える要素があることなどから9世紀後半から10世紀前半の幅の中で捉えている。

8SD03 灰色砂出土遺物 (F 8 8 8)

須恵器坏蓋と坏の小片が出土している。蓋の口縁端部はS字型に屈曲している。

8SD00 淡灰色土出土遺物 (F 8 8 P 8 26 8 27)

白磁の坏はいわゆる「口禿」と称されるIX類と、見込にスタンプがある枢府系のもの2種が出土している。天目椀は茶色系の色調で中国華南産のものと考えられる。鉢には国産東播系のものと同地産の瓦質土器がある。遺物の供伴関係から13世紀後半から14世紀前半代の所産と考えられる。枢府系坏の出土は太宰府では往事の都市中枢であった観世音寺周辺以外では珍しい。

8SD00 淡黄灰色土出土遺物 (F 8 8 P 8 26 8 27)

土師器の小皿と青磁坏 III 類が出土している。体部外面に施された蓮弁は先端が丸く、弁間にすきまがある意匠である。14世紀前半代に属すものか。

8SD00 灰色粘土出土遺物 (F 8 8 P 8 26 8 27)

木製の下駄と円筒形容器の蓋ないしは底になる板状部材であろうものが出土し

ている。下駄は差歯式のもので底には二字形の平行するくりこみの中央に縦長い台形の穴があげられている。鼻緒のひも穴は三角形に配置され、指部分の穴位置は中央にある。その穴の外側には2m前後の重複した円形のくぼみがあり、使用によるものとも考えられる。蓋の一部には木釘が残存している。木取りは板目である。

8SX00灰色土出土遺物 (Fig.8 9, Pl.8 3Q, 8 31)

白磁V類系皿、黄色釉盤など平安後期的なものと龍泉窯系青磁椀 類など新しい傾向の遺物とがみられる。

8SX00灰色砂出土遺物 (Fig.8 9, Pl.8 3Q, 8 31)

同安窯系青磁椀、龍泉窯系青磁香炉片、中世須恵器の甕の口縁部片等が見られる。香炉の外面には八卦文が施される。8SX007は古い傾向の遺物も見られるが、龍泉窯系製品の存在から13世紀代に下げて考える必要がある。

## 小結

前田遺跡8次調査で明確にされた所見は、古代にあっては金属生産に関連した遺物を伴う8世紀中頃以降の遺物の分布が認められ、その時期に該当する掘立柱建物と水田給水施設としての一定の方向性を持った溝が検出されたことが挙げられる。中世では古代の水路とほぼ同じ方向を踏襲する大きな溝があり、13世紀後半から14世紀前半頃の生活廃棄物とその埋没過程で投棄された状況が見られ、至近に集落が存在することを示唆している。

8世紀については周辺の調査所見をあわせて考えると、この丘陵裾の平坦部には8世紀前半に幅12mの古代官道が敷設され、中頃から後半にかけて官道の側溝が埋没する過程で金属生産を伴う掘立柱建物を中心とした水田を伴う生活空間が現れる。この空間の北側に近接する原口、久郎利遺跡では官衛的な建物群が展開している。8世紀後半から9世紀には官道が廃絶するという展開が見られる。

## 付 F 図85 8SD002土層凡例

## 第 I 群

Ia暗灰土    Ib淡灰褐色粘質土    Ic淡灰褐色粘質土（鉄分混じり）

## 第 II 群

IIa暗灰色粘質土

## 第 III 群

IIIa暗茶褐色粘質土    IIIb暗茶褐色粘質土（黄色粘土混じり）    IIIc灰黑色粘質土

IIId淡灰褐色砂質土    IIIe暗茶褐色粘質土（砂混じり）    IIIf暗灰色粘質土

IIIg暗灰褐色粘質土    IIIh淡灰色粘質土    IIIi暗灰色砂質土

前田8次調査 遺構番号台帳

S番号	遺構番号	種 別	地区
1	8SD 001	大溝 中国天目、東播鉢、環 c 14c ー	
2	8SD 002	溝 (黒灰土) 須恵器、環 c 8c 中一後	
3		ウネ状遺構 (淡黄灰砂状土) 無遺物 埋土色より中世か	FQ47
4	8ST 004	土壇基 (暗灰土) 須恵器、環 c 小皿 a 10c	FM 44
5		櫓? 小屋の櫓柱の痕跡か?	
6		水流によるたまり状 (灰砂) 須恵器、土師器 ?	FP46
7	8SX 007	水田? (灰土たまり状) 同安原系青磁 12c ー	FW 49附近
8		S 溝 份水地点	FS49
9		S 溝 2分水地点	FT 49
10	8SB 010	竪立柱建物 d-1 須恵器跡? 10 19可能性高いだけで確定的でない	FN42
11		S 溝 3分水地点	FV 50
12		ピット (黒灰土) 須恵器、土師器 8c ー?	FL45
13		溝 S 灰砂と共存 (埋土同一) FV48c 17と 18c分岐	FV 48
14		ピット S 灰砂と共存 (埋土同一)	FV47
15		欠番	
16		溝 S 灰砂と同時 FV48c 13c一化化する	
17		溝 S 灰砂と同時 FV48c 13c一化化する	
18		溝 S 灰砂と同時	FX 48
19		溝	
20		欠番	
21		ピット	FM 43
22		ピット	FM 43
23		ピット	FM 43
24		たまり	
25		欠番	
26		落ち (茶土) (現代水路の基部) 磁器 近、現代	41ライン
27		ピット 土師器、古墳環?	FF 46
28		ピット 須恵器	FH 44
29		ピット群 須恵器、磁石	FR47
30		欠番	
31	8SX 031	溝 須恵器、環蓋 8c ー	FTライン

Tab 1

## 前田 8次遺物観察表凡例

R番号とは遺物に付与された整理番号で、収蔵後の検査にはこの番号を用いる。  
土器以外の法量は口径・高さ・底径を、長さ・幅・厚みに読み変える。  
数値後の「は欠損状況での数値、は復元状況での数値で表記している。

前田 8次遺物観察表

遺 物	No	図原番号	写真番号	R番号	器 種	口 径 cm	高 さ cm	底 径 cm	備 考 ( は欠損、*は復元後 )
8SD 000 灰土	S 2	1		001	須恵 長脚器		2.8	10.0	
	# S 2	2		002	須恵 杯 c3		1.8	8.0	
	# S 2	3		003	須恵 杯 c3		2.0		
	# S 2	4		004	須恵 皿 a	17.0	2.2	12.2	
	# S 2	5		005	須恵 皿 a		1.6		
	# S 2	6		006	須恵 壺 f	8.0	2.4		
	# S 2	7		007	須恵 鉢 b		4.5		
	# S 2	8		008	土師 甕		2.6		
	# S 2	9		009	土師 甕 a		2.3		
	# S 2	10		010	土師 甕		3.0		
	# S 2	11		011	土製器 輪郭口	7.8	5.2	3.0	
	# S 2	12		012	土製器 棒状土製器	4.80	1.60	1.30	
	# S 2	13		013	土製器 棒状土製器	3.00	1.50	1.90	
8SD 002 灰褐色砂質土	S 2	1		001	須恵 杯 3		1.5		
	# S 2	2		002	須恵 杯 c3		1.6	9.6	
	# S 2	3		003	須恵 杯 c3		1.1	7.0	
8SB 010	S 10	1		001	土師 甕 a		1.2		
	# S 10	2		002	須恵 鉢 a		4.4		
	# S 10	3		003	須恵 杯 c		1.3		
8ST 004	S 4	1		001	土師 甕 c	12.30	5.10	7.30	
	# S 4	2		003	土師 甕 c	12.70	4.10	7.30	
	# S 4	3		002	土師 甕 a	11.40	2.40	7.30	
	# S 4	4		004	土製器 輪郭口	2.40	1.30	0.90	
	# S 4	5		005	金属 金属滓	2.2	1.9	0.95	
8SX 03 灰砂	S 3	1		001	須恵 高坪		0.8		
	# S 3	2		002	須恵 坪		2.4		
8SD 001 灰土	S 1	1		001	土師 小皿 a	8.2	1.10	6.6	
	# S 1	2		002	海部 天目輪	10.00	3.3		
	# S 1	3		003	白磁 皿 3x1		2.9		
	# S 1	4		004	白磁 坪		1.6		船形系
	# S 1	5		005	須恵 こね鉢		2.7		東播系
	# S 1	6		006	瓦製 すり鉢		3.1		
8SD 001 灰黄土	S 1	1		001	土師 小皿 a	6.4	1.10	4.6	
	# S 1	2		002	土師 小皿 a	8.0	1.20	2.7	
	# S 1	3		003	土師 小皿 a	8.8	1.40	6.6	
	# S 1	4		004	青磁 坪 耳脚	12.2	2.3		船形系青磁
	# S 1	5		005	土製器 棒状土製器	5.3	3.0	1.30	
8SD 001 灰緑	S 1	1		001	木製器 下駄	24.00	12.30	2.00	
	# S 1	2		002	木製器 燗蓋	20.50	5.30	0.75	
	# S 1	3		003	木製器 燗蓋	8.40	7.70	0.75	
8SX 00 灰色土	S 19	1		001	青磁 燗 蓋		1.6		船形系青磁
	# S 1	2		002	白磁 皿 V脚		1.4	4.4	
	# S 1	3		003	海部 盤		3.8		黄釉
8SX 00 灰砂	S 1	1		001	土師 坪 a		1.1	8.8	
	# S 1	2		002	青磁 甕		3.4		河安系青磁
	# S 1	3		003	青磁 燗炉		2.4		船形系青磁
	# S 1	4		004	須恵 甕		3.1		中庄系海部系



前田遺跡第8次調査出土遺物一覧表1

表土		S 硬灰土	
須恵器	環 c 蓋 3 模、長頸壺	須恵器	環 c3 蓋 1 蓋 3 蓋 4 模
土師器	模		高坏、鉢 b、横瓶
瓦質土器	鉢	土師器	壺、高坏、小皿 a(イト)
瓦類	丸瓦、平瓦		環 a(イト)
黄色土		須恵質土器	東播鉢
		龍泉窯系青磁	柄; I5 b I
		白磁	皿; 露田 D
須恵器	環 c3 蓋、模、瓶、鉢 b		壺他; 環 aD
土師器	模、環 a	中国陶器	他器種; 天目椀
須恵質土器	模	土製品	瓦玉
龍泉窯系青磁	柄; I	石製品	ob AP(1)
白磁	柄; VI	瓦質土器	模
瓦類	丸瓦(格子印)、平瓦	瓦類	平瓦
金属製品	鉛滓		
		S 硬灰粘	
S 1			
		須恵器	模、小模
須恵器	環 c3 蓋 c 短頸壺、模、鉢	土師器	片
土師器	小皿 a(イト)、環 a(イト)	石製品	ob ㄱ(1)
	丸坏		
龍泉窯系青磁	柄; I	S 灰粘	
白磁	柄; VI		
中国陶器	壺; 長頸壺	須恵器	環 c3 模、鉢 b
石製品	砥石(2)	土師器	片
木製品	曲げ物片		
弥生土器	高坏	S 2	
瓦類	平瓦		
その他	木炭	須恵器	環 c3 皿、鉢 b、模、高坏
			蓋 1
S 硬質灰土		土師器	模、小模
		金属製品	鉛滓
須恵器	環 c3 環 IV、蓋 1 蓋 3 蓋 4	土製品	棒状、フイゴ羽口
	鉢、横瓶、長頸壺、高坏	石製品	ob ㄱ(1)
土師器	環 a(イト)、小皿 a(イト)	瓦類	平瓦
	高坏		
須恵質土器	東播鉢	S 2 硬灰土	
龍泉窯系青磁	柄; I5 b I		
		須恵器	環 c3
青白磁	合子	土師器	模
中国陶器	模; 片		
	他器種; 天目椀	S 2 硬灰粘土	
土製品	棒状		
石製品	玄冥岩フレーク	須恵器	模、環、皿
瓦類	丸瓦(格子印)	土師器	模
		土製品	棒状

T ab8 3

前田遺跡第 8 次調査出土遺物一覧表 2

S 2灰灰埴砂質土		S 10h	
須恵器	坏 c3 蓋 3 鉢 b	須恵器	坏 c3
土師器	片、襷	土師器	襷片
S 4		S 13	
須恵器	坏 c3	須恵器	片
土師器	坏 a	弥生土器	片
金属製品	鉾澤		
土製品	フイゴ羽口	S 14	
S 6		須恵器	坏
須恵器	坏	S 16	
土師器	片		
S 7灰色土		須恵器	襷片
		土師器	片
		土製品	積土塊 (餅型)
須恵器	坏 c3 蓋 c 長頸壺、鉢 b 蓋 3	S 17	
土師器	小皿 a(イト)		
龍泉窯系青磁	椀; I	須恵器	坏 c2 蓋 2
同安南系青磁	椀; 片	土師器	丸坏 c (混入か?)
中国陶器	黄釉甗	白磁	皿; 片 (混入か?)
土製品	トリペ		
石製品	石炭片、and f(1)	S 18	
瓦類	丸瓦、平瓦 (格子印)	須恵器	坏
S 7灰砂		S 19	
須恵器	坏 c 蓋 c 蓋 1 椀、高坏	須恵器	片、壺
土師器	坏 a(イト)	土師器	片
同安南系青磁	椀; 片		
青白磁	壺	S 19灰埴土	
S 9灰色土		須恵器	坏 c 襷、高坏
須恵器	坏 c3	白磁	皿; 片 (ごけ底) (混入か?)
S 10g		S 21	
須恵器	鉢	須恵器	片
土師器	小襷	土師器	片
金属製品	鉾澤		

T ab8 4

前田遺跡第 8次調査出土遺物一覧表 3

S 24			
須惠器	坏 c3 蓋、 裏		
土師器	標、 坏 a(イト)		
土師製土器	網		
同安房系青磁	輪；片		
白磁	器物；近代遺		
国産陶器	土瓶		
金属製品	磁滓		
土製品	加工土器片		
石製品	由 f(1)		
瓦製土器	鉢		
瓦類	平瓦		
S 27			
土師器	坏		
S 28			
須惠器	坏		
S 31灰砂			
須惠器	坏、 高坏		
土師器	片		

Tab 8 5

P101 02



PL08 01 前田遺跡 8次調査全景 1(北より)



PL08 02 前田遺跡 8次調査全景 2(東より)

P103 04



PL08 03 前田遺跡 8次調査俯瞰 1(北半を西より)



PL08 04 前田遺跡 8次調査俯瞰 2(中ほどを西より)

P105 06



PL08 05 前田遺跡 8次調査俯瞰 3(中ほどを北より)



PL08 06 前田遺跡 8次調査俯瞰 4(北半検出時北より)

P107 08



PL08 07 8SD002土層縦断面 1



PL08 08 8SD002土層縦断面 2

P109 10



PL08 09 8SD00分水地点（南より）



PL08 10 8SD00発掘状況（北より）



P111 12



PL08 11 8SD00土層堆積狀況 (CD断面)



PL08 12 8SD00土層堆積狀況 (GH断面)

P13 14



PL08 13 8ST004完掘時(西より)



PL08 14 8ST004遺物と土層状態(西より)

P115 16 17



PL08 15 8SB010掘立柱建物（西より）



PL08 16 8SB010f



PL08 17 8SB010h

P18 19



PL08 18 8SD00土層状況 (FP49区北より)



PL08 19 8SD00土層状況 (FG4区東より)

P120 21



PL08 20 8SX007北壁土層



PL08 21 8SX003完掘状況（西より）

P122 23



PL08 22 8SD002出土遺物 1



PL08 23 8SD002出土遺物 2

P124 25



PL08 24 8SB010出土遺物



PL08 25 ST004出土遺物

総説

8次

10次

11次

# 第9次調査

はじめに

層 序

遺 構

遺 物

小 結

写真図版



## 前田遺跡第9次調査

### はじめに ( P191 )

調査地は太宰府市大字向佐野字前田 467に所在し、調査前は住宅が建っていた。佐野土地区画整理により、当該地が宅地および道路の一部に改変されることに先立って発掘調査を実施した。

調査は平成 3( 1991 ) 年 7月 31日から 9月 2日まで実施した。調査面積は 300㎡である。調査は城戸康利が担当した。

### 層序

住宅が建っていたことから表土中には解体の際の廃材等が廃棄されていた。表土下には一部旧水田面らしい水平堆積の土層が見られたが、多くは表土からの攪乱で失われていた。

遺構面は旧水田面直下で検出され、黄灰色砂質土の沖積層にのっている。中世から近世まで同一面で検出された。旧水田面形成時までには削平を受けたことが考えられる。

### 遺構 ( P192 )

前 9SD001( F 91 P193 )

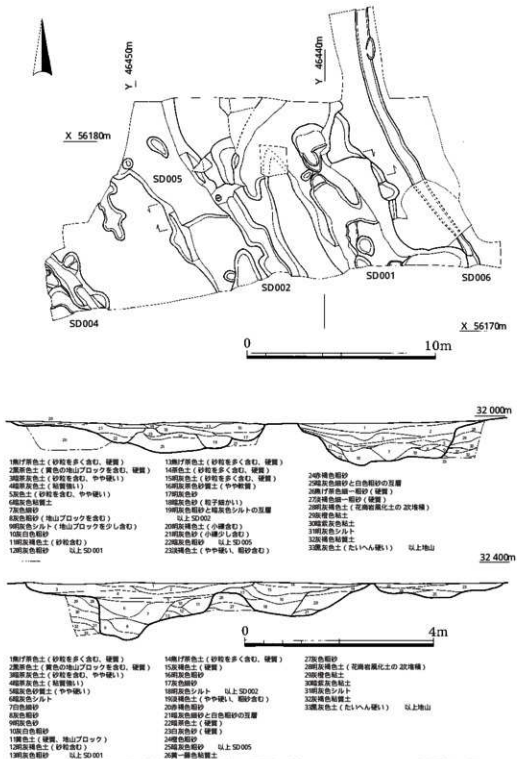
調査区中央で検出した南東から北西方向の溝である。検出長は約 10m、幅は約 3～4m、深さ約 1mで、蛇行している。断面は逆台形状を示し、底面は凸凹がある。9SD002を切っている。東肩の様子から人工的に掘られた溝と考慮しており、その後改修されることなく徐々に埋没しながら自然流路と化したと思われる。埋土は大きく上層は粘質土を中心とし、下層は砂質土を中心としている。

前 9SD002( F 91 P194 )

調査区中央で検出したほぼ南北方向の溝である。検出長約 6m、幅約 3m、深さ約 0.6mで、北を向いて少し東に湾曲している。9SD001に切られている。埋土は上層から下層へ砂粒を含む土から粗砂層へ変化している。

前 9SD004( F 91 )

調査区西端で検出した南東から北西方向の溝である。検出長約 4m、幅約 2.5m以上、深さ約 0.2mである。底面は乱れていて凹凸が激しい。埋土は上層は暗茶色土、下層は灰色砂質土である。



F 図 91 前田遺跡第9次調査遺構配置図、前9SD001・002・005土層断面図

## 前 95D005( F 図 9 1 P19 5)

調査区中央で検出した南東から北西方向の溝である。検出長約 11m、幅約 3m、深さ約 0.4m である。底面は凸レンズ状をしており、肩はゆるく立ち上がっている。埋土は小礫を含んだ砂層を主体としている。自然流路の可能性も考えられる。

## 前 95D006( F 図 9 1 P19 7)

調査区東側で検出した南北方向の溝である。検出長約 15m、幅約 0.7m、深さ約 0.2m で西側に少し湾曲している。断面は U 字を呈し、埋土は暗茶色土の単一層であった。

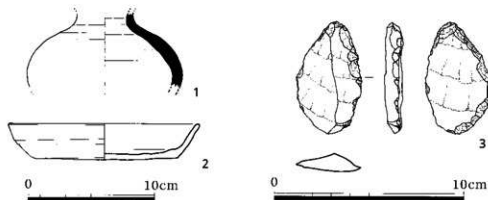
## 遺物 ( F 図 9 2 P19 8・9)

## 前 95D004 出土遺物

1 は須恵器の小壺の破片である。胴部最大径は 12.2cm。調整は全てヨコナデで、肩部に焼成の際の溶着痕がある。胎土は多孔質で灰色を呈する。搬入品と考えられる。2 は土師器の坏である。口径 15.1cm、器高 2.9cm、底径 11.2cm を測る。底部は糸切りで、板状圧痕が付く。胎土は精良で金雲母と白色粒子を含む。色調はくすんだ黄灰色を呈する。3 は安山岩を使用した剥片先尖器である。長さ 5.9cm、幅 3.4cm、厚さ 0.95cm、重量 18.3g を測る。腹面、背面とも右側から先端部にかけて二次加工を施す。

## 前 95D004 出土遺物

a・b は肥前系の磁器である。a は椀、b は皿と考えられる。d は国産の陶器と考えられる。内外面ともに青みを帯びた灰白色の不透明釉がかかる。胎土は茶黄色をしてざらついた感じがする。ほかに、漆椀片が出土した。内面は赤色、外面は黒色を呈し、残存部位に文様は見られない。



F 図 9 2 前田遺跡 9 次調査出土遺物実測図

### 小結

検出した主な遺構は溝もしくは流路と表現できるもので、人工の水路が自然流路と化し埋没していったと考えられる。以下、遺構ごとに年代観を示しまとめたい。

前95D001 前85D001に続くもので、前95D002を切っている。出土遺物は8世紀代のものを中心とするが、底面近くからXV期の坏を検出している。

前95D002 前95D001に切られて、前95D005を切っている。出土遺物は古代に収まる破片ばかりであった。前95D001は当溝の掘り直しの可能性もある。

前95D005 前95D001・002に比べ浅く、遺構の肩も明瞭ではなく自然流路とも考えられる。出土遺物は陶磁器がD期のものであり、およそ12世紀中頃に降に埋没したと考えられる。

以上、三本の溝は切り合い関係から前95D001、前95D002、前95D005の順に古くなっていることがわかり、埋没時期も近接していたと思われる。流れの方向はおおよそ付近の等高線や現在の大佐野川に沿っており、現状では何を目的として掘削された溝かは不明である。

前95D004 肥前系の磁器を出土したことから近世以降に埋没したものと思われる。

前95D006 前85D002と同一の溝である。遺物は古墳から奈良時代の須恵器・土師器を少量出土したが、前95D001の例を考えると古代よりさらに下る時期の溝の可能性も考えられる。

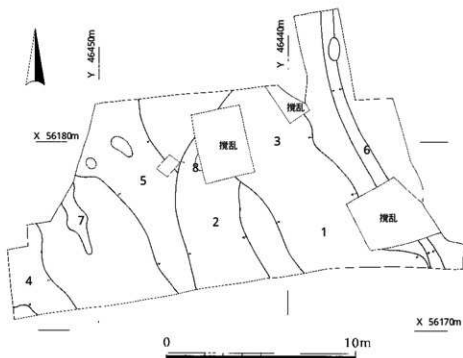


Fig93 前田遺跡第9次調査略測図

Tab91 前田遺跡第9次調査遺構番号一覧

S番号	遺構番号	種 別	
1	9SD 001	溝又は流路	12c 中～
2	9SD 002	溝又は流路	9SD 002 9SD 001
3	9SD 001	溝又は流路	9SD 001と同一の溝
4	9SD 004	溝又は流路	
5	9SD 005	溝又は流路	9SD 005 9SD 002
6	9SD 006	溝	奈良～
7	9SD 007	溝	近世～
8		ピット	

Tab 9.2 前田遺跡第9次調査出土遺物一覧

S 1		S 8	
須惠器	环 a 环 c 蓋 1 蓋 3 高环	土師器	环 a 小皿 a
	壺 b、鉢 b、甕	瓦器	碗 c
土師器	环 a(イト)、环 d 碗 c 高环	白磁	碗 V
	甕 a		
黑色土器 A	碗		
須惠質土器	壺		
S 2			
須惠器	蓋 c3 环 c 甕 壺、片		
土師器	环、高环、片		
黑色土器 B	碗		
S 3			
須惠器	环 a 环 c 蓋 3 壺 d 甕		
土師器	环 c 甕、取手、片		
S 4			
国産陶器	染付；碗 白釉；碗		
S 5			
須惠器	环 c 蓋 c 蓋 3 蓋 4 壺 e		
	壺、甕		
土師器	高环		
藤原系青磁	不削片		
同安南系青磁	碗 I 1b		
白磁	皿片		
須惠質(輸入)	朝鮮系無釉陶器；甕		
瓦類	平		
石製品	磁石？		
S 6			
須惠器	环、壺		
土師器	环、蓋、取手		
瓦類	平(鎌目、燻し)		
S 7			
須惠器	环 c 环		



調査地から水城跡を望む（上が北）



調査地から宮ノ本遺跡を望む（上が南西）



前田遺跡第9次調査調査区遠景（上が北、右上の空き地  
が第8次調査地）



前田遺跡第9次調査調査区全景（上が北）





前田遺跡第9次調査調査区近景（上が北）



前田遺跡第9次調査SD00仕層断面（南から）



前田遺跡第9次調査SD002・005土層断面(南から、向って左が005)



前田遺跡第9次調査SD005土層断面(北から)



前田遺跡第9次調査 SD 005土層断面（南から）



前田遺跡第9次調査 SD 002土層断面（南から）



前田遺跡第9次調査SD001・002土層断面(北から、向って左から001・002)



前田遺跡第9次調査SD001・002・005土層断面(北から、向って左から001・002・005)

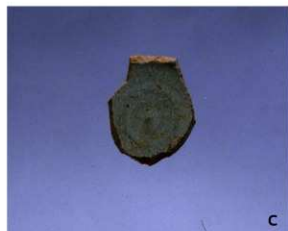
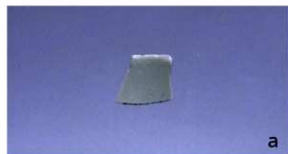


前田遺跡第9次調査 SD 006土層断面（南から）





前 9SD004





ステレオ写真です。立体視ができますのでおためし下さい。

総説

8次

9次

11次

# 第10次調査

調査に至る経緯

層位

遺構

遺物

まとめ

写真図版



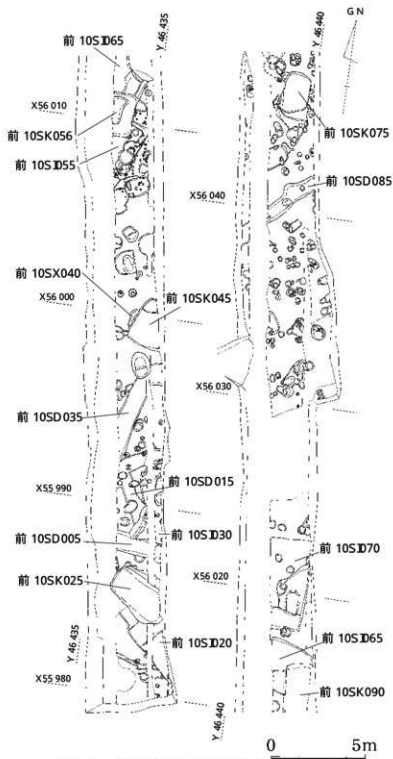
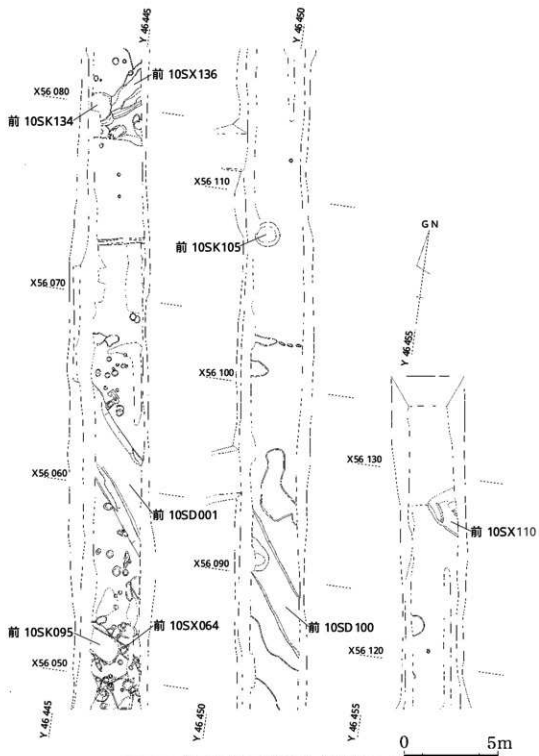


Fig 10 1 前田遺跡第 10 次調査全体遺構図 ( 1 )



F 图 10.2 前田遺跡第 10 次調査全体遺構図 ( 2 )

### III 調査の記録

#### 3. 前田遺跡第 10 次調査

##### 1) 調査に至る経緯

調査地は太宰府市大字向佐野字前田 703に所在する。ここは、調査前は市道として使用されてきたが、佐野地区区画整理事業により市道が東側に付け替えられたため、旧道部分の調査が行われることになった。

調査区は長さ 157.2m にわたって設定し、排土置き場等関係で北と南の半分づつ調査区を区切って調査を行った。表土除去作業を行うと、道路の下は、過去の複数の配管工事で遺構が壊されている状況で、これらの攪乱により、調査範囲は幅約 2m 程度しか確保できなかった。

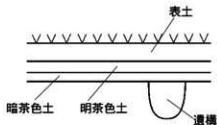
調査面積は約 550㎡、調査期間は平成 3 (1992) 年 7 月 13 日～同年 10 月 3 日である。

なお遺構表記については、『太宰府・佐野地区遺跡群 Ⅱ (1989)』に従って遺構番号の前には調査略称を付す。例えば「前 10S 60」は前田遺跡第 10 次調査の S 60 という遺構を表し、「前 7SD 001」は前田遺跡第 7 次調査の SD 001 を示す。

##### 2) 層位 (F 図 10 3)

本調査区の基本的な層位については、遺構面を暗茶色土層が覆っており、その上を旧耕作土とみられる層が数面存在し、最上部には旧道に伴う層が堆積している。表土除去作業は、暗茶色土層下面まで重機にておこなったため、暗茶色土層より上層の遺物はほとんど採集できていない。ただし、CT45地区において暗茶色土層のすぐ上層で耕作土下面の酸化層である明茶色土で発見したものは、「明茶色土」遺物として、その他で発見したものは、「表土」遺物として採集した。

なお、調査区北側(およそ前 10SD 001 以北)では暗茶色土層はあまり発達していなかったが、便宜上、遺構検出時の遺物を「暗茶色土」出土として取り上げている。また、DF47～DH47地区において、「黄茶色土」として地山を掘り下げるが、遺物の検出はみなかった。



なお DF47～DH47地区の地山を「黄茶色土」とした。

F 図 10 3 前田遺跡第 10 次調査層位模式図

## 3) 遺構

上記のとおり、本調査区の東西は過去発掘調査が行われているものの、狭いトレンチ状の調査区である上、調査区に添って配管工事の攪乱があるため、遺構の全容をつかむのが大変難しい状況であった。調査時には過去の調査をいくつかは参考にすることができたものの、特に遺構密度が高いところは、切り合い関係を十分把握できていないものもあるとみられる。今後報告される周辺の調査成果と併せて検討していく必要がある。

さて、調査した遺構の内容を以下に述べるが、遺構の詳細については本文の他、Tab 10 1～Tab 10 9を併せて参照していただきたい。

## 溝

前 10SD001( Fig 10 2, P110 6・7・8)

調査区の中央北よりを北西・南東方向に走行する溝である。検出長 10.2m、幅約 3m、深さ最大 0.67mを測る。遺構掘削時には確認できなかったが、土層観察より東側に幅約 0.6mのテラス状の段を有しているのが確認される。テラス状の段の下に幅約 2.1mの断面台形を呈した溝の本体があり、およそ GL 40 13 23 W (溝下场任意中軸) に振れている。

テラス部分および溝最下部には、溝開削時あるいは掘り返し時のものと見られる鋤痕跡が複数確認され、中に黒茶褐色粘質土～灰色砂質土が堆積している。

埋土は大きく 3層に分層される。最下層の茶黑色砂は溝が機能していた時期の堆積層とみられ、地山の茶色砂を多くまばらに含んでいる状況から、若干の流水作用があった可能性がある。ただし、上記のように鋤痕跡が比較的明瞭に残存し

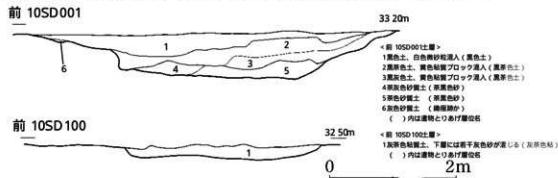


Fig 10 4 前田遺跡第 10 次調査 SD 001・SD 100 土層図

< いずれも調査区東壁を実測 >

ていることから、流量量はさほど多くはなかったであろう。なお、上層の黒茶色土層には、黄色地山土ブロックが若干含まれるため、なんらかの埋め戻し行為が行われた可能性がある。最上層の黒色土層については、自然堆積したものと考えている。

#### 前 10SD005( F 図 10 1 )

調査区の南で検出されたほぼ東西に走行する溝である。検出長 2.45m、幅約 1m、深さ約 0.22～0.44mを測る。

遺構自体は浅いものの、埋土は茶色系埋土と茶褐色土に分けられる。茶色系埋土は、掘削時に一部別遺構の未掘部分を含んでいることが判明した、別遺構を含む部分を前 10SD 005上層とし、茶色系埋土を単純に示すものを前 10SD 005下層出土遺物として併別している。なお、埋土の主体はこの茶色系埋土で、最下層の茶褐色土は床面に近いところで部分的に検出されたのみである。

#### 前 10SD015( F 図 10 1 )

調査区の南で検出された溝である。調査区内では南東 - 北西方向に走行し、北端で北東向きをかえている。南端も幾分難東向きをかえつつあるのが窺える。幅約 1m、深さ最大 0.16m。

埋土は黒色土および淡茶色土に併別される。黒色土は淡茶色土の直上を平行して幾分幅広くに堆積し、これを除去すると淡茶色土層がこれより狭い範囲で検出される。溝の本体は淡茶色土とみられる。

#### 前 10SD035( F 図 10 1 )

調査区の南で検出された、南西 - 北東方向に走行する溝である。検出長 5.7m、幅約 1m、深さ約 0.14～0.21mを測る。

埋土は茶色土、黄褐色土の 2層に大きく併別される。埋土の主体は茶色土で、黄褐色土は、地山土が混入している最下層の層位とみなしてよい。

なお、調査時に別遺構との切り合い関係に若干の疑義があったため、最上層のみ土色名なしで遺物とりあげを行っている。整理の段階では、新しい時期の遺物の混入は確認されなかったため、基本的には、茶色土層と同一とみなしてよいだろう。

## 前 10SD085( F 図 10 1 )

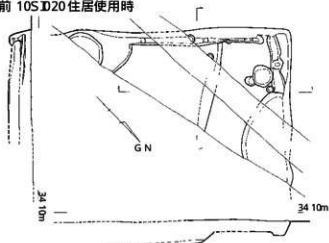
調査区中央を北東 - 南西方向に走る溝である。検出長 3.5m、幅 0.75~1.04m、深さ 0.21~0.32m を測る。

## 前 10SD100( F 図 10 2 P110 9・10 )

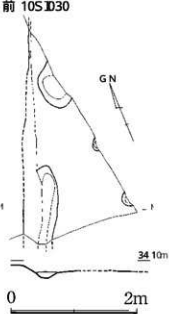
調査区の中央北よりを北西 - 南東方向に走行している。検出長 8.2m、幅約 1m、深さ約 0.1~0.2m を測る。遺構は後世にかなり削平されており、溝の走行方向はおよそ GL 36 44 27 W (溝下場任意中軸) に振れている。

埋土は、灰茶色粘質土が薄く堆積している。粘質は比較的強く、埋土の状況および土層観察からは流水作用は確認できなかった。

## 前 10SD20 住居使用時



## 前 10SD30



## 前 10SD20 貼床除去時



F 図 10 5 前田遺跡第 10 次調査 S1020・S1030 実測図

## 竪穴住居

## 前 10S D20 ( F 図 10 5 )

平面プランは四角形を呈すとみられる。3.6m 2.25m分を検出した。深さは最大 0.42mを測り、床面に約 5cm程度の貼床を施す。北西側にベッドを有し、壁溝がベッドを切るように巡っている。住居壁沿い床面に小穴等が掘削されている。なお北側のベッド上の窪みは下層の前 10SK 025の沈み込みによるものである。

## 前 10S D30 ( F 図 10 5 )

平面プランは四角形を呈すとみられる。3.4m 1.8m分を検出した。深さは、0.08mを測り、貼床はここでは確認できなかった。

## 前 10S D55

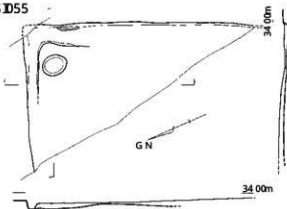
( F 図 10 6 )

平面プランは四角形を呈すとみられる。

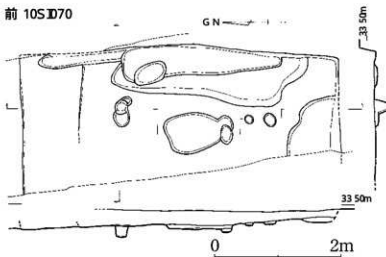
3.7m 2.35m分を検出した。深さを 0.14mを測り、貼床は確認できなかった。北東隅には溝状のものが壁に沿っている。

なお、北西端の下層には前 10SK 056があり、この遺構の埋土の沈み込みにより、付近の床面がはっきりしなかった部分がある。

## 前 10S D55



## 前 10S D70



F 図 10 6 前田遺跡第 10 次調査 S D55・S D70実測図

## 前 10S D65 ( F 図 10 7, P110 10)

平面プランは長方形を呈す。東西は約 4.2m、南北長 6.44m分を検出した。北壁にそって幅約 1m程のベッド状遺構がある。床面には約 10cm程度の貼床（茶黄色土）を施す。貼床を施した後、その上にベッド状遺構を設けているようである。東側の貼床上には溝がある。この下にも溝状遺構（前 10S D65f・g）があり、貼床上の溝状のものは、下層の掘り込みの埋土の沈み込みによる可能性もある。貼床上には小穴が確認されるがいずれも浅く、柱穴と断定はできなかった。

さて、本遺構の南 1 3程度については、S 60として調査を行ったが、狭範囲のため、遺構検出時に本遺構埋土と貼床とを併別できなかった。これは、本遺構の下には前 10SK 056および前 10SK 090があり、この埋土の沈み込みにより床面がはっきりしなかったことにもよる。このことが調査時に判明したため、残りの部分の調査については、遺構番号を新たに S 65（前 10S D65）とし調査を行っている。ちなみに S 60黒茶色土は、前 10S D65黒茶色土（埋土）および茶黄色土（貼床）を併せた層位である。

なお、前 10S D65の後にアルファベットの小文字を付す遺構番号のものがある。a～bは黒茶色土（埋土）除去時に床面で検出された小穴であり、c・dはベッド状遺構（cが上層）、eは貼床除去時に検出された北側の土坑状遺構で、f・gは貼床除去時に検出された東側の溝の埋土（fが上層）である。

## 前 10S D70 ( F 図 10 6, P110 11)

平面プランは四角形を呈す。南北長 5.05m、東西は約 2.4m分を検出した。削平が進んでおり、北側はわずかに残存する程度であったが、北壁にそってわずかにベッド状遺構とみられる痕跡（黄黒色土）を確認している。床面には約 10cm程度の貼床（茶色土）を施す。黄黒色土の下にも茶色土は入っているようである。東側の床面には溝状のものがみられる。この下（貼床除去時）には不定形の掘り込みが施されており、貼床上の溝状のものは、下層の掘り込みの埋土の沈み込みによる可能性もある。ただこの溝の北側部分は壁溝とみられる。溝の最北端はベッドにまで及んでいる。床面には小穴が確認されるがいずれも浅く、柱穴と断定はできなかった。

なお、遺構名（前 10S D70）の後にアルファベットの小文字を付す遺構番号のものがある。a～fは黒茶色土（埋土）除去時に床面で検出された小穴であり、gは貼床除去時に検出された不定形の掘り込み、h・iは貼床除去時に検出された小



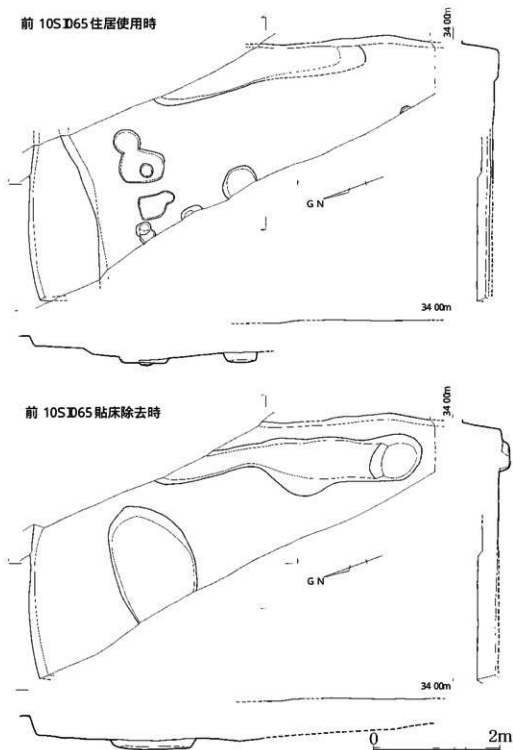


Fig 10 7 前田遺跡第 10 次調査 10SD65実測図

穴である。

#### 土坑

##### 前 10SK025( F 図 10 & P110 12)

平面プランは楕円形を呈す。長軸 3.5m、短軸 2.24m、深さ 1.14m。埋土は大きく茶色土、茶色土下層、黄色砂、茶黒色土、暗灰色砂に分かれる。検出時には、本遺構の沈み込みによる堆積層（茶色土）が確認されたが、たまり状遺構との認識で掘り進めたため土層に一部不明な点がある。おそらく茶色土層（土層 1）までは沈み込みによるもので、小穴などの未確認の別遺構が含まれていた可能性があり、茶色土下層以下が本体とみられる。

##### 前 10SK045( F 図 10 & P110 13・14)

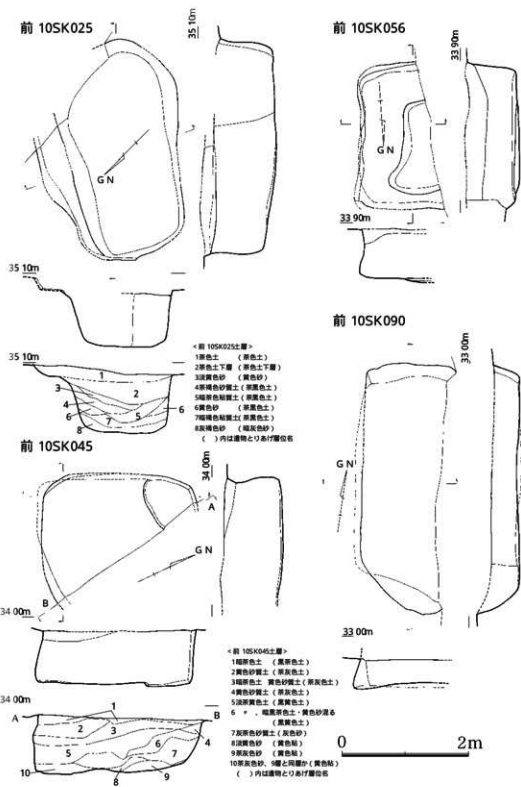
平面プランは隅丸四角形を呈すようにみえるが、調査区東壁により寸断されているため詳しくはわからない。2.44m × 1.96mを検出し、深さ 0.88mを測り、北側の床面には浅いくぼみを有す。部分的に断面が袋状を呈している。埋土は大きく黒茶色土、茶灰色土、黒黄色土、灰色砂、黄色粘に分かれる。

##### 前 10SK056( F 図 10 & P110 14)

弥生時代後期の竪穴住居（前 10SID55・前 10SID65）の下から検出された遺構である。平面プランは隅丸長方形呈すが、調査区の西の攪乱により破壊されている。長軸は 2.36m、短軸は 1.4m分検出している。深さは 0.86m程度であり、底には浅いくぼみを有す。部分的に断面が袋状を呈している。埋土は大きく黒灰色土、灰色砂、灰褐色砂、黄色砂、茶灰色砂に分かれる。なお、黒灰色土は、上面の竪穴住居（前 10SID55・前 10SID65）の床面の一部が沈みこんだものとみられる。

##### 前 10SK075( F 図 10 & P110 15)

平面プランは隅丸長方形を呈す。長軸は 2.48m、短軸は 1.44m、深さ 0.8mを測る。東西壁がわずかながら袋状を呈している。南側は大きく削平されたような状況であるが、埋土に大きく切り合い関係があるわけでないことから、開口時に地崩れをおこして崩壊した形跡と考える。すると本来の長軸は約 2.2m程度に復元されよう。埋土は大きく黒色土、黒茶色土、暗黄色土、黒褐色土に分かれる。



F 巻 10 8 前田遺跡第 10 次調査 SK 025・SK 045・SK 056・SK 090 実測図

## 前 10SK090 ( F 図 10 8 P110 16 )

前 10SD65の下で検出された遺構である。調査区東壁により寸断されているが、平面プランは隅丸長方形を呈すとみられる。長軸は 40m、検出幅は 14m、深さ 0.64m を測る。南側の壁の立ち上がりは大きく外方に広がっており、開口時に地崩れをおこして崩壊したとみられる。西壁は袋状を呈している。埋土は大きく黒色土、黄色砂に分かれる。

## 前 10SK095 ( F 図 10 9 )

調査区中央付近で検出された遺構である。攪乱により遺構西側を破壊されているが、平面プランは隅丸長方形を呈すと見られる。長軸は検出長 19m、短軸は 12m、深さ 0.82m を測る。埋土は大きく茶色土、黒色土、黒茶色土に分かれる。

## 前 10SK105 ( F 図 10 9 P110 16 )

調査区北側で検出された遺構で、平面プランは円形を呈す。直径約 13m、深さ 0.38m を測る。埋土は前 10SD100埋土に類似した粘質土が堆積し、大きく紫灰色粘、灰色粘に分かれる。

## 前 10SK134 ( F 図 10 2 )

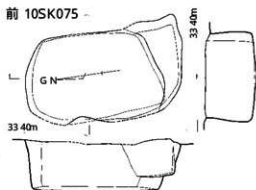
調査区中央北側で検出された遺構である。調査区西壁のため、西側については不明だが、平面プラン円形を呈すとみられ、径 15m を測ると推測される。深さは 0.3m。

その他の遺構

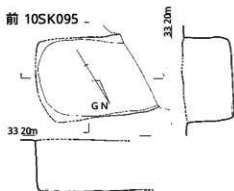
## 前 10SX004 ( F 図 10 1 )

調査区南端で検出された小穴群である。これらの一部が前 10SK 025に切

## 前 10SK075



## 前 10SK095



## 前 10SK105

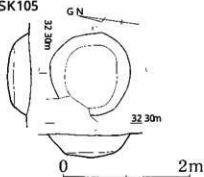


Fig 10 9 前田遺跡第 10 次調査 SK 075  
・ SK 095 ・ SK 105 実測図

り込んでいる。

前 10SX040( F 図 10 1)

前 10SK 045に一部切り込む小穴である。埋土は黒色土、茶灰色土、黒黄色土混土(遺物未出土)に分かれる。

前 10SX064( F 図 10 2)

前 10SK095に一部切り込む小穴群である。

前 10SX094

たまり状の遺構である。前 10SK 075を覆うように堆積しており、本遺構除去後に前 10SK 075の他、前 10SX 127等が検出される。

前 10SX110( F 図 10 2)

調査区最北端付近で検出した遺構である。調査区最北端は表土除去時に試掘トレンチを入れたため、本遺構の北側が破壊されたため、詳細は不明であるが、埋土が南側から東側に向かっているのを確認しており、溝等の遺構と考えられる。

前 10SX127

前 10SX 094の下層で検出した小穴である。前 10SK 075に切り込む。

前 10SX136( F 図 10 2)

たまり状遺構である。埋土は灰色砂、茶色土に分かれる。

#### 4) 遺物

本調査では、調査範囲が極めて狭いことも起因してか、遺物がまとまって出土する遺構はあまりない。出土遺物が少ないことは遺構の時期や性格を考える材料にとぼしいといえるが、遺構を性格づけるため、図化できるものは破片資料でも可能な限り図化し報告することにつとめた。

なお弥生時代前期の土器の器面調整等については、『佐野地区遺跡群ⅤⅢ-前田遺跡第7次調査-』(1998)での表記法を参考にしている。

刻目 1・・・刻目が口縁部全体に施されるもの。

刻目 2・・・刻目が口縁部中央から下にかけて施されるもの。

刻目 3・・・刻目が口縁部の下角に小さく施されるもの。

ナデ a・・・細かい縦線状の条線を残し、工具の当たりや跡があるもの。

ナデ b・・・ナデ aより条線は粗い。いわゆるハゲ目調整。

ナデ c・・・全体に平滑。条線は直線的でない。工具を使用せず、指によるものか。

ナデ d・・・ごく細かな直線的な条線を残す。ケズリにもみえる。

なおナデについて、口縁部で横方向に強く施されるものは、a2、b2のように数字の 2 を付ける。

その他、遺物の詳細については、本文のほか Tab 10 10～Tab 10 24 を併せて参照していただきたい。

## 土器・鉄製品

### 溝出土遺物

前 10SD001 出土遺物 ( Fig 10 10, P110 17)

( 黒色土 )

#### 須恵器

蓋 3( 1) 天井部から口縁部にかけて残存する破片である。現存高 13cm。全面に回転ナデを施すが、天井部はヘラ切り後、軽くナデを施す。口縁部は断面三角形に整形する。内面は回転ナデ後、軽くナデを施す。

坏 c( 2・3) 底部付近が残存する破片である。現存高 26～275cm、底径 94～100cm。八の字状に踏ん張った高台を有す。底部はヘラ切り。その他の部分は全面に回転ナデを施し、最後に内面底部にナデを施す。2の胎土は 0.5mm 程度の砂粒をわずかに含み、灰白色を呈す。3の胎土は精良で、灰青色を呈す。

坏片( 4) 口縁部から体部にかけて残存する破片である。現存高 43cm。全面に回転ナデを施した後、体部と底部の境付近にヘラケズリを施す。胎土は精良で、灰青色を呈す。

#### 土師器

坏 d( 5) 体部から底部にかけて残存する破片である。現存高 21cm。風化により見にくいものの、全面に回転ヘラミガキが施される。胎土はごくわずかに 1mm 程度の砂を含むが精良で、やや暗い橙灰色を呈す。

なお P110 17 aは、図化していないものの、この層位から出土した須恵器壺の底部である。

## 前 10SD005出土遺物 ( Fig 10 10 P110 19)

( 下層 )

弥生土器 ( 後期 )

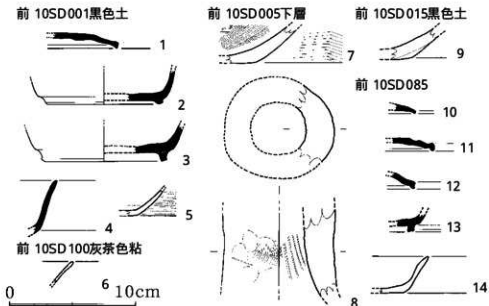
甕 壺 ( 7 ) 底部と胴部の一部が残存する。破片資料のため、器種は断定には至っていない。現存高 29cm。内面、外面、底部のいずれも八ケ目調整を施す。内面の八ケ目の単位はやや細かい様相を呈す。外面は八ケ目調整後、若干の器面調整を施す。胎土は 1mm 以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好である。外面、底部は淡茶灰色、内面は淡灰黒色を呈す。

器台 高坏 ( 8 ) 脚部の一部が残存する。破片資料のため、器種は断定には至っていない。現存高 79cm、断面径 18.75cm ( 復元値 )。断面観察から、同心円状に粘土を足して器壁を厚くしている状況がみられる。外面は八ケ目の工具で調整を施した後、指押さえにて器面調整を行い、さらにその後布状のもので表面を軽くなる。内面はしぼり痕が見え、これを軽くナデている状況が見受けられる。胎土は 1~3mm 程度の砂粒を多く含み、焼成は良好。外面は黄灰色、内面および断面は淡橙灰色を呈す。

## 前 10SD015出土遺物 ( Fig 10 10 P110 19)

( 黒色土 )

弥生土器 ( 後期 )



F 図 10 10 前田遺跡第 10 次調査 SD 001・SD 005

・ SD 015・SD 085・SD 100 出土遺物実測図

壺 ( 9 ) 底部と胴部の一部が残存する破片である。現存高 25cm。内外とも風化により調整不明。胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成は良好。外面は淡黄灰色、内面は淡灰黒色を呈す。

前 10SD085 出土遺物 ( Fig 10 10, P110 20 )

須恵器

蓋 3 ( 10～ 12 ) いずれも口縁部付近が残存する破片である。現存高 08～ 135cm。断面三角形の口縁を有す。10の口縁部は断面三角形が不明瞭である。全面に回転ナデを施し、11は天井部にヘラ切り痕が確認される。

坏 c ( 13 ) 底部の一部が残存する破片である。現存高 145cm。断面四角形の高台を有す。切り離しはヘラ切りと見られる。全面に回転ナデを施す。

土師器

坏 ( 14 ) 底部から口縁部にかけて残存する破片である。器高 30cm。破片のため断定できないが、口径 17～ 18cm に復元されよう。底部は工具状のもので同心円状に数回に分けてナデしており、底部切り離しは不明。その他の部分は回転ナデを施し、最後に内面底部にナデを施す。胎土はわずかに砂粒を含むものの概ね精良で、焼成も良好。明橙灰色を呈す。

なお P110 20 b は、図化していないものの、この層位から出土した白磁碗 ( IV V 類 ) である。

前 10SD100 出土遺物 ( Fig 10 10, P110 18 )

( 灰茶色粘 )

土師器

坏 ( 6 ) 口縁部付近のみ残存する破片である。現存高 18cm。破片のため断定できないが、口径はおよそ 12cm 程度に復元されよう。全面に回転ナデを施す。胎土は精良で、焼成はあまい。淡白茶色を呈す。

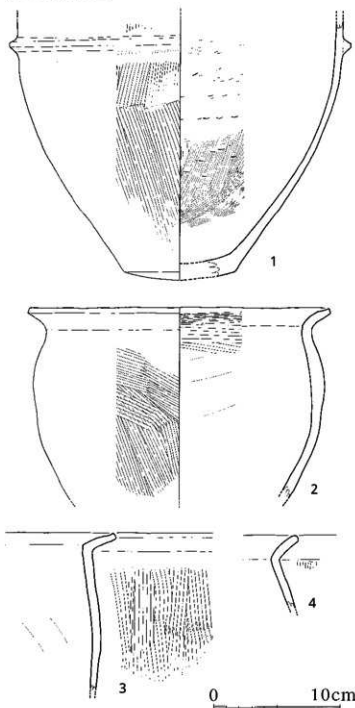
竪穴住居出土遺物

前 10SD20 出土遺物 ( Fig 10 11, P110 21・ 22 )

( 黒茶色土 )



## 前 S1020 黒茶色土



## 弥生土器（後期）

## 壺（1） 胴部下半

から底部にかけて残存する。現存高 20.4cm、胴部最大径 27.0cm、底部 8.8cm。胴部中央で最大径を有すとみられ、ここに断面台形の突帯を一条貼り付ける。底部は凸レンズ状を呈す。内面は八ケ目調整を施した後、胴部中央および底部にナデを施す。胴部中央には人の爪の痕跡が複数確認される。爪の痕跡は水平方向に連なっており、ナデの痕跡に沿っていることから、ナデを施した時に同時についたと考えられる。外面は八ケ目を施し、突帯部付近および胴部の最下部付近はナデが施されている。底部の調整は不明。胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成は良好。内面はややくすんだ淡灰橙色を呈し、外面はくすんだ淡黄灰色を呈す。

壺（2-4） いずれも口縁部から胴部の一

Fig 10 11 前田遺跡第 10 次調査 S1020 出土遺物実測図

部が残存する破片である。2は、口径 240cm、現存高 15 25cm。内面はハケ目調整の後、口縁部付近を除いてナデを施す。外面はハケ目調整の後、口縁部付近にナデを施す。胎土は 1～1.5mm の砂粒を多く含み、焼成は良好。内面は淡橙灰色、外面は暗茶褐色を呈す。

3は、現存高 12 5cm。内面はナデを施し、外面は縦方向にハケ目調整を施す。口縁部はヨコナデを施す。胎土は 1mm 以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面は淡橙灰色、外面は淡茶灰色を呈す。

4は、現存高 5 85cm。内面は風化により調整不明。外面は風化が著しいもののハケ目調整が施されている。口縁部はヨコナデとみられる。胎土は 1mm 以下の砂粒をごくわずかに含み、焼成はあまい。内面は明るい淡橙灰色、外面は明るい淡茶灰色を呈す。

#### 前 10SⅡ55 出土遺物 ( Fig 10 12, P110 23)

( SⅡ55)

弥生土器 (後期)

壺 ( 1 ) 頸部の一部と胴部が残存する破片である。現存高 15 4cm。胴部の最上位に断面三角形の突帯を一条貼り付ける。内面は指押さえ後ナデを施す。外面はハケ目調整を施す。口縁部および突帯部はナデを施すか。胎土は 1mm 程度を中心に 1～3mm の砂粒を含み、焼成はあまい。内外面ともに淡灰茶色を呈す。

( 黒色土 )

弥生土器 (後期)

甕 ( 2 ) 底部から体部の一部にかけて残存する破片である。現存高 2 25cm。底部は凸レンズ状を呈す。底部にハケ目調整が確認されるが、その他の部分は風化により調整不明。胎土は 1mm 以下の砂粒を含み、焼成はややあまい。内外面ともに淡橙灰色を呈す。

#### 前 10SⅡ65 出土遺物 ( Fig 10 12, P110 24・25・26)

( 黒茶色土 )

古式土師器

小型丸底壺 ( 9 ) 頸部の一部および体部の一部が残存する破片である。現存高 3 5cm。破片のため断定できないが、頸部と胴部の境は、径 12cm 前後に復元されよう。内面において、頸部はヨコナデを施し、胴部はナデなどの器面調整を施しているようである。外面において、頸部は縦方向のミガキが施され、胴部は

ナデなどの器面調整を行った後、肩部に簾状文風の櫛描文が施される。胎土は精良、焼成はあまい。淡灰茶色を呈す。

高坏(10) 口縁部の一部が残存する破片である。現存高39cm。皿部中央付近で屈曲している。内面の屈曲部上方はヨコナデ調整後暗文を施し、屈曲部下方はハケ目調整後ミガキを施す。外面の屈曲部上方はヨコナデ調整後暗文を施し、屈曲部下方は横方向のミガキを施す。胎土は精良で焼成は良好。色調は淡灰茶色を呈す。

#### 弥生土器(後期)

短頸壺(11) 口縁部から胴部の一部が残存する破片である。現存高40cm。破片のため断定できないが、口径14～15cm前後に復元されよう。胴部において内面はナデを施し、外面はハケ目調整後ナデを施す。頸部はヨコナデを施す。胎土は精良で焼成は良好。内面は淡黄茶色、外面は明るい淡橙色を呈す。

複合口頸壺(12) 口縁部の一部が残存する破片である。現存高38cm。内面において、屈曲部上方はヨコナデを施し、下方はハケ目調整を施す。外面はヨコナデを施し、屈曲部には指頭痕がみられる。胎土は1mm程度の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面は淡灰茶色、外面は淡灰茶～淡橙灰茶色を呈す。

甕(13・14・15) 13は、底部から胴部の一部が残存する破片である。現存高36cm。内面はハケ目調整を施した後、ナデを施す。外面はナデとみられる平滑な器面調整を行う。胎土は1mm前後の砂粒を含み、3mm程度の小石も散見される。焼成は良好。内外面ともに淡灰茶色を呈す。

14は、口縁部から胴部の一部が残存する破片である。現存高71cm。破片のため断定できないが、口径約25cm程度に復元されよう。内面において、口縁部は横方向にハケ目調整を施し、胴部は指押さえの後、軽くナデを施す。外面において、口縁部はヨコナデを施し、胴部は縦方向にハケ目調整を施す。胎土は1mm以下の砂粒をわずかに含み、良好である。焼成は良好で、内外面ともに淡灰茶色を呈す。

15は、ほぼ完存する資料である。口径213cm、器高308cm、底径66cm、胴部最大径222cm。内外面ともにハケ目調整を施した後、ナデを施す。内面胴部上方はナデによりハケ目がかなり見えにくくなっているが、その他の部分では部分的にナデが施されている程度である。胎土は精良で砂粒はほとんど見あたらない。器壁も薄く、作りは丁寧という印象を受ける。焼成は良好で、淡灰茶色を呈し、部分的に暗茶褐色を呈す。

手づくね鉢(16) 口縁部の一部が残存する資料である。推定口径88cm、現

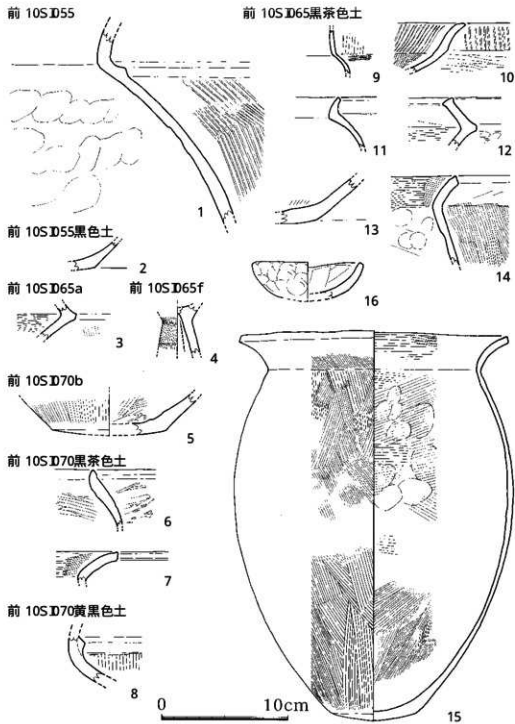


Fig 10 12 前田遺跡第 10 次調査 S1055・S1065・S1070 出土遺物実測図

存高 2.85cm。内面はナデを施し、外面は指頭痕が残っているものの、比較的平滑な印象を受ける。胎土は 1mm 以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内外面ともに淡灰茶色を呈す。

( S D65a )

弥生土器(後期)

複合口縁壺(3) 口縁部の一部が残存する破片である。現存高 2.75cm。内面は横方向の八ケ目調整を行い、外面は縦方向の八ケ目調整を施した後、丁寧にナデを施している。胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成は良好で、くすんだ淡灰茶色を呈す。

( S D65f )

古式土師器

高坏(4) 脚部上部の破片である。現存高 3.7cm。皿部内面の調整は不明。脚部内面はしぼり痕の上にナデが施される。外面は縦方向のミガキが施される。胎土は良好でくわずかに砂粒が含まれる程度である。焼成はややあまく、内外面ともに淡灰茶色を呈す。

前 10S D70 出土遺物 ( Fig 10 12 P 110 26・27 )

( 黒茶色土 )

弥生土器(後期)

短頸壺(6) 口縁部から胴部にかけて残存する破片である。現存高 4.6cm。口縁部はナデを施し、胴部内面はヘラミガキ、胴部外面は粗いミガキを施す。胴部外面には砂粒が動いている状況が見受けられ、ミガキ以前の調整によるものと考えたい。胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成は良好。外面は暗茶褐色、内面は淡茶灰色を呈す。

甕(7) 口縁部の一部が残存する破片である。現存高 2.4cm。口縁端部は沈線状の窪みが見受けられる。内面は横方向の八ケ目調整を施し、外面はナデを施す。胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成はややあまい。内外面ともに淡茶灰色を呈す。

( 黄黒色土 )

弥生土器(後期)

壺(8) 頸部から胴部にかけて残存する破片である。現存高 3.75cm。頸部と胴部の境に断面三角形の突帯を貼り付ける。内面の調整は不明で、外面において、胴部は縦方向の八ケ目調整を施し、突帯部分はヨコナデを施す。胎土は 1-

15mm程度の砂粒を若干含み、焼成はあまい。内外面ともにくすんだ黄灰色を呈す。

( S D70b)

弥生土器(後期)

甕(5) 胴部の一部から底部の一部にかけて残存する破片である。残存高 32cm、底径 90cmに復元される。底部は凸レンズ状を呈す。内外面および底部にハケ目調整を施し、内面底部には強いナデがみられる。胎土は 1mm以下の砂粒を含み、焼成は良好。内面は暗茶色、外面は淡橙灰色を呈す。

土坑出土遺物

前 10SK025出土遺物

(茶色土)( Fg 10 13, P110 27・28)

須恵器

坏 c(1) 底部の一部が残存する破片である。残存高 14cm。底部と体部の境に断面四角形の高台を貼り付け、四角形の内側で接地する。底部はへら切り後ナデを施す。その他の部分は回転ナデを施し、内面底部は回転ナデの後さらにナデを施す。胎土はわずかに 0.5mm以下の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともに灰白色を呈す。

弥生土器(前期)

壺(2) 底部の一部が残存する破片である。残存高 46cm。内面はナデ cを施し、外面はミガキを施す。底部付近は指押さえの痕跡がある。底部はナデ aとみられる。胎土は 1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともに淡橙灰色を呈す。

甕(3・4) いずれも口縁部から胴部の一部が残存する破片である。3は、残存高 55cm。内面はナデ cを施し、内面口縁部はナデ aを施した後ナデ cを施す。外面はナデ aを施し、外面口縁部はナデ aを施す。刻目は口縁部中央から下にかけて施される刻目 2である。胎土は 1mm以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面はくすんだ淡橙灰色、外面は暗茶褐色を呈す。

4は、残存高 47cm。内面は風化により調整不明。外面はナデ aを施す。刻目は口縁部中央から下にかけて施される刻目 2で、刻目の間隔は広い。胎土は 1mm～1.5mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。内面は淡灰橙色、外面は褐色化しやや明るい暗茶灰色を呈す。

(茶色土下層)(Fig 10 13 P110 28・29)

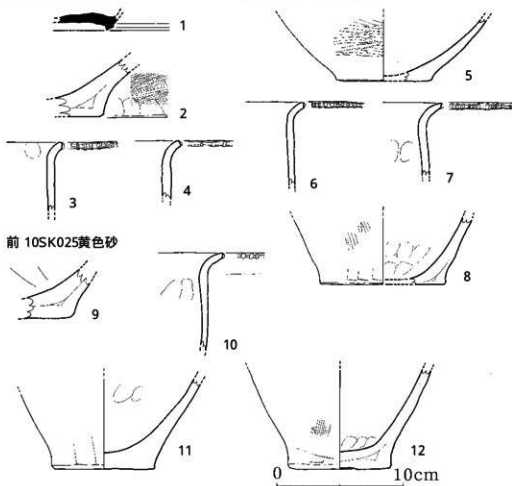
弥生土器(前期)

壺(5) 胴部下半から底部の一部にかけて残存する破片である。残存高 49cm、底部 74cm 程度に復元される。内面はナデ c 外面はミガキを施す。底部はナデ c か。胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成は良好。淡灰茶色を呈す。

甕(6~8) 6・7は口縁部から胴部の一部が、8は底部が残存する破片である。6・7は、残存高 57~66cm。内面はナデ c とみられ、外面下半はナデ c を施す。口縁部はナデ a を施す。刻目は口縁端部中央から下にかけて施される刻目 2 である。胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成は良好。内面はくすんだ淡橙灰色、外面は褐色化し暗茶褐色を呈す。いずれも外面は褐色化し、6は口縁部内面にま

前 10SK025茶色土

前 10SK025茶色土下層



F 図 10 13 前田遺跡第 10 次調査 SK 025茶色土・茶色土下層・黄色砂

出土遺物実測図

で褐色化している。また 6 の外面には煤が付着している。

8 は、残存高 5.3cm。内面は底部に指押さえを施した後、全面ナデを施す。ナデの種類は不明。外面はナデ b の後ナデ c を施す。胎土は 1mm 強の砂粒を多く含み、焼成は良好。内面は褐色化し暗茶褐色、外面は淡橙灰色を呈す。

なお、P110 29 および P110 30 に掲載した c・d・e は、図化していないものの、いずれもこの層位から出土した弥生前期壺の破片で、肩部にへら描き文を施す資料である。

(黄色砂)( Fig 10 13, P110 29・30・31・32)

弥生土器(前期)

壺(9) 底部が残存する破片である。残存高 4.0cm。内面はナデ a を施し、外面および底部は風化により調整不明。胎土は 1mm 大の砂粒を含み、焼成は良好。外面底部は淡灰黄色を呈し、その他の部分は暗茶灰色を呈す。

甕(10-12) 10 は口縁部から胴部にかけて、11・12 は胴部から底部にかけて残存する破片である。10 は、残存高 7.75cm。胴部内面は指押さえ後ナデ c を施し、口縁部および胴部外面は横方向にナデ a を施す。刻目は口縁部中央から下にかけて施される刻目 2 である。胎土は 1mm 前後の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面はくすんだ淡橙灰色、外面は褐色化し、暗茶灰色を呈す。

11 は、残存高 7.2cm、底径 8.2cm。内面は指押さえ後ナデ c を、外面はナデ d を、底部はナデ(ナデ c か)を施す。胎土は 1mm 以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面は褐色化しやや明るい暗茶灰色、外面はくすんだ淡橙灰色を呈す。

12 は、残存高 7.8cm、底径 8.2cm に復元される。内面は風化により調整不明だが、底部には指押さえの痕跡が認められる。外面はナデ b の後ナデ c を行っており、底部はナデ(ナデ c か)を施す。胎土は 1mm 以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面は褐色化し暗茶灰色、外面はくすんだ淡橙灰色を呈す。

なお、P110 31 および P110 32 に掲載した f・g は、図化していないものの、いずれもこの層位から出土した焼土塊である。特に f については、表面とした方に面取りが施されている。

(茶黒色土)( Fig 10 14・15, P110 32・33・34・35・36・37)

弥生土器(前期)

壺(1-4) 1 は、口縁部が残存する破片である。口径 2.50cm に復元され、残存高は 5.0cm。口縁部直下には一条の横方向の沈線が部分的に認められる。内面は横方向のミガキが施され、外面はナデ a が施される。胎土は、1-1.5mm 程度の砂粒を含み、焼成は良好。内面は淡橙灰色-淡黄灰色を呈し、部分的に淡黒灰



色を呈す。外面は淡赤灰色を呈す。なお、外面には一部に赤色顔料が認められる。風化により器面の磨耗が激しいため詳細は不明だが、赤色顔料は全面に塗布されていた可能性も窺える。

2は、底部が残存する資料である。残存高7.5cm、底径は10.9cm。内面の器面はほとんど剥離し調整不明だが、外面は器面剥離が著しいものの、ナデaとみられる痕跡と底部周辺に指押さえの痕跡が観察される。胎土は1mm前後の砂粒を多く含み、焼成はややあまい。内外面ともに明橙灰色を呈す。

3・4は、底部が残存する破片である。3は残存高5.4cm、4は残存高2.6cm。いずれも内面はナデaを施し、外面はミガキを施し、底部付近ではミガキの後ナデaを施す。底部はナデを施す。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。3は内外面ともに明るい淡茶灰色を呈し、4は内面が褐色化し淡茶灰色、外面は明橙灰色および淡黒灰色を呈す。

甕(5-19) 5-14は、口縁部から胴部にかけて残存する破片、15-19は胴部から底部にかけて残存する破片である。5-14は、残存高3.1-17.2cm。口縁端部全体に施される刻目1は7・8・11・12・14に、口縁端部中央から下にかけて施される刻目2は5・10・13に、口縁端部の下角に小さく施される刻目3は6・9に施される。いずれも口縁部の内外にナデa2が施される。内面調整は、8・6については調整がはっきりしないが、9はナデaを、5・7・9・10・11・12・13・14はナデcを施す。外面調整は、6・9・10・11はナデaを、5・12・13はナデbを、7・8・10・14はナデcを施す。胎土はいずれも1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好である。内面全体または一部が褐色化しているものは、5・7・8・9・10・14 外面全体または一部が褐色化しているものは5・8・9・10・11 中でも全面褐色化しているものは5・10である。褐色化しているものは淡茶灰色-暗茶褐色を呈し、その他、淡橙灰色-淡黄茶色を呈す。

15は、器底に厚みがあり窄まった形状をしている。残存高5.9cm。内面はナデcが施され、外面は器面剥離が著しいものの、底部付近はナデcを施す。胎土は1mm弱の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。淡灰赤色を呈す。

16-19については、器底は15と比較すると薄い形状をしている。残存高3.2-11.2cm。内面調整は18はナデcとみられるが、その他は風化により不明。外面調整は16はナデb、17はナデcか、18・19はナデaとみられる。胎土は1-2mm程度の砂粒を含み、焼成は良好。16は内外面とも淡灰橙色を呈し、17-19については、内面は褐色化しているため淡茶灰色、外面はくすんだ灰橙色-橙灰色を呈す。

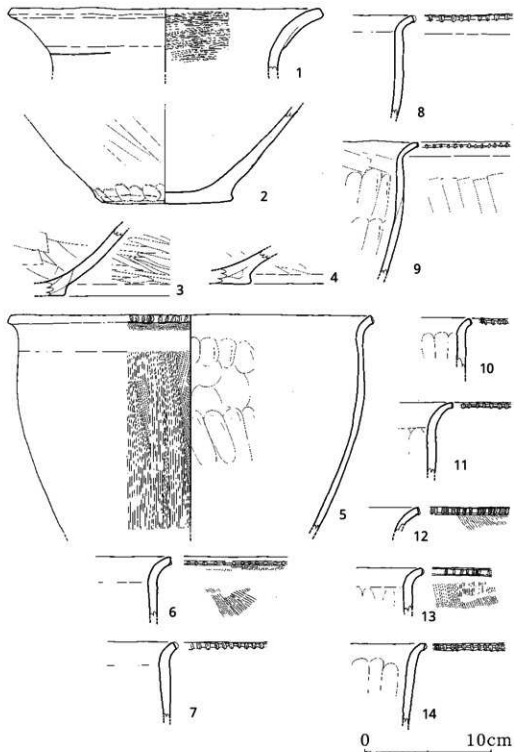


Fig 10 14 前田遺跡第 10 次調査 SK 025 茶黑色土出土物実測図 ( 1 )

高坏 (20) 脚部上部付近が残存する破片である。残存高 6.3cm。脚部の最上部に断面三角形の突帯を一条貼り付ける。皿部内面は風化により調整不明。脚部内面は指によるとみられる器面調整を施し、脚部外面はナデ a を施す。胎土は 1~2mm の砂粒を多く含み、焼成はややあまい。皿部内面は淡茶灰色、脚部内面は淡赤灰色、外面は淡黄灰~淡橙灰~淡赤灰色を呈す。

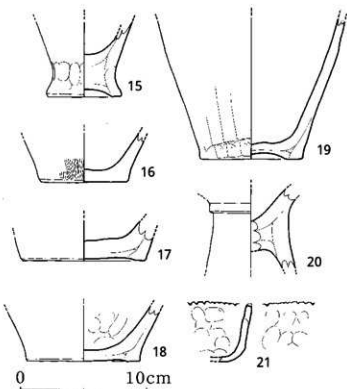


Fig 10 15 前田遺跡第 10 次調査 SK 025 茶黒色土

出土遺物実測図 (2)

手づくね鉢 (21)  
口縁部~底部にかけて  
残存する破片である。

高さ 4.65cm。手づくねのため口径の復元は難しいが、およそ 10cm 前後に復元できよう。内外面ともに指押さえを施す。刻目は口縁部全体に施される刻目 1 である。胎土は 1mm 以下の砂粒をわずかに含む程度で、焼成は良好。内外面ともに暗茶灰色で、外面の一部にくすんだ暗赤灰色を呈す部分がある。

なお、P110 36 および P110 37 に掲載した h は、この層位から出土した弥生前期高坏の口縁部の破片である。図化していないが、赤彩を施している状況も確認できる。また、P110 37 に掲載した i は、この層位から出土した焼土塊の一群である。

(暗灰色砂) (Fig 10 16, P110 38・39)

弥生土器 (前期)

小壺 (1) 頸部から胴部にかけての破片である。残存高 3.65cm。頸部と胴部の境には、一条の沈線をめぐらす。内面は風化により調整が不明な部分が多いが、丁寧な器面調整を施しているようである。外面も風化の度合いが著しいものの、胴部にミガキを施しているのが確認される。胎土に砂粒は含まれず、精良だが、

焼成はあまい。内外面ともに淡茶灰色を呈す。  
 なお、沈線以下の胴部に赤色顔料にて綾杉文を  
 施す。綾杉文を区切る横方向の罫線が沈線部分  
 も含めて4段ほど確認され、さらに下に続いてい  
 るようである。

壺(2) 底部の破片である。残存高 24cm。  
 内面はナデ cを、外面はナデとみられる器面調整  
 を施す。胎土は 1mm前後の砂粒を含み、焼成は  
 良好。内外面とも淡茶灰色を呈す。

甕(3-5) いずれも胴部から底部にかけて  
 残存する破片である。残存高は 39-585cm。3  
 は、内面は風化により調整不明で、外面はナデ b  
 を施す。4は、内面はナデ aまたはナデ cを施し、  
 外面はナデ bを施す。5は、内面は風化により調  
 整不明で、外面はナデ cを施し、底部には指押さ  
 えを施す。いずれも、胎土は 1mm程度の砂粒を  
 含み、焼成は良好。3・4は内面が褐色化し淡茶  
 褐色-暗茶褐色を呈し、外面はくすんだ淡橙灰  
 色-淡黄灰色を呈す。5は内面は淡橙灰色、外面  
 は淡黄灰色を呈す。

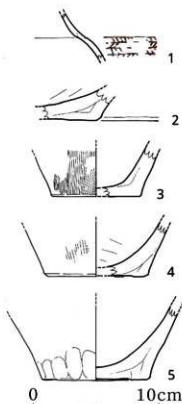


Fig 10 16 前田遺跡第 10 次調査 SK025  
 暗灰色砂出土遺物実測図

前 10SK045出土遺物 (Fig 10 17, P110 39・40)

(黒黄色土)

弥生土器(後期)

手づくね鉢(1) 1 4程度残存する破片である。口径 7.8cm、器高 3.45cm程  
 度に復元される。内面および外面上部はナデとみられる平滑な器面調整を施し、  
 外面下部は指頭痕が残る。胎土は精良で、焼成は良好。内外面ともに淡茶色を呈  
 す。

(黄色粘)

弥生土器(前期)

甕(2) 口縁部が残存する破片である。現存高 4.8cm。内面はナデ cを施し、  
 口縁部および外面はナデ a2を施す。刻目は口縁端部全体に施される刻目 1である。

胎土は 1mm 前後の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内外面ともに淡茶灰色を呈す。

前 10SK056 出土遺物 ( Fig 10 17, P110 40・41)

( 黒灰色土 )

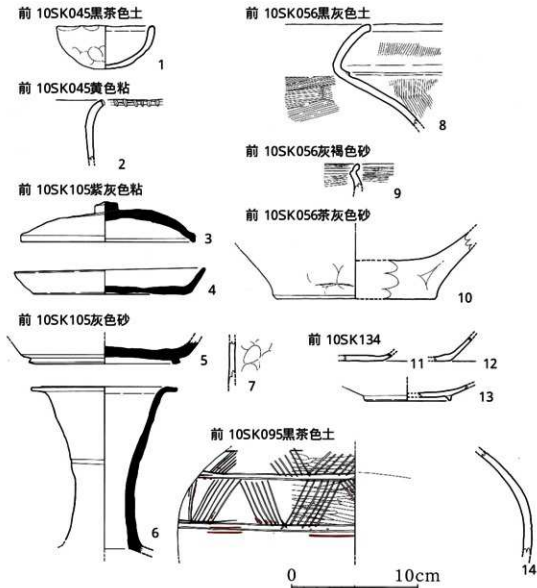


Fig 10 17 前田遺跡第 10 次調査 SK 045・SK 056・SK 095・SK 105・SK 134

出土遺物実測図

## 弥生土器（後期）

壺（8） 口縁部が残存する破片である。現存高 8.1cm。口縁部と胴部の境に断面三角形の突帯を一条貼り付ける。内面において、口縁部はナデを施し、胴部は横方向のハケ目調整を施す。外面において、口縁部は縦方向のハケ目調整後、口縁端部および突帯部分にナデを施す。胴部は縦方向のハケ目調整を施す。胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成はややあまい。内外面ともに淡茶色を呈す。

（灰褐色砂）

## 縄文土器（晩期）

浅鉢（9） 口縁部が残存する破片である。現存高 2.25cm。口縁端部が外方向に向かってくの字に折れ曲がっており、口縁部内面屈曲部の上部に沈線がめぐるとみられる。内外面とも横方向にミガキを施す。胎土は精良で、焼成は良好。内面は暗茶褐色、外面は暗茶灰色を呈す。

（茶灰色砂）

## 弥生土器（前期）

壺（10） 底部が残存する破片である。現存高 5.3cm、底径 13.0cm に復元される。内面は風化により調整不明。外面は全体的にナデ c を施し、外面下部にはナデ a が確認される。底部はナデとみられる平滑な器面調整を施す。胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともに淡黄灰色～淡灰色を呈す。

前 10SK075 出土遺物（[Fig 10 18](#)、[P110 46](#)）

（黒色土）

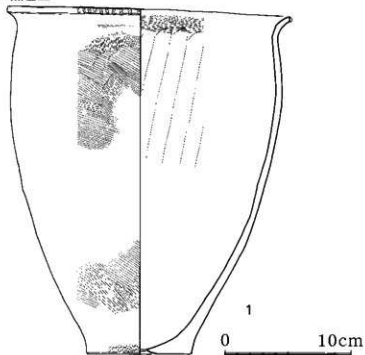
## 弥生土器（前期）

甕（1） ほぼ完存する。口径 22.55cm、器高 27.5cm、底径 8.4cm。内面においては、胴部はナデ c を施し、口縁部は横方向のナデ b2 を施す。外面においては、胴部はナデ b を施し、口縁部はナデ a2 を施す。刻目は口縁端部全体に施される刻目 1 である。胎土は 1mm 前後の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともに基本的に淡茶灰色を呈すが、内面の下半および外面の上半は褐色化し、外面下半は赤色化している。特に外面中央部以下は器面剝離が著しい。なお、底部中央には内側から打ち貫いた穿孔がある。

（黒茶色土）

## 弥生土器（前期）

壺(2) 頸部から胴部上半が残存する。残存高 19.6cm。胴部最大径は 45.0cm  
前 10SK075黒色土



前 10SK075黒茶色土

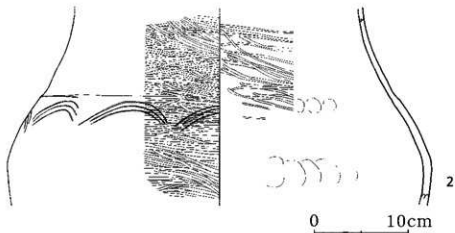


Fig 10 18 前田遺跡第 10次調査 SK075出土遺物実測図

程度に復元される。頸部と胴部の境は、段を有す部分と段と沈線とを有す部分が

あり、部位によってバリエーションがある。また、肩部に三重の円弧文を焼成前にヘラ描きしている。調整は内面において、頸部は指押さえの後、ナデcを施し、最後にミガキをまばらに施す。胴部はナデcのみ施す。外面は全面にミガキを施す。胎土は1～1.5mm程度の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともにくすんだ淡橙灰色～淡黄灰色を呈す。

前 10SK095出土遺物 ( F 図 10 17, P110 45)

( 黒茶色土 )

弥生土器 ( 前期 )

壺 ( 14 ) 胴部上半が残存する。残存高 8.35cm。胴部最大径は 28.0cm 程度に還元される。肩部から胴部最大径付近にかけて焼成前のヘラ描きが施される。ヘラ描きは横方向の 2 条の平行な罫線で区切った中を、6 条の平行線を一つの単位としてハの字型に互い違いに配置することで、空白部分を三角形に表現している。さらにその後、ヘラ描きに沿って赤色顔料にて罫線を施す。調整については、内面はナデ a を施した後、ナデ c を施す。外面はミガキを施した後、上記のヘラ描きを施す。胎土は 1mm 以下の砂粒を含み、焼成は良好。内面は暗茶灰色、外面は暗茶色を呈す。なお、P110 45 掲載の j は当遺物と大変類似しており、同一個体と考えられるが、接合条件をみだしていないため、参考資料として提示している。

前 10SK105出土遺物 ( F 図 10 17, P110 42・43)

( 紫灰色粘 )

須恵器

蓋 c3 ( 3 ) 完形である。口径 13.8cm、器高 3.15cm、天井径 7.4cm。天井部をヘラ切り後、全面に回転ナデを施す。内面は回転ナデの後、ナデを施す。口縁部は断面三角形を呈すが、シャープではない。胎土は細かい砂粒を含む程度で精良で、還元状況も良好。内外面ともに灰色を呈す。なお、内面には重ね焼きの痕跡が認められる。

皿 a ( 4 ) 完形である。口径 15.1cm、器高 1.95cm、底径 12.6cm。底部はヘラ切り後、手持ちで回転させながらナデを施す。その他の部分は回転ナデとみられる。胎土はわずかに砂粒を含む程度で良好。焼成はあまい。内外面ともに灰白色を呈す。

( 灰色砂 )

須恵器



坏 c(5) 底部が残存する破片である。残存高 19cm、底径 120cm に復元される。断面四角形の高台を有し、やや踏ん張った印象を受ける。底部はヘラ切り後、軽く回転ナデを施し、その他の部分は回転ナデを施す。内面底部はナデを施す。胎土はわずかに砂粒を含み、焼成は良好である。表面のみ酸化したようで、断面は灰色を呈すが、表面は内外面ともに淡灰橙色を呈す。丁寧な作り方をしているという印象を受ける。

壺 b(6) いわゆる長頸壺で、頸部のみ残存している。口径 11.55cm、残存高 131cm。頸部中央に一条の沈線を有す。沈線を中央に配するように粘土貼り付けの痕跡が認められる。調整は内外面とも回転ナデを施す。胎土はごくわずかに砂粒を含むが良好で、焼成・還元とも良好である。内外面ともに灰色を呈し、外面の半分が灰赤色を呈す。

#### 製塩土器

片(7) ごく一部が残存する破片である。残存高 36cm、内外面ともに風化が著しく調整は不明だが、外面に指頭痕が確認できる。胎土は砂粒を含み、焼成はあまい。内面は淡橙灰色、外面は淡茶白色を呈す。

#### 前 10SK134 出土遺物 (Fig 10 17, P110 44)

##### 土師器

坏 a(11・12) いずれも底部が残存する破片である。11は、残存高 0.7cm、ヘラ切り後、全面に回転ナデを施すようである。12は、残存高 195cm、底部切り離しは細片のため断定できないが、今のところ糸切りと考えている。いずれも胎土は良好で、焼成はあまい。淡灰橙色～淡橙灰色を呈す。

皿 c(13) 底部が残存する破片である。残存高 13cm、底径 70cm に復元される。内外面とも風化が著しく、調整不明。胎土はわずかに砂粒を含むものの、概ね精良。焼成はあまく、内外面ともに白茶色を呈す。一見緑釉陶器などに考えられるが、表面に釉が残存していないなど断定できる材料にとほしいため、土師器として報告した。

#### その他の遺構出土遺物

##### 前 10SX004 出土遺物 (Fig 10 19, P110 46)

##### 弥生土器(前期)

鉢(1) 口縁部をのぞき、ほぼ完形である。残存高 14.15cm、底径 8.7cm に復元される。底部は平底で、外周のやや内側に強めのナデを施して、一見高台状に

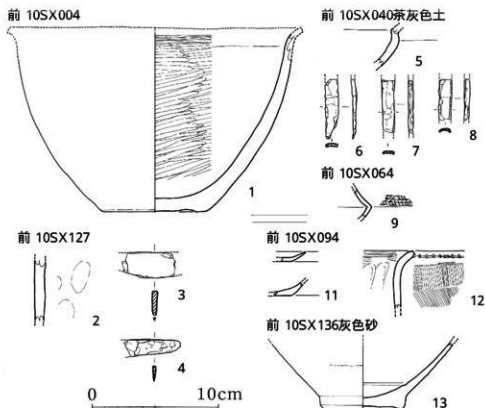


Fig 10 19 前田遺跡第 10 次調査 SX 004・SX 040・SX 064  
・SX 094・SX 127・SX 136出土遺物実測図

している。口縁はやや外反する口縁を有するとみられる。内面はナデ a を施した後、ミガキを施す。外面は器面剥離が激しいものナデ a を施しているのが部分的に観察される。胎土は 1mm 程度の白砂を全体に多く含み、焼成は良好。内面は暗茶灰色、外面は暗橙灰色を呈す。

前 10SX040 出土遺物 ( Fig 10 19, P110 47・48)

縄文土器 ( 晩期 )

浅鉢 ( 5 ) 体部が残存する破片である。残存高 3.1cm。口縁部が外方に向かってくの字に折れ曲がっている。内外面ともにミガキを施しているとみられ、平滑な器面を呈す。外面の口縁部と体部の屈曲部には強い横方向のナデを施す。胎土は 0.5mm 以下の細砂粒を含んでいるが精良であり、焼成は良好である。内外面ともに黒褐色を呈し、灰茶色が部分的に散見される。

## 金属製品

ヤリガンナ(6~8) 鉄製。いずれもU字状の断面形を有す。6は、現存長46cm、幅10cm、厚さ0.3cm。7は、現存長42cm、幅11cm、厚さ0.3cm。8は、現存長33cm、幅10cm、厚さ0.4cm。6の下端は窄まっている。

## 前10SX064出土遺物( Fig 10 19, P110 49)

## 弥生土器(前期)

小壺(9) 胴部が残存する破片である。残存高245cm。胴部中央付近でくの字に屈曲しており、屈曲部のすぐ上に焼成前に施したヘラ描き綾杉文を有す。綾杉文を区切る横方向の罫線は3条ある。ヘラ描きの溝の中には赤色顔料が部分的に残存しており、外面全面に赤色顔料を塗布していた可能性がある。調整は、内面はナデを施し、外面は平滑な器面調整を施す。胎土は精良で、焼成はややあまいようである。内外面ともに明るい淡茶灰色を呈す。

## 前10SX094出土遺物( Fig 10 19, P110 50)

## 土師器

小皿a(10) 口縁部から底部にかけて残存する破片である。残存高08cm。口径は不明。底部糸切りとみられ、その後内外面ともに回転ナデを施す。胎土は良好で、焼成も良好。淡橙色を呈す。

坏a(11) 底部の一部が残存する破片である。残存高11cm。底部糸切り後、内外面ともに回転ナデを呈し、内面底部にはその後ナデを施す。胎土は良好で、焼成も良好。淡茶灰色を呈す。

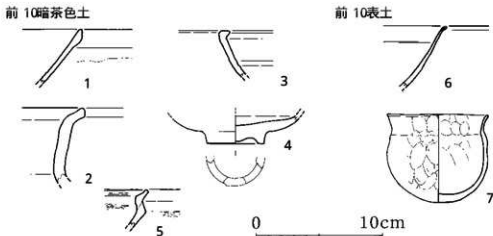
## 弥生土器(前期)( P110 50)

甕(12) 口縁部から胴部の一部が残存する破片である。残存高46cm。内面においては、胴部はナデcを施し、口縁部はナデb2を施す。外面においては、胴部はナデbを施し、口縁部はナデa2を施す。刻目は口縁端部の下角に小さく施される刻目3である。胎土は1mm以下の砂粒を含み、焼成は良好。内面は茶灰色を呈す。

## 前10SX127出土遺物( Fig 10 19, P110 51・52)

## 製塩土器

片(2) ごく一部が残存する破片である。残存高485cm。内外面ともに風化が著しく調整は不明だが、外面に指頭痕が確認できる。胎土は1mm以下の砂粒を含み、一部に3~5mm程度の小石も散見される。焼成はあまい。内面は橙灰色、



F igit 10 20 前田遺跡第 10 次調査暗茶色土・表土出土遺物実測図

外面は淡黄橙色を呈す。

金属製品

刀子 (3・4) 鉄製。3は、刃部とみられる。現存長 4.25cm、幅 2.05cm、最大厚 0.5cm。4は、柄部とみられる。現存長 4.5cm、幅 1.4cm、厚さ 0.35cm。

前 10SX136出土遺物 (F igit 10 19, P110 52・53)

白磁

碗 (13) IV 1a類。体部から底部が残存する破片である。残存高 5.2cm。

前 10暗茶色土出土遺物 (F igit 10 20, P110 53・54)

白磁

碗 (1) IV類。口縁部の一部が残存する破片である。釉調はくすんだ淡灰緑色に発色する。残存高 4.35cm。

国産陶器

壺 (2) 口縁部の一部が残存する破片である。残存高 6.05cm。回転ナデ後、全面に薄く釉がかかっている。口縁部上部に灰黒色の釉がはねて 1mm前後の粒状の塊となっており、その他の釉は淡茶灰色を呈す。胎土はごくわずかに砂粒状のものをふくみ、その他黒粒を含むものの灰白色を呈す。焼成は良好。口縁端部がわずかに跳ね上がっているなどを踏まえると灰釉陶器の可能性がないわけではないが、今のところ瀬戸産または常滑産と考える。。13世紀初頭頃のものか。

中国陶器

四耳壺 V 水注 IV (3) 口縁部の一部が残存する破片である。残存高 37cm。回転ナデ後、全面に薄く施釉する。釉調は内面は灰茶色、外面は暗緑灰色。釉の飛沫とみられる黒色の粒子状のものが特に内面においてみられる。胎土は暗灰白色を呈し、精良である。なお、器種については、四耳壺の可能性が高いと考えている。

#### 雑釉陶器

碗 (4) 底部の一部が残存する破片である。残存高 215cm、高台径 46cm。高台部内側はケズりくり込みして中心が隆起している。胎土は、精良で磁器化し灰白色を呈しているが、0.3mm以下の微細な孔が全面にわたって観察される。釉は、緑がかった透明な釉が全面に施されており、内面の方が若干厚くかかっている。内面底部には釉溜まりとみられる粒状の塊が多く散見される。高台部には目跡が 3箇所確認され、目跡が均等に配置されたと仮定すると 4箇所存在したことになる。

#### 縄文土器 (晩期)

浅鉢 (5) 口縁部が残存する破片である。現存高 225cm。口縁端部が外方向に向かってくの字に折れ曲がっており、内面の口縁端部にわずかな段を有し、つまみ上げた印象を受ける。内外面とも横方向にミガキを施す。胎土は 0.5mm以下の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともに暗茶黒色を呈す。

#### 前 10 表土出土遺物 ( Fig 10 20, P110 53・54)

##### 白磁

碗 (6) 口縁から体部にかけて残存する破片である。V 4 VIII 3類。口縁が水平に整形されているのが特徴である。胎土は精良で白灰色を呈すが、微細な黒粒も含んでいる。釉調は透明。

##### 弥生土器 (後期)

手づくね鉢 (7) ほぼ完存する。口径 80cm、器高 70cm。球形の胴部にほぼ垂直に立ち上がる口縁部がとりつく。胴部内面は指押さえの後ナデを施しており、その他の部分は指押さえによる整形を行っている。胎土は 1mm前後の砂粒を多く含み、焼成はややあまい。内外面とも淡灰茶色を呈す。

#### 石製品

##### 竪穴住居出土石製品

前 10S D55 出土石製品 ( Fig 10 21, P110 55)

鐵 ( 1 ) 基部が抉入りの無茎鐵である。黒曜石製。長さ 16cm、幅 1.34cm、厚さ 0.38cm。黒色土出土。

前 10S D65 出土石製品 ( Fig 10 21, P110 55)

鐵 ( 2 ) 基部が抉入りの無茎鐵である。黒曜石製。長さ 18.5cm、幅 1.35cm、厚さ 0.4cm。本遺物は S 60 黒茶色土出土であるが、S 60 は S D65 と同一遺構とみなしているため、ここで報告を行っている。

前 10S D70 出土石製品 ( Fig 10 22, P110 57)

砥石 ( 1 ~ 3 ) 粘板岩製。1 は、現存 12.6cm、幅 4.85cm、最大厚 2.25cm。2

前 10S D55 黒色土



1

前 10S D65



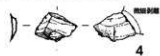
2

前 10 攪乱



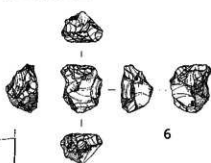
3

前 10SK025 茶色土下層



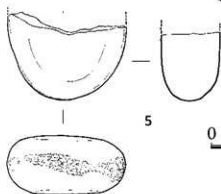
4

前 10 暗茶色土



6

前 10SK025 黒色土



5

0 10cm

Fig 10 21 前田遺跡第 10 次調査出土石器実測図 ( 1 )

は、現存長 80cm、現存幅 39cm、最大厚 40cm、3は現存長 56cm、現存幅 46cm、現存厚 48cm。いずれも片理に沿って板状に割れている。一応砥石とはしているものの、研磨はさほど行われていないようである。いずれも黒茶色土層出土。

浮子(4) 軽石製。長さ 585cm、幅 41cm、厚さ 33cm。茶色土出土。なお器種をここでは浮子としたものの、その他の用途があった可能性もある。

前 10SD70h出土石製品 (F 図 10 22, P110 57)

砥石(5) 粘板岩製。現存長 895cm、現存幅 53cm、現存厚 31cm。片理に沿って欠損している。平坦な面を研ぎ面としているのが 2ヶ所、回転して研磨した痕跡が 8ヶ所以上確認される。

土坑出土石製品

前 10SK025出土石製品 (F 図 10 21, P110 55・56)

剥片 (used flake)(4) 微細剥離など使用痕のある剥片である。黒曜石製。長さ 155cm、幅 228cm、厚さ 0.3cm。

磨石 叩石(5) 緑泥片岩製。現存長 47cm、幅 63cm、厚さ 315cm。表面はよく研磨されているが、周囲に、表面が荒れた部分がめぐっており、ここで叩いたことがわかる。何に使用したかは不明だが、磨き具として利用された可能性も考えられる。茶黒色土層出土。

前 10SK075出土石製品 (F 図 10 22, P110 57・58)

石匙(6) 安山岩製。現存長 67cm、幅 375cm、厚さ 11cm。整形以前の段階に薄片をとった痕跡がよく残っている。

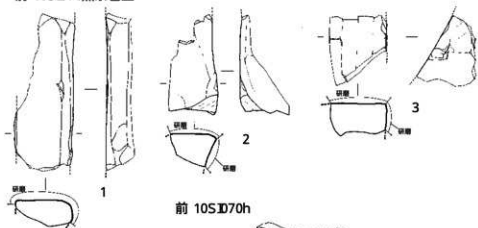
その他の遺構出土石製品

前 10SX110出土遺物 (F 図 10 22, P110 57・58)

鍬(7) 結晶片岩製。現存長 74cm、幅 32cm、厚さ 11cm。

前 10暗茶色土出土石製品 (F 図 10 21, P110 57・58)

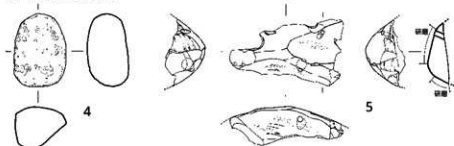
前 10SD70黒茶色土



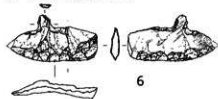
前 10SD70h



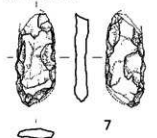
前 10SD70茶色土



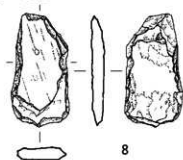
前 10SK075黒茶色土



前 10SX110



前 10表土



0 10cm

Fig 10 22 前田遺跡第 10次調査出土石器実測図 ( 2 )



石核 (6) 黒曜石。現存長 2.55cm、現存幅 2.2cm、現存厚 1.7cm。

前 10 表土出土石製品 (Fig 10 22, P110 57・58)

鏃 (8) 頁岩製。長さ 9.0cm、幅 4.5cm、厚さ 1.05cm。

前 10 攪乱出土石製品 (Fig 10 21, P110 55)

鏃 (3) 基部が平らな無茎鏃である。黒曜石製。長さ 2.2cm、幅 1.9cm、厚さ 0.45cm。

## 5) まとめ

本調査は調査範囲が狭く出土遺物も破片資料が多いため、各遺構の性格づけを行うことは難しいこともあるが、一応、主要遺構の所見をまとめることとする。なお、本調査西隣の調査報告書『佐野地区遺跡群ⅤⅡ-前田遺跡第 7 次調査〜』(太宰府市教育委員会 1998) もあわせて参照していただきたい。

### 溝

#### 前 10SD001

これまでの前田遺跡の調査において、水城西門をとめる官道の西側溝に比定される遺構である。出土遺物は破片資料が多いが奈良時代後半頃のものである。本稿においては図化可能な最上層の黒色土出土遺物のみ掲載しているが、出土傾向は基本的に大きな差はないようである。本調査区は狭範囲のため、状況報告を行うのみであり、詳細については周辺既調査区の整理報告に委ねる。

なお、完掘時に鏃痕跡が底面に多数残存している様子が確認できた。このため痕跡の土層観察を行い、また実際にスコップを使用して土を掘り土層観察を行った結果、いずれも同じような土層断面を呈していることが確認された。

また土層観察より溝の東側(官道の路面側)にテラス状の段を有することを確認された。鏃痕跡もテラス部分にて確認している。テラス状の段の存在は、今後本調査区周辺の官道の形態を考える上で参考となろう。

#### 前 10SD005および前 10SD035

本遺構は前田遺跡第 1 次調査の成果から、前 10SD 035 とを併せて方形にめぐっているようであり、方形周溝等に推測される。

本調査区内ではいずれの遺構も遺物出土量が少ないため、時期決定は難しいが、前 10SD 005 下層出土遺物から推して弥生時代後期と考える。詳しくは前田遺跡第 1 次調査の整理報告によるところが多いが、今後本報告とあわせて検討する必要がある。

#### 前 10SD015

遺構の項でも述べたように、溝の本体は淡茶色土埋土の部分とみられるが、この層位からは弥生時代後期とみられる破片資料が出土しているのみであり、参考として黒色土出土の弥生土器を報告している。なお本遺構のつづきが東の前田遺跡第 1 次調査区でも検出されており、今後両者をあわせて検討する必要がある。

#### 前 10SD085

本遺構は本調査区の東西の前田遺跡 4・7 次調査区でもつづきが検出されている。前田遺跡第 7 次調査の調査報告によると、第 7 次調査区では奈良時代中頃から後半の遺物が出土していることが報告されているが、本調査区では検出範囲は狭いものの、奈良時代の遺物の他、白磁碗片（ⅤⅤ類）が出土している。この周辺には 12 世紀前後の遺物を含む遺構が多いため、混入の可能性も比定できないが、時期が下る可能性もでてきた。この結論は第 4 次調査の整理報告に委ねたい。

#### 前 10SD100

これまでの前田遺跡の調査において、水城西門をとおる官道の東側溝に比定される遺構である。今回は官道が機能したとされる奈良時代を中心とした時期の遺物は出土をみなかった。かわりに平安時代前期頃のものと思われる土師器坏片が出土していることは注目すべきである。これは、破片資料のため断定できないものの大宰府における坏 a の編年に当てはめると、ⅤIb～ⅤII 期（9 世紀頃）に比定されるものである。本調査区では見つかっていないが、この頃の墳墓も周辺調査区において検出されており、混入した可能性もないわけではないが、今のところこの時期まで溝が機能していたことを示すものとする。

## 竪穴住居

## 前 10SⅡ20

本遺構の東側は、前田遺跡第 1 次調査において調査されており、本遺構の全体面積からみると約 1/8 程度の報告となった。詳細は第 1 次調査の整理報告により明らかになるが、本調査区では埋土（黒茶色土）および貼床（茶褐色土）より弥生時代後期の遺物が出土している。

## 前 10SⅡ30

なお本遺構の東側は、前田遺跡第 1 次調査において調査されており、本遺構の全面積から見ると、ごく一部の報告となった。詳細は第 1 次調査の整理報告により明らかになるが、本調査区では弥生時代後期のものとみられる遺物が出土している。

## 前 10SⅡ55

前田遺跡第 7 次調査にて本遺構の続きが検出されている（前 7SIⅠ15 弥生後期前半～中頃）。第 7 次調査同様貼床は検出されていない。本調査区でも量は少ないものの弥生時代後期の遺物を検出している。なお床面下において複数の小穴・土坑を検出し、調査時には本遺構に伴うものと考えていたが、現在では別遺構と考えている。

## 前 10SⅡ65

本調査区内ではほぼ完結する竪穴住居である。出土遺物は弥生時代後期の遺物が多いものの、埋土や貼床下の小穴（前 10SⅡ65f）から古墳時代前期の遺物が出土している。

## 前 10SⅡ70

前田遺跡第 7 次調査にて本遺構の続きが検出されている（前 7SIⅠ6Q 弥生時代後期中頃以降）。第 7 次調査と異なる所見として貼床の検出がある。なお今回の調査でも細片が多いものの、弥生時代後期頃の土器片等を出土している。

## 土坑

## 前 10SK025

出土遺物およびその形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。遺物量も多いことが特筆される。この中に焼土塊や磨石とみられるものが検出されており注目される。ただし土器焼成に伴うものかどうか断定できない。なお、最上層の茶色土には須恵器環が含まれている。これは別遺構が存在したが、茶色土層自体が奈良時代の遺物を含む後世の堆積層で本遺構埋土とともに沈み込んだものかのいずれかと考える。

#### 前 10SK045

出土遺物およびその形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。これに切り込む前 10SX 040から縄文時代晩期の浅鉢が出土しており、本遺構に関連する可能性もある。なお、最上層の黒茶色土から出土した手づくね鉢は弥生時代後期頃のものと考えられ、最上層は新しい遺物の混入が考えられる。

#### 前 10SK056

出土遺物およびその形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。灰褐色砂には縄文時代晩期の浅鉢も検出されている。なお、最上層に弥生時代後期の遺物が混入するが、これは、本遺構の沈み込みにより、上面の竪穴住居（前 10SI055・前 10SI065）内の埋土が上層部にふくまれたことによると考える。いずれの遺構に帰属するかは現時点では不明である。

#### 前 10SK075

出土遺物およびその形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。周辺の地盤は脆く開口している時に南側が地崩れをおこしたとみられる。黒茶色土から出土した壺（F ㄱ 10 18 2）は床面より割れた状態で出土している。なお、これに切り込む前 10SX 094から弥生時代前期の甕片が出土しており、元来本遺構に伴う遺物と考える。

#### 前 10SK090

その形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。南側は開口している時に地崩れをおこして崩壊した形跡があり、遺物も検出されていないことから、掘削した後はほとんど使用されずに廃絶したと考える。

## 前 10SK095

出土遺物およびその形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。これに切り込む前 10SX 064から弥生時代前期の小壺片が出土しており、元来本遺構に伴う遺物と考えられる。

## 前 10SK105

官道の東に掘削された土坑である。ここから須恵器が完形品を伴って出土している。廃棄土坑とみられ、時期は奈良時代後半頃とみられる。

## 前 10SK134

本遺構から土師器の皿 c が検出されている。この土器は緑釉陶器の可能性もあるが、断定できないため土師器として報告した。なお皿 c と同時期のものかわからないが、図示したように 12 世紀頃とみられる土師器も出土している。

## その他の遺構

## 前 10SX004

小穴群であるが、この中から弥生時代前期の鉢が検出されている。出土したの  
は前 10SK 025(弥生時代前期の貯蔵穴)上であることから、この鉢はもともと前  
10SK 025に伴うものである可能性がある。

## 前 10SX040

小穴にしては比較的大きな遺構であり、埋土も 3 層に分かれる。出土遺物から弥生時代後期の遺構と考えられるが、その中層から縄文時代晩期の浅鉢、鉄製ヤリガンナが検出されている。

## 前 10SX064

本遺構の出土遺物は、時期差があるが、ここから弥生時代前期の小壺片が検出された。この下層に前 10SK 095(弥生土器前期の貯蔵穴)があることから、この小壺片はもともと前 10SK 095に伴うものである可能性がある。

## 前 10SX094

本遺構には 12 世紀以降の遺物が含まれることから、平安時代末の堆積と考えるが、ここから弥生時代前期の甕片が検出された。この下層に前 10SK 075(弥生土器前期の貯蔵穴)があることから、この甕片はもともと前 10SK 075 に伴うものである可能性がある。

## 前 10SX110

出土遺物が少ないため、本遺構の時期等については不明な部分が多いが、弥生時代の中におさまるものと考えられる。また、出土遺物に石鍬が検出されているため、図示し報告している。

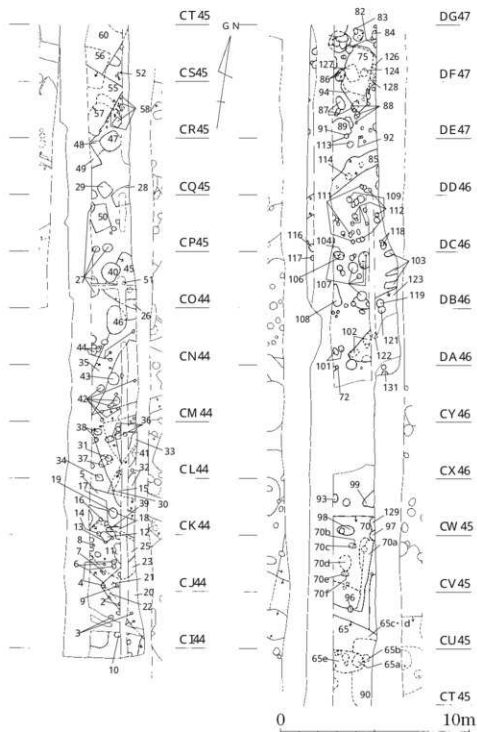
## 前 10SX127

出土遺物に糸切り底の土師器坏が含まれているので、遺構の時期は 12 世紀以降となろうが、ここから製塩土器および鉄製の刀子が出土しているため、図示し報告している。

## 前 10SX136

白磁碗が検出されており図示した。ただし本遺構に含まれる遺物は奈良時代のもの比較的多い。ここが官道路面部分にあたることにもよるか。

最後に、本調査は前田遺跡の中心部を細長くトレンチをあけたようなものであり、調査区の狭いことから、全体像を十分把握できないまま調査を終えた感がある。全体像については今後の周辺調査成果報告に委ねるところが大きい。



F 図 10 23 前田遺跡第10次調査遺構配置図 1

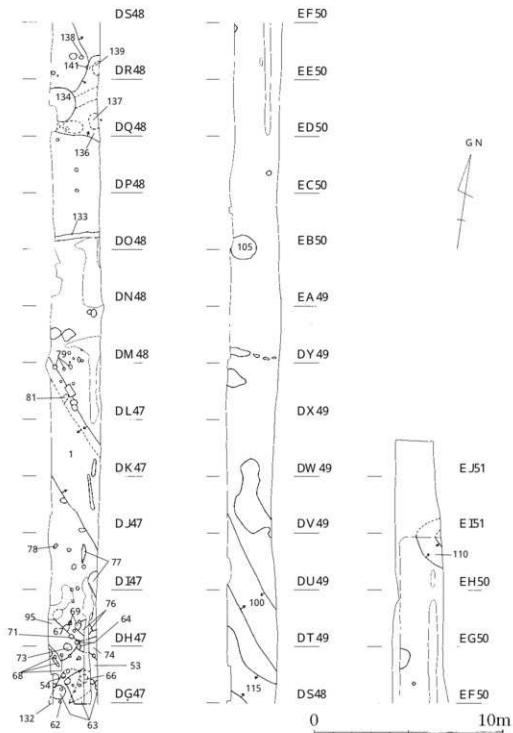


Fig 10 24 前田遺跡第10次調査遺構配置図 2



## 前田遺跡第10次調査 主要遺構および層位相対関係表

註 本調査区は狭いため、国土座標にあわせて測量杭を配することができず、調査区に添ってGN 8 7 50W を軸に測量を行っている。周辺既調査区では地区番号を国土座標にあわせて割り振られているため、本調査区の地区番号は周辺調査区の地区番号を参考にして、その近似値を使用している。

S番号	遺構番号	種別	土層の新旧(古 新)	地区番号
1	前 10SD 001	溝	茶黑色砂 黒茶色土 黒色土	D J47 ~DL47
4	前 10SX 004	P:群		C J44
5	前 10SD 005	溝	茶褐色土 下層 上層 S 15	CK 44
10		P:土	掘方 柱礎	C J44
15	前 10SD 015	溝	淡茶色土 黒色土	CK 44
20	前 10SJD20	竪穴住居	茶褐色土(貼床) 黒茶色土(埋土)	C J44
25	前 10SK 025	貯蔵穴	暗灰色砂 茶黒色土 黄色砂 茶色土下層 茶色土	C J44
30	前 10SJD30	竪穴住居	茶灰色土(溝埋土) 茶色土(埋土) S 30(暗茶色土が一部混じるか)	CL 44
35	前 10SD 035	溝	黄褐色土 茶色土 S 35	CM 44
40	前 10SX 040	P:土	黒黄色土混土(遺物なし) 茶灰色土 黒色土	CO 44
45	前 10SK 045	貯蔵穴	黄色粘 灰色砂 黒黄色土 茶灰色土 黒茶色土	CO 44
50		土坑	黒灰色土 黒茶色土	CP 45
55	前 10SJD55	竪穴住居	黒色土 S 55	CR 45
56	前 10SK 056	貯蔵穴	茶灰色砂 黄色砂 灰褐色砂 灰色砂 黒灰色土	CS 45
60	前 10SJD65	竪穴住居	黄茶色土(下層の溝) 黒茶色土(貼床・埋土)	CS 45
64	前 10SX 064	P:群		DG 47
65	前 10SJD65	竪穴住居	e (g h) 茶黄色土(貼床) (d c)(ベッド) a・b 黒茶色土(埋土)	CT 45 ・CU 45
70	前 10SJD70	竪穴住居	g (i h) 茶色土(貼床) 黄黒色土(ベッド?) (a-h) 黒茶色土(埋土)	CV 45
75	前 10SK 075	貯蔵穴	黒褐色土 暗黄色土 黒茶色土 黒色土	DF 47
85	前 10SD 085	溝		DD 46
90	前 10SK 090	貯蔵穴	黄色砂 黒色土	CT 45
94	前 10SX 094	たまり		DF 47
95	前 10SK 095	貯蔵穴	黒茶色土 黒色土 茶色土	DH 47
100	前 10SD 100	溝	灰茶色粘のみ	DT 49 ・DU 49
105	前 10SK 105	土坑	灰色砂 紫灰色粘	EB 50
110	前 10SX 110	溝か	暗茶色粘埋土	EH 50 ~EJ 51
127	前 10SX 127	P:土		DF 47
134	前 10SK 134	土坑		DQ 48
136	前 10SX 136	たまり	茶色土 灰色砂	DQ 48

## 前田遺跡第10次調査遺構番号台帳 S1～S20

注 地区番号は周辺既調査区で統一されているが、本調査区は狭いため、座標上に測量杭を配することができず、調査区に添ってGN 8 7 50W を軸に測量を行っている。

このため本調査の地区番号は周辺調査区の地区番号を参考にして、その近似値を使用している。

S番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古新)	時期	地区番号
1	前10SD001	溝	水城西門をとる官道西側溝。		奈良	DJ47 ～DL47
2		P遺群		2 20		CJ44
3		P土				CJ44
4	前10SX004	P土			弥生	CJ44
5	前10SD005	溝			弥生後期	CK44
6		P土		6 25		CJ44
7		P土		7 25		CJ44
8		P土		8 25		CJ44
9		たまり	暗茶色土層のたまりと考える。	9 20		CJ44
10		P土				CJ44
11		たまり	暗茶色土層のたまりと考える。	11 25		CJ44
12		P土		12 25		CK44
13		P遺群		13 25		CJ44
14		P土		14 25		CK44
15	前10SD015	溝			弥生後期	CK44
16		P土		16 25		CK44
17		P土		17 25		CK44
18		たまり	S39の上層部の遺物が混じる可能性あり。	18 25		CK44
19		P土		5 19		CK44
20	前10SD20	竪穴住居			弥生後期	CJ44

## 前田遺跡第10次調査遺構番号台帳 S 21～S 40

S番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古 新)	時期	地区番号
21	前 10SID20	P址	前 10SID20床面のP址		弥生～	CJ44
22	前 10SID20	溝	前 10SID20床面の溝。		弥生～	CJ44
23	前 10SID20	たまり	前 10SID20床面のたまり。 前 10SID23の沈み込みによる。		弥生前期～	CJ44
24		P址	所在不明。	24 60		CS45
25	前 10SK 025	貯蔵穴			弥生前期	CJ44
26		たまり		45 26		CO44
27		P遺群				CO44
28		土坑				CQ45
29		土坑				CQ45
30	前 10SID30	竪穴住居		30 15 5	弥生後期	CL44
31		P址		15 35		CL44
32		P遺群	一部は、SID30住居内P址		弥生～	CL44
33		たまり	暗茶色土層の一部と考える。			CL44
34		P址				CL44
35	前 10SD 035	溝			弥生後期	CM 44
36		P遺群				CL44
37		P址		37 15	弥生～	CL44
38		P遺群		15 38	弥生～	CL44
39		P址		39 25	弥生～	CK 44
40	前 10SX 040	P址		45 40	弥生後期～	CO44

## 前田遺跡第10次調査遺構番号台帳 S 41～S 60

S番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古 新)	時期	地区番号
41	前 10SID30	P址	SID30住居内 P址		弥生後期～	CL44
42		P遺群				CM 44
43		P址		35 43	弥生後期～	CM 44
44		P遺群				CN44
45	前 10SK 045	貯蔵穴		45 40	弥生前期	CO44
46		土坑		46 35	弥生後期～	CN44
47		土坑				CR45
48		土坑				CQ45
49		土坑				CQ45
50		土坑				CP45
51		P址		45 51	弥生～	CO44
52		P址				CS45
53		P址				DG47
54		P址	根石あり。			DG47
55	前 10SID55	竪穴住居			弥生後期	CR45
56	前 10SK 056	貯蔵穴	黒灰色土には、前 10SID55の遺物が一部混じっている。	56 55	弥生前期	CS45
57		土坑	灰色砂埋土。	57 55	弥生後期	CR45
58		P遺群				CR45
59		欠番				-
60	前 10SID65	竪穴住居	S 60 前 10SID65、黒茶色土層は埋土と貼床の両方を含む。			CS45

## 前田遺跡第10次調査遺構番号台帳 S 61～S 80

S番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古 新)	時期	地区番号
61		欠番				-
62		Pⅱ				DG47
63		Pⅲ				DG47
64	前 10SX 064	Pⅲ群	前 10SK 099に切り込む Pⅲから 弥生前期小壺が出土。	95 64の一部分	古代末～	DG47
65	前 10SID65	竪穴住居	a- は住居内 Pⅱ c- dはベッド 状遺構埋土。f- gは西側の下 層の溝埋土。eは下層の土坑埋土		弥生後期	CT 45 ・ CU 45
66		Pⅱ			奈良	DG47
67		たまり	前 10SK 099の沈み込みによる 後世の堆積。		古代末～	DG47
68		Pⅲ群				DG47
69		Pⅲ群			弥生後期	DH 47
70	前 10SID70	竪穴住居	a- は住居内 Pⅱ gは aの下層の 溝。Hは貼床の一部か。以下層 Pⅱ 前 75I16と同一遺構か。		弥生後期	CV 45
71		Pⅱ				DH 47
72		Pⅱ				CY 46
73		Pⅱ		95 73 67	弥生後期	DH 47
74		土坑				DH 47
75	前 10SK 075	貯蔵穴		75 94	弥生前期	DF 47
76		土坑				DH 47
77		Pⅲ群				D I47
78		Pⅱ				D I47
79		Pⅲ群	一部が前 10SD 001に切り込み、 須恵器坏が出土。			DL 47
80		欠番				-

## 前田遺跡第10次調査遺構番号台帳 S 81～S 100

S番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古 新)	時期	地区番号
81		P址	前 10SD 00テラス部分下層のP址		弥生前期～	DL47
82		P遺群				DF47
83		P址			12c～	DF47
84		P址			古代末～	DF47
85	前 10SD 085	溝	前 7SD 00と同一遺構。 出土遺物は前より新しい。		古代末～	DD46
86		P遺群		94 86	12c～	DF47
87		P遺群				DE47
88		P遺群	S 94下層のP遺一部含む。			DE47
89		土坑			12c～	DE47
90	前 10SK 090	貯蔵穴	袋状土坑の壁が早期に崩れ、その窪みを廃棄土坑として使用したと考える(黒色土部分)。		弥生前期か	CT45
91		P址				DE47
92		P址				DE47
93		P址				CW45
94	前 10SX 094	たまり	S 75上層のたまり。	94 75	12c～	DF47
95	前 10SK 095	貯蔵穴		95 67	弥生前期	DH47
96		P址		70 96	7c～	CU45
97		P址		70 97		CW45
98		P址		70 98		CW45
99		P址				CW45
100	前 10SD 100	溝	水城西門をとる官道東側溝。		～平安	DT49 ・DU49

## 前田遺跡第10次調査遺構番号台帳 S 101～S 120

S番号	遺構番号	種 別	備 考	遺構間の 新旧関係 (古 新)	時 期	地区番号
101		P遺群				DA 46
102		P址				DA 46
103		P遺群				DB46
104		P址				DB46
105	前 10SK105	土坑			奈良後半	EB50
106		P址				DB46
107		P遺群				DB46
108		土坑				DB46
109		P遺群				DC46
110	前 10SD110	溝			弥生	EH50 ～EJ51
111		P遺群				DC46
112		P遺群				DC46
113		P址				DD46
114		P址		114 85	奈良～	DD46
115		たまり			奈良?～	DS48
116		P址				DC46
117		P址				DB46
118		P遺群				DC46
119		P址				DB46
120		欠番				-

## 前田遺跡第10次調査遺構番号台帳 S 121～S 141

S番号	遺構番号	種 別	備 考	遺構間の 新旧関係 (古 新)	時 期	地区番号
121		P址				DB46
122		P址				DA46
123		たまり				DA46
124		P址		75 124 94		DF47
125		欠番				-
126		P址		75 126 94	12c～	DF47
127	前 10SX 127	P址		75 127 94	12c～	DF47
128		P址		75 128 94	奈良～	DF47
129		P址	前 10SD70に伴う可能性もあるか			CW 45
130		欠番				-
131		P址				CY46
132		土坑	黄茶色土下にて検出。 埋土は黒灰色砂。		遺物なし	DG47
133		溝			奈良か	DO48
134	前 10SK 134	土坑		136 134	12c～	DQ48
135		欠番				-
136	前 10SX 136	たまり			C期～	DQ48
137		土坑		137 136		DQ48
138		P址				DR48
139		P址		136 139		DR48
140		欠番				-
141		P址				DR48



## 前田遺跡第10次調査遺構番号台帳 その他

S番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古 新)	時期	地区番号
黄茶色土		地山土	DF4からDH4にて30cmほど地山を掘り下げる。			DFDH 4付近
暗茶色土		包含層	遺構面を覆う層。遺構面検出時の人工層位を総称する。			調査区 全面
明茶色土		包含層	暗茶色土の上層の遺物包含層。			CT45 のみ
表土						調査区 全面
カクラン			調査区内の現代の攪乱。			調査区 全面
Z			所属が不明の遺物群。			調査区 全面

## 前田 10次遺物観察表について

1. ここでは、遺物番号の数字の小さい方から順次に記している（いわゆる、「遺物順」）。
2. 母号とは遺物に付与された整理番号で、収蔵後の検索にはこの番号を用いる。
3. 土質以外の法量は口径・高さ・底径・長さ・幅（高さ）・厚みに読み取る。
4. 数値後の「は」は欠損状況での数値、は「元」は状況での数値、は「定」は現状の数値を示している。
5. は「or（あるいは）」の意を示す記号である。
6. 写真が複数ページにまたがる場合は、先頭の写真番号のみ記している。

## 調整項目について

1. 基本的に調整が明確に認められるものを記している。
  2. ナズは、原則調整として指定されているもののみを表示している。
  3. 弥生前期土質については、調整や以下のように記号化して表示している。これらの調整の記号化については、「大塚野-弥生前期遺跡群VI」を参照のこと。
- 例 目 1 口縁調整全体に施される
- \* 2 口縁調整中央から下にかけて施される
  - \* 3 口縁調整の下方の小く小さく施される
- ナズ a 細小口縁調整の調整を施し、工具の痕跡や線がある。
- \* b ナズより厚縁は細い、いわゆるハタケ。
  - \* c 全体に平滑、厚縁は直線的でない、工具を使用せず、指によるものか。
  - \* d ごく細かな直線的な調整を施す。ケズリにもあたる。
- なおナズについて、口縁調整で横方向に強く施されるものは、a2、b2のように数字の「2」が付する。

## 石器観察について

1. 石器の設置方向は、割片の場合は割離面の打点部分を上とし、リングの中心部分を下として記している。石核の場合は割離面側あるいは最も明確な調整面を正面上としている。
  2. 位置の測定には前記の電子測尺を使用し、
  3. 観察番号の母号は次のとおり、
- ab(黒曜石)、and(安山岩)  
k(割片)、r(二次加工のある割片)、  
u(焼結調整など使用面のある割片)、ap(石核)

## 前田遺跡第10次調査 遺物観察表 (1)

遺 集	器 種	調整番号	写真番号	R番号	口 径	高 さ	底 径	外 径	内 径	備 考					
					cm	cm	cm	ナズ	ハタケ	ミガキ	ナズ	ハタケ	ミガキ	(「は」は調整)	
前 10SD90 褐色土	遺器類 蓋 3	F 景 10 101	P10 17	004		13									
	遺器類 杯 c<ヘウ	F 景 10 102	P10 17	001		26	94		?					内面底部にナズ?。現状直線なし	
	*	遺器類 杯 c<ヘウ	F 景 10 103	P10 17	003		275	100						内面底部にナズ。現状直線なし。	
	*	遺器類 杯 d	F 景 10 104	P10 17	005		43							外周へハタケすり施す。	
前 10SD004	弥生前期 器	F 景 10 191	P10 46	001	34	15	87	a	a					内面はナズ a ミガキ。	
	弥生前期 器	F 景 10 107	P10 19	001	29									厚縁もハタケあり。	
前 10SD005 層	弥生前期 器	F 景 10 108		002	79									調整内面にしぼり痕が見える。	
	弥生前期 器	F 景 10 109	P10 19	001	25									内外とも調整不規。	
前 10SD011 褐色土	弥生前期 器	F 景 10 111	P10 21	001	204	88								内面はハタケ ナズ。ナズの縁に付いたと見られる片の調整痕あり	
	弥生前期 器	F 景 10 112		004	24	15	25							内面はハタケ ナズ。 外周ナズは口縁付近に施される。	
前 10SK002 褐色土	弥生前期 器	F 景 10 113	P10 22	002	12	5									
	弥生前期 器	F 景 10 114	P10 22	003	585									内面は調整不規。	
	遺器類 杯 c<ヘウ	F 景 10 131		004	14									内面底部にナズ。現状直線なし。	
	*	弥生前期 器	F 景 10 132	P10 27	002	46				c					
前 10SK025 褐色土下層	弥生前期 器	F 景 10 133	P10 27	001	55	a2				a	c			列目 2	
	弥生前期 器	F 景 10 134	P10 27	003	47	a								列目 2	
	弥生前期 器	F 景 10 135	P10 28	004	49	74				a2				列目 2	
前 10SK026 褐色土	弥生前期 器	F 景 10 136	P10 28	001	66	a2				a2				列目 2	
	弥生前期 器	F 景 10 137	P10 28	002	57	a2				a2				列目 2	
	弥生前期 器	F 景 10 138	P10 28	003	53	100	b	c							
	*	石器類 ubuf	F 景 10 214	P10 55	005	155	238	030						10g	
	*	弥生前期 器	F 景 10 139	P10 29	004	49					a2				外周は調整不規。
	*	弥生前期 器	F 景 10 130	P10 30	001	795	a2				a2				列目 2
	*	弥生前期 器	F 景 10 1311		002	72	82	d			c				
前 10SK027 褐色土	弥生前期 器	F 景 10 132	P10 30	003	78	82	b	c						内面は調整不規。	
	弥生前期 器	F 景 10 141	P10 32	018	250	50				a2				外周に赤色顔料付。	
	弥生前期 器	F 景 10 142	P10 33	015	75	109	a								
	*	弥生前期 器	F 景 10 143	P10 32	017	54	a				a				
	弥生前期 器	F 景 10 144	P10 32	016	26	a					a			外周底部付近にミガキ ナズ a	
	*	弥生前期 器	F 景 10 145	P10 33	021	290	172	a2- b			a2- c				列目 2
	弥生前期 器	F 景 10 146	P10 34	009	485						a2				列目 3 調整内面は調整不規。
前 10SK028 褐色土	弥生前期 器	F 景 10 147	P10 34	003	60	a2- c				a2- c				列目 1	
	弥生前期 器	F 景 10 148	P10 34	002	795	a2- c				a2				列目 1 調整内面は調整不規。	
	弥生前期 器	F 景 10 149	P10 34	007	107	a2- a				a2- a	c			列目 3	

## 前田遺跡第10次調査 遺物観察表(2)

遺 集	品 種	図面番号	写真番号	尺貫寸	口 径		外 径			内 径			備 考 ( 注文欄、*は遺集欄 )	
					cm	mm	ナブ	ハケ	ミガキ	ナブ	ハケ	ミガキ		
前 10SK 02銅質土	弥生前期 鏝	F 10 14 10	P10 35	008	4.4		a2	a	c				列目2	
	弥生前期 鏝	F 10 14 11	P10 35	006	5.7		a2	a	c				列目1	
	弥生前期 鏝	F 10 14 12	P10 35	005	3.1		a2	b		a2	c		列目1	
	弥生前期 鏝	F 10 14 13	P10 35	010	3.4		a2	b		a2	c		列目2	
	弥生前期 鏝	F 10 14 14	P10 35	004	6.5		a2	c		a2	c		列目1	
	弥生前期 鏝	F 10 15 15	P10 36	019	5.9						c			
	弥生前期 鏝	F 10 15 16	P10 36	014	3.9	7.2								内面は調整不規。
	弥生前期 鏝	F 10 15 17	P10 36	012	3.2	10.0								内面は調整不規。
	弥生前期 鏝	F 10 15 18	P10 36	013	4.4	9.05					c			
	弥生前期 鏝	F 10 15 19	P10 36	011	11.2	8.2								外面底部に捺押さ欠陥あり。
	弥生前期 鏝	F 10 15 20	P10 37	030	6.3			a						
	前 10SK 02編灰色砂	弥生前期 手づく鉢	F 10 15 21	P10 36	001	4.65								口縁上部に列目1
石製品 磁石 硝石		F 10 21 5	P10 56	022	4.7	6.3	3.15						1.30g	
弥生前期 小鏝		F 10 16 1	P10 38	001	3.65								外面に赤色顔料による彩文あり。	
弥生前期 鏝		F 10 16 2	P10 39	002	2.4					c				
弥生前期 鏝		F 10 16 3	P10 39	006	3.9	7.2	b						内面は調整不規。	
弥生前期 鏝		F 10 16 4	P10 39	005	4.4	8.3	b			a	c			
弥生前期 鏝		F 10 16 5	P10 39	004	5.85	8.6	c						内面は調整不規。外面に捺押さえ。	
前 10SK 04黄灰色土		縄文時代 浅鉢	F 10 19 5	P10 47	001	3.1								
		鉄製品 ヤリガンナ	F 10 19 6	P10 48	004	4.6*	10	0.3						
		鉄製品 ヤリガンナ	F 10 19 7	P10 48	003	4.2*	11	0.3						
前 10SK 04黄灰色土		鉄製品 ヤリガンナ	F 10 19 8	P10 48	002	3.3*	10	0.4						
		弥生前期 手づく鉢	F 10 17 1	P10 39	001	7.8	3.45	1.6						
	弥生前期 鏝	F 10 12 1	P10 23	001	15.4			a2		a2	c		列目1	
前 10SK 05	弥生前期 鏝	F 10 12 1	P10 23	001	15.4								内面には、捺押さえ痕跡が見える	
前 10SK 05黄灰色土	弥生前期 鏝	F 10 12 2	P10 23	001	2.25								内外とも調整不規。	
	石製品 cb ap	F 10 21 1	P10 55	002	1.6	1.34	0.38						0.6g	
	弥生前期 鏝	F 10 17 8		001	8.1								内外とも、ハケ ナブ。	
前 10SK 05黄灰色砂	縄文時代 浅鉢	F 10 17 9	P10 40	001	2.25									
前 10SK 06	弥生前期 鏝	F 10 17 10	P10 41	001	5.3	1.3	a	c					内面調整は不規。	
	弥生前期 小鏝	F 10 19 9	P10 49	001	2.45								外面にへうろ餅を斜交文、彩文あり	
	石製品 cb ap	F 10 21 2	P10 55	001	1.85	1.35	0.4						5.62g 10SK05として報告。0.7g	
前 10SK 06黄灰色土	土師器 小型丸底甕	F 10 12 9	P10 24	003	3.5								外面に黒土質の厚層状文あり。	
	土師器 高杯	F 10 12 10	P10 24	004	3.9								内外とも彩文あり。	
	弥生前期 短頸甕	F 10 12 11	P10 24	002	4.0								外面は、ハケ ナブ。	
	弥生前期 樽合口甕	F 10 12 12	P10 24	005	3.8									
	弥生前期 甕	F 10 12 13	P10 24	007	3.6								外面ナブは、ナブcに類似。	
	弥生前期 甕	F 10 12 14	P10 24	001	7.1									
	弥生前期 甕	F 10 12 15	P10 25	008	21.3	30.8	6.6						内外とも、ハケ ナブ(部分ナブ)	
	弥生前期 手づく鉢	F 10 12 16	P10 24	006	8.8	2.85							外面捺押さえ。内面のナブは丁寧	
	前 10SK 06a	弥生前期 樽合口甕	F 10 12 3	P10 25	001	2.75								
		土師器 高杯	F 10 12 4	P10 25	001	3.7								内面は、しぼり痕がナブ消される。
		弥生前期 短頸甕	F 10 12 6	P10 26	002	4.6								外面ミガキ半は、かなり厚し。
	前 10SK 07黄灰色土	弥生前期 甕	F 10 12 7	P10 26	001	2.4								口縁が波状に凹凸。
石製品 磁石		F 10 22 1	P10 57	004	12.6	4.85	2.25*						粘板石。143g	
石製品 磁石		F 10 22 2	P10 57	005	8.0	3.9*	4.0*						粘板石。58g	
前 10SK 07黄灰色土	石製品 磁石	F 10 22 3	P10 57	006	5.6	4.6*	4.8*						粘板石。86.7g	
	弥生前期 甕	F 10 12 8	P10 26	001	3.75								内面は調整不規。	
	石製品 浮子	F 10 22 4	P10 57	001	5.85	4.10	3.30						軽石。18.3g	
前 10SK 07b	弥生前期 甕	F 10 12 5	P10 26	001	3.2									
	石製品 磁石	F 10 22 5	P10 57	001	8.95*	5.3*	3.1*						粘板石。92g	
	弥生前期 甕	F 10 18 1	P10 46	001	23.9	27.5	8.4	a2	b	c			列目1。表面厚みあり。	
前 10SK 07黄灰色土	弥生前期 甕	F 10 18 2	P10 46	001	19.6								外面にへうろ餅を円弧状あり。	
	石製品 石籠	F 10 22 6	P10 57	002	6.7*	3.75	1.1*						20g	
	前 10SK 08	須磨器 蓋 3	F 10 10 10	P10 20	004	0.8								
須磨器 蓋 3へラ		F 10 10 11	P10 20	002	1.05									
須磨器 蓋 3		F 10 10 12	P10 20	003	1.35									
須磨器 環へラ		F 10 10 13	P10 20	005	1.45									
土師器 環 a		F 10 10 14	P10 20	001	3.0								内面底部にナブあり。	

## 前田遺跡第10次調査 遺物観察表 (3)

遺 跡	目 録	図録番号	写真番号	R番号	口 径	高 さ	高 径	外 径			内 径			備 考 (注火風、*は遺物)
								ナゲ	ハウ	ヒガキ	ナゲ	ハウ	ヒガキ	
前 105K 094	土師器 小皿 a&b	F ㄱ10 19 10		001	08									板状圧縮なし。
*	土師器 杯 a&b	F ㄱ10 19 11		002	11									内側底部にナゲ。板状圧縮なし。
*	弥生前期 甕	F ㄱ10 19 12	P130 50	003	46			a2- b			b2- c			剥目3
前 105K 095 黄褐色土	弥生前期 甕	F ㄱ10 17 14	P130 45	001	335						a c			外側にへら指のハの字文と赤彩文
前 105D 100K 灰青色土	土師器 杯	F ㄱ10 10 6		001	18									
前 105K 100 灰青色粘	須恵器 重口へら	F ㄱ10 17 3	P10 42	001	138	315								内側底部にナゲあり。
*	須恵器 重口へら	F ㄱ10 17 4	P130 42	002	151	195	126							外側底部にナゲ。板状圧縮なし。
前 105K 105 灰色砂	須恵器 杯 cへら	F ㄱ10 17 5	P130 43	003	19	120								外側にへら指のハの字文と赤彩文あり。
*	須恵器 重口へら	F ㄱ10 17 6	P130 42	001	1155	131								
*	製塩土器	F ㄱ10 17 7	P130 43	002	36									
前 105K 110	石製品 鏝	F ㄱ10 22 7	P130 57	001	74	32	11							片数、37枚
前 105K 127	陶器土器	F ㄱ10 19 2	P130 51	001	485									
*	新羅印 刀子 刃	F ㄱ10 19 3	P130 52	002	425	205	05							
*	新羅印 刀子 柄	F ㄱ10 19 4	P130 52	003	45	14	036							
前 105K 134	土師器 杯 aへら	F ㄱ10 17 11	P130 44	003	07									板状圧縮なし。
*	土師器 杯 a&b	F ㄱ10 17 12	P130 44	002	195									板状圧縮なし。
*	土師器 重 c	F ㄱ10 17 13	P130 44	001	13	70								酸化により調整不順。
前 105K 136 灰色砂	白磁 瓶 3V 1a	F ㄱ10 19 13	P10 52	001	52	70								
前 106 黄褐色土	白磁 瓶 3V	F ㄱ10 20 1	P130 53	001	435									
*	唐青陶器 甕	F ㄱ10 20 2	P130 53	003	605									
*	中国陶器 四耳甕 V 水注 3a	F ㄱ10 20 3	P130 53	002	37									四耳甕 vDの可能性が高い。
*	唐青陶器 甕	F ㄱ10 20 4	P130 53	004	215	46								底部に目取とあり。
*	縄文陶器 浅鉢	F ㄱ10 20 5	P130 53	005	305									
*	石製品 db core	F ㄱ10 21 6	P130 57	006	235	22	17							82g
前 106 土	白磁 瓶 V 113 3	F ㄱ10 20 6	P130 53	001	49									
*	弥生後 手づくね鉢	F ㄱ10 20 7	P130 54	002	80	70								
*	石製品 鏝	F ㄱ10 22 8	P130 57	003	90	45	105							粘着質、69g
前 106 瓦	石製品 db ap	F ㄱ10 21 3	P130 55	001	22	19	045							13g

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S1~S10柱痕)

## S 黒色土

須恵器	甕、坏、蓋片、坏片、坏c 甕d、甕f、蓋3
土師器	皿、高坏(みがきあり)、片、 取手、坏d
弥生土器	壺(後期)、甕
石製品	蛇紋岩 f ob f

## S 黒茶色土

弥生土器	壺(前期)、甕(後期)
石製品	ob f

## S 赤黒色砂

土師器	坏片
弥生土器	片
石製品	ob f

## S 2

須恵器	片
土師器	小皿?片

## S 3

土師器	片
弥生土器	片

## S 4

弥生土器	鉢(前期)、壺?(後期)
------	--------------

## S 5

弥生土器	甕(後期)
------	-------

## S 5上層

弥生土器	器台、甕(後期)、 器台、高坏(後期)、片
石製品	ob f

## S 5下層

弥生土器	甕、壺(後期)、 器台、高坏(後期)、片
石製品	ob f

## S 5赤褐色土

弥生土器	甕(後期)
------	-------

## S 6

弥生土器	片
石製品	ob uf

## S 7

石製品	ob rf
-----	-------

## S 8

石製品	ob f
-----	------

## S 9

須恵器	坏
弥生土器	甕(後期)、片

## S 10柱痕

弥生土器	甕(後期)
石製品	ob chip

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表（S10掘方～S25茶色土）

## S10掘方

弥生土器	片
------	---

## S18

須恵器	蓋3
弥生土器	片

## S11

須恵器	片
弥生土器	片（後期）
石製品	ob f

## S19

弥生土器	片（後期）
------	-------

## S13

須恵器	坏片
弥生土器	片

## S20黒茶色土

弥生土器	甕（後期）、壺（後期）
石製品	ob f ob core ob rf

## S14

弥生土器	片（後期）
------	-------

## S20茶褐色土

弥生土器	壺（後期）、甕（後期）
石製品	ob f

## S15

弥生土器	片
------	---

## S21

弥生土器	片
石製品	ob f

## S19黒色土

弥生土器	甕、壺
石製品	ob f

## S22

弥生土器	片
------	---

## S19淡茶色土

弥生土器	片
------	---

## S23

弥生土器	甕（前期）
------	-------

## S16

須恵器	坏c
弥生土器	片

## S24

弥生土器	片
------	---

## S17

弥生土器	片
------	---

## S25茶色土

須恵器	坏c
弥生土器	甕、壺（前期）、壺（後期）
石製品	ob f

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S 25茶色土下層～S 34)

## S 25茶色土下層

弥生土器	甕 (前期)、壺 (前期)
土製品	焼土塊
石製品	ob f ob uf and f

## S 25黄色砂

弥生土器	甕 (前期)、壺 (前期)
------	---------------

## S 25茶黑色土

弥生土器	甕、壺、手づくね鉢、高坏 (以上、前期)
土製品	焼土塊
石製品	ob f ob rf and f 砂岩 f 片岩 f 石包丁?、磨石 叩石

## S 25暗灰色砂

弥生土器	小壺 (彩文)、壺、甕、高坏、 (以上、前期)
石製品	ob f and f

## S 26

弥生土器	甕 (前期)
石製品	ob f

## S 27

国産陶器	土管?
弥生土器	壺 (後期)

## S 28

須恵器	甕、坏 a
弥生土器	甕

## S 29

弥生土器	甕 (後期)
------	--------

## S 30

須恵器	甕
瓦類	片

## S 30茶色土

弥生土器	片
石製品	ob f

## S 30茶灰色土

石製品	ob uf
-----	-------

## S 31

弥生土器	片
------	---

## S 32

弥生土器	片
------	---

## S 33

須恵器	甕 壺
弥生土器	甕 (後期)
瓦類	片

## S 34

弥生土器	片
石製品	ob f

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 ( S 35~ S 46)

S 35

弥生土器	片 (後期)
石製品	and ob uf

S 35茶色土

弥生土器	片
------	---

S 35黄褐色土

弥生土器	襷 (後期)、片 (後期)
石製品	ob f

S 36

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S 37

弥生土器	片
------	---

S 38

弥生土器	片
------	---

S 39

弥生土器	片
------	---

S 40黒色土

弥生土器	支脚、片 (後期)
石製品	ob f

S 40茶灰色土

弥生土器	片
縄文土器	浅鉢
金属製品	ヤリガンナ

S 41

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S 42

弥生土器	襷 壺 (前期<後期)
------	-------------

S 43

土師器	襷 (布留式の系譜をひくか)
-----	----------------

S 44

弥生土器	襷 (後期)、片
------	----------

S 45黒茶色土

弥生土器	襷 (後期)
------	--------

S 45茶灰色土

弥生土器	片
------	---

S 45黒黄色土

土師器	鉢?
弥生土器	手づくね土器 (後期)、片
土製品	メンコ?

S 45灰色砂

弥生土器	片
------	---

S 45黄色粘

弥生土器	襷、片 (以上、前期)
------	-------------

S 46

弥生土器	襷 (後期)
石製品	ob f



## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S 47~S 60黒茶色土)

S 47

須恵器	壺、甕
土師器	甕
弥生土器	片 (後期)

S 55黒色土

弥生土器	壺 (後期)、甕 (後期)
石製品	ob ap ob f

S 48

弥生土器	甕 (後期)、片 (後期)
------	---------------

S 56黒灰色土

弥生土器	甕 (後期)、壺 (後期)、 壺 (前期?)
------	---------------------------

S 49

弥生土器	甕 (後期)、片 (後期)
------	---------------

S 56灰色砂

弥生土器	壺 (前期)
------	--------

S 50黒茶色土

弥生土器	甕 (後期)
------	--------

S 56灰褐色砂

弥生土器	壺 (前期)
縄文土器	浅鉢 (晩期)

S 50黒灰色土

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S 56茶灰色砂

弥生土器	壺 (前期)
------	--------

S 51

弥生土器	片
------	---

S 57

弥生土器	甕 (後期)
------	--------

S 52

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S 57灰色砂

弥生土器	甕 (後期)
------	--------

S 53

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S 58

弥生土器	片
石製品	ob f

S 54

土師器	片 (古代)
-----	--------

S 60黒茶色土 (S 65c変更)

S 55

弥生土器	壺
石製品	ob f

須恵器	坏
弥生土器	高坏、壺、支脚、甕 (後期)
石製品	砥石

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S 60黄茶色土～S 67)

## S 60黄茶色土 (S 69c変更)

弥生土器	壺、甕 (以上、後期)
石製品	ob ap ob uf ob f 磁石

## S 65b

弥生土器	片 (後期)
------	--------

## S 62

弥生土器	片
------	---

## S 65c

弥生土器	甕 (後期)、片 (後期)
石製品	and f

## S 63

土師器	小皿 a (ヘラ切り)、坏
弥生土器	甕
石製品	ob f

## S 65d

弥生土器	壺 (前期)、甕 (後期)
------	---------------

## S 64

須惠器	坏、片
土師器	小皿
弥生土器	小壺 (前期)
石製品	滑石製品

## S 65e

弥生土器	片
------	---

## S 65f

土師器	高坏 (古墳前期)
弥生土器	片
石製品	ob f

## S 65黒茶色土

須惠器	坏 (古代～)、甕
土師器	小型丸底壺、高坏
弥生土器	甕、壺、手づくね鉢、器台、高坏 短頸壺 (以上、後期) 甕、壺 (以上、前期)
石製品	ob f ob core ob uf and f 磁石

## S 65g

弥生土器	甕
石製品	ob f and f

## S 65茶黄色土

石製品	and f
-----	-------

## S 65h

弥生土器	甕 (前期)、片
------	----------

## S 65a

弥生土器	壺 (後期)、甕 (後期)
------	---------------

## S 66

須惠器	蓋 3
弥生土器	甕 壺 (前期)、高坏

## S 67

須惠器	蓋
土師器	小皿 a 坏
弥生土器	甕 (後期)、壺 (前期)
金属製品	不明 (1)

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S 68~S 75黒茶色土)

S 68

弥生土器	片 (後期)
石製品	ob f

S 69

弥生土器	襷 壺 (後期)
------	----------

S 70黒茶色土

弥生土器	片 (後期)、高坏、鉢、壺、襷
石製品	and f 砥石
金属製品	不明 (1)

S 70黄黒色土

弥生土器	壺、片
------	-----

S 70棕色土

弥生土器	片、襷 (以上後期)、片 前期
石製品	砥石?、浮子?

S 70a

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S 70b

弥生土器	壺 (後期)、片
------	----------

S 70c

弥生土器	片
------	---

S 70d

弥生土器	片
------	---

S 70e

弥生土器	片
------	---

S 70f

弥生土器	片
------	---

S 70h

石製品	砥石
-----	----

S 70i

弥生土器	片
------	---

S 71

須惠器	坏
土師器	片
弥生土器	片

S 72

弥生土器	壺 襷 (後期)
------	----------

S 73

弥生土器	壺、襷 (後期)、片
------	------------

S 74

須惠器	蓋 c 蓋
土師器	片
弥生土器	壺 (前期)、片

S 75黒色土

弥生土器	襷 (前期)
------	--------

S 75黒茶色土

石製品	石匙、ob f
-----	---------

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 ( S 79暗黄色土～ S 89)

## S 79暗黄色土

弥生土器	壺 (前期)
------	--------

## S 76

土師器	片
弥生土器	片 (前期)

## S 77

須恵器	片、蓋 3
土師器	小皿 a(糸切りか)、片

## S 78

土師質土器	すり鉢
-------	-----

## S 79

須恵器	坏
土師器	片
石製品	ab f

## S 81

弥生土器	甕 (前期)
------	--------

## S 82

須恵器	蓋 3 坏
土師器	片
弥生土器	甕 (前期)、片

## S 83

土師器	坏 (糸切り)
-----	---------

## S 84

須恵器	皿
土師器	坏 (糸切り?)
白磁	皿片
弥生土器	片

## S 85

須恵器	甕、蓋 3 坏 c 壺、蓋 1 短頸壺 高坏
土師器	高坏、坏 c 坏 a(へら切りか)
白磁	椀 IV V
弥生土器	片、支脚、高坏 (前期)

## S 86

須恵器	片
土師器	小皿 a(へら切り、糸切り)
弥生土器	壺 (前期)、片
石製品	片岩 f

## S 87

須恵器	坏 c
弥生土器	壺 (前期)
石製品	and f

## S 88

須恵器	坏
土師器	坏 c 小皿 a(糸切り)、坏

## S 89

須恵器	坏 c 蓋、甕
土師器	小皿 a(糸切り)
弥生土器	片

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S 91~S 109紫灰色粘)

S 91

弥生土器	片
------	---

S 98

弥生土器	片
------	---

S 92

石製品	and f
-----	-------

S 100灰茶色粘

土師器	坏片
-----	----

弥生土器	甕 壺片(後期)、高坏、片
------	---------------

石製品	ob f
-----	------

S 93

弥生土器	甕(後期)
------	-------

S 101

須恵器	蓋 3 高坏、坏 c
-----	------------

土師器	坏 c
-----	-----

弥生土器	片
------	---

S 94

須恵器	片
-----	---

土師器	小皿 a(糸切り)、坏 a糸切り
-----	------------------

白磁	皿 VI 1a
----	---------

弥生土器	甕(前期)、壺(後期)
------	-------------

石製品	ob f ob rf and f ホルンフェルス f
-----	-------------------------------

S 102

弥生土器	片(後期)、支脚 器台
------	-------------

S 95赤色土

弥生土器	片(前期)
------	-------

石製品	ob f
-----	------

S 103

弥生土器	甕(後期)、片(後期)
------	-------------

石製品	ob f
-----	------

S 96黒色土

弥生土器	甕(前期)
------	-------

S 104

須恵器	坏 c 小壺
-----	--------

土師器	坏 d 坏 c
-----	---------

S 99黒茶色土床面直上

弥生土器	甕(前期)
------	-------

S 109紫灰色粘

須恵器	蓋 c3 皿 a
-----	----------

土師器	甕
-----	---

弥生土器	片
------	---

石製品	and rf
-----	--------

S 96

須恵器	蓋 1
-----	-----

S 97

弥生土器	片
------	---

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 ( S 105灰色砂～S 121)

## S 105灰色砂

須恵器	壺 b 坏 c
製塩土器	片
弥生土器	片

## S 112

弥生土器	片 (後期)
------	--------

## S 113

須恵器	坏
-----	---

## S 106

須恵器	蓋 1
弥生土器	片

## S 114

須恵器	坏 c
弥生土器	片

## S 107

須恵器	坏
弥生土器	壺 (後期)

## S 115

須恵器	坏
弥生土器	片

## S 108

須恵器	蓋 c
土師器	片

## S 116

須恵器	甕
弥生土器	片

## S 109

須恵器	坏 c
弥生土器	片
石製品	砥石

## S 117

土師器	片 ?
弥生土器	片 (後期)

## S 110

弥生土器	片
石製品	石鏃

## S 118

弥生土器	片 (後期)
------	--------

## S 119

弥生土器	片
------	---

## S 111

須恵器	甕、蓋
土師器	坏 d
弥生土器	片

## S 121

弥生土器	片
石製品	ab uf

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 ( S 122~S 141)

S 122

須恵器	蓋 3
弥生土器	片 (後期)

S 123

須恵器	坏 c
弥生土器	片 (後期)

S 124

弥生土器	片
石製品	ab f

S 126

土師器	小皿 (糸切り)
-----	----------

S 127

土師器	坏 (糸切り)
製塩土器	片
弥生土器	片、鉢
石製品	ab f
金属製品	刀子

S 128

須恵器	蓋 3
-----	-----

S 129

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S 131

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S 133

須恵器	蓋
-----	---

S 134

須恵器	坏 c 襷
土師器	坏 a(糸切りか)、 坏 a(ヘラ切り)、皿 c

S 136灰色砂

須恵器	蓋 3 坏 c 坏 a 襷
土師器	坏、片
白磁	椀 IV 1a

S 136茶色土

須恵器	蓋 3 坏 c
土師器	片

S 137

須恵器	襷、片
土師器	片

S 138

土師器	片
-----	---

S 139

須恵器	蓋 3
土師器	片

S 141

須恵器	蓋 3
土師器	片

## 前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表（暗茶色土ほか）

## 暗茶色土

須恵器	壺 b 甕、坏 c 坏身（小田 IV） 高坏、壺蓋、蓋 1 鉢 a
土師器	高坏、蓋 c
瓦器	椀
製塩土器	片
国産陶器	甕、坏 皿、すり鉢、 壺（瀬戸 常滑）
白磁	椀 IV、椀 V 1 V III 2
李朝	施釉陶器椀（1）
弥生土器	甕（前期）、壺（前期）、 高坏（中期）、壺、甕（後期） 複合口縁壺（後期後半）
縄文土器	浅鉢（晩期）
石製品	ob f and f chert f ob core basa 1 f
金属製品	釘（1）不明（6以上）
中国陶器	四耳壺 V 水注 IV

## 明茶色土

須恵器	片
土師器	片
弥生土器	甕（後期後半）、高坏、 器台 支脚

## 表土

須恵器	坏 c 壺、蓋 3 甕、皿、蓋 1
土師器	高坏
国産陶器	甕
白磁	片（化粧土なし）、 椀 V 4 V III 3
肥前系陶器	皿
国産磁器	鉢
弥生土器	片（後期）、高坏（中期）、 甕（後期）、壺（後期）、 手づくね鉢（後期）
瓦類	平瓦（錆目）
石製品	石線、ob f and f
その他	石炭

## 攪乱

須恵器	片、甕
土師器	皿 c 片、甕（布留式）
白磁	椀 IV
弥生土器	甕、高坏、片
石製品	ob ap ob rf
金属製品	不明（1）

## Z（所属不明の遺物群）

須恵器	坏 a 皿、蓋 3
土師器	高坏
弥生土器	片（前期）





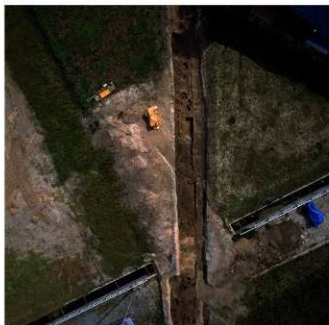
前田遺跡第10次調査南区全景（下が北）



前田遺跡第10次調査北区全景（上が北）



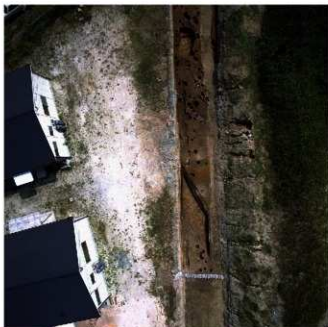
前田遺跡第10次調査南区南側（下が北）



前田遺跡第10次調査南区中央南寄り（下が北）



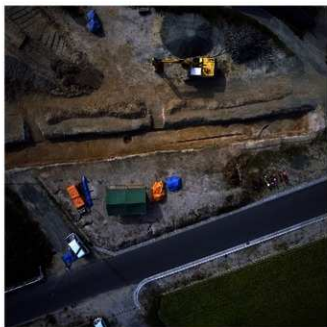
前田遺跡第10次調査南区中央北寄り（下が北）



前田遺跡第10次調査南区北側（下が北）



前田遺跡第10次調査北区全景（南から撮影）



前田遺跡第10次調査北区北側（右が北）



前田遺跡第10次調査北区南側（右が北）



前田遺跡第10次調査 SD001完掘状況（左上が北）



前田遺跡第10次調査 SD001土層観察（西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SD001鋤痕跡検出状況（西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SD001鋤跡より作業単位を推定（北西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SD001鋤痕跡と実験鋤跡（1）（西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SD001鋤痕跡と実験鋤跡(2)(西から撮影)



前田遺跡第10次調査 SD001鋤痕跡と実験鋤跡(3)(西から撮影)





前田遺跡第10次調査 SD 100検出状況（北西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SD 100完掘状況（北西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SD100土層観察（西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SID65床面検出状況（西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SI070床面検出状況（西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SI070完掘状況（西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SK 025完掘状況（南西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SK 025土層観察（北西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SK 045完掘状況（北西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SK 045完掘状況（南西から撮影）



前田遺跡第 10次調査 SK 045土層観察（西から撮影）



前田遺跡第 10次調査 SK 056完掘状況（東から撮影）



前田遺跡第 10次調査 SK 075完掘状況 (東から撮影)



前田遺跡第 10次調査 SK 075黒茶色土除去時遺物出土状況 (西から撮影)



前田遺跡第10次調査 SK 090完掘状況（西から撮影）



前田遺跡第10次調査 SK 105土層観察（東から撮影）





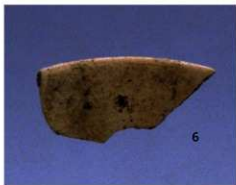
前 10SD001黒色土出土遺物 外面 ( F 図 10 10)



前 10SD001黒色土出土遺物 内面 ( F 図 10 10)



前 10SD 100灰茶色粘土遺物 外面 ( Fig 10 10)



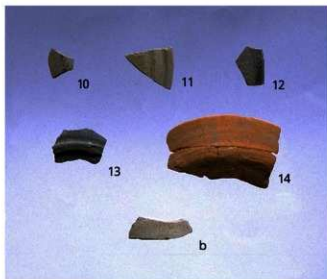
前 10SD 100灰茶色粘土遺物 内面 ( Fig 10 10)



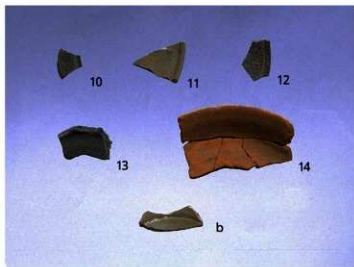
前 10SD005下層(左)・前 10SD015黒色土(右)出土遺物 外面 (Fig 10 10)



前 10SD005下層(左)・前 10SD015黒色土(右)出土遺物 内面 (Fig 10 10)



前 10SD 085出土遺物 外面 ( Fig 10 10)



前 10SD 085出土遺物 内面 ( Fig 10 10)



前 10SID20黒茶色土出土遺物 ( Fig 10 11)



同 上 内面調整 ( Fig 10 11)



前 10SID20黒茶色土出土遺物 外面 ( Fig 10 11)



前 10SID20黒茶色土出土遺物 内面 ( Fig 10 11)



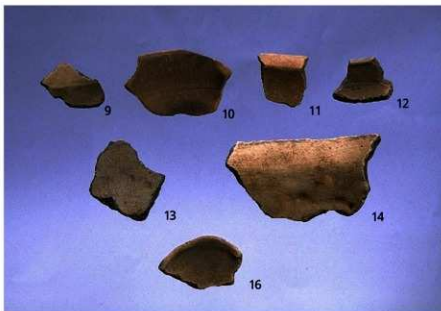
前 10SID55(左)・055黒色土(右)出土遺物 外面 (Fig 10 12)



前 10SID55(左)・055黒色土(右)出土遺物 内面 (Fig 10 12)



前 10SID65黒茶色土出土遺物 外面 ( Fig 10 12)

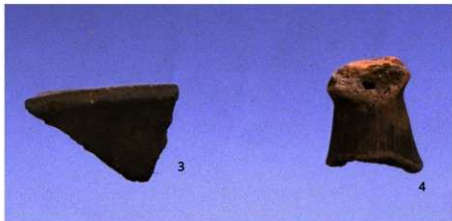


前 10SID65黒茶色土出土遺物 内面 ( Fig 10 12)

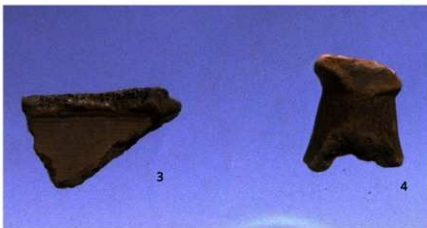




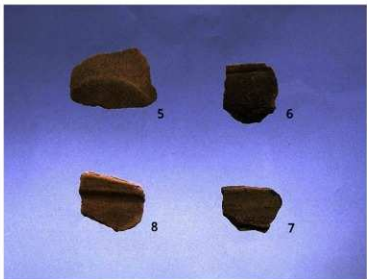
前 10SID65黒茶色土出土遺物 ( F ig 10 12)



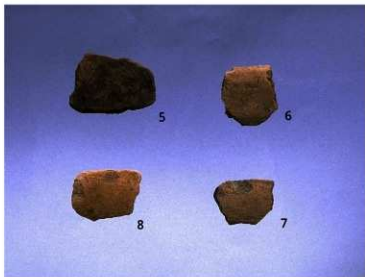
前 10SID65a(左)・065f(右)出土遺物 外面 ( F ig 10 12)



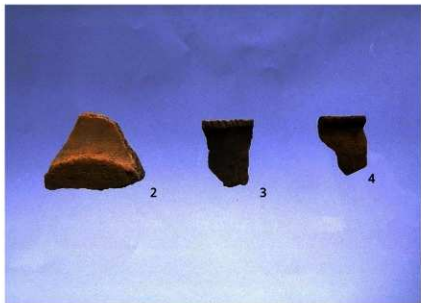
前 10SID65a(左)・065f(右)出土遺物 内面 (Fig 10 12)



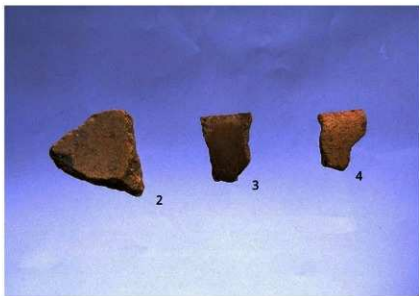
前 10SID70・070黒茶色土・070黄黒色土出土遺物 外面 (Fig 10 12)



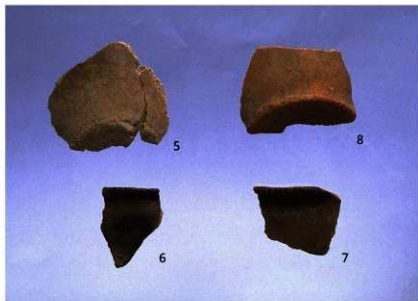
前 10S1070・070黒茶色土・070黄黒色土出土遺物 内面 ( Fig 10 12)



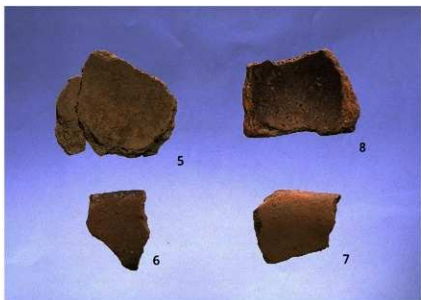
前 10SK025茶色土出土遺物 外面 ( Fig 10 13)



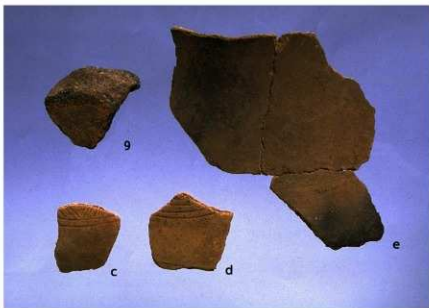
前 10SK 025茶色土出土遺物 内面 ( Fig 10 13)



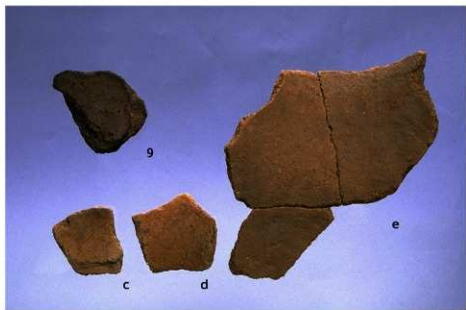
前 10SK 025茶色土下層出土遺物 外面 ( Fig 10 13)



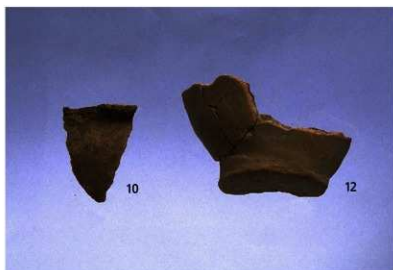
前 10SK 025茶色土下層出土遺物 内面 ( F igure 10 13)



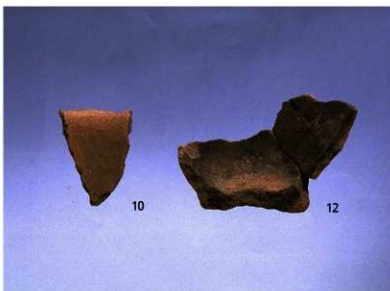
前 10SK 025黄色砂出土遺物 外面 ( F igure 10 13)



前 10SK 025黄色砂出土遺物 内面 ( F igit 10 13)



前 10SK 025黄色砂出土遺物 外面 ( F igit 10 13)



前 10SK 025黄色砂出土遺物 内面 ( F igit 10 13)



前 10SK 025黄色砂出土遺物 表面



前 10SK 025黄色砂出土遺物 裏面



前 10SK 025茶黑色土出土遺物 外面 ( Fig 10 14)

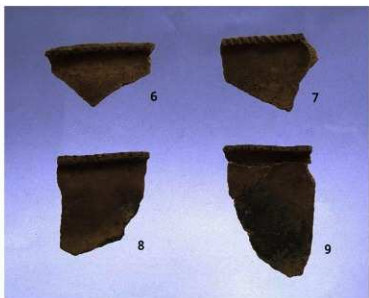




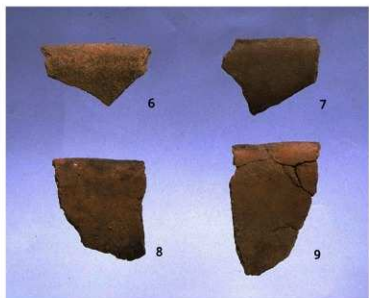
前 10SK 025茶黑色土出土遺物 内面 ( Fig 10 14)



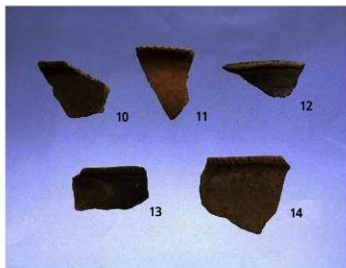
前 10SK 025茶黑色土出土遺物 ( Fig 10 14)



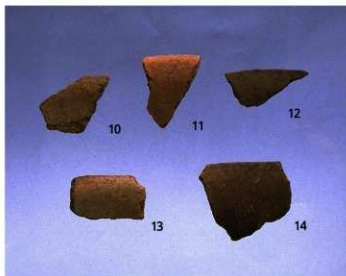
前 10SK025茶黑色土出土遺物 外面 ( Fig 10 14)



前 10SK025茶黑色土出土遺物 内面 ( Fig 10 14)



前 10SK 025茶黑色土出土遺物 外面 ( Fig 10 14)



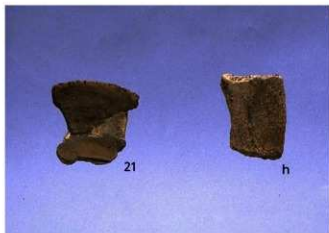
前 10SK 025茶黑色土出土遺物 内面 ( Fig 10 14)



前 10SK 025茶黑色土出土遺物 外面 ( Fig 10 15)



前 10SK 025茶黑色土出土遺物 外面 ( Fig 10 15)



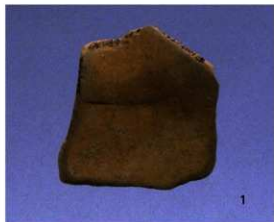
前 10SK 025茶黑色土出土遺物 内面 ( Fig 10 15)



前 10SK 025茶黑色土出土遺物 ( Fig 10 15)



前 10SK 025暗灰色砂出土遺物 外面 ( Fig 10 16)



前 10SK 025暗灰色砂出土遺物 内面 ( Fig 10 16)



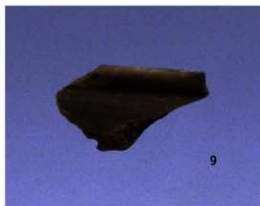
前 10SK 025暗灰色砂出土遺物 外面 ( Fig 10 16)



前 10SK 045黑黄色土出土遺物 外面 ( Fig 10 17)



前 10SK 045黒黄色土出土遺物 内面 ( Fig 10 17)



前 10SK 056灰褐色砂出土遺物 外面 ( Fig 10 17)





前 10SK 05G 灰褐色砂出土遺物 内面 ( Fig 10 17)



前 10SK 05G 茶灰色砂出土遺物 外面 ( Fig 10 17)



前 10SK 05G茶灰色砂出土遺物 内面 ( Fig 10 17)



前 10SK 105灰色砂・105紫灰色粘土出土遺物 ( Fig 10 17)



前 10SK 105灰色砂出土遺物 外面 ( F igit 10 17)



前 10SK 105灰色砂出土遺物 内面 ( F igit 10 17)



前 10SK 134出土遺物 外面 ( Fig 10 17)



前 10SK 134出土遺物 内面 ( Fig 10 17)



前 10SK 095黒茶色土出土遺物 外面 ( Fig 10 17)



前 10SK 095黒茶色土出土遺物 内面 ( Fig 10 17)



前 10SK 075黒色土・075黒茶色土出土遺物 ( F 図 10 18)



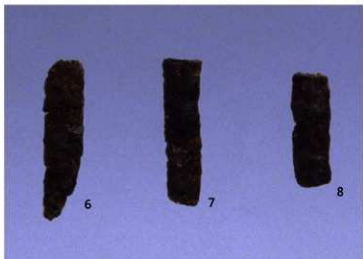
前 10SX 004出土遺物 ( F 図 10 19)



前 10SX 040茶灰色土出土遺物 外面 ( Fig 10 19)



前 10SX 040茶灰色土出土遺物 内面 ( Fig 10 19)

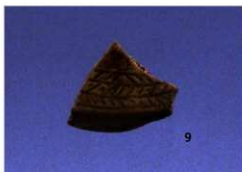


前 10SX040茶灰色土出土遺物 外面 ( Fig 10 19)

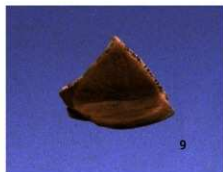


前 10SX040茶灰色土出土遺物 内面 ( Fig 10 19)





前 10SX 064出土遺物 外面 ( F ig 10 19)



前 10SX 064出土遺物 内面 ( F ig 10 19)



前 10SX 094出土遺物 外面 ( Fig 10 19)



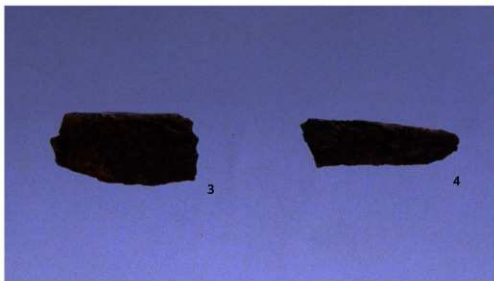
前 10SX 094出土遺物 内面 ( Fig 10 19)



前 10SX 127出土遺物 外面 ( F igit 10 19)



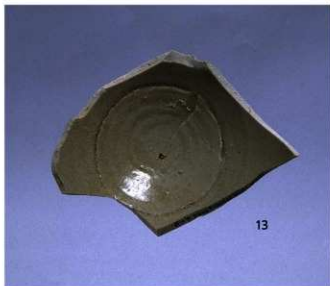
前 10SX 127出土遺物 内面 ( F igit 10 19)



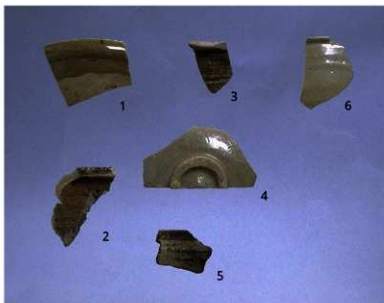
前 10SX 127出土遺物 ( F igit 10 19)



前 10SX 136灰色砂出土遺物 外面 ( F igit 10 19)



前 10SX 13G灰色砂出土遺物 内面 ( F 帛 10 19)



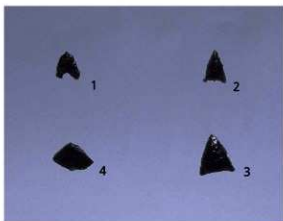
前 10暗茶色土・前 10表土出土遺物 外面 ( F 帛 10 20)



前 10暗茶色土・前 10表土出土遺物 内面 ( F 壺 10 20)

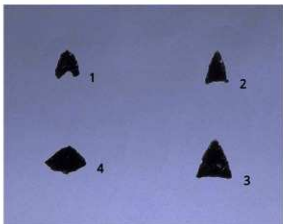


前 10表土出土遺物 ( F 壺 10 20)



前 10SID55黒色土・前 10SID65

・前 10SK 025茶色土下層・攪乱出土遺物 表面 ( Fig 10 21)

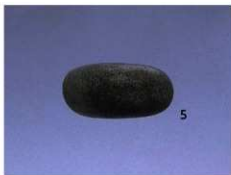


前 10SID55黒色土・前 10SID65

・前 10SK 025茶色土下層・攪乱出土遺物 裏面 ( Fig 10 21)

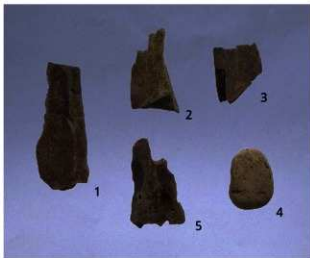


前 10SK 025茶黑色土出土遺物 上面 ( Fig 10 21)



前 10SK 025茶黑色土出土遺物 横面 ( Fig 10 21)





前 10SI070出土石製品 ( F 図 10 22)



前 10SK 075黒茶色土・前 10SX 110・前 10暗茶色土  
 ・前 10表土出土石製品<表面> ( F 図 10 22)

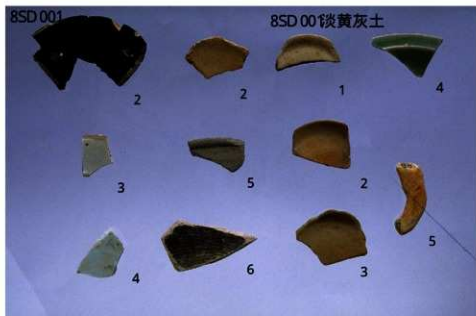


前 10SK 075黒茶色土・前 10SX 110・前 10暗茶色土  
・前 10表土出土石製品<裏面> ( F 10 22)

P126 27



PL08 26 8SD001出土遺物 1



PL08 27 8SD001出土遺物 2

総説

8次

9次

10次

# 第11次調査

調査に至る経緯

地形、層位

遺構

遺物

小結

写真図版

### III 調査の記録

#### 4 前田遺跡第1次調査

##### 1) 調査に至る経緯

調査地は太宰府市大字向佐野字前田 443 2 444 番地に所在する。この前田遺跡第1次調査は佐野地区区画整理事業に伴う事前発掘調査である。調査は平成 7 (1995) 年 12 月 1 日から平成 8 年 (1996) 年 3 月 31 日まで実施した。開発対象面積は 730m<sup>2</sup>、その内の調査対象面積は 500m<sup>2</sup>である。調査は高橋学が担当した

調査・整理に至る経緯及びその方法については、『太宰府・佐野地区遺跡群 I』1989 太宰府市教育委員会をご参照していただきたい。本調査は前述の報告書 p 9 ~ p 13 (III 調査方法) に従って調査・整理とも進めている。また本文中で、前 115B 200 と記述の場合は、前田遺跡第1次調査、遺構の性格 (この場合は掘立柱建物) 遺構番号 200番であることを表している。

##### 2) 地形・層位 (Fg 113 114 P111 1 112 114)

調査区の位置は、前田遺跡第 6・7・10 次調査地点に囲まれた土地である。大佐野川の北岸にあたり、宮ノ本丘陵の東裾に位置する。地形は宮ノ本丘陵から東の平野に向かって延びている傾斜地の中位にあたる。調査前の対象地の現況地形は上下二段の畑作利用地になっていた。基盤層は宮ノ本丘陵から供給された花崗岩風化土の流出した土砂により形成されており、調査区内では粘質が強い黄灰色粘質土の下に淡緑灰色砂が堆積していることが確認できた。遺構は主に黄灰色粘質土を掘削して構築されている。遺構の検出環境は、表土である明黄灰色土 (真砂土) 暗青灰色土 (旧耕作土) 明黄灰砂質土 (床土) 茶褐色土 (包含層) の順に除去すると、大部分の遺構プランが認識された。しかし北側中央部の茶褐色土層は他の場所と比較してかなり厚く堆積しており、遺構の検出に時間がかかった。

##### 3) 遺構 (Fg 111 112 P111 3 114 115)

遺構は調査区の北東部を中心に密度が高く、西部及び南部にいくに従って希薄になる傾向が認められる。遺構の形成時期とその概要は、弥生時代前期前半から中頃の竪穴住居と貯蔵穴、弥生時代後期前半から古墳時代前半の竪穴住居、奈良時代中期の掘立柱建物、竪穴住居、土壇、平安時代の墳墓、鎌倉時代の不明遺構 (墳墓の可能性) などが主なものである。以下、遺構の性格別に報告する。

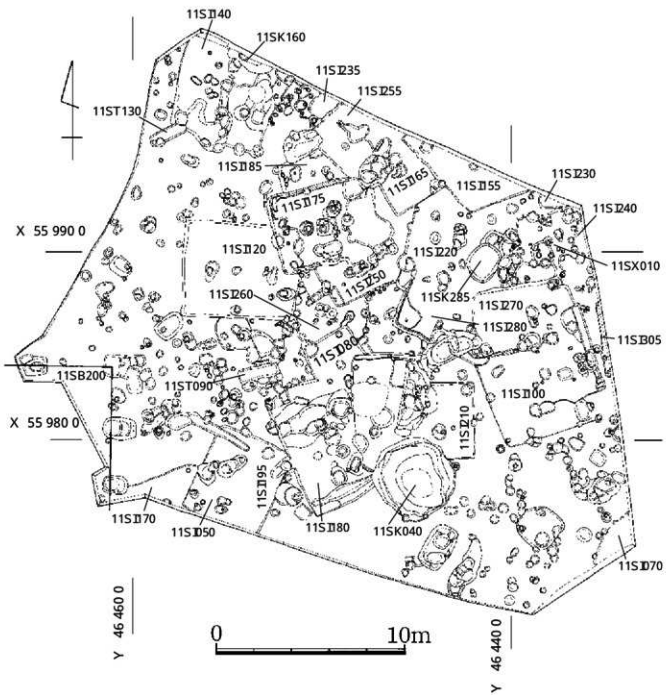
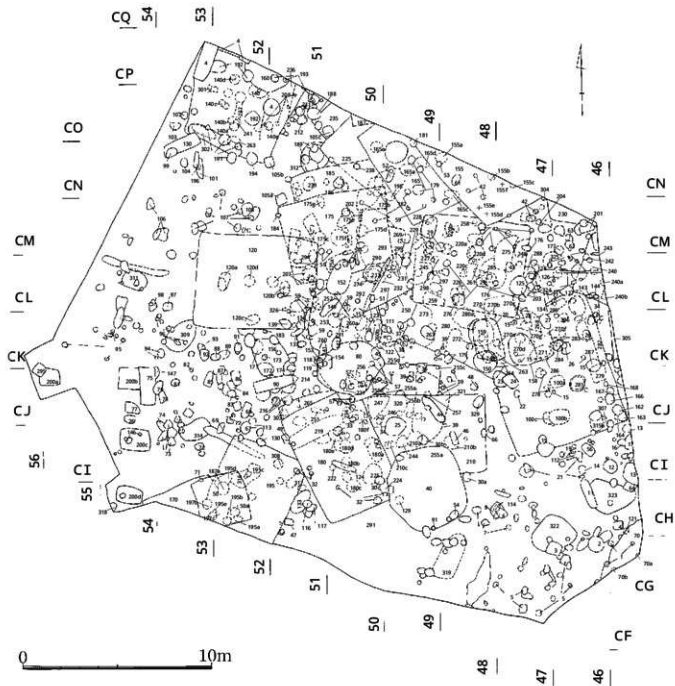


Fig. 111 前田遺跡第1次調査 遺構配置図

## 前田遺跡第1次 遺構早見表

番号	遺構種別	切り合い	時期	地区
010	土墳墓?	126 010 034	12C	CL40
040	土壇	210 180 040	8C～	CI49
050	竪穴住居	170 195 050	8C～	CH52
070	竪穴住居	121 070	弥生後期前半～中頃	CG45
075	土墳墓	200 075 079	10C	CJ54
080	竪穴住居	255 080 260 080 180 080	8C～	CK 50
090	木棺墓	156 090 214 090	8C～	CJ51
100	竪穴住居	100 280 270 220	弥生後期中頃～後半	CJ40
120	竪穴住居	175 120 58	～古墳時代前期初頭	CL52
130	木棺墓	140 130 099	9C～	CN53
140	竪穴住居	140 160 140 130	弥生後期後半～末期	CN 52
150	土壇	280 270 150 020	弥生後期	CR48
155	竪穴住居	220 165 155	～古墳時代前期初頭	CN 48
160	土壇	140 160 192	8C～	CP52
165	竪穴住居	185 165 155	～古墳時代前期初頭	CN 49
170	竪穴住居	170 195 050	弥生後期～	CH53
175	竪穴住居	185 250 175 120	弥生後期後半～末期	CM 50
180	竪穴住居	210 180 040	～古墳時代前期初頭	CI50
185	竪穴住居	225 185 165	弥生後期後半～末期	CN 50
195	竪穴住居	170 195 180	弥生後期中頃～後半	CH52
200	掘立柱建物	200 295	8C～	CG54
210	竪穴住居	255 210 180 040	弥生後期中頃～後半	CJ49
220	竪穴住居	165 220 250 280 270	弥生後期後半～末期	CL47
225	竪穴住居	235 225 187	弥生後期後半～末期	CN 50
230	竪穴住居	230 201	弥生後期中頃～後半	CM 40
235	竪穴住居	235 225 187	弥生後期～	CO 50
240	竪穴住居	100 240 127 010	弥生後期～	CL46
250	竪穴住居	250 220	弥生後期～	CL50
255	竪穴住居	255 210 190	弥生前期中～	CJ49
260	竪穴住居	260 250 152	弥生前期	CK 50
265	竪穴住居	265 180 080	～古墳時代前期初頭	CJ51
270	竪穴住居	270 220	弥生後期後半～末期	CK 47
275	土壇	285 220 275	弥生後期後～	CM 47
280	竪穴住居	100 280 270 220	弥生後期～	CK 48
285	土壇	285 220 275	弥生前期中～	CL48
305	竪穴住居		弥生前期	CK 45

Tab 111 遺構番号早見表



注 この遺構略測図は、佐野地区遺跡群の地区割りには従っていない任意の地区割りにより作成されている。

F 図 11.2 前田遺跡第1次調査 遺構略測図



前田1次調査 遺構番号台帳 (1)

S番号	遺構番号		種	別	地区	
1			ピット	70 1	8C～	CG45・46
2			土壌		弥生後期～	CG46
3			ピット	322 3	8C～	CG46
4			ピット		弥生後期	CG46
5			ピット群		奈良	CH45
6			ピット	114・8 6	8C～	CF47
7			ピット群		弥生後期	CH47
8			ピット	114・8 6	弥生～	CH48
9			ピット	40 9		CH47
10	11SX010		土壌 墓	126 10 34	12C～	CH49
11			土壌	323 11	奈良	CL46
12			ピット		弥生後期～	CH46
13			土壌	323 64 13	12C～	C345
14			ピット			C345
15			ピット群		奈良～	C346
16			ピット	16 17	8c 後～	C345
17			ピット群	16 17	12C～	C345
18			ピット			C345
19			ピット群			C346
20			溜まり			CK48
21			ピット群			C346
22			ピット			C347
23			土壌		弥生後期～	C347
24			土壌		奈良～	C347
25			土壌		奈良～	C349
26			ピット群	26 27		CK46
27			ピット		弥生後期～	CK47
28			土壌		奈良～	CK47
29			ピット群		8c～	CL48
30			ピット群			C348
31			ピット群	10・100・289・240	平安～	CL46
32			ピット群	180・195・317・224 32		CH50
33			ピット群	180 33	中世	C350
34			ピット群			C350
35	(11SD080)		土層	S86出土時の茶褐土	8c後半～9c	CK50
36			ピット	255 36		C349
37			ピット群	111・180 37		CK49
38			土壌		弥生後期	CK49
39			ピット群	255・280 39	中世	C349
40	11SK040		土壌	210 180 040	8C中頃～後半	C349
41			ピット	284 41		CK46
42			ピット群	220 155 42	7c～	CM47
43			ピット	220 43	8c～	CL47

・・・は原位置不明

Tab 11.2 前田1次調査 遺構番号台帳

前田1次調査 遺構番号台帳 (2)

S番号	遺構番号		種 別		地区
44		土壌	210 44		CJ49
45		ピット	190 80 45		CK50
46		溜まり	210b 46	弥生後期後葉～	CJ48
47		ピット			CH51
48		ピット			CJ48
49		ピット群	180 49	8C～	CJ51
50	11SID50	竪穴住居	170 195 050	8C～	CH52
51		ピット			CL50
52		ピット			CN49
53		ピット			CN49
54		ピット			CH48
55	11SB200c	竪立柱建物	55 146	弥生後期～古墳初期	CJ54
56		ピット群			CJ46
57		ピット群	180・190・255・80 57	8C～	CJ50
58		ピット	120 58		CL51
59		ピット群	120・152・175・260 59	8C～	CL50
60	欠番				
61		ピット	155 61		CN48
62		ピット	63 62		CM46
63		ピット	63 62	8C～	CM46
64		土壌	323 64 13		CH45
65	11SB200b	竪立柱建物	65 75	弥生後期	CJ54
66		ピット	210 66		CJ48
67		ピット	113 67		CJ52
68		土壌		8C～	CJ52
69		土壌			CJ52
70	11SID70	竪穴住居	121 70 1	弥生後期～	CG45
71		ピット	50 71		CJ52
72		ピット			CJ53
73		ピット群	74・314 73		CJ53
74		土壌	74 73		CJ53
75	11ST075	土壌墓	200 075 079	IX期 (10世紀中頃)	CJ54
76		ピット			CJ54
77		ピット			CJ54
78		土壌	79 78		CJ53
79		土壌	75 79 178		CJ53
80	11SID80	竪穴住居	180・255・260 080	8C～	CK50
81		ピット			CJ53
82		ピット群		8C～	CJ53
83		ピット	84 83		CJ52
84		ピット	84 86・83		CJ52
85		ピット		弥生後期～	CJ53
86		土壌		弥生後期～	CJ52

・・・は原位置不明

Tab 11.3 前田1次調査 遺構番号台帳

前田1次調査 遺構番号台帳 (3)

S番号	遺構番号		種 別		地区
87		ピット		弥生後期	CJ52
88		ピット	89 88	8C中～	CK52
89		ピット	89 88	8C～	CK52
90	11ST090	木棺墓	156 090 214 090	9C～	CJ51
91		ピット			CK52
92		ピット	93 92		CK53
93		ピット	93 92	弥生中～	CK53
94		ピット群			CK53
95		ピット群		8C～	CK54・CM53
96		ピット群		弥生後期～	CK53
97		ピット			CL53
98		ピット		弥生後期～	CL53
99		ピット	130 99		CN53
100	11SD100	竪穴住居	100 280 270 220	弥生未～古墳前期前半	CJ46～CK47
101		土壇	196 101	弥生～	CN53
102		ピット			CO53
103		土壇			CO53
104		ピット			CN53
105		ピット群			CN51
106		ピット群			CM53
107		ピット群	108 107		CM53
108		ピット群	108 107	弥生後期～	CM52
109		ピット			CL50
110		土層	115D080の暗茶褐色土	奈良～	CK50
111		ピット	260 111 37		CK49
112		ピット	112 19・ 21		CJ46
113		ピット	113 67		CJ52
114		土壇	114 6・ 8	8C～	CH47
115		土壇		8C～	CL50
116		ピット	117・ 133 116		CH51
117		ピット	117 116		CH51
118		ピット	119 118		CK51
119		ピット	153 119 118		CK51
120	11SD120	竪穴住居	175 120 58	弥生後期後半～古墳前期前半	CL52
121		ピット	70 121		CH45
122		ピット	260 122		CK50
123		溝	250 123		CL50
124		土壇	180 124		CJ50
125		土壇	220 125 29	8C～	CL47
126		ピット	126 10		CL46
127		ピット	100 127 10		CL46
128		ピット群	288 128		CL47
129		ピット	40 129	奈良～	CH49

・・・ は原位置不明

Tab 11.4 前田1次調査 遺構番号台帳

前田1次調査 遺構番号台帳 (4)

S番号	遺構番号		種 別	地区	
130	11ST130	木棺墓	140 130 99	元中墳〜	CO46
131		土壌			CJ51
132		ピット群			CK51
133		土壌	195 133 116		CH51
134		ピット群	134 10		CL47
135		土壌	135 120	弥生後期〜	CJ46
136		ピット	195 136		CJ52
137		ピット	120 138 137		CK51
138		土壌	120 138	奈良〜	CK51
139		ピット	120 139	奈良〜	CK51
140	11SI140	竪穴住居	140 160 140 130	弥生後期後半〜	CO52
141		土壌	60 141		CK51
142		土壌		8C中墳〜	CK50
143		ピット			CL46
144		ピット			XL46
145		欠番			
146		ピット	55 146 134		CJ54
147		ピット	65 146		CG54
148		ピット			CG46
149		土壌	260 149		CL51
150	11SX150	土壌	280 270 150 020	弥生後期〜	CK48
151		ピット		弥生後期〜	CK50
152		土壌	70 152	8C〜	CL50
153		ピット			CK51
154		ピット	153 154 105 154	8C〜	CK51
155	11SI155	竪穴住居		古墳前期〜	CN48
156		溜まり	171 156 172・ 173 90	奈良〜	CK52
157		欠番			
158		土壌	157 158 85 158	12C〜	CK47
159		土壌	125 159 56		CK48
160	11SK160	土壌	140 160 192	8C〜	CPS2
161		土壌	125 161		CJ45
162		ピット	100 164 163 162		CJ45
163		ピット	100 164 163 162		CJ45
164		ピット	100 164 163 162		CJ45
165	11SI165	竪穴住居	185 165 155	古墳前期	CN49
166		土壌	100 167 166	弥生後期〜	CJ45
167		ピット	100 167 166	古墳前期	CJ45
168		ピット	100 168	弥生	CJ46
169		ピット		弥生〜	CJ46
170	11SI170	竪穴住居	170 195 050	弥生後期〜	CH53
171		土壌	171 156		CK51
172		土壌	172 156		CK51

・・・は原位置不明

Tab 11.5 前田1次調査 遺構番号台帳

前田1次調査 遺構番号台帳 (5)

S番号	遺構番号	種 別		地区
173		ピット	173 156	CK51
174		ピット	214 174	CK51
175	11S1175	竪穴住居	185 250 175 120	CN50
176		ピット	220 176	CL48
177		ピット	325 177	CM46
178		ピット	280 178	CK48
179		ピット群	165 179	CN49
180	11S1180	竪穴住居	225 185 165	CJ50
181		ピット	165 155 181	弥生後期
182		ピット群	165 182	OM・CN49
183		ピット		CK52
184		ピット	175 184	CM51
185	11S1185	竪穴住居	225 185 165・175	弥生後期～
186		ピット	185 186	CN50
187		土壇	225 187	CO50
188		たまり	235 188	8C～
189		ピット群	312 189	CN51
190	11S1080	住居		奈良
191		ピット群	140 191	弥生後期～
192		ピット群	140 192	CO52
193		ピット群	140 193	8C～
194		ピット	140 194	弥生後期～
195	11S1195	竪穴住居	170 195 180	弥生後期～
196		ピット群		CN53
197		ピット群		近代～
198		土器溜まり		弥生後期～末
199		土器溜まり		弥生後期～
200	11SB200a	掘立柱建物	200 295	弥生後期～
201		ピット群		CM46
202		ピット	175f 202	OM50
203		ピット	288 203 125	奈良～
204		ピット		OM47
205	11SB200d	掘立柱建物	200 295	弥生後期～
206		ピット群		12C～
207		ピット群	120 207	奈良～
208		ピット群	208 140	CO51
209				CO51
210	11S1210	竪穴住居	255 210 180 040	弥生後期～
211		ピット群		8C～
212		ピット	140 212	CO51
213		土壇	250 290 213 274	CL50
214		ピット群	214 090	弥生後期～
215	(11S1210)			弥生後期～

・・・は原位置不明

Tab 11.6 前田1次調査 遺構番号台帳

前田1次調査 遺構番号台帳 (6)

S番号	遺構番号	種 別			地区
216		ピット群	303 216	BC→	C.51
217		ピット群	180 217	弥生後期	C.50
218		ピット			C.50
219		土壌	219 180	弥生後期→	C.51
220	11S1220	竪穴住居	250・280 270 220 125	弥生後期後葉→	CL47・48
221		ピット	80 221 57		C.50
222		ピット	224 124		C.50
223		土壌	223 030c	奈良→	CH50
224		土壌	223 030c		CH50
225	11S1225	竪穴住居	235 225 187	弥生後期→	CN50
228		ピット			CL48
227		ピット群	227 029		CM49
228		ピット群	228 029		CM49
229		ピット	229 245		CL49
230	11S1230	竪穴住居	230 201	弥生後期後葉	CM46
231		ピット群	298 231		CL49
232		土壌	213 232	弥生後期→	VL50
233		ピット		弥生後期→	C.50
234		ピット	219 234 180f		C.50
235	11S1235	竪穴住居	235 225 187	弥生後期→	CO50
236		ピット	236 140 160	弥生後期→	CO52
237		溝状	237 140b	弥生後期→	CO52
238		ピット	225 238		CN50
239		土壌	185 239	弥生後期→	CN51
240	11S1240	竪穴住居	100 240 127 010	弥生後期→	CL46
241		ピット	241 140b		CO52
242		ピット	240 242	奈良→	CL46
243		溝	240 243	奈良→	CL46
244		溜まり	244 210a	弥生後期	C.99
245		ピット	220 245	弥生後期	CL49
246		ピット	210 246 034	弥生後期中葉→	C.50
247		溜まり	320 247		C.50
248		土壌	220 248		CM47
249		ピット	150 249	奈良→	CK48
250	11S1250	竪穴住居	250 220	弥生後期→	CL50
251		ピット	251 080		C.51
252		ピット	260 252		CL51
253		土壌	303 216		CL51
254		ピット	180 217		CK50
255	11S1255	竪穴住居	255 210 190	弥生前期中葉→	C.99
256		ピット	256 80	弥生後期→	C.50
257		ピット		弥生前期	C.99

... は原位置不明

Tab 11.7 前田1次調査 遺構番号台帳

前田1次調査 遺構番号台帳 (7)

S番号	遺構番号	種 別		地区
254		ピット	220 258	CM48
259		土壌	220 259	CL49
260	11S1260	竪穴住居	260 250 152	CK50
261		ピット	285 261	CL48
262		ピット	140 262 191	CO52
263		ピット	264 263	CK47
264		土壌	264 263	CK47
265	11S1265	竪穴住居	265 180 080	CJ51
266		土層	11S1270に伴う	弥生後期～
267		土壌	280 267	弥生後期～
268		溜まり	268 270g・f	CK47
269		土壌	269 293	CM49
270	11S1270	竪穴住居	270 220・010・158・020	CK47
271		溜まり		弥生後期～
272		土壌	280 272	弥生後期～
273		溜まり	280 273 267	CK48
274		ピット	290 232 274 013	CL50
275	11SK275	土壌	285 220 275	弥生後期～
276		ピット	276 029	CL48
277		土壌	220 277	CL49
278		ピット群	220 027	CJ47
279		土壌	220 279 287	弥生後期～
280	11S1280	竪穴住居	100 280 270 220	弥生後期～
281		ピット		弥生後期～
282		溝	100 282	CJ46～CK46
283		ピット群	283 041	CK46
284		ピット	284 041	弥生後期～末
285	11SK285	貯蔵穴	285 275	弥生前期中頃～
286		ピット	100 286 271 270	弥生後期前葉～
287		ピット	279 287	弥生後期～
288		土壌	288 220 125	CL47
289		溝	100 289	弥生後期～
290		土壌	213・232と同一遺構	CL50
291		ピット	291 260a	CK50
292		土壌	250 292	CL50
293		土壌	175 293	CL50
294		溜まり	175 294	CJ55
295		ピット	200 295	弥生後期～
296		ピット		CL50
297		ピット	297 220・250	弥生後期～
298		ピット	220 298	CL48

・・・は原位置不明

前田1次調査 遺構番号台帳 (8)

S番号	遺構番号		種 別		地区
299		ピット	299 175		CL49
300			欠番		
301		ピット	301 140		C052
302		ピット	140 302		C053
303		ピット	303 216	奈良	CJ51
304		ピット			CM47
305	115D05	竪穴住居	305 026	弥生前期～	CK45
306		ピット	306 100		CK46
307		ピット	100 307		CJ46
308		ピット	308 195		CJ51
309		土壌	309 096		CK53
310			欠番		
311		溜まり			CL54
312		溜まり	312 189		CN51
313		溜まり	313 325 185 165 052		CN53
314		溜まり	314 073		CJ53
315		ピット			CJ46
316		溜まり			CJ52
317		溜まり	317 195		CJ51
318		土壌			CH54
319		土壌			CG48
320		トレンチ			CJ49・50
321		溜まり	321 255		CJ49
322		土壌	322 003		CH47
323		土壌	323 011		CH46
324		土壌	324 100 270		CL46
325		土壌	325 126 010		CL46
326		ピット	326 120		CL51
327		ピット	210 327		CJ48

・・・ は原位置不明

Tab 11.9 前田1次調査 遺構番号台帳



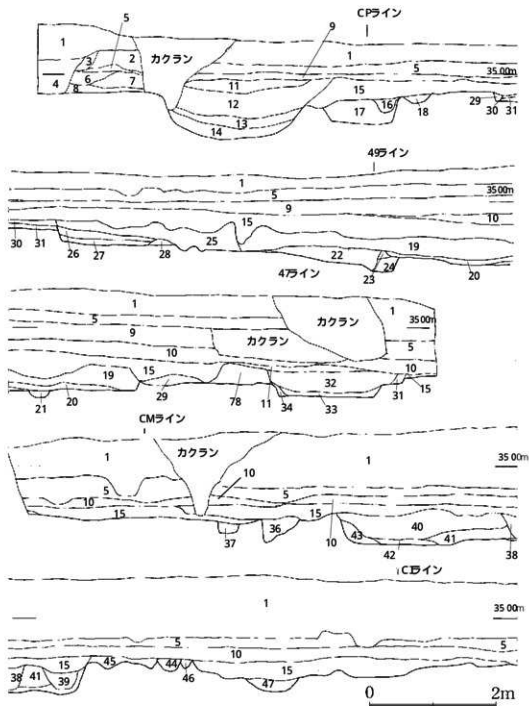


Fig 113 前田遺跡第1次調査調査区北壁・東壁(その1)土層観察図

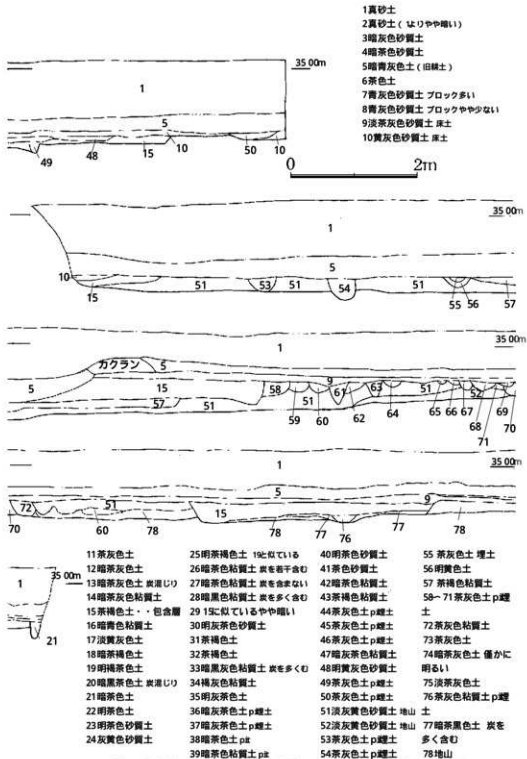
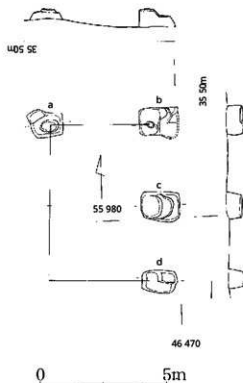


Fig. 114 前田遺跡第1次調査調査区東壁(その2)・南壁土層観察図

## 前 11SB200



## 前 11SB200a



## 前 11SB200b



## 前 11SB200c



## 前 11SB200d

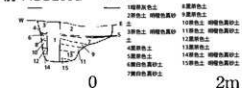


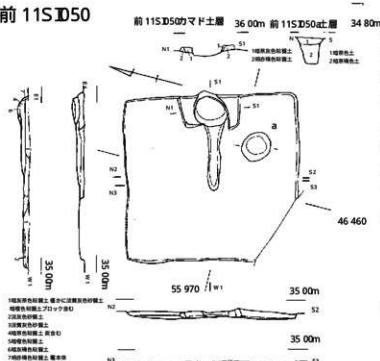
Fig 115 前田遺跡第1次調査 SB200実測図・土層観察図

## 掘立柱建物

前 11SB200( Fig 115 P1116 117 118)

調査区西部 CH54地区周辺で検出した。全体の規模は調査区外に伸びるため不明であるが、検出した範囲内では東西 2間以上、南北 2間以上の掘立柱建物と考えられる。柱間は東西列が 4.0mで、南北列は北から 3.2m・3.0mである。掘り方の土層観察では柱穴 a c、d には柱痕跡が残されていた。柱掘り方は略方形で東西 1.3~1.6m、南北 0.9~1.1m、深さは 0.60~0.80m程度である。柱掘り方の断面形状は階段状になっており、東側のもは東方向に段が付き、西側のもは西方向に段が付く。柱痕跡から柱の直径は 20~30cmと推定できる。柱掘り方は、11ST 079による掘削を受けており本来の規模は不明である。また土層観察によると柱は抜き取られている。建物の主軸方向の振れは N 2 13 E である。

## 前 11S D50



出土した須恵器の年代観から、上限は8世紀中頃～後半であり、また鎌倉時代の11ST079に切られていることから、掘立柱建物は奈良時代に帰属する遺構と判断できる。

## 竪穴住居

前 11S I O 5 0  
(Fig 116 P1119)

調査区南西部CH52地区で検出した。南西部が調査区外にあるため全体形は不明だが、検出部から判断すると正方形を呈すと考えられる。南北2.70m、東西2.70m、深さ0.10～0.17mを測る。粘床はない。南東部に穴aを検出した。穴aのプランは略円形で直径0.44～0.50m、深さ0.40mを測る。埋土は暗茶色土、暗茶褐色土の2層で柱痕は確認できない。

## 前 11S D70

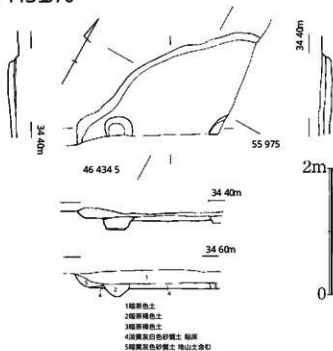
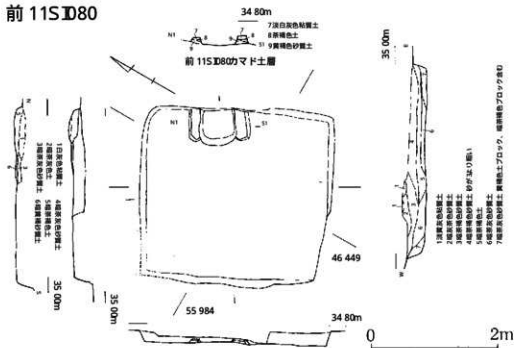


Fig 116 前田遺跡第1次調査 S1D50 070  
実測図・土層観察図

## 前 11S D80



F 117 前田遺跡第1次調査 S1D80実測図・土層観察図

かった。東辺中央付近にカマドを据えた跡があり、外側に8cm、幅0.30m程度、円弧状に張り出している。カマドの平面形は「コ」の字状を呈し、炊き口を住居中央に向けている。残存しているカマドの規模は南北0.98m、東西0.52m、高さ0.10mで、中央に直径0.50m、深さ7cmの窪みがある。窪み部分には暗灰茶色土（炭まじり）が2m程度堆積しており、その上にカマドを支持していた炉壁が崩落して5cm程度堆積している。カマドから住居中央に向かって幅0.20m、長さ1.5m、深さ3~5cmの溝状窪みがあり、暗灰茶色土（炭まじり）が内部に堆積していたことからカマドの灰をかき出した跡と考えられる。

出土物には8世紀中頃以降の土器群が出土しており、遺構はその時期に属するものと思われる。

## 前 11S D70 ( F 11 G P 111 10 )

調査区南東部 CG4調査区で検出した。南東部隅で検出されているため、全体形は不明だが、検出された部分から隅丸方形を呈すと推定される。南北2.88m、東西1.80m、深さ0.30mである。貼り床は7cm程度、施されていた。柱穴は2個検出した。

柱穴 dはプランが調査区外に伸びるため全体形は不明である。深さは10cm。柱穴 bは検出部から判断すると直径0.44m程度の略円形で、深さ0.2mを測る。柱穴は貼床上面から掘り込まれるため、貼床が施された後に、柱が建てられたと考えられる。

弥生時代後期前半から中頃の土器が出土しているため、遺構はその時期に属すものと思われる。

前11SD80( Fig 11 7, P111 10)

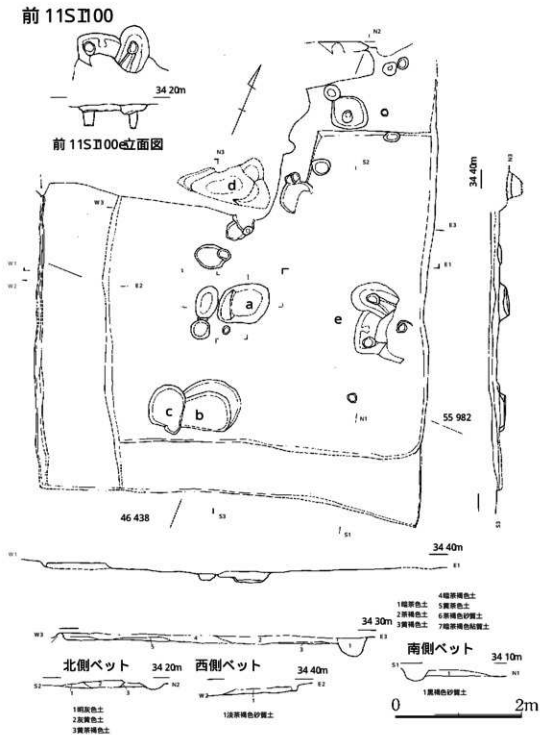
調査区中央部CJ50区を中心に検出した。東西2.7m、南北3.0m、深さ0.2mを測り、平面形は略方形を呈する。床面は地山削りだしで貼床は無い。東辺の北寄りに「コ」の字状を呈す粘土の塊がある。これは残存している壁土の量は少ないが土器カマドを据えた跡と見られる。炊き口を住居中央に向けている。残存しているカマドの規模は長さ0.50m、幅0.20m、高さ0.10mの高まりが左右にあり、中央に方形の東西0.60m、南北0.60m、深さ0.10m程度の窪みがある。

出土遺物は8世紀中頃～後半の遺物が出土しているため、遺構はその時期に属すものと思われる。

前11SD00( Fig 11 8, P111 11)

調査区の中央部東側CJ48区を中心に検出した。全体の平面形は南北に長い長方形を呈する。11SD27Qに切られており、北側のプランは部分的にしかわからない。南北7.2m、東西6.3m、残りの良いところで深さ7cmを測る。床面は地山を削り出して、貼床はない。東側を除く3方向の壁に接して、幅0.8～1.3m、高さ0.1mの造り付けのベット状遺構がある。西側のベット状遺構と壁との間には長さ4.2m、幅5cm、深さ7cmの壁溝が巡る。柱穴は南側のbと北側のdの2つによる二本柱構造と思われる。柱穴dは前11SD27Qにより削平されており当初のプランは明確ではない。二本の柱芯距離はおおよそ3.6m前後で主軸の振れは、N 24 48 5 Wをとる。柱の間に段掘り状の窪みeがあり、炭が多量に残存していることから炉跡と推定できる。中央東に位置する柱穴eは溝11SD282に切られており、南北1.1m、東西0.6m以上を測り、平面形は方形プランである。底面に直径約0.2m、深さ0.24～0.3mの穴が穿たれている。これは竪穴住居に出入りする際の梯子等の昇降具の設置痕跡と考えられ、この2つの穴に梯子の脚を入れて固定するものと推定している。

出土遺物には弥生後期中頃～後半の土器群が出土している。破片資料で古墳時代前期前半に下る土師器の小型丸底壺が出土しているが、周辺の住居との切り合い関係から、この住居は弥生時代後期以前と判断されるため、この土器片は他の遺構からの混入と考えている。



F 図 118 前田遺跡第1次調査 SI100実測図・土層観察図

## 前 11SⅡ20

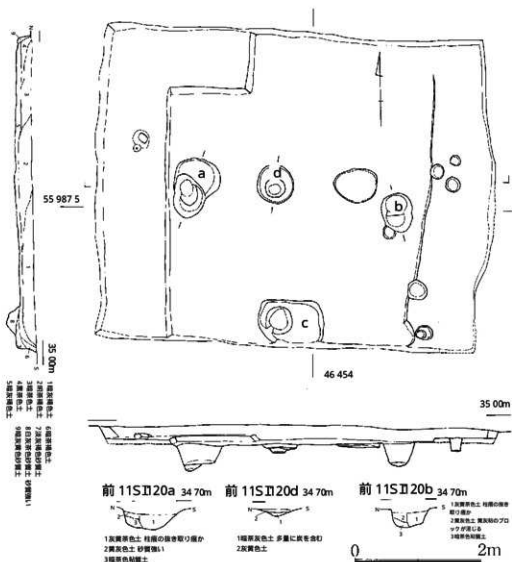


Fig 119 前田遺跡第1次調査 SI12実測図・土層観察図

## 前 11SⅡ20 (Fig 119 P111 11)

調査区の北部西側CL5区付近で検出した。全体の平面形は東西に長い長方形になる。南北5.2m、東西6.4m、深さは残りが良い部分で約0.32mを測る。床面は地山を削り出して使用している。東西の両袖には幅1m、高さ0.1mの造り付けによる高まり、ベット状遺構がある。ベット状遺構のプランは東側は直線的で西側はL字形を呈する。柱穴は東西のベットの際に、床面から深さ約0.4m掘られており



## 前 11SⅡ40

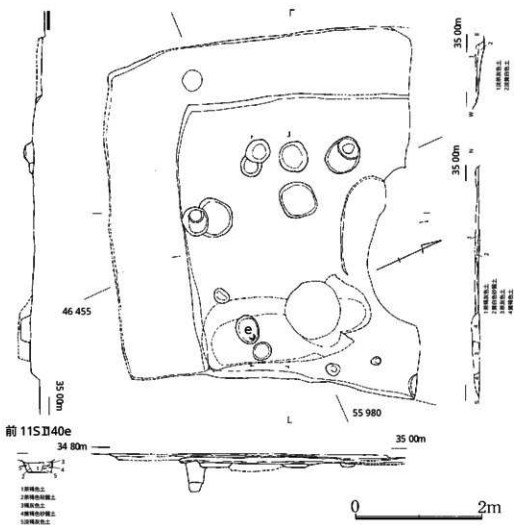


Fig 11 10 前田遺跡第1次調査 SI140実測図・土層観察図

二本柱構造であったと考えられる。二本の柱芯距離は3.2mで、主軸方向の振れはN 92 51 45 Eをとる。柱の間に2段掘り状の窪みdがあり、炭が多量に残存していることから炉跡と推定できる。南側中央部に、東西1.06m、南北0.7m、床面からの深さ0.16m、底面西側に不整形形状に0.13m程度窪む長方形の掘り方がある。これは堆積している土層を観察すると北側からの土の流入により徐々に埋没していったことがわかる。性格は屋内貯蔵穴の可能性が高いと思われる。土師器の椀形高坏が、西側のベット状遺構の中央部やや北よりの直上に、口縁部

## 前 11SII55

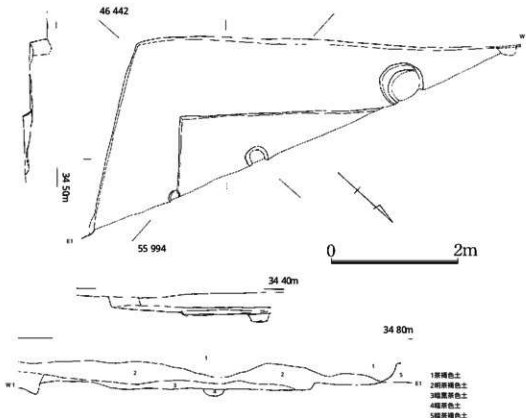


Fig 11 11 前田遺跡第1次調査 SI15実測図・土層観察図

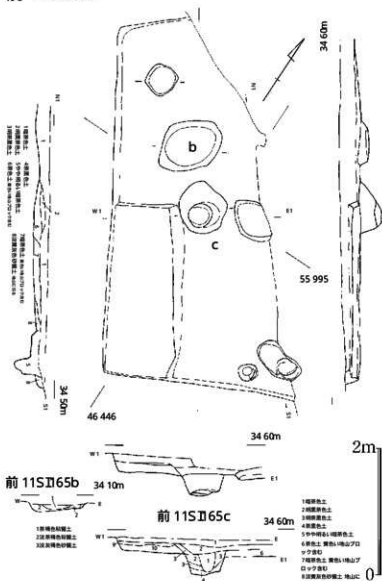
を下にむけて置かれた状況で出土した。出土状況から何らかの祭祀が行われたと考えられる。また埋土から青銅製鏃先が出土しているのも注目できる。

弥生時代後期後半から古墳時代前期前半の土器群が堆積土中から出土しており、先述した土師器の年代観から、遺構は古墳時代前期前半の時期に属すものと思われる。

## 前 11SII40 ( Fig 11 1Q, P111 12)

調査区の北部西側 C05区で検出した。奈良時代の土坑 11SK 16Qに切られている。北側が調査区外に展開しているため全体の平面形は不明だが、検出範囲では南北に長い長方形を呈すと思われる。南北 4.8m、東西 5.8m、残りが良い部分で深さ約 0.16mを測る。床面は地山を削り出して貼床はない。西・南側には幅約 1.2m、高さ約 0.13mの造り付けによる高まり、ベット状遺構がある。柱穴 aは南部中央に位置し、床面からの深さ 0.50m、直径 0.15mを測る。南東部には柱穴 eがあり東西

## 前 11SⅡ65



Fg 11 12 前田遺跡第1次調査 SⅡ65実測図・土層観察図

はその時期に属すものと思われる。なお、奈良時代の遺物も出土しているが、前11SK 160からの混入と判断した。

前 11SⅡ55 (Fg 11 11, P111 12)

調査区の北東側 CN 4区付近で検出した。プランの大部分が調査区外にのびた

0.4m、南北0.3m、深さ0.2mを測る。推定中央部寄りに、前 11SK 160に切られているため全形は不明だが、東西1.5m、南北0.5m、床面からの深さ9mの炭が堆積した溜まりがある。炭が堆積していることから炉跡と推定できる。床面を検出した段階で東側に、前 11SX 236を検出した。埋土は上から暗茶色土、淡茶褐色土の順で堆積していた。住居内の埋土は削平のため茶褐色土のみが薄く残存していた。

出土遺物は弥生時代後期後半の土器群が出土しており、遺構

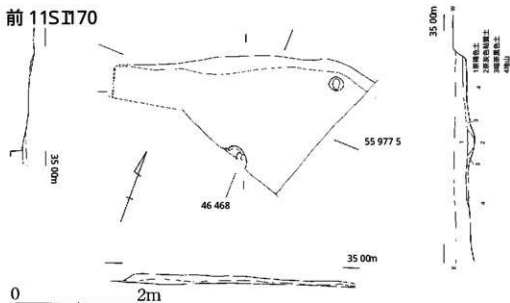


Fig 11 13 前田遺跡第1次調査 SI170実測図・土層観察図

め全体形は不明だが、検出した部分からは方形を呈すと考えられる。11SI165を切っている。検出している部分で南北4.2m、東西2.2m、深さ0.2mを測る。床面は地山削りだして貼床はない。西・南壁に沿ってL字状に幅1m、高さ10cmの地山削りだしのベット状遺構を検出した。調査区北壁に沿って柱穴bがあり、直径0.28m、深さ0.1mを測る。土器群はベット状遺構の上面、特に南西部に集中して検出された。

出土遺物は古墳時代前期前半の土器群が出土しており、遺構はその時期に属するものと思われる。

前 11SI165( Fig 11 12, P11 12)

調査区の北側CN49区付近で検出した。調査区外に延びているため全形は不明である。検出部で東西5.6m、南北3.0m、深さ0.2mを測る。南壁に沿って幅1.2m、長さ2.7m、高さ0.15mの造り付けのベット状遺構がある。ベット状遺構に接して柱穴aを検出した。柱穴aは平面プランが0.70.8mの不整形、床面からの深さは0.35mで、土層観察により直径0.2m、長さ0.27mの柱痕跡が確認できる。柱穴aの西側の窪みは東西0.8m、南北1.0m、深さ0.1mを測り、若干だが炭の堆積層を確認した。土層観察によると、南東側から淡黄灰色砂質土の堆積が始まり、最終的には暗茶色土により埋没している。

出土遺物は弥生時代後期後半から古墳時代前期前半にかけての土器群が出土し

前 11SⅡ75

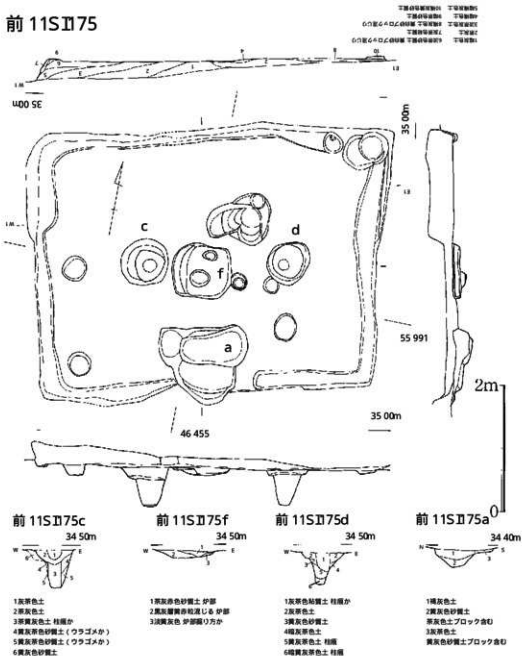


Fig 11 14 前田遺跡第1次調査 SⅡ75実測図・土層観察図

ているため、遺構はその時期に属するものと思われる。

前 11SⅡ70( Fig 11 13, P111 13)

調査区の北東側 CH5区付近で検出した。前述の前 11SB200d 前 11SI05Q 前

## 前 11SⅡ80・265

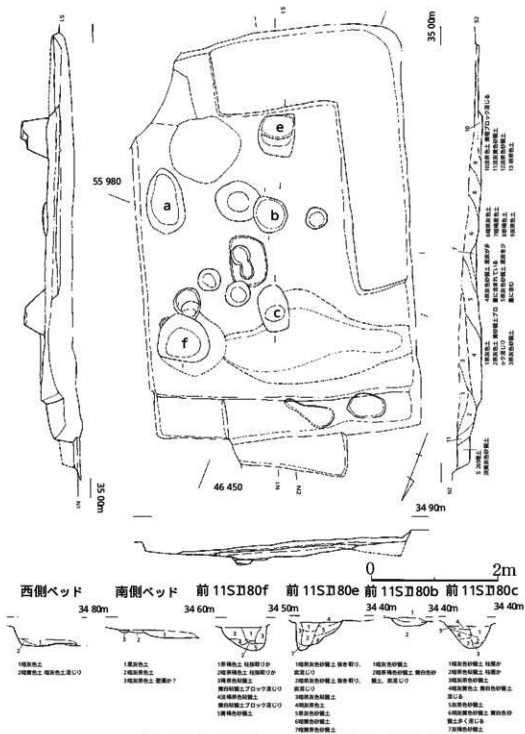


Fig 1115 前田遺跡第1次調査 SⅡ80・265実測図・土層観察図

11SI199に切られていることと調査区外にのびるため全体形は不明であるが、方形の平面プランが推定できる。検出された部位では東西2.5m、南北1.0m、深さ6mを測る。床面は削りだして、ベット状遺構は確認されていない。南側中央の柱穴は調査区外にのびるため全形は不明であるが直径0.4m程度と考えられる。埋没過程は暗茶黒色土、暗茶黒色砂質土が堆積している。出土遺物は、弥生時代後期の土器や石製品などが出土しているが、すべて細片のために図化はできなかった。

前 11SI175( Fg 11 14, P111 13)

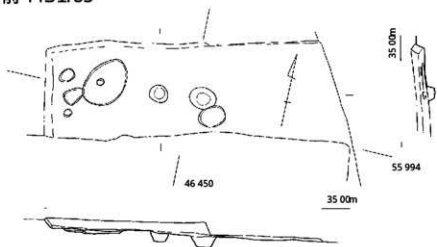
調査区の北側CM 5区付近で検出した。全体の平面形は東西に長い長方形になる。南北4.2m、東西5.8m、残りが良い部分で深さ約0.38mを測る。床面は削り出で貼床はない。ベット状遺構は確認できなかった。住居の中心部に東西1.0m、南北0.85m、深さ0.15mの窪みがある。炭の堆積から炉部と推定される。炉部の東西に対になる柱穴が検出されており、西を柱穴c、東を柱穴dとする。これらは土層観察で直径0.17～0.22m、長さ0.3～0.4m以上の柱痕が確認できることから、2本柱構造であったと思われる。柱心距離は3.2m、主軸方向はN 79 32 24 Eをとる。南側中央の壁際の土壌は南北1.8m、東西2.1m、深さ0.35mを測る。この土坑の性格としては、壁際にあること、壁溝がこの部分を巡っていないこと、などから住居入口に関係する施設と考えている。壁溝は土壌aの除いて全周を巡っており、幅0.3～0.4m、深さ7cmを測る。土層の観察によると住居の埋没は西方向から東方向へ順次埋没していったことがわかる。

出土遺物には弥生時代後期後半未と思われる土器群が堆積土中から多数出土しており、遺構はその時期に属すものと思われる。

前 11SI180( Fg 11 15, P111 14)

調査区中央のC15区付近で検出した。奈良時代の土壌11SK040に切られる。平面形は南北方向に長い長方形を呈す。南北6.5m、東西4.3m、深さは残りが良い部分で0.55mを測る。床面は削り出し。西・南壁に沿ってL字状に幅1m、高さ10cmの造り付けのベット状遺構を検出した。ベットは黒灰色土と暗灰色土に黄色土粒が混じった土により形成されている。北壁に接して長さ4.0m、幅0.6m、高さ5cmの高まりを検出した。これはベット状遺構の可能性が高い。中央部やや南よりに不整形のたまりdがある。ここからは炭の堆積が確認されたため、炉部と推定できる。この炉部dを中心に南北に対になるように柱穴c、eがある。両方とも柱は抜き取られているが、このことから、この住居は2本柱構造であったと思われる。検出段階の痕跡では柱心距離は2.9m、主軸方向の振れはN 79 32 24 Eをとる。埋土は暗茶灰色土。柱穴dに切られている土坑は東西3m、南北1.5m、深さ0.1mを

前 11SII85



前 11SII95

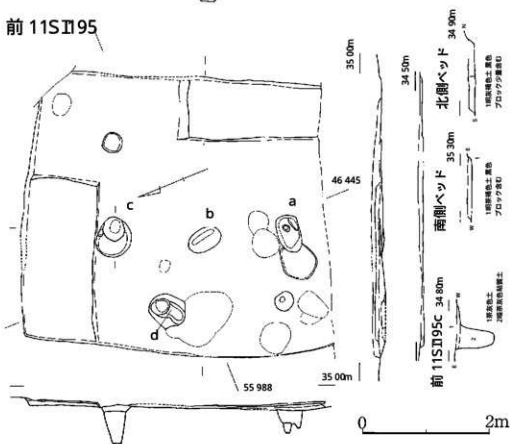


Fig 11 16 前田遺跡第1次調査 SII85 19実測図・土層観察図



## 前 11SⅡ10

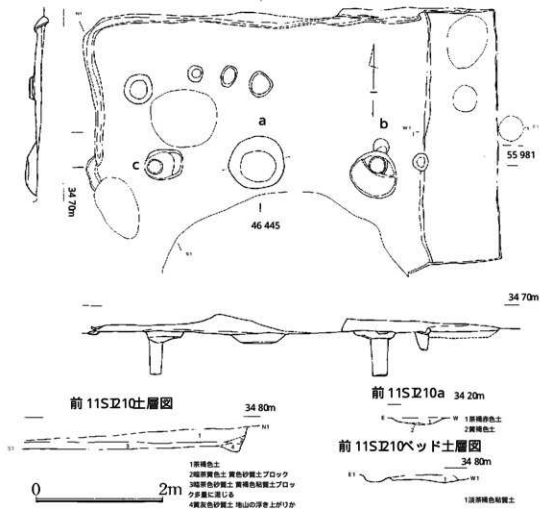


Fig 11 17 前田遺跡第1次調査 SⅡ10実測図・土層観察図

測る。

出土遺物には弥生時代後期後半一末の土器片が出土しており、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前 11SⅡ85( Fig 11 16, P111 14)

調査区の北部中央のCN5区付近で検出した。11SⅡ25を切っている。平面プランは切り合いが複雑なため全体形は不明だが、北西部に隅が検出されていることから方形を呈すと思われる。東西4.6m、南北1.5m、深さは残りがよい部分で0.2m

を測る。床面は地山削り出しで、貼床・ベット状遺構は確認できなかった。ピットはすべて浅く溜まり状を呈し、柱穴は確認できなかった。埋土は茶褐色土で若干砂質土が混じる。

弥生時代後期中頃の土器が出土しており、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前 11S1195 ( Fig 11 16, P111 15)

調査区の南部のCH5区付近で検出した。前 11S1170を切っている。南側部分が調査区外にのびているため、全体のプランは不明だが南北方向に長い長方形と思われる。南北 4.85m、東西 4.3mを測る。床面は削り出しで北・東側に幅 1m、長さ 2.5m、高さ 0.1mで明茶褐色土の盛り土が施されたベット状遺構がある。中央に幅 0.5mの楕円形の窪みがあり、それを中心に北と南に柱穴 a がある。両方とも柱は抜き取られており規模は明確ではない。芯心距離は 2.7mで、主軸方向の振れは N 21° 28' 36" Eである。全体が削平されており、埋土は暗灰赤色土が 5cm程度しか残存していない。

弥生時代後期中頃の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前 11S1210 ( Fig 11 17, P111 15)

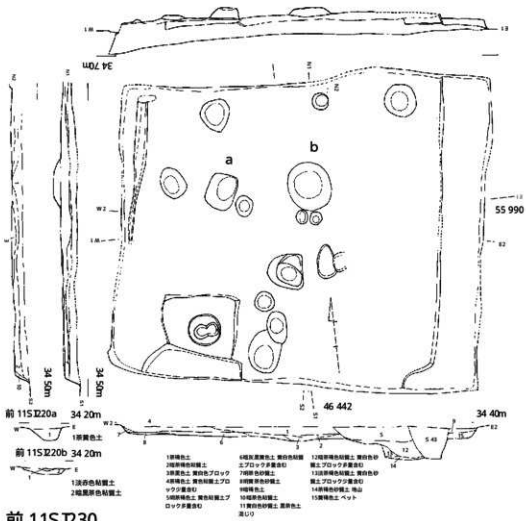
調査区中央南よりのC148区付近で検出した。前 11S1255を切っており、前 11S1180・前 11SK 04Qに切られている。それらの切り合いにより全体形は不明だが、残存部から東西に長い長方形を呈すと思われる。東西 6.6m、南北 4.0m、深さは残りが良い所で 0.3mを測る。床面は地山削り出しで貼床はない。東側に長さ 3.8m、幅 1m、高さ 0.14mの淡茶褐色土で盛り土された造り付けのベット状遺構がある。中央やや西寄りに直径 0.9mの楕円形で茶褐赤色土（炭混じり）が堆積した窪みがあり、これは炉部と考える。炉 a を中心として東と西に柱穴 b がある。柱穴は直径 0.2m、深さ 0.6mでしっかりとしている。幅 0.15m、深さ 6cmの壁溝が北・西部に巡る。埋土は暗灰色砂質土、茶褐色土で北西部より流れ込み、堆積している。

弥生時代後期中頃一後半の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

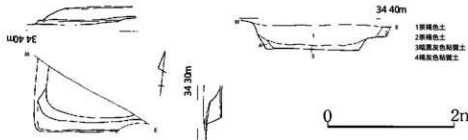
前 11S1220 ( Fig 11 18, P111 16)

調査区の北東部C148区付近で検出した。全体の平面形は東西に長い長方形である。前 11SK 285を切り、前 11S1279に切られている。東西 5.8m、南北 4.9m、深さは残りの良い所で 0.45mを測る。床面は地山削り出しで貼床は無い。東側に長さ 4.8m、幅 1.1~0.7m、高さ 0.1mのベット状遺構がある。中央やや北側に直径 0.7mの楕円形

前 11SⅡ20

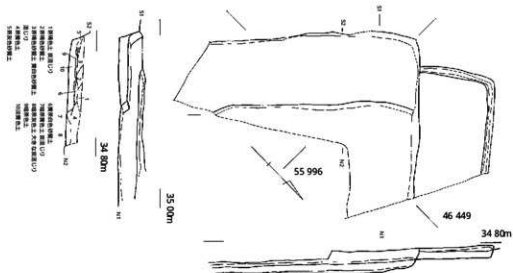


前 11SⅡ30

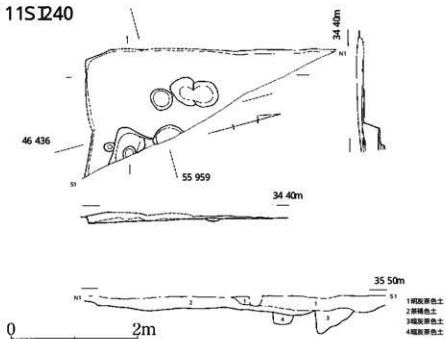


F Ⅱ 118 前田遺跡第1次調査 SⅡ20 23実測図・土層観察図

前 11SⅡ25・235



前 11SⅡ240



F Ⅱ 119 前田遺跡第1次調査 SⅡ25 235 240実測図・土層観察図

で炭の堆積した窪みdがある。このdは炉部と思われる。炉部dの西側に東西0.4m、南北0.5m、深さ0.2mを測る柱穴aがある。柱穴aと対になるとと思われる東側部分は、前11SK279により削平されているため、柱穴の存在は不明である。埋土の堆積は順次西より埋土が流入して堆積している。

埋土中より弥生時代後期後半から末期の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SⅡ25( Fig 11 19, P111 17)

調査区の北部中央CN50区付近で検出した。前11SⅡ35を切り、前11SI189に切られる。遺構が調査区外に展開しているために平面プランは不明だが、西隅が検出されているため方形を呈すと思われる。南北2.6m、東西3.3m、深さは残りが良いところで0.4mを測る。床面は地山削り出して貼床は無い。北西部に長さ3.9m、幅1m、高さ0.15mを測る造り付けのベッド状遺構がある。柱穴、炉部は検出できなかった。

埋土中から弥生時代後期中頃の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SⅡ30( Fig 11 18, P111 16)

調査区北東部隅CM46区付近で検出した。調査区外に大部分が存在し、全体形は不明である。東西1.8m、南北1.1m、深さ0.24mを測る。床面は地山削り出して貼床は無い。ベット状遺構も確認されていない。

埋土から弥生時代後期の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SⅡ35( Fig 11 19, P111 17)

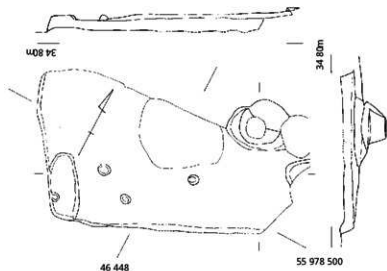
調査区の北部中央CN50区付近で検出した。11SⅡ25をに切られる。遺構が調査区外に展開しているために平面形は不明だが、西側で方形隅が検出されているため方形を呈すと思われる。南北2.2m、東西1.2m、深さは残りが良いところで0.2mを測る。床面は地山削り出して貼床は無い。柱穴、炉部は見つかっていない。北・西壁面に沿って幅0.1m、深さ0.17mの壁溝がめぐっている。

埋土中から弥生時代後期の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SⅡ40( Fig 11 19, P111 17)

調査区の北東CL46区付近で検出した。全体形は調査区外にのびるため不明だが、南西部に隅を検出したため平面形は方形を呈すと思われる。南北3.5m、東西2.1m、深さは残りの良いところで0.1mを測る。床面は地山削りだして貼床は無い。東側

## 前 11SⅡ50



## 前 11SⅡ55

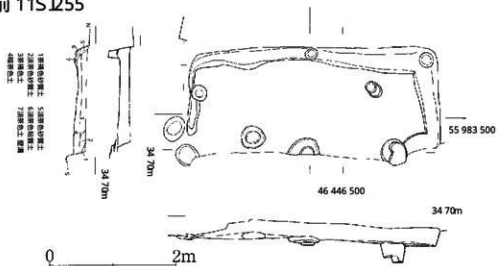


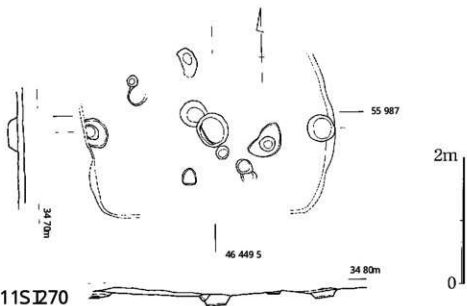
Fig 1120 前田遺跡第1次調査 SⅡ50、25実測図・土層観察図

調査区壁面にかかる形で柱穴bが検出されている。柱穴bの埋土は暗灰茶色土の単一層で柱痕は不明である。

埋土中から弥生時代後期の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前 11SⅡ50( Fig 11 20、 P111 17)

前 11SⅡ260



前 11SⅡ270

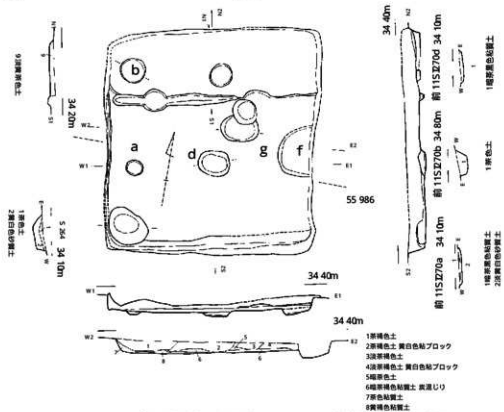


Fig 11.21 前田遺跡第1次調査 SI26Q 27実測図・土層観察図

調査区の中央北側CL5D区付近で検出した。前11S1260を切り、前11S1175、前11S1213に切られる。平面形は他の遺構と切り合いが複雑なため、平面形は明らかではないが、南西部隅を検出しているため方形を呈するものと思われる。南北2.5m、東西4.0m、深さは残りが良いところで0.2mを測る。床面は地山削りだして、貼床は無い。

埋土中から弥生時代後期の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11S1255( F 11 20, P111 15, 11 18)

調査区の中央C4D区で検出した。前11S1210に切られているため、平面形は方形と思われる。東西4.0m、南北1.8m、残りが良いところで深さ0.3mを測る。床面は削りだして貼床は無い。中央近くに位置する直径0.5mの穴は主柱穴の可能性が有る。壁際には幅0.2~0.3m、深さ0.1mの溝が巡り、溝内で直径0.2m、深さ0.2mの柱穴と考えられるビットが3つ掘り込まれている。この形態の住居の類似例は前田遺跡第2次調査S1065等があげられるが、住居の出入り口と考えられている張り出し部は、他遺構との切り合いのために確認ができなかった。

埋土から弥生時代前期前半の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11S1260( F 11 21, P111 18)

調査区の中央CK5D区付近で検出した。奈良時代の竪穴住居前11S1008Dに切られる。全体の平面形は切り合いのため不明だが、略方形を呈すと思われる。東西3.8m、南北3.8m、深さ0.15mを測る。床面は地山を削り出しており貼床、ベット状遺構は無い。中央部に直径0.5m、深さ0.2mのビットがある。炭の堆積はなく、壁が熱を受けて変化していないことから積極的に炉部とはいえないが、可能性の一つとしてあげられる。東と西の壁際に直径0.4m、深さ0.1mのビットがあるが、これを柱穴と考えると本柱による構造となる。

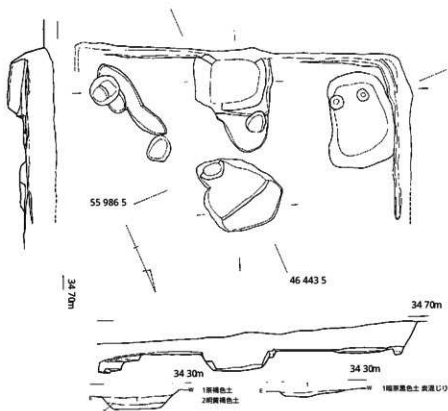
埋土は茶褐色土の単一土層で、埋土中から弥生時代前期のものと考えられる土器片が少量出土しているが、細片のため図化は出来なかった。また黒曜石の石核、剥片が集中して出土している。遺物より弥生時代前期前半の時期に帰属する遺構と思われる。

前11S1270( F 11 21, P111 19)

調査区の中央東側CK4E区付近で検出した。前11S1100を切り、前11S1220に切られる。平面形は略方形で、東西3.3m、南北3.5m、深さ0.3mを測る。床面は地山削り出して貼床は無い。北側に幅1m、長さ3.3m、高さ0.1mの塗り付けのベット状遺



前 11SⅡ80



前 11SⅡ05

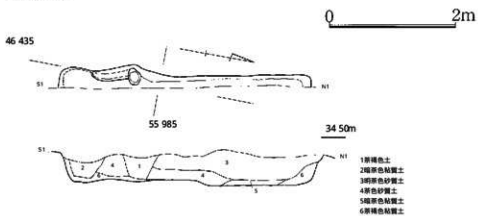


Fig 11.22 前田遺跡第1次調査 SI28Q 30実測図・土層観察図

構がある。中央部に0.5×0.4m、深さ0.1mを測る楕円形のピットを2個検出した。北側をg、南側をdとする。両方とも炭が大量に含まれた暗茶黒色粘質土が堆積していることから炉部と考えている。柱穴と考えられるピットは検出できなかった。南東部のピットS27は前11SI10dに伴うものと考えている。住居内の床面とベット状遺構との境に長さ2m、幅0.2m、深さ5cmの溝が巡っている。

埋土中から弥生時代後期末から古墳時代前期前半の土器群が出土している。

前11SI280( Fig 11 22, P111 19)

調査区の中央東側CK48区付近で検出した。前11SI27dに切られて、平面形は東西に長い長方形を呈する。東西5.3m、南北3.0m、深さ0.4mを測る。床面は地山削りだして、貼床はない。中央に一辺1.4mの不整形形状の土壇aがある。炭層が堆積しており、炉部と考えられる。南側中央部に位置する1.2×0.9m、深さ0.3mの方形土坑S27は入口施設に関連するものが、屋内土坑と考えられる。壁溝は幅・深さ0.1m程度で西側と南側を巡る。

埋土からは弥生時代前期と考えられる土器の小破片が出土しているが、時期の比定は難しく、遺構の切り合い関係からは弥生時代後期中頃から古墳時代前期前半の間の時期に帰属すると思われる。

前11SI305( Fig 11 22)

調査区東側中央CK46区付近で検出した。遺構の大部分が調査区外の東側にのびているため全体形は不明程度であるが、北・南部で方形の隅を検出しているため方形を呈すると思われる。東西0.4m、南北4.1m、深さ0.3mを測る。ピットが2つ検出されている。

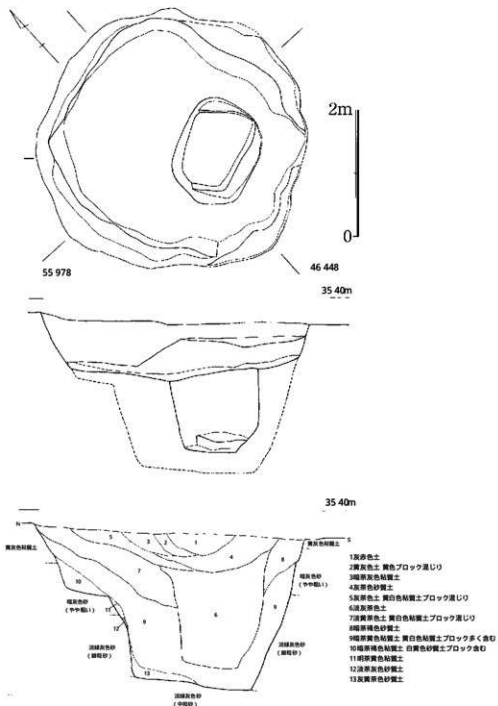
埋土から弥生時代前期の土器が出土しているため、遺構はその時期に帰属すると思われる。なお隣接する前田遺跡第1次調査では延長部にあたるべき遺構は攪乱のため検出されていない。

## 土坑

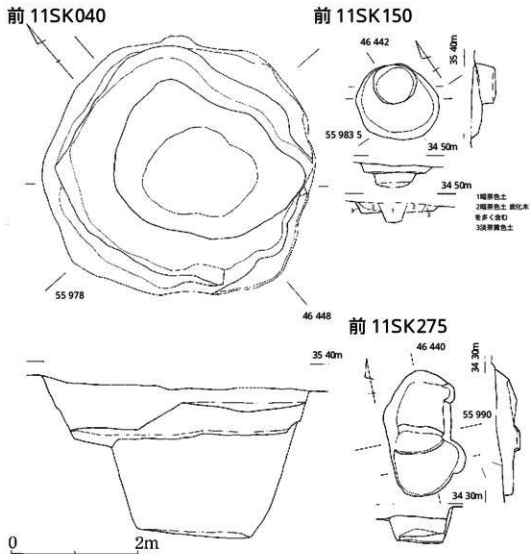
前11SK040( Fig 11 23, P111 20)

調査区中央南側CI49区付近で検出した。平面形は円形で直径4.4m、深さ2.4mを測る。検出面から0.8m程度下げた段階で東西2.0m、南北2.5mを測る略方形のプランを検出した。このプランは淡灰茶色土層として掘り下げた。これを井戸枠内の埋土ではないかと考えたが、井戸枠は検出できなかったことと、埋土の土層も単一で、水が堆積したと思われる層が全く検出できなかったため、ここでは一応土坑内の掘り返しによる土坑として認識しておく。

前 11SK040



F 図 11 23 前田遺跡第1次調査 SK040(1) 実測図・土層観察図



F 図 11 24 前田遺跡第1次調査 SK 040( 2) 150 275実測図・土層観察図

埋土から多量の須恵器・土師器が出土している。層を観察すると大別 3層の群に分けられる。土器群の分析からは、最初に埋没したのは8世紀前半から中頃で、中頃から後半にかけて掘り返しをしており、その後は自然堆積で8世紀後半から末期にかけて埋没していると考えられる。

前 11SK150( F 図 11 24 P 111 21 Tab 11 10 11 11 11 12)

調査区中央東側CK48区で検出した。前 11SK 249に切られており、平面形は楕円形を呈する。南北 13m、東西 12m、深さ 0.2mを測る。

## 前 11SK 150 出土炭化米計測表 (単位mm)

個体	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ
1	480	275	185	175		2442
2	470	295	200	159		2773
3	440	255	150	173		1683
4	450	265	185	170		2206
5	445	285	190	156		2410
6	440	280	195	157		2402
7	450	270	185	167		2248
8	495	200	205	248		2030
9	460	295	190	156		2578
10	465	270	195	172		2448
11	480	270	185	178		2398
12	470	240	180	196		2030
13	430	230	175	187		1731
14	470	245	175	192		2015
15	440	240	165	183		1742
16	460	215	190	214		1879
17	480	275	180	175		2376
18	480	270	195	178		2527
19	485	255	190	190		2350
20	425	260	165	163		1823
21	440	285	205	154		2571
22	490	260	195	188		2484
23	425	270	190	157		2180
24	460	275	180	167		2277
25	445	290	245	153		3162
26	445	250	180	178		2003
27	450	295	190	153		2522
28	425	300	200	142		2550
29	490	260	165	188		2102
30	485	260	180	187		2270
31	440	240	195	183		2059

Tab 11 10 前田遺跡第1次調査 SK150出土炭化米計測表 1

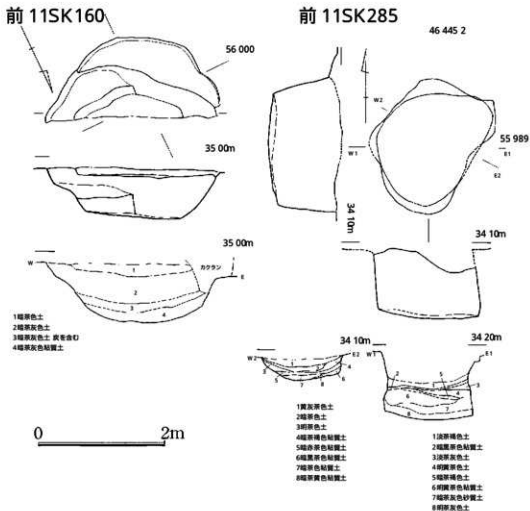
個体	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ
32	4.55	2.80	1.95	1.63		24.84
33	4.65	2.90	1.90	1.60		25.62
34	4.45	2.30	1.70	1.93		17.40
35	4.25	2.65	1.90	1.60		21.40
36	4.55	2.45	1.85	1.86		20.62
37	4.70	2.90	2.10	1.62		28.62
38	4.30	2.55	1.90	1.69		20.83
39	4.75	2.80	1.85	1.70		24.61
40	4.10	2.50	1.95	1.64		19.99
41	4.55	2.85	2.10	1.60		27.23
42	4.15	2.95	2.35	1.41		28.77
43	4.20	2.70	2.05	1.56		23.25
44	4.45	2.65	1.95	1.68		23.00
45	4.40	2.50	2.05	1.76		22.55
46	4.75	2.80	2.00	1.70		26.60
47	4.70	2.70	1.85	1.74		23.48
48	4.55	2.90	1.95	1.57		25.73
49	4.70	2.80	1.90	1.68		25.00
50	4.25	2.50	1.90	1.70		20.19
51	4.85	2.90	1.95	1.67		27.43
52	4.75	2.65	1.85	1.79		23.29
53	4.50	2.65	1.85	1.70		22.06
54	4.75	2.80	1.95	1.70		25.94
55	4.25	2.65	1.95	1.60		21.96
56	4.80	2.90	1.95	1.66		27.14
57	4.75	2.60	1.85	1.83		22.85
58	4.35	2.65	2.10	1.64		24.21
59	4.70	2.55	1.75	1.84		20.97
60	4.60	2.55	1.95	1.80		22.87
61	4.25	2.70	2.15	1.57		24.67
62	4.20	2.95	1.90	1.42		23.54
63	4.60	2.80	1.85	1.64		23.83
64	4.90	2.80	1.90	1.75		26.07
65	4.75	2.90	1.85	1.64		25.48
66	4.45	2.85	1.95	1.56		24.73
67	4.70	2.60	1.90	1.81		23.22

Tab 11.11 前田遺跡第1次調査 SK15Q出土炭化米計測表2

個体	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ
68	4.45	2.80	2.00	1.59		24.92
69	4.20	2.65	1.85	1.58		20.59
70	4.45	2.65	2.00	1.68		23.59
71	4.55	2.85	2.10	1.60		27.23
72	4.40	2.75	2.10	1.60		25.41
73	4.55	2.75	2.10	1.65		26.28
74	4.55	2.55	1.70	1.78		19.72
75	4.45	2.70	1.95	1.65		23.43
76	4.55	2.30	1.70	1.98		17.79
77	4.50	2.40	2.00	1.88		21.60
78	4.35	2.70	1.80	1.61		21.14
79	4.40	2.65	1.90	1.66		22.15
80	4.25	2.50	1.85	1.70		19.66
81	4.25	2.95	1.90	1.44		23.82
82	4.25	2.85	1.90	1.49		23.01
83	4.65	2.70	2.15	1.72		26.99
84	4.55	2.60	2.00	1.75		23.66
85	4.90	2.90	1.90	1.69		27.00
86	4.50	2.80	1.95	1.61		24.57
87	4.60	2.65	1.95	1.74		23.77
88	4.95	2.95	1.95	1.68		28.47
89	4.10	2.40	1.60	1.71		15.74
90	4.20	2.65	2.20	1.58		24.49
91	4.95	2.90	1.90	1.71		27.27
92	4.80	2.70	1.90	1.78		24.62
93	4.60	2.70	2.05	1.70		25.46
94	4.05	2.70	1.95	1.50		21.32
95	4.35	2.45	1.80	1.78		19.18
96	4.75	2.65	1.90	1.79		23.92
97	4.70	3.10	1.90	1.52		27.68
98	4.75	2.80	1.85	1.70		24.61
99	4.60	2.75	1.95	1.67		24.67
100	4.45	2.65	1.85	1.68		21.82

この計測表は、『津古牟田遺跡』小郡市文化財調査報告書 第3巻 1985 p60を参考に作成した。ただし、測定資料はすべて洗浄しており、測定可能なもののみの数値である。また測定値の標準偏差は出していない。出土炭化米の総量は933.8g

Tab 11 12 前田遺跡第1次調査 SK 15Q出土炭化米計測表 3



F 図 11 25 前田遺跡第1次調査 SK16Q 28実測図・土層観察図

埋土中から弥生時代後期の土器と共に多量の炭化米が出土した。(炭化米については計測表を参照のこと)

前 11SK160(F 図 11 25 P111 22)

調査区北部西側CP5区で検出した。調査区外に遺構が続いているため、全体形は不明だが円形を呈す土坑と思われる。東西2.7m、南北1.2m、深さ0.8mを測る。

埋土から奈良時代の須恵器が出土しているため、遺構はその時期に帰属すると思われる。

前 11SK275(F 図 11 24 P111 21)

調査区北部東側CL4区で検出した。前 11SIZ20を切る。長さ2.0m、幅1.3m、深



さ0.35mを測る。中央部は段状になって一段深くなっている。

埋土から弥生時代後期中頃～後半の土器群が出土しているため、遺構はその時期に帰属すると思われる。

前11SK285( F 11 25 P111 22)

調査区北部東側CL4区付近で検出した。平面形は不整形で長さ2.0m、幅1.5mで、深さは1.0mを測り、北部に浅く1.0m程度広がっている土壌の断面形は、底面に比べて穴の上部が狭まるフラスコ型と思われるが壁面の崩落により明確にはわからない。

埋土から弥生時代前期前半の土器群が出土しているため、遺構はその時期に帰属すると思われる。

## 墳墓

前11ST075( F 11 26 P111 23)

調査区中央西側CJ54区付近で検出した。主軸をGN 0 35 5 Eにとる。墓坑は南北4.0m、東西1.6m、深さ0.5mを測る長方形プランを呈する。平面プラン検出時には木棺痕跡などは確認できなかったため土壌墓と考えている。土層観察によると暗灰茶色砂質土の中央部が窪み、そこに灰茶色砂質土が堆積している。これは本来、遺体が存在していた空間が遺体が腐敗することで空き、そこに上部の土が入り込んだと考えられる。また、土層観察では木蓋の存在に関しても積極的に認められない。

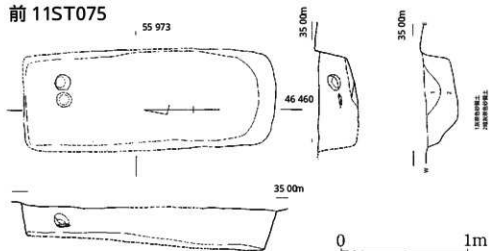
遺物は土師器の坏 a 黒色土器 B類椀が出土している。両方とも土壌内の北側に位置し、口縁部を墓坑内に向けて出土した。釘は出土していない。土器の帰属する年代観が10世紀後半から11世紀前半のため、その時期に帰属する遺構と思われる。

前11ST090( F 11 26 P111 23)

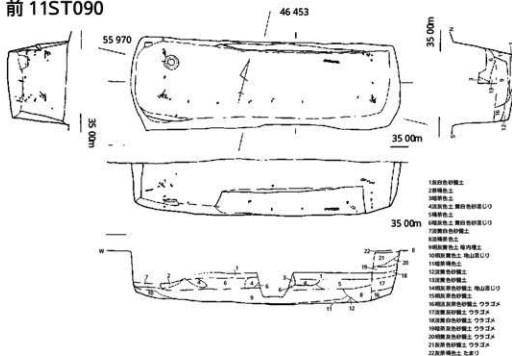
調査区中央CJ51・52地区で検出した。主軸をGN 78 41 24 Eにとり、墓坑は東西4.25m、南北1.5m、深さ0.87mを測る。長方形プランを呈した鉄釘を使用する木棺墓である。鉄釘は5体検出された。墓坑内に棺材は残存していなかったが、鉄釘の出土状況と土層観察からは、推定長3.4m、推定幅0.8m、推定深さ0.5m以上の木棺を想定できる。木棺の部材の厚みは鉄釘に残存していた木質から、推定2cm程度と考えている。

遺物は、土師器坏 a 鉄製毛抜きが出土している。土師器坏 aは土壌の西側北寄り、鉄釘が出土している位置より内側で、口縁部を下に向けて伏せた状態で出土

## 前 11ST075



## 前 11ST090

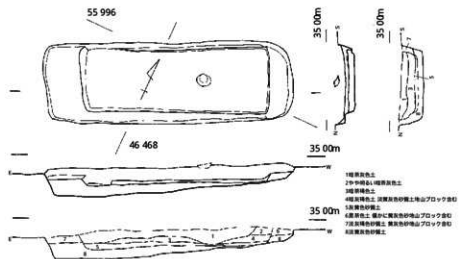


F 図 11 26 前田遺跡第1次調査 ST 075、090実測図・土層観察図

した。鉄製毛抜きは東側北寄りに、先を東に向けて出土した。両方とも棺内に置かれていたと推定でき、副葬品と考えられる。9世紀前半から中頃の遺物が出土しているため、その時期に帰属する遺構と思われる。

前 11ST130 (F 図 11 27, P111 24)

前 11ST130



前 11SX010

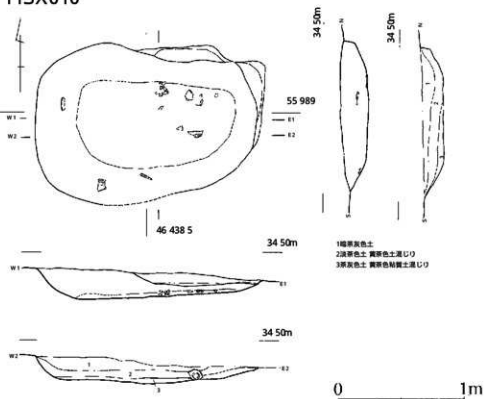


Fig 11.27 前田遺跡第1次調査 ST 130 SX 010実測図・土層観察図

調査区北部CN5区で検出した。主軸をGN 64 45 34 Eにとる。墓墳は東西3.9m、南北1.25m、深さ0.45mを測る二段形成の長方形プランを呈する。下段は検出面から0.25m下がり、長さ3.0m、幅1.0mの長方形プランを呈している。土層観察によると、この下段のプランが棺の痕跡と考えられる。棺を取り囲むように淡黄灰砂質土が存在しているのは、棺の安定のための裏込めと思われる。大規模な削平のため本来のプランが分かりにくいのが、木棺墓と推定しておきたい。

遺物は7世紀代の須恵器蓋が出土しているが前115X099による混入の可能性が考えられ、墓の形態からも平安期に下る可能性が高い。

#### その他の遺構

前115X010( F 11 27, P111 24)

調査区北東CL4区で検出した。平面形は不整長方形で東西3.5m、南北2.5m、深さ0.5mを測る。

遺物は土師器、青磁碗、白磁碗、鉄製品が出土している。12世紀前半の遺物が出土しているため、その時期に帰属する遺構と思われる。

前115X002( F 11 2)

調査区南東CG4区で検出した。平面形は円形で東西0.85m、南北0.8m、深さ0.3mを測る。遺物は石器の剥片が出土している。

前115X038( F 11 2)

調査区中央CK4区で検出した。平面形は隅丸方形で東西0.3m、南北0.4m、深さ0.57mを測る。遺物は不明金属器が出土している。

前115X039( F 11 2)

調査区南東CJ4区で検出した。小規模なPi群である。直径が0.2~0.3mで深さは0.3m前後である。遺物は石鏃が出土している。

前115X058( F 11 2)

調査区中央CL5区で検出した。小規模なPi群である。直径が0.2~0.4mで深さは0.3m前後である。遺物は石包丁が出土している。

前115X059( F 11 2)

調査区中央CL5区で検出した。小規模なPi群である。直径が0.2~0.4mで深さは0.2~0.3m前後である。遺物は鉄釘が出土している。

前115X076( F 11 2)

調査区西部CJ54区で検出した。平面形は楕円形で東西0.9m、南北0.9mで深さは0.44mである。遺物は石鏃が出土している。

前 11SX113( F 図 11 2)

調査区西部 CI-CJ5区で検出した。平面形は方形で東西 0.5m、南北 0.5m で深さは 0.2m である。遺物は石器の剥片が出土している。

前 11SX125( F 図 11 2)

調査区東部 CL4区で検出した。平面形は円形で東西 0.8m、南北 1.0m で深さは 0.2m である。遺物は鉄釘が出土している。

前 11SX176( F 図 11 2)

調査区東部 CL4区で検出した。小規模な Pi 群である。直径が 0.2 で深さは 0.3m 前後である。遺物は不明鉄製品が出土している。

前 11SX236( F 図 11 2、P111 25)

調査区北西部 CO5区で検出した。平面形は長方形で東西 0.8m、南北 0.9m で深さは 0.2m である。遺物は砥石が出土している。

前 11SX248( F 図 11 2)

調査区東部 CM4区で検出した。近現代の井戸に切られている。前 11SI140の床面検出段階で検出した。平面形は円形で東西 1.5m、南北 2.35m で深さは 0.18m である。遺物は弥生時代前期の壺、後期の甕などの細片が出土している。

前 11SX321( F 図 11 2、P111 25)

調査区東部 CM4区で検出した。平面形は不整形で、東西 2.0m、南北 3.1m、深さ 0.93m を測る。上層より、明黄褐色粘質土、明黄橙色粘質土、暗黄褐色粘質土、明黄灰色粘質土が堆積している。遺物は全く検出できなかった。調査区内にこの遺構と同じく黄色土の堆積層が数ヶ所確認できたが、いずれも自然堆積の可能性が高い。

#### 4 遺物

個々の出土遺物の詳細については本文末に観察表を提示しているので、そちらを参照していただきたい。ここでは各遺構出土遺物の特徴的なものの所見や遺物群全体の相対的様相、推定可能な場合は年代を述べる。

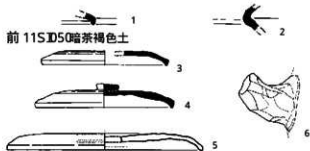
##### 出土土器・土製品

###### 掘立柱建物

前 11SB20出土土器( F 図 11 2& P111 27)

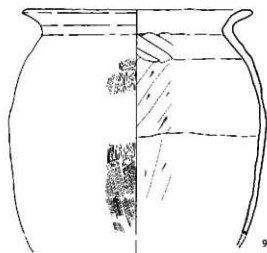
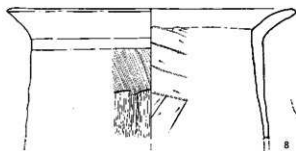
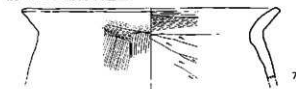
遺物の出土量は極少量だがそれぞれの柱掘り方から須恵器が出土している。図化した破片は蓋 3と甕の頸部である。ともに 8世紀代のもと考えられる。他には

前 11SB200

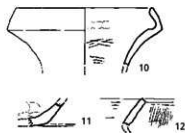


前 11SD50暗茶褐色土

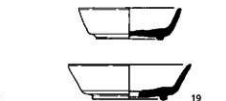
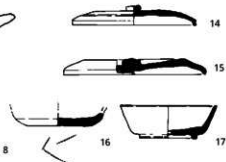
前 11SD50炭茶褐色土



前 11SD70炭灰色土



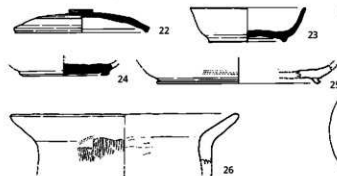
前 11SD80炭茶灰色土



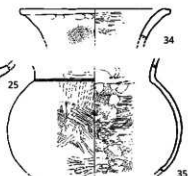
0 20cm

Fig 11 28 前田遺跡第1次調査 SB20Q SD5Q 07Q 08Q(1)  
出土遺物実測図

前 11SⅡ80系灰色土



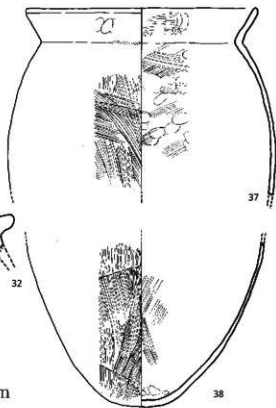
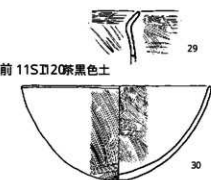
前 11SⅡ40系褐色土



前 11SⅡ00系褐色土



前 11SⅡ20系黑色土



0 20cm

F ig 11 29 前田遺跡第1次調査 SⅡ80( 2)、10Q、12Q、14Q出土遺物実測図

弥生時代後期末から古墳時代前期前半までの土器が出土しているが、他遺構からの混入品と判断している。

#### 竪穴住居

##### 前115D5出土土器 (F 11 28, P111 27)

須恵器と土師器が出土している。暗茶灰色土層出土の須恵器蓋 3-5の端部形状はやや丸みをもつ三角形を呈している。6の土師器の把手部は、襷もしくは甔のものだが、内面の傾斜から襷の可能性が高いと考えている。淡灰褐色土層と穴 6からは「く」の字形の口縁をもつ土師器の襷が出土している。この内の9は、体部が丸みを帯びており、頸部内側のケズリの稜が緩やか、色調が明黄色である等の古い要素を持っている。これに対して7・8は体部が直線的で、頸部内側のケズリの稜がきつい、色調が淡灰色であるなど新しい要素が見られる。遺物の下限は大宰府編年ではIII・IV期にあたる8世紀中～後半の土器群と考えられる。

##### 前115D7出土土器 (F 11 28)

この遺構からの出土量は少ない。18は後期の複合口縁壺の中では古い様相を呈している。弥生時代後期前半～中頃の土器群と考えられる。

##### 前115D8出土土器 (F 11 28, 11 29, P111 27, 11 28)

この遺構からは多くの遺物が出土している。暗茶灰色土層出土の須恵器蓋 14 15はともに外面天井部をヘラケズリで調整している。17-19は坏で、体部が直線的に立ち上がり高台を屈曲部よりやや内側に付けている。土師器椀 20、大皿 21は内外面にミガキが施されている。茶褐色土層からも須恵器・土師器が出土しているが、暗茶灰色土層より若干古い要素が見られる。遺物群の下限は大宰府編年ではII期にあたる8世紀中頃と考えられる。

##### 前115D10出土土器 (F 11 29, P111 29)

この遺構からは遺物の出土量は少ない。27は複合口縁壺で、屈曲の稜が外側に向かって張り出していることから新しい様相が認められる。28の襷は、体部と口縁部の接合部に突帯が付く。弥生時代後期中頃～後半の土器群と考えられる。

##### 前115D12出土土器 (F 11 29, P111 29)

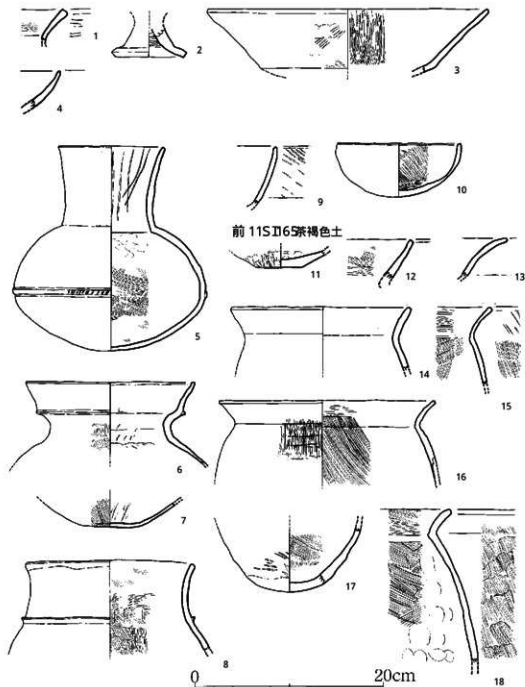
30は素口縁の鉢である。31は、胎土が精良で丁寧なミガキ調整が施される小型脚付き鉢である。32は支脚で上部の一部が角状に張り出している。弥生時代後期末～古墳時代前期前半の土器群である。

##### 前115D14出土土器 (F 11 29, P111 30)

34・35は壺で長頸形である。34の色調は灰白色で35は明赤褐色である。36は平底の壺の底部である。37は、く字形口縁襷。38は襷で底部がレンズ状底を呈して



前 11SⅡ55茶褐色土



前 11SⅡ65茶褐色土

F 号 11 30 前田遺跡第1次調査 SI155、165(1) 出土遺物実測図

前11S165茶褐色土

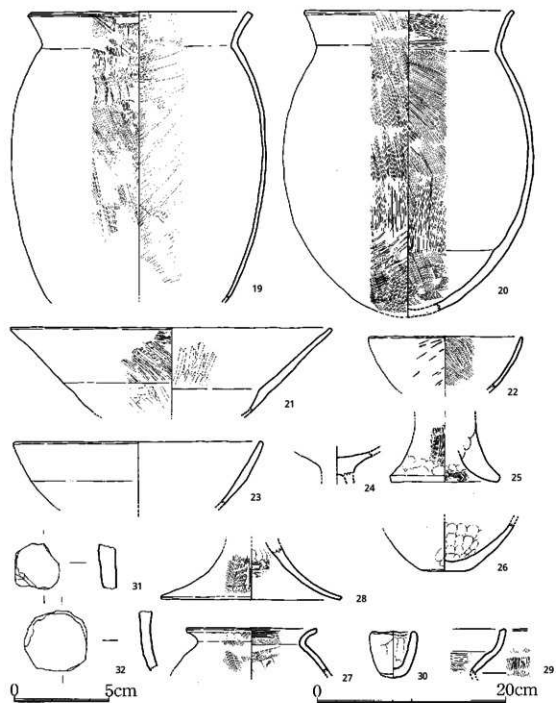
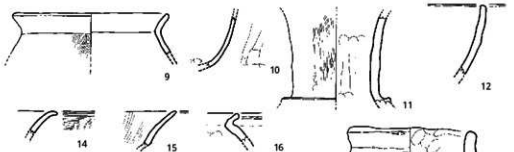
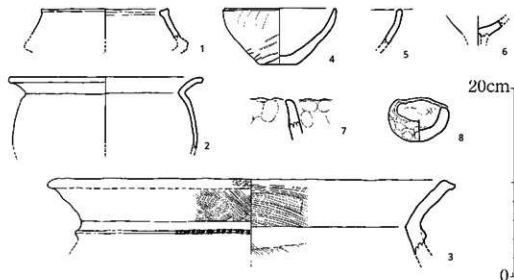
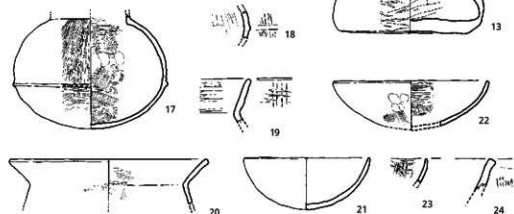


Fig 11 31 前田遺跡第1次調査 SI165(2) 出土遺物実測図

前 11SⅡ75茶褐色土

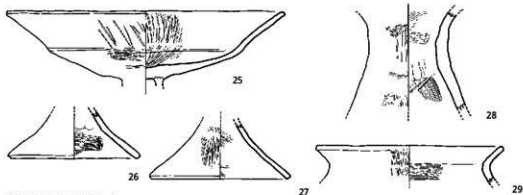


前 11SⅡ80茶褐色土

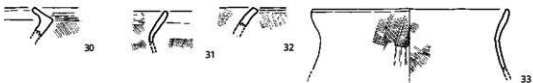


F 図 11 32 前田遺跡第1次調査 SI175、180(1) 出土遺物実測図

前 11SⅡ80茶褐色土



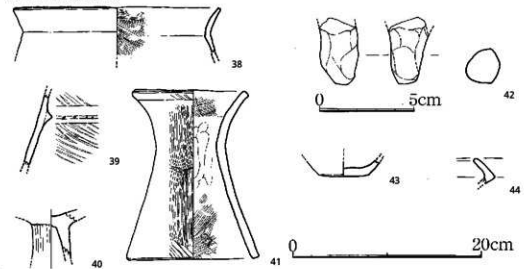
前 11SⅡ85茶褐色土



前 11SⅡ95茶褐色土



前 11SⅡ10茶褐色土



F 11 33 前田遺跡第1次調査  
SⅡ80 2、185、195、210出土遺物実測図

いる。3738は同一個体の可能性がある。弥生時代後期後半の土器群と考えられる。

前115Ⅱ55出土土器 (F 11 30, P111 30)

3は高坏で体部と口縁との屈曲がやや不明瞭である。茶褐色土d地点出土の壺9は広口形の口縁で完形に近い残存している。6は口縁が大きく外反してひらき、頸部との接合部には突帯が巡る二重口縁の壺である。7は底部で平底である。共に器壁は内面にヘラケズリが施されているためとても薄く2mm～5mm程度である。67は同一個体の可能性が高い。これらは布留式段階のもので器形から山陰系と考えられる。茶褐色土d地点出土の壺8は頸部に突帯が巡る。茶褐色土d地点出土の910は環形の鉢である。弥生時代後期末から古墳時代前期前半の土器群と考えられる。

前115Ⅱ65出土土器・土製品 (F 11 30, 11 31, P111 31, 11 32)

この遺構からは遺物が多く出土している。茶褐色土層出土の甕1419は、く字形の口縁、体部が砲弾形、底部が尖り気味の丸底等の特徴を有している。これらの属性は西新町式と共通しており、西新町Ⅱ式併行期と思われる(『高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ、福岡市埋蔵文化財調査報告書第79集一 福岡市教育委員会 1982)。茶褐色土12と淡黄色土29は、布留系甕である。茶褐色土3132は土器加工片である。弥生時代後期末～古墳時代前期前半の土器群と考えられる。

前115Ⅱ75出土土器・土製品 (F 11 32, P111 32, 11 33)

茶褐色土と灰黄色土から多くの土器が出土している。1は壺で複合状口縁を呈する。甕2は丸みを持つ体部と強く外反する、く字形口縁を呈する。甕3は頸部に突帯を持つ大型の甕である。胎土は白色鉱物を少量含み、色調は暗淡灰色を呈する。4は素口縁の鉢で外面にタタキ痕が残る。8はミニチュア土製品。11は丹塗りの壺である。13は鉢で平底で内湾する体部に直線的に延びる口縁部を有する。内外面に指頭圧痕が残存し、ケズリが施される。19は高坏の口縁部で、体部との屈曲部が明瞭である。弥生後期中頃～後半の土器群である。

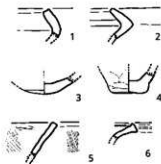
前115Ⅱ80出土土器 (F 11 32, 11 33, P111 33)

17は頸部より上部が欠損した壺である。20は口縁部が、く字形に外反する甕である。2122は弥生時代後期の小型鉢だが、古墳時代以降に隆盛する「椀」の器形の祖形と考えられている。25の高坏は体部と口縁部との接合部での屈曲が明瞭できる。弥生時代後期後半の土器も出土しているが、下限は古墳時代前期前半の土器群と考えられる。

前115Ⅱ85出土土器 (F 11 33, P111 33)

30は複合口縁壺の口縁である。33は甕で、外反が弱いく字形の口縁を呈する。弥生時代後期後半の土器群である。

前 11SⅡ20茶褐色土

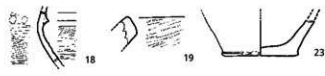


前 11SⅡ40茶褐色土



前 11SⅡ25淡茶褐色土

前 11SⅡ50茶褐色土



前 11SⅡ70茶褐色土



前 11SⅢ05茶褐色土



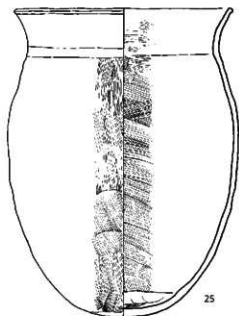
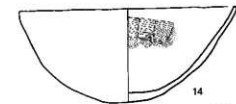
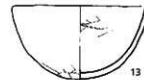
前 11SⅡ25茶褐色土



前 11SⅡ30



前 11SⅡ35茶褐色土



0 20cm

Fig 11 34 前田遺跡第1次調査 SⅡ20 225 230 235 240 250 255 270 305  
出土遺物実測図

前 11SⅡ95出土遺物 ( F Ⅱ 11 33 P 111 33 )

34 35は襦の口縁部で、くの字に外反している。39には頸部との屈曲部に突帯が巡る。36は襦の底部で、丸底気味である。弥生時代後期中頃の土器群と考えている。

前 11SⅡ10出土土器・土製品 ( F Ⅱ 11 33 P 111 34 )

38は、くの字形を呈し、緩く外反する口縁部をもつ襦である。39は突帯が施される襦。外面はタタキ調整でその後軽くナデ調整を施す。突帯の先端部に刻み目が施されている。41は完形に近い器台。42は不明土製品。小型の脚の可能性を考えている。43はやや丸底気味の壺の底部。44は複合口縁壺の口縁部。これらは弥生時代後期中頃～後半の土器群と考えられる。

前 11SⅡ20出土土器 ( F Ⅱ 11 34 P 111 34 )

1は複合口縁壺の口縁部である。1は口縁部が丸みを帯びており、2は直線的で稜が明瞭である。はV様式系壺の底部である。6は器台の口縁部で 2種の沈線が巡る。これらの土器群の所属年代は弥生時代後期後半から末と考えられる。

前 11SⅡ25出土土器 ( F Ⅱ 11 34 P 111 34 )

10は壺の底部の破片で平底に近い。11は鉢の体部の破片である。弥生時代後期中頃の土器群である。

前 11SⅡ30出土土器 ( F Ⅱ 11 34 P 111 34 )

13 14は素口縁の鉢である。14はほぼ完形で出土している。14の外面の底部に近い部位には焼成後と見られる黒斑があり、内面にも外面と対応する部位は器壁が淡灰褐色に変色している。このことはこの鉢が煮沸具としても使用されていた可能性を示唆する。弥生時代後期中頃の土器群である。

前 11SⅡ35出土土器 ( F Ⅱ 11 34 P 111 34 )

19は素口縁の鉢である。

前 11SⅡ40出土土器 ( F Ⅱ 11 34 P 111 35 )

16は平底の壺である。17は素口縁形の鉢である。弥生時代後期後半の土器群である。

前 11SⅡ50出土土器 ( F Ⅱ 11 34 P 111 35 )

18は壺の頸部である。屈曲部に断面三角形を呈する突帯が付いており、体部に近い部位に凹線が数条施されている。19は大型の襦の口縁部である。外面にはタタキ調整が施されている。弥生時代後期後半の土器群である。

前 11SⅡ55出土土器 ( F Ⅱ 11 34 P 111 35 )

20は壺の頸部である。外面に3本の凹線が巡っているが、これは板付式 跗段階か

らⅠ新段階の壺に良く見られる属性である。21は壺の底部。22 23は甕で板付式に相当すると考えられる。しかし22は口縁端部の刻み目が焼成不良のために確認できない。24は鉢で、口縁部は外反している。弥生時代前期前半〜中頃の甕である。

前11S270出土土器 (F 11 34, P111 35)

25は、く字形の口縁部、やや長胴形の体部、丸底の底部等の特徴から西新町Ⅱ〜Ⅲ式の甕と考えられる。26 27は高坏である。27は口縁部の立ち上がりの屈曲部に明瞭な稜が見られる。古墳時代前期前半の土器群と考えられる。

前11SB05出土土器 (F 11 34, P111 35)

遺物の出土量は極端に少なかった。28は甕で底部の破片である。平底。板付式。

#### 土坑

前11SK040出土土器 (F 11 35, 11 36, 11 37, P111 35, 11 36, 11 37, 11 38, 11 39)

大型の土坑から出土した土器群で層位的に取り上げている。その層位から見ると大きく3つの段階に分けられる。最終埋没、掘り返し、初期埋没である。以下各層群ごとの土器の大まかな様相をみていきたい。

最終埋没群出土 (灰赤色土、黄灰色土、茶灰色砂粘質土、灰茶色砂質土)の土器

これらの土器群の中で一番新しい要素を持つものは灰赤色土層から出土している。20須恵器坏dは、器壁が薄く焼成不良で色調は淡灰色を呈している。高台は低くつぶれた台形で、底部外側に近くに貼り付けられる。30須恵器大皿も同様に焼成不良で色調は淡灰色を呈している。40土師器坏dは他の遺構からの混入である可能性が高い。大宰府編年Ⅴ・Ⅵ期にあたる。灰茶色砂質土層からは土師器甕が多く出土している。24〜27はいずれも小破片ながら、内面のケズリがきついため、内面に明瞭な稜が見られ、口縁部は「く」の字形に大きく外反しているのが特徴である。高坏は須恵器 (黄灰色土5)と土師器 (灰茶色砂質土23)が出土しており両方ともb2型式である。これらの土器群は大宰府Ⅳ・Ⅴ期の様相に近いため推定年代としては8世紀後半から末期に比定できる。

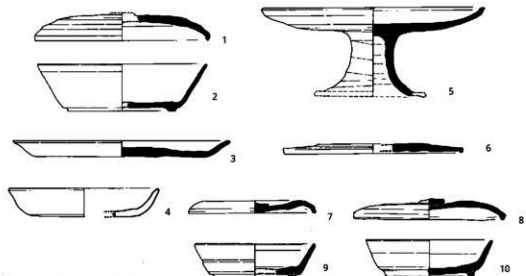
掘り返し (淡灰茶色土)の土器相

この層出土の須恵器坏dは、上層出土のものに比べて、高台を底部のやや内側よりに貼り付ける。35 36は須恵器高坏である。35は脚部が欠損しており、黄灰色土5に比べると口径が小さく、器壁も薄く、胎土が精良ではない。36はb2型式である。最終埋没群と比較すると若干古い型式が確認できる。これらの土器群は大宰府編年のⅣ期に相当すると思われる。



前 11SK040灰赤色土

前 11SK040黄灰色土



前 11SK040灰茶色砂質土

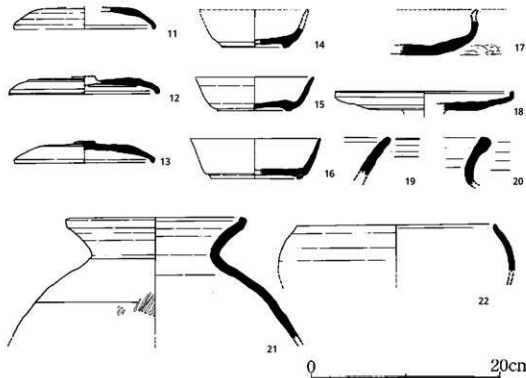
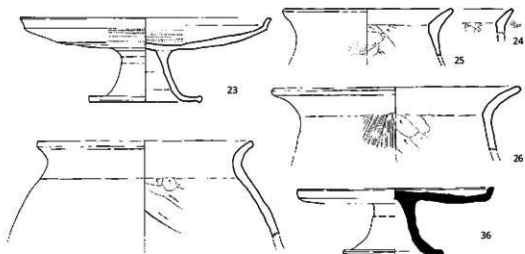
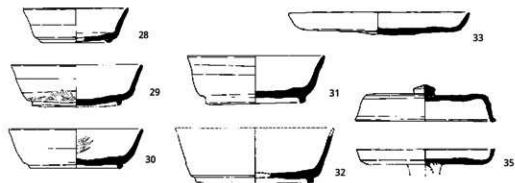


Fig 11 35 前田遺跡第1次調査 SK 040灰赤色土、黄灰色土、灰茶色砂質土 (1)  
出土遺物実測図

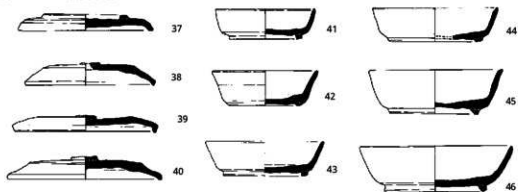
前 11SK040 灰茶色砂質土



前 11SK040 淡灰茶色土



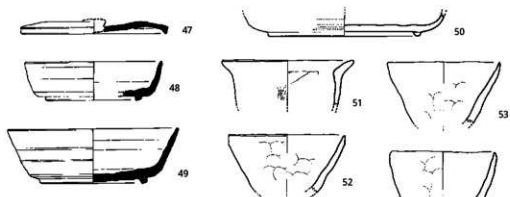
前 11SK040 淡黄茶色土



0 20cm

F 图 11 36 前田遺跡第1次調査 SK 040 灰茶色砂質土 2、淡灰茶色土、淡黄茶色土  
出土遺物実測図

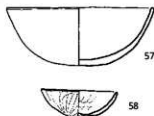
## 前 11SK040暗茶灰色土



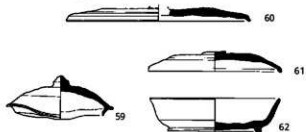
## 前 11SK040暗茶色粘質土



## 前 11SK150



## 前 11SK160



## 前 11SK275

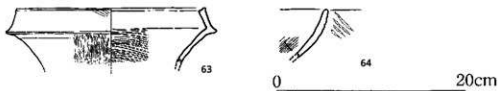
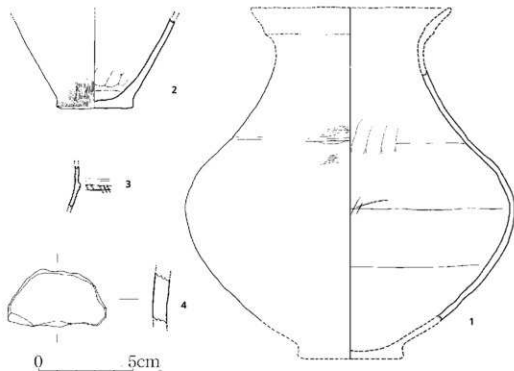


Fig 11 37 前田遺跡第1次調査 SK040暗茶灰色土、暗茶色粘質土、  
SK150 160 275出土遺物実測図

初期埋没（淡黄茶色土、暗茶色土、暗茶黄色粘質土）の土器相

須恵器坏dには、高台の断面形が逆台形を呈すもの（41～45 48 56）と、高台が外側に向かって張るもの（46 49）がある。高台が張るものの体部は丸みを帯びている。37は須恵器蓋bである。出土例は少なく本遺跡からは1個体しか確認できて

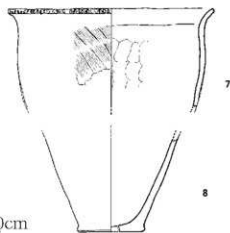
前 11SK289暗赤茶色粘質土



前 11SK289暗茶灰色砂質土



前 11SK289明茶灰色土



0 20cm

F 图 11 38 前田遺跡第1次調査 SK 289暗赤茶色粘質土、暗茶灰色砂質土、明茶灰色土出土遺物実測図

いない。口縁端部が平坦で断面四角形を呈する。蓋 a dは、口縁端部が断面三角形を呈し、天井部が回転ヘラケズリ(384055)と回転ナデ(3947)を施されるものとに分かれる。この層出土の蓋の外面調整を破片資料も含めて見てみると、回転ナデで調整するものの比率が高い傾向にある。50は土師器杯cで、色調は明黄赤色で胎土は精良、内外面にミガキが施される。51は土師器杯aが頸部内面のケズリによる稜は明瞭ではない。52-53は焼壇壺で森田編年Ⅱbに相当すると考えている。この層群の出土遺物は大宰府編年Ⅱ・Ⅱ期の様相に当てはまるため、8世紀前半から中頃の年代と推定できる。

前11SK150出土土器 (Fig. 11.37 P.111.39)

57は弥生土器の鉢で口縁形状は素口縁形である。58は小型の鉢である。内面に指圧痕跡が残り、外面はケズリの後にナデを施している。内面の色調は黒褐色を呈す。弥生時代後期中頃の土器群と考えられる。

前11SK160出土土器 (Fig. 11.37 P.111.33)

60は須恵器蓋Ⅳ。全体的に歪みが大きく、外面天井部にヘラ記号が施されている。6061は須恵器蓋c3。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。62は須恵器杯c。高台は低く外側に張り、底部の中よりに貼り付けられ断面台形を呈す。これらの土器群の下限は大宰府編年Ⅱ・Ⅱ期にあたる8世紀前半から中頃の年代と推定できる。

前11SK275出土土器 (Fig. 11.37 P.111.33)

63は複合口縁壺の口縁部である。64は素口縁の鉢。弥生後期中頃から後半の土器群。

前11SK285出土土器・土製品 (Fig. 11.38 P.111.40)

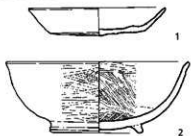
1は壺で口縁部と底部を欠く。板付式。2は甕の底部で平底である。板付式。3は突帯文系土器甕の体部中位にあたる破片である。突帯の頂部には刻み目が施される。4は土器加工片。5は甕の口縁部。口縁部に刻み目が施される。板付式。6は大形の壺の口縁部。甕棺に利用されることが多い。78は甕。板付式。これらは弥生時代前期前半の土器群である。

墳墓

前11ST075出土土器 (Fig. 11.39 P.111.41)

1は土師器杯a。底部はヘラ切りのち板状圧痕。大宰府編年X期。2は黒色土器B類碗。内外面にミガキCが丁寧に施される。高台は低く若干外側に張っている。III 3類(中島恒次郎「大宰府における碗形態の変遷」『中近世土器の基礎研究Ⅴ』1992 日本中世土器研究会)と思われる。これらは大宰府編年X期(10世紀後半～11世紀前半)の土器群である。

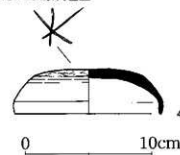
前 11ST075



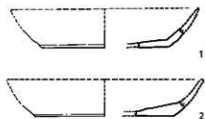
前 11ST090暗灰色土



前 11ST130赤褐色土



前 11SX010暗灰色土



前 11SX010淡茶色土

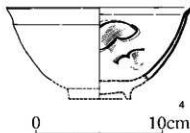


Fig 11 39 前田遺跡第1次調査 ST 075  
09Q 13出土遺物実測図

前 11ST090出土土器 ( Fig 11 39,  
P111 41)

3は土師器杯 a。底部ヘラ切り。口縁部外面に重ね焼き時に生じる色調の変化がみられる。土師器か須恵器か非常に判別が難しい個体である。底部から体部への立ち上がりが若干丸味を帯びるのが特徴的である。現時点では大宰府編年VIB期(9世紀前半)と考えておく。

前 11ST130出土土器 ( Fig 11 39, PL 11 41)

4は須恵器蓋 IV。外面天井部は手持ちヘラケズリで、ヘラ記号が施される。焼成不良のため色調は淡赤褐色を呈す。7世紀か。

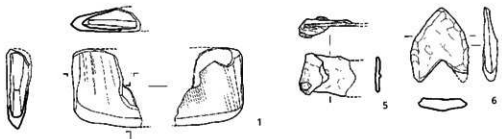
前 11SX010出土土器 ( Fig 11 40, P111 41)

Fig 11 40前田遺跡第1次調査 SX 010  
出土遺物実測図

前 11SⅡ20赤褐色土

前 11SⅡ75赤褐色土

前 11S180赤褐色土



前 11SⅡ65赤褐色土

前 11SⅡ65黒茶色土

前 11SK040灰赤色土

前 11SK040灰茶色砂質土



前 11SK040淡黄茶色土

前 11SK040灰茶色土

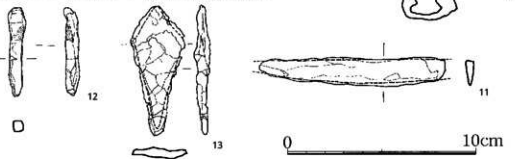


Fig 11 41 前田遺跡第 11 次調査 SⅡ20 165 175 180 SK040  
出土金属器実測図

1 2は土師器坏 a 1は底部糸切り。2は底部ヘラ切り。3は白磁 V 2 類碗。4は龍泉窯系青磁 I 類碗。これは大宰府編年 X IV 期（1 世紀中頃）の土器群である。

### 金属器

前 11SⅡ20出土金属器（Fig 11 41, P111 42）

1は青銅製鋤先である。全長 4.35cm。袋基部の幅 3.6+ cm、厚さ 1.3cm、刃部の長さ 0.6~0.9cm、幅 3.6+ cm、厚さ 0.6cm、袋部内法の長さ 3.3cm、幅 2.7+ cm、厚さ

前 11ST090

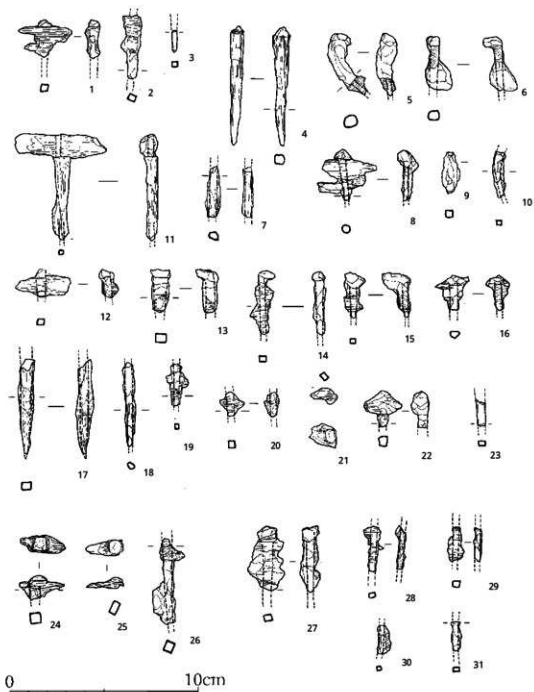


Fig 1142 前田遺跡第1次調査 ST090出土金属器実測図(1)



前 11ST090

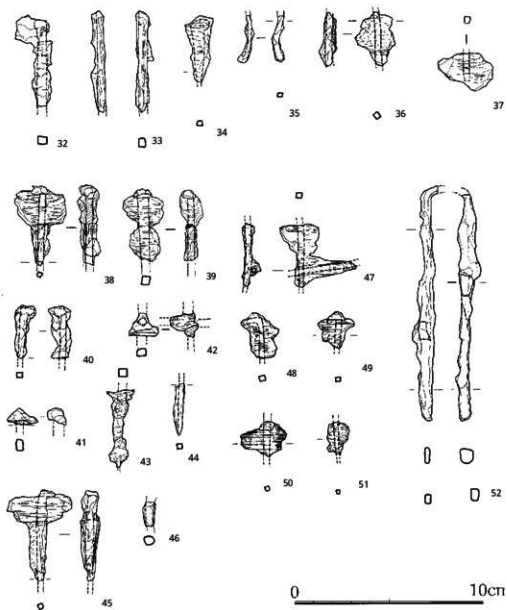


Fig 1143 前田遺跡第1次調査 ST090出土金属器実測図(2)

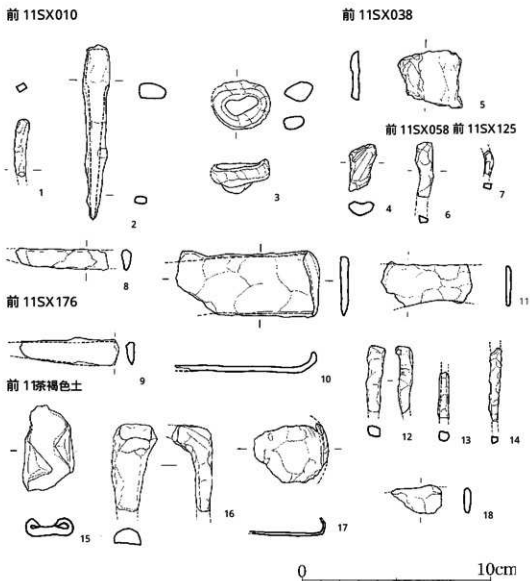


Fig 1144 前田遺跡第1次調査 SX010 038 058 125 176 茶褐色土  
出土金属器実測図

06~11cmを測る。刃部は中央部付近が変形して広がっている。

前 11SI165出土金属器 (Fig 1141, P11142)

2は不明鉄製品である。U字形の断面形状から鉋の可能性が考えられる。34は不明鉄製品であるが断面形状は二等辺三角形を呈しており刀子の可能性が高い。

前 11SI175出土金属器 (Fig 1141, P11142)

5は不明鉄製品である。幅2mの鉄板を長さ15m程度に折り曲げており、端部から13mの所に直径5mmの紙のようなもので留めている。

前 11S1180出土金属器 ( Fig 11 41, P111 42)

6は鉄鏃である。三角形を呈し、抉りが深く無莖である。一部欠損している。

前 11Sk040出土金属器 ( Fig 11 41, P111 42)

7-9 11は鉄釘である。10は袋状鉄斧で刃部は欠損している。12は鉄鏃である。先端部は菱形で有莖である。13は不明鉄製品である。刀子か。

前 11ST090出土金属器 ( Fig 11 42, 11 43, P111 42, P111 43)

1-5は鉄製の釘である。これらの釘はすべて棺をとめるための釘と考えられる。完形のもの無く、木質の変化から棺材の厚さは約2mと見られる。5は鉄製毛抜きである。

前 11SX010出土金属器 ( Fig 11 44, P111 44)

1は鉄釘である。2は鉄鏃である。上部は台形型で、先端部にくにしたがって狭まり、莖は直線的に伸びる。3は不明鉄製品である。下部方向に伸びる軸に輪状の上部がつくものと思われる。

前 11SX038出土金属器 ( Fig 11 44, P111 44)

4 9は不明鉄製品である。

前 11SX059出土金属器 ( Fig 11 44, P111 44)

6は鉄釘である。

前 11SX125出土金属器 ( Fig 11 44, P111 44)

7は鉄釘である。

前 11SX176出土金属器 ( Fig 11 44, P111 44)

8は不明鉄製品である。両端を欠損しているが、断面形状が二等辺三角形形状を呈しているため鉄製刀子の可能性はある。

前 11茶褐色土出土金属器 ( Fig 11 44, P111 44)

10は現存の長さ76cm、幅36cm、高さ15cmを測る。刃を丸く巻き込むように折り曲げられていることから鉄鎌と考えられる。刃部に当たる部分には刃の痕跡を見つけることができなかったために断定はできない。11は不明鉄製品であるが10と同様の鉄鎌の可能性はある。12-14は鉄釘である。15は袋状鉄斧と考えられる。両端を欠損している。両側から鉄板を折り曲げて袋状にしていたと考えられる。16は不明鉄製品である。形状から鋸の可能性も考えられる。17は不明鉄製品である。合子の身になる可能性があるが、年代的には新しいものと考えられる。18は不明鉄製品であるが刀子の可能性はある。

## 石器・石製品

前 11S1050出土石器 (Fig 11 45, P111 44)

1は黒曜石の剥片である。2は黒曜石で微細剥離が認められる剥片である。

前 11S1080出土石器・石製品 (Fig 11 45, P111 45)

3は磨石。扁平な楕円形を呈し底面に平坦な窪みがある。火成岩製。4は磨製石斧である。体部下位両端の範囲に4~4.7cmにわたり確認された傷は柄装着時に付いたと考えられる。研磨は全体に及んでいるが、深い部位には及んでいない。刃部には斜位に多くの細擦痕が観察されるが、これは使用時のものと思われる。黒色片岩。5は安山岩を用いた石鏃で基部の挟りが深い。

前 11S1100出土石器 (Fig 11 45, P111 44)

6は安山岩を用いた石鏃で基部の挟りは浅く、先端部と基部の一部が剥離している。7は緑色片岩製の石包丁である。

前 11S1120出土石器 (Fig 11 46, P111 45)

1は黒曜石を用いた石鏃である。他に比べて肉厚である。2は黒曜石を用いた石鏃だが、形態から未製品と思われる。

前 11S1175出土石器 (Fig 11 46, P111 45)

3は黒曜石製石鏃で基部の挟りはほとんど認められない。非常に丁寧な調整を施しており、薄いつくりをしている。

前 11S1210出土石器・石製品 (Fig 11 46, P111 45)

4は黒曜石を用いた石鏃で基部には挟りを施し全体の調整は丁寧である。5は玄武岩製の台石である。中央に敲打痕が集中する。6は泥岩製の砥石である。扁平な長方形であったものが欠損してこのような形状になったと思われる。

前 11S1220出土石製品 (Fig 11 46, P111 45)

7は砂岩製の砥石である。断面四角形だが部分的に磨耗が進んでいるため断面は台形を呈す部位もある。四角柱状だったものが欠損によりこのような形状になったと思われる。

前 11S1255出土石器・石製品 (Fig 11 46, 11 47, P111 45)

8は安山岩を用いた石鏃である。風化が進んでいる。9は黒曜石の石核である。一面を多方向に利用しており剥離の手法は一定していない。10は泥岩製の砥石である。主要な使用面は2面で、それぞれに対応するように指がかかる窪みが存在している。

前 11S1260出土石器 (Fig 11 47, P111 45)

前 11S D50 暗茶灰色土

前 11S D50 淡灰褐色土

前 11S D80 暗茶灰色土

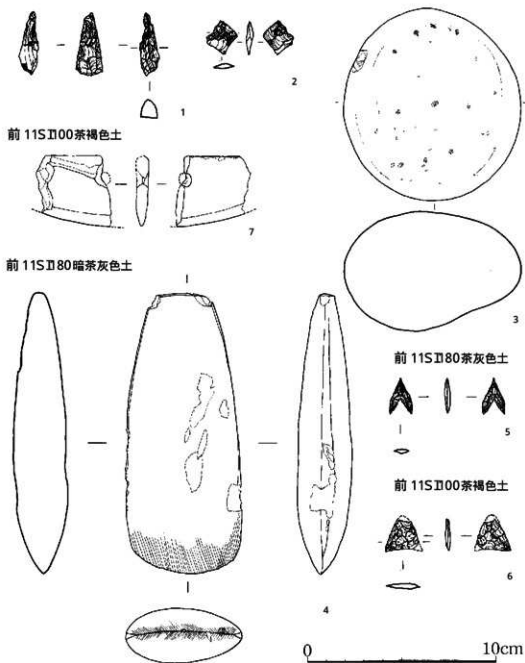


Fig 1145 前田遺跡第1次調査 S D50, 08Q, 10出土石器・石製品実測図

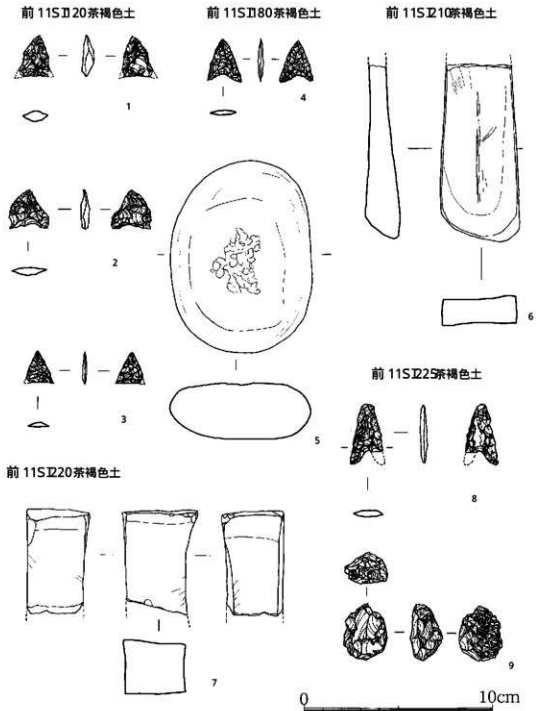
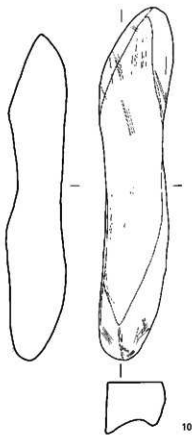
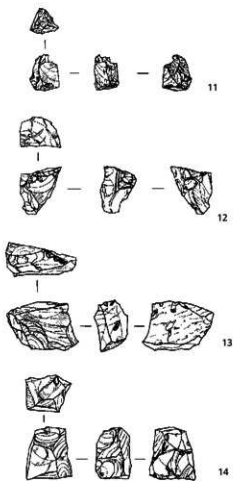


Fig 1146 前田遺跡第1次調査 SI12Q 175 18Q 21Q 255  
出土石器・石製品実測図(1)

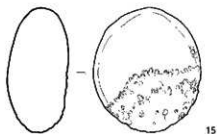
前 11S225茶褐色土



前 11S260茶褐色土



前 11S270茶褐色土

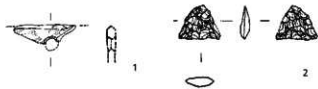


前 11ST130茶褐色土



Fig 1147 前田遺跡第1次調査 SJ255( 2)、260、270、ST 130  
出土石器・石製品実測図

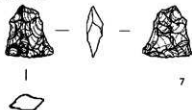
前 11SK040 淡黄色土



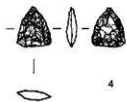
前 11SX002



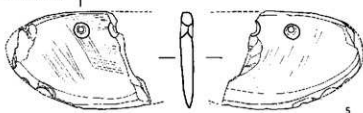
前 11SX113



前 11SX039



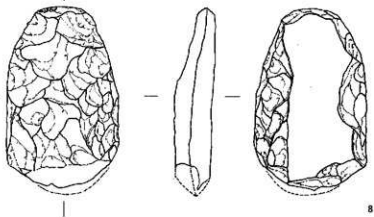
前 11SX058



前 11SX076



前 1茶褐色土



0 10cm

Fig 1148 前田遺跡第1次調査 SK040、SX002 039 058 076 茶褐色土 (1)  
出土石器・石製品実測図



前 11SX248

前 11SX茶褐色土

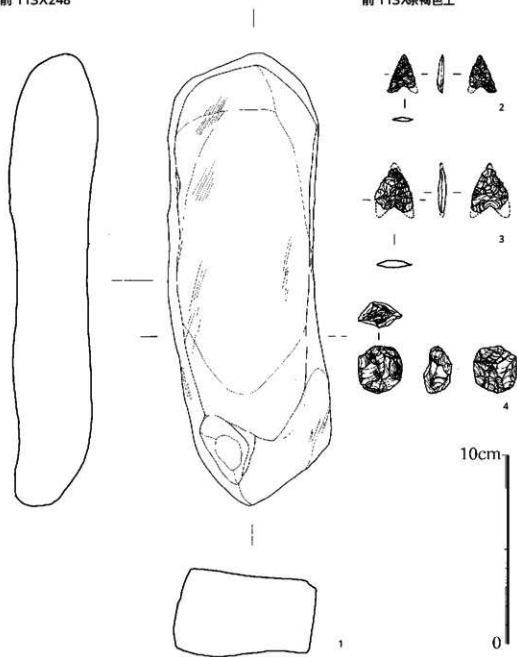


Fig 1149 前田遺跡第1次調査 SX248 茶褐色土 (2) 出土石器・石製品  
実測図

11～14は黒曜石の石核である。11～14は多方向から複数の剥離面で打面がつくられている。

前 11S270出土石製品 ( Fig 11 46, P111 45)

19は火成岩製の磨り石である。下半部は表面が磨耗しておらず、ざらついている。

前 11ST130出土石器 ( Fig 11 46, P111 45)

16は黒曜石を用いた石鏃である。基部に挟りが施される。

前 11SK040出土石製品 ( Fig 11 48, P111 46)

1は泥岩製の石包丁である。2は黒曜石を用いた石鏃である。

前 11SX002出土石器 ( Fig 11 48, P111 47)

3は黒曜石の剥片で微細剥離が認められる。

前 11SX039出土石器 ( Fig 11 48, P111 47)

4は黒曜石を用いた石鏃である。基部に挟りは認められない。

前 11SX058出土石器 ( Fig 11 48, P111 46)

9は小豆色の輝緑凝灰岩製の石包丁である。紐穴間の芯心距離は21cm、背までは09cmである。

前 11SX076出土石器 ( Fig 11 48, P111 47)

8は黒曜石を用いた石鏃である。本遺跡出土の他の石鏃に比べると小型である。

前 11SX113出土石製品 ( Fig 11 48, P111 47)

7は黒曜石の剥片で微細剥離が認められる。

前 11SX248出土石製品 ( Fig 11 49, P111 47)

1は泥岩製の大型の砥石である。全面を使用しているが、特に上面と右側面の使用が顕著である。

前 11茶褐色土出土石器・石製品 ( Fig 11 48, 11 49, P111 47)

8は緑色変成岩製の打製石斧である。刃部は欠損している。23は黒曜石を用いた石鏃である。2の基部の挟りは深い。3は全体に造りが雑であり未製品の可能性もある。4は黒曜石の石核である。不定方向から打ち割られて菱形を呈している。

#### 4. 前田遺跡第1次調査の小結

##### 時代別遺構形成の概観

以上、検出した主要な遺構、遺物について述べたが、ここでは本調査区における時代別の所見の総括をおこなっておきたい。

弥生時代以前

本調査区内では旧石器時代の遺構、遺物は検出されなかった。縄文時代については、弥生時代の住居内埋土から後期、晩期の土器片が若干量出土している。出土土器の分布をみると、後期の土器片は前 11SI100・210・280から、晩期の土器片は前 11SI180から出土しており、傾向として調査区中央部東よりに集中して分布していることがわかる。このあたりに当該期の遺構が存在していたとすれば、明確な遺構を伴わない利用形態だったと思われる。これは前田遺跡の前報告で述べられているような小規模なキャンプ地という性格があてはまるだろう。

#### 弥生時代前期

この時期に該当する遺構は前 11SI255・260・265 前 11SK285があげられる。ただし前 11SI260・305は積極的な時期比定が難しいため可能性があるという程度にとどめておきたい。

前田遺跡全体からみた場合に本調査地区は、前期前田集落の中心部からやや南西に外れた場所に位置する。それは遺構の展開にも表れており、住居とそれに付随する貯蔵穴という組み合わせとしては検出率が少ないため、判断は付けにくい。集落内の位置づけなどは連接する調査の成果が出された時点で考えていくべきと思われる。

#### 弥生時代後期

本調査では当該期の住居が密集しており活動が盛んだったことを思わせる。時期別にみていくと、後期前半～中頃の住居は前 11SI070、中頃～後半は前 11SI100 195 210 230 後半～末は前 11SI140 175 185 220 225 270などである。厳密な時期の特定はできないが後期の住居として前 11SI170 240 250も含まれる。それぞれの時期で竪穴住居が構築されているが、規模・方位などの明確な規則性は認められない。とくに後期から末期にかけては調査区北部に帯状に密集しており、住居の建て替えが盛んだったことを示している。今回はあまり検討ができなかったが、残された課題の一つとして、前田遺跡の弥生時代後期から古墳時代前期前半にかけての集落変遷の分析が上げられる。これには当然周辺の生活環境の復原が不可欠であり、周辺遺跡との関係の中で弥生時代から古墳時代へ移行する段階での太宰府地域の歴史がより深く理解できるものと考えられる。

#### 古墳時代前期

前期初頭の布留式段階の住居が多く、弥生時代後期末葉から連続して形成されたと思われる。前 11SI120 155 165 180があげられる。ただしこれに継続する遺構は検出していない。

#### 奈良時代

8世紀中頃～後半に掘立柱建物1棟、竈付き竪穴住居2棟、大型土壇2個が併存している。前115B20Qは正方位に近い振れを持つ大型掘立柱建物で、各々の掘り方の断面形状が有段を持つ特色を有する。同様な構造を持つ掘立柱建物が前田遺跡第1次調査でも検出されている。竈付き竪穴住居は出入口を2棟とも南西方向に向けている。その理由としては前田遺跡第4次調査で検出されている古代官道（西門ルート）と同時期に併存していることが理由の1つと思われる。つまり官道から竪穴住居の入口が直接見えないようにする視覚的な規制が存在した可能性がある。周辺の調査事例と合わせて今後検討していきたい。前115K04Qは最終的には8世紀後半から末期に埋没しているが、最初に掘られたのは8世紀前半である。多量の土器が廃棄されていた土壇だが、その大きさゆえ生活に関連する性格とは考え難く、何らかの祭祀に関連した土器を継続して廃棄した土坑の可能性もあるだろう。これらの奈良時代の遺構群は前田遺跡第7次調査の奈良時代の遺構群とほぼ同時期であるため密接な関連性があると考えている。ただし、前115B20Qと前115K04Qはそれらよりも若干先行する可能性を示唆しておきたい。

#### 平安時代

平安期になると、隣接する宮ノ本丘陵を中心に展開していた墳墓群は前田遺跡の範囲まで下ってくる。前115T09Qは木棺墓で、副葬品から9世紀前半から中頃と考えられ、方位は東へ大きく振れる。前115T13Qは削平を受けているため不明な点が多いが、方位の振れが近いため前115T09Qと同じ時期の木棺墓と推定しておきたい。また前115T07Qは副葬品の土器から10世紀後半から11世紀前半の時期に帰属すると思われ、方位の振れはなくほぼ正方位に近い。

#### 中世

1世紀以降、土地利用としては鎌倉時代までは何らかの土地利用がされていたと思われるが、ビットや土坑などが主で遺構の性格の把握は難しい。前115X01Qは墓の可能性が指摘できるが大きく削平を受けており判断が難しい。それら以後、昨今まで耕作面として利用されていたと思われる。

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表1

表土		石製品	OB CORE 3、OB F 109
須恵器	坏 c 椀		OB AP 2、OB 雑 1
土師器	坏 a 皿、椀、		OB RF 1、打製石鍬 1
石製品	OB AP 1、OB F 2		AND F 7
国産陶器	白磁椀	国産陶器	椀、壺
白磁	椀 1	白磁	椀；V VII VIII ?
弥生土器 後中	壺、椀	弥生土器 前	椀
後後	椀	弥生土器 後	壺、椀、高坏、支脚
		弥生土器 後中	壺、椀、高坏
		弥生土器 後後	大椀、鉢、高坏、支脚
攪乱		金属製品	鎌、刀子、鉄釘、不明
須恵器	坏 c3 坏、椀	S 1	
土師器	古式土師器高坏、椀		
石製品	OB F 3、AND F 1	須恵器	坏 皿
国産磁器	白磁椀	土師器	坏
白磁	片	弥生土器	片
弥生土器 後中	椀		
		S 2	
西壁		弥生土器 後	椀
須恵器	坏		
越州窯系青磁	椀 1	S 2黒褐土	
石製品	AND F 1		
国産磁器	白磁椀	石製品	OB RF 1
		弥生土器 後	壺
調査区西壁住居		S 2灰土	
弥生土器 後中	椀	弥生土器	片
灰茶砂		S 3	
須恵器	蓋 3 坏 c3		
土師器	椀	土師器	椀
弥生土器	片	弥生土器	片
茶褐土		S 3茶褐土	
須恵器	蓋 3 坏 a 坏 c3 椀、鉢、鉢 b	弥生土器 後	椀
	蓋 c 短頸壺、長頸壺、高坏		
土師器	坏 a 高坏、椀、甕	S 3黒褐土	
	壺（山陰系）、小型丸底壺	弥生土器 後中	壺、椀
	古式椀		
黒土器 B	椀		
瓦類	平瓦（繻目）、無文セン		

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表2

S 4		S 11	
弥生土器 後中	壺	土師器	椀
弥生土器 後後	椀	石製品	OB F 1
S 5		S 12	
土師器	椀		
弥生土器	片	石製品	OB F 1
		弥生土器 後前	高坏
S 6		弥生土器 後中	椀
		S 13	
土師器	椀		
弥生土器 後	椀	須恵器	坏
S 7		土師器	鍋
		中国陶器	壺; 褐釉 1
弥生土器 後	椀		その他; 無釉陶器 1
		弥生土器	片
S 8		S 14	
石製品	OB F 1		
弥生土器	片	弥生土器	片
S 10 茶灰土		S 15	
須恵器	坏、椀	須恵器	坏 a 坏 c3 椀
土師器	坏 a 坏 c3 椀	瓦類	平瓦(錆目)(1)
黒土器 A	椀	石製品	OB F 2、AND F 1
瓦器		弥生土器	椀
石製品	OB F 3	弥生土器 後中	大壺
白磁	椀; V、V	S 16	
弥生土器	片		
金属製品	刀子、鉄釘、不明	須恵器	坏 a
S 10 暗茶灰土		弥生土器	片
		S 17	
須恵器	蓋 3 坏 c3 高坏、椀		
土師器	小皿 a	須恵器	坏 c3
瓦器	椀	黒土器 A	椀
白磁	椀; V VII	瓦器	椀
S 10 淡茶土		弥生土器	片
		S 18	
土師器	坏 a		
龍泉窯系青磁	椀 c; I3	弥生土器	片
白磁	椀 1		

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 3

S 19			S 30a	
弥生土器	片			
S 21			弥生土器	片
石製品	OB F 1		S 30b	
弥生土器	片			
			石製品	OB F 2
S 22			弥生土器	片
弥生土器	片		S 30c	
S 23			須恵器	椀片
			弥生土器	片
弥生土器 後	壺			
			S 31	
S 24				
			土師器	坏 a 椀、鍋
須恵器	坏		瓦器	片
土師器	片	同安曇系青磁		皿; X 1
弥生土器	片	弥生土器		片
S 25			S 32	
須恵器	坏 c3		弥生土器	片
石製品	AND F 1		弥生土器 後	椀
弥生土器 後	椀、鉢、支脚			
			S 33	
S 26				
			須恵器	坏、坏 c3
弥生土器 後	壺		土師器	椀
			瓦器	椀
S 27			石製品	OB F 1
			白磁	椀; 片 1
石製品	OB F 2		弥生土器 後後	椀
弥生土器 後	壺、高坏			
			S 34	
S 28			土師器	坏 a
須恵器	椀		S 35	
弥生土器	片			
			須恵器	蓋 3 蓋 c 坏 c3
S 29			土師器	蓋 3 坏 a 坏 c3 椀
			石製品	OB F 2、AND F 1
須恵器	椀、小蓋 1		弥生土器 前	壺
土師器	古式土師器壺		弥生土器 前中	椀
弥生土器 後	椀、高坏		弥生土器 後後	壺、椀
弥生土器 後後	壺、椀			

Tab 11 15 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 3

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表4

S 36		S 40 暗茶土	
須恵器	片	須恵器	蓋VI 坏身IVB、坏c3 椀
弥生土器	片		蓋c3 坏c 大坏c
		土師器	蓋c3 坏c 大坏c3 皿c 椀
S 37			大坏c 椀
弥生土器	片	製塩土器	焼塩壺Ⅱb
		石製品	OB F 4
S 38		弥生土器 後後	器台
石製品	OB F 2		
弥生土器 前前	椀	S 40 暗茶黄粘	
弥生土器 後	支脚、器台		
弥生土器 後中	椀	須恵器	椀、蓋3 坏c 坏c3
金属製品	不明鉄製品	土師器	高坏椀、小椀、移動式甌
		石製品	OB F 1、OB CORE 1
S 39			OB F 7、姫島産OB F 1
		弥生土器 後	高坏
須恵器	椀	弥生土器 後後	椀
土師器	坏 a	土製品	製塩土器
石製品	OB AP 2、OB F 2		
中国陶器	褐釉壺 2	S 40 黄灰土	
弥生土器 後	器台		
		須恵器	蓋3 高坏
S 40 暗茶褐粘土		土師器	移動式甌
石製品	OB F 1	S 40 茶灰土	
S 40 茶灰砂粘			
		須恵器	蓋、坏身IVB、坏c3
		土師器	椀
須恵器	蓋3 蓋c3 坏c 坏c3 高坏 1	弥生土器	片
土師器	椀	土製品	製塩土器
S 40 淡黄茶土		S 40 赤灰土	
須恵器	坏身IVB、高坏、椀、鉢 蓋c	金属製品	鉄釘、不明
	蓋b 蓋c3 大坏、坏c 坏c3		
土師器	坏c3 高坏、高坏 ?	S 40 灰赤土	
石製品	磁石 1、OB F 8		
	OB AP 1、AND F 1	須恵器	坏身IVB、坏c3 皿、壺蓋
	石包丁 1		蓋3 蓋c3 大坏c 皿a 椀
弥生土器 後中	壺		大皿a
弥生土器 後後	長頸壺	土師器	椀
金属製品	鉄釘	石製品	OB F 1
		弥生土器 後	高坏、片
		弥生土器 後後	器台
		土製品	焼土塊



前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表5

S 40 灰黄茶砂		S 44	
須恵器	坏	須恵器	蓋、鉢 b
土師器	甕	石製品	OB F 6
弥生土器	片	弥生土器	片
S 40 淡灰茶土		S 45	
須恵器	蓋 3 小蓋 1 坏 c 壺蓋 大坏 c 坏 c3 大皿 a	須恵器	小蓋 V 1
	高坏	S 46	
土師器	坏 c3 高坏、高坏 ?、甕		
弥生土器	片	石製品	OB F 1
金属製品	鉄鍬	弥生土器 後	高坏
		弥生土器 後後	甕
S 40 灰茶砂		S 47	
須恵器	蓋 3 蓋 c3 坏身 IVB 坏 c3 壺 蓋 c 坏 a 坏 c 高坏、甕、鉢 盤、小甕	弥生土器	片
土師器	大坏 c 高坏、高坏 蓋、甕 甕 a	S 48	
瓦類	平瓦・無文 1	弥生土器 後	高坏
石製品	OB F 3		
弥生土器 後中	壺	S 49	
金属製品	鉄斧、刀子		
須恵器	坏 c 2	須恵器	甕、坏 c3
土師器	坏 1、大坏 c 1	石製品	OB F 1
弥生	片	弥生土器 後後	甕、片
S 41		S 50 淡灰褐土	
弥生土器	片		
		土師器	蓋 3 坏 c3 甕
S 42		弥生土器	片
須恵器	坏、長頸壺	S 50 カマド本体	
弥生土器 後中	壺		
		土師器	片
S 43			
		S 50 黒茶土	
土師器	坏 c		
弥生土器 後前	甕	弥生土器 後	支脚

Tab 11 17 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表5

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表6

S 50 暗茶灰土		S 55 暗茶土	
須恵器	蓋、蓋 c3 坏、甕、鉢 b	石製品	磨石
土師器	蓋 3 甕、甕把手	弥生土器 後前	甕
石製品	OB 錐 1	弥生土器 後中	壺、器台
弥生土器 後	甕、高坏、片	弥生土器 後後	甕、高坏
S 50 白黄砂土		S 55 黄茶砂	
弥生土器 後	高坏	須恵器	甕
		土師器	甕 (布留系)
S 50 赤茶土		弥生土器 前	甕
		弥生土器 後	壺
弥生土器	片	弥生土器 後前	甕
		弥生土器 後中	甕
S 50a		弥生土器 後後	壺、甕
須恵器	蓋 c (転用碗)	S 56	
土師器	甕、甕 a		
弥生土器	片	弥生土器	片
S 51		S 58	
土師器	甕	須恵器	坏 c
		土師器	片
		石製品	石包丁 1
S 52		弥生土器	片
弥生土器	片	S 59	
S 53		須恵器	蓋 c3 坏、長頸壺
		石製品	軽石 1
須恵器	坏 a	弥生土器 後中	壺
弥生土器	片	弥生土器 後後	甕、高坏、支脚
		金属製品	鉄釘
S 54			
		S 61	
弥生土器	片	弥生土器	片
S 55 柱痕		S 62	
石製品	OB F 1		
弥生土器	片	弥生土器	片
		S 63	
		須恵器	長頸壺

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表7

S 64		S 65 淡灰褐粘	
弥生土器	片	弥生土器	片
S 65		S 67	
弥生土器	甕、高坏、片	須惠器 土師器	蓋3 坏、片 坏
S 65 茶褐粘		弥生土器	片
弥生土器 後	壺、高坏、支脚	S 68	
弥生土器 後中	甕		
S 65 茶灰粘		土師器	甕
		弥生土器	片
弥生土器	片	弥生土器 後	壺、器台
S 65 灰黄砂		S 69	
		弥生土器	片
須惠器	片(混入か)		
石製品	OB F 1	S 70 茶灰土	
弥生土器 後前	甕		
弥生土器 後中	甕	須惠器	坏、甕(混入か?)
S 65 褐灰土		土師器	坏
		石製品	砥石 1、OB F 6
須惠器	蓋3(混入)	弥生土器 後	複合口縁壺、支脚
弥生土器 後	高坏、器台	弥生土器 後中	壺、甕、高坏
弥生土器 後前	甕		
弥生土器 中	壺、甕	S 70 灰黄土	
S 65 黄褐砂		弥生土器	片
弥生土器	片	S 70a	
		土師器	甕片(混入か?)
S 65 褐灰粘		弥生土器	片
弥生土器 後中	高坏	S 70b	
弥生土器 後後	甕	弥生土器	片
S 65 茶褐土		S 71	
弥生土器	片	須惠器	坏
		石製品	OB F 1
S 65 暗灰砂		弥生土器	片
弥生土器 中	壺		

Tab 11 19 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表7

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 8

S 72		S 80 茶灰土	
弥生土器	片	須恵器 土師器	蓋 3 蓋 c3 坏、坏 c3 甕 坏、坏 c 皿 c 大坏 c 坏 c3
S 73		石製品	AND AP 1
須恵器	坏	弥生土器 前中	甕
土師器	片	弥生土器 後	高坏
弥生土器	片	S 80 茶褐土	
S 74		須恵器	坏、甕
須恵器	坏	土師器	蓋 3 甕
弥生土器	片	弥生土器 前中	甕
		弥生土器 後	甕、高坏、器台
S 75		S 80 暗茶灰土	
須恵器	坏、坏 c3	須恵器	蓋 3 蓋 c3 坏 c 坏 c3 甕
土師器	坏 a 1、坏 c3	土師器	大坏 c 皿 a 甕
黒土器 B	碗 1、碗 c	石製品	縄文系石斧 1、磨製石斧 1
弥生土器 後	甕		磨き石 1、磨石 1
		白磁	碗；V（混入か）
S 75 灰茶砂		弥生土器 後	高坏
弥生土器	片	S 80 褐灰土	
S 76		須恵器	蓋 3
石製品	OB AP 1、OB F 1	土師器	片
弥生土器	片	弥生土器	片
S 77		S 80 曬茶褐土	
須恵器	坏	弥生土器	片
弥生土器 後中	壺	S 80 暗茶褐土	
S 78		弥生土器	片
弥生土器	片	S 81	
S 79		土師器	甕
弥生土器	片	弥生土器 後後	支脚
		S 83	
		須恵器	片
		土師器	片

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表9

S 84		S 90 明灰黄土	
弥生土器	片	金属製品	毛抜き、鉄釘、釘(木質のみ)
S 85		S 90 暗灰土	
石製品	OB F 1	須恵器	蓋 3 蓋 c
弥生土器 後前	甕	土師器	坏、坏 a 甕
		弥生土器	片
S 86		金属製品	鉄釘
弥生土器 後	甕、高坏	S 90 北部	
S 87		金属製品	鉄釘 7
石製品	OB F 1	S 90 南部	
弥生土器 前	壺		
弥生土器 後中	壺	金属製品	鉄釘 11
S 88		S 90 北西部	
須恵器	坏 c3	土師器	鉢 b
土師器	片		
弥生土器	片	S 90 北西暗灰土	
S 89		金属製品	鉄釘 7
土師器	甕	S 90 北東暗灰土	
石製品	AND F 1		
弥生土器	片	金属製品	鉄釘
S 90		S 90 南東暗灰土	
須恵器	蓋 3 坏 c3 高坏	金属製品	鉄釘
土師器	高坏		
弥生土器	片	S 90 南西暗灰土	
金属製品	鉄釘		
		金属製品	鉄釘
S 90 棺内		S 91	
土師器	片		
金属製品	鉄釘	石製品	OB F 1
		弥生土器	片
S 90 灰茶褐土		S 92	
須恵器	片		
弥生土器	片	弥生土器	片

Tab 11 21 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表9

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 10

S 93		S 100 淡黄土	
弥生土器 後	壺	弥生土器 前	甕
		弥生土器 後	甕
S 94			
弥生土器	片	S 100a	
		弥生土器	片
S 95		S 100b	
須恵器	蓋 3 小蓋 1 坏	土師器	小型丸底壺
土師器	鉢 b	弥生土器	高坏
弥生土器 後	高坏	弥生土器 後	甕、高坏
		弥生土器 後前	甕
S 96			
弥生土器 前前	甕	S 100c	
弥生土器 後	高坏		
		弥生土器 前	甕
S 97		弥生土器 後	甕
弥生土器	片	S 101	
S 98		石製品	OB F 1
弥生土器 後中	壺、高坏、器台	S 102	
S 99		弥生土器	片
須恵器	小蓋 1( S 95と接合か)	S 103	
弥生土器	片		
		弥生土器 後	甕
S 100 ベット土手		S 104	
弥生土器	片		
		弥生土器	片
S 100 茶褐土		S 105	
土師器	古式甕		
石製品	OB AP 1、石包丁 1	須恵器	片
	AND AP 1、OB F 19	弥生土器	片
	AND F 2		
弥生土器 後	甕	S 105a	
弥生土器 後中	壺、甕、高坏		
弥生土器 後後	甕、鉢、器台	弥生土器	片
縄文土器 後	深鉢		

Tab 11 22 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 10

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 11

S 105a 掘り方		S 110 茶灰土	
弥生土器 後	器台	須恵器 土師器	坏 c 坏 c3 甕 皿 c 甕
S 105a 柱痕		石製品	OB F 1
弥生土器	片	S 110	
S 105b		須恵器	坏 a
石製品	OB F 1	S 111	
弥生土器	片	弥生土器	片
S 105b 掘り方		S 112	
弥生土器	片	弥生土器	片
S 105b 採取		S 113	
弥生土器	片	石製品	RF AP 1、OB F 1、OB F 1
S 105c		S 114	
弥生土器	片	土師器 石製品	甕 OB F 1
S 106		弥生土器 後前 弥生土器 後後	壺 壺
弥生土器	片		
S 107		S 115	
須恵器	坏	須恵器	蓋 3
石製品	OB F 1	弥生土器 前	甕
S 108		S 116	
石製品	砥石 1、OB F 2	石製品	OB F 1
弥生土器 後後	壺	弥生土器	片
S 109		S 117	
須恵器	坏 c3	弥生土器 後中	甕
弥生土器 後	甕	S 118	
		弥生土器	片

Tab 11 23 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 11

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 12

S 119		S 120b	
弥生土器	片	石製品	OB F 1
		弥生土器	片
S 120茶褐土			
		S 120b掘方	
須恵器	蓋 33、坏		
土師器	古式高坏	弥生土器	片
石製品	OB F 7、OB AP 2		
	OB CORE 1	S 120b 抜き取り	
弥生土器 前	壺		
弥生土器 前中	甕 2	弥生土器	片
弥生土器 後中	壺、甕		
弥生土器 後後	壺、短頸壺、甕、高坏、器台	S 120c	
弥生土器	脚付鉢、支脚、器台、絵画土器		
	片	弥生土器	片
金属製品	銅鑄先		
		S 121	
S 120茶土		弥生土器	片
土師器	古式脚付鉢	S 122	
弥生土器 後中	壺、高坏		
		須恵器	坏
S 120黒茶土		弥生土器	片
弥生土器 後中	甕、鉢	S 123	
弥生土器 後後	鉢	弥生土器 後中	甕
S 120淡茶土		S 124	
弥生土器 前中	甕	弥生土器 後	支脚、器台
S 120		S - 125	
弥生土器	鉢	須恵器	鉢 b
		土師器	坏 a 甕
S 120a		金属製品	鉄釘
		土製品	めんこ 1
弥生土器 後	壺		
		S 126	
S 120掘方			
		弥生土器	片
弥生土器	片		

Tab 11 24 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 12



前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 13

S 127		S 134	
石製品	OB F 1		
弥生土器	片	弥生土器	片
弥生土器 後後	襖	土製品	埴埴
S 128		S 135 茶褐土	
須恵器	坏	弥生土器	襖
弥生土器	片		
		S 135	
S 129			
		石製品	OB F 1、AND F 1
須恵器	坏 c3	弥生土器 前中	襖
弥生土器	片	弥生土器 後	襖、高坏
		弥生土器 後後	鉢
S 130 茶褐土			
		S 137	
須恵器	蓋 IV B 1、襖		
石製品	OB AP 1、AP 1	石製品	OB F 1
弥生土器	片	弥生土器 後	器台
S 130 茶黒土		S 138	
弥生土器 後中	壺	須恵器	坏片
		土師器	片
S 130 淡灰黄土			
		S 139	
弥生土器	片		
		須恵器	蓋 3
S 131		土師器	襖
須恵器	坏、襖	S 140 褐茶土	
土師器	襖		
		須恵器	坏 2、混入
S 132		石製品	OB AP 1
		弥生土器 後後	壺、襖、高坏、支脚
須恵器	坏 c3		
土師器	片	S 140	
S 133		弥生土器	壺
石製品	AND F 1、OB F 1	S 140 淡黄土	
弥生土器	片		
		弥生土器	片
		土製品	手づくね鉢

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 14

S 140a		S 146	
弥生土器 後後	支脚	土師器	蓋 3
		弥生土器	片
S 140a 掘方		弥生土器 後	
弥生土器	片	S 147	
S 140b		弥生土器 後中	襖
弥生土器	片	S 148	
S 140c		弥生土器	片
弥生土器	片	S 149	
S 140d		石製品	OB F 1
弥生土器	片	弥生土器 前	襖
S 140e		S 150	
弥生土器	片	土師器	襖
		弥生土器 前中	襖
S 140e 掘方		弥生土器 後	壺、手づくね鉢、坏
弥生土器	片	土師器	めんこ 1
		その他	炭化米
S 141		S 151	
弥生土器	片	石製品	OB F 1
		弥生土器 後	壺、襖、高坏
S 142		弥生土器 後後	鉢
須恵器	襖	S 152	
土師器	蓋 3 皿 c 襖	須恵器	坏
弥生土器	片	土師器	襖
S 143		石製品	OB F 2
須恵器	片	弥生土器 後中	襖、支脚
弥生土器 前	襖	弥生土器 後後	長頸壺、襖、高坏
S 144		S 153	
弥生土器	片	石製品	OB F 2

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 15

S 154		S 155f	
須恵器 土師器	蓋 3 坏 椀	弥生土器 後後	鉢
弥生土器 後	椀、高坏	S 156	
S 154 柱痕		須恵器 土師器	蓋、鉢 蓋
石製品	OB F 1	石製品	OB F 1
弥生土器 後	壺	弥生土器 後中	椀、支脚
S 155 黒茶土		S 158	
弥生土器 後	椀	石製品	OB F 1
弥生土器 後中	高坏	弥生土器 後	壺、(瀬戸内系) 椀、高坏
S 155 茶褐土		S 159	
土師器	布留系椀	須恵器	坏 a 坏 c3
石製品	OB F 4、AND F 1	土師器	坏 a 椀
弥生土器 後前	椀、坏	瓦器	小皿 a
弥生土器 後中	壺、椀		
弥生土器 後後	鉢、高坏、器台、小型器台	S 160	
	椀	須恵器	蓋 c1 蓋 c3 坏 c 坏身 c3 椀 蓋 3 鉢 b
S 155a		土師器	皿 c 椀、蓋 c3
弥生土器	片	石製品	OB F 1
		弥生土器	鉢
S 155b		弥生土器 後	高坏、支脚
		弥生土器 後中	壺
石製品	OB F 1	弥生土器 後後	壺
		土製品	棒状土製品、製塩土器
S 155c		S 162	
弥生土器	片	石製品	OB F 1
S 155d		弥生土器 後中	壺
		弥生土器 後後	椀
土師器	布留系椀、山陰系椀		
弥生土器 後後	壺、高坏	S 163	
S 155e		弥生土器	片
弥生土器 後中	壺、椀	S 164	
		弥生土器	片

Tab 11 27 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 15

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 16

S 165茶褐土		S 166	
土師器	古式高坏	弥生土器 後中	壺、甕、高坏
石製品	OB F 4		
弥生土器 後中	壺、甕	S 167	
弥生土器 後後	壺、甕、高坏、支脚、鉢		
弥生土器 後末	甕(西新式)	土師器	小型丸底壺
金属製品	不明	弥生土器 後	支脚
土製品	めんこ		
		S 168	
S 165茶黒土		弥生土器 後中	甕
土師器	古式壺、甕		
石製品	OB F 2	S 169	
弥生土器 後後	甕、鉢、高坏、脚付鉢、器台		
金属製品	刀子	弥生土器 後中	甕、高坏
S 165		S 170茶褐土	
弥生土器	壺、甕、鉢、高坏	石製品	OB F 1
S 165a		弥生土器 後	壺、高坏
弥生土器 後後	甕	S 170	
S 165b		弥生土器	片
弥生土器 後中	壺、甕	S 171	
土製品	坏身、手づくね	石製品	OB F 2、AND F 1
S 165c		弥生土器 後中	壺
石製品	OB F 1	S 173	
弥生土器 後	甕、高坏	弥生土器	片
土製品	めんこ 2	S 174	
S 165c抜取り		弥生土器	片
弥生土器	片		
S 165d			
弥生土器	片		
S 165淡黄土			
弥生土器 後中	壺		

Tab 11 28 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 16

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 17

S 175茶褐土		S 175 h	
須恵器	杯 a 坏 c3	須恵器	壺
土師器	甕、小型特殊器台	弥生土器 後前	短頸壺
石製品	OB AP 1、OB F 11 AND F 1	S 175灰黄土	
弥生土器 前中	甕、鉢		
弥生土器 中	甕、	弥生土器 後中	甕
弥生土器 後	壺、甕、鉢、支脚、ミヅア土器坏		
弥生土器 後前	甕	S 175カマド	
弥生土器 後中	壺		
弥生土器 後後	脚付鉢	石製品	OB F 1
金属製品	手鐲	弥生土器 後後	甕
土製品	手づくね杯、小鉢、めんこ		
		S 176	
S 175a			
土師器	鉢	弥生土器	片
弥生土器 後前	壺、中鉢	金属製品	不明
		S 177	
S 175b			
弥生土器	片	須恵器	坏
		土師器	片
S 175c		S 178	
弥生土器 後	高坏	弥生土器	片
S 175d		S 179	
弥生土器	片	須恵器	甕
		石製品	OB F 1
S 175e		弥生土器 後中	壺、甕、高坏
石製品	AND F 1	S 180茶褐土	
弥生土器 前中	甕		
弥生土器 後中	短頸壺、高坏	須恵器	甕
		土師器	古式壺、鉢 b
S 175f		石製品	磨石 1、OB F 19、軽石 1 OB AP 1、AND F 1
弥生土器 後	甕	弥生土器 後中	壺、甕
		弥生土器 後後	長頸壺、甕、鉢、高坏、支脚
S 175g		縄文土器 晩期	浅鉢
		金属製品	鐵
弥生土器	片	土製品	手づくね鉢、めんこ 2

Tab 11 29 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 17

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 18

S 180茶土		S 183	
土師器	大坏 c	土師器	覆片
石製品	石包丁 1、OB F 4		
弥生土器 後	壺、椀、鉢、高坏	S 184	
弥生土器 後前	覆		
弥生土器 後後	支脚	弥生土器	片
S 180淡黄土		S 185茶褐土	
石製品	OB F 1	縄文土器 後中	覆
弥生土器	片	縄文土器 後後	壺、椀、鉢、高坏
		土製品	めんこ 2
S 180a		S 186	
弥生土器 後	高坏、器台	弥生土器	片
S 180c		S 187	
弥生土器	片	石製品	OB F 1
S 180d		弥生土器 前	覆
弥生土器 後	覆	S 188	
S 180e		須恵器	坏
土師器	覆	弥生土器	片
弥生土器 後	覆	S 189	
弥生土器 後中	覆	弥生土器 後	器台
S 180f		S 190	
弥生土器 後	壺、椀	須恵器	蓋 1 蓋 C3 覆
S 180炉		石製品	OB F 1
弥生土器	片	弥生土器 前	覆
		弥生土器 後	覆
S 181		S 191	
弥生土器 後	高坏	弥生土器 後後	覆、高坏、支脚
弥生土器 後中	壺	S 192	
S 182		弥生土器 後	覆
弥生土器	片		

Tab 11 30 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 18

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 19

S 193		S 197b	
須恵器 土師器	蓋 3 椀 蓋、坏 c3 椀 1	弥生土器 後	高坏
同安窯系青磁	椀	S 197堀り方	
S 194		弥生土器	片
弥生土器 後中 弥生土器 後後	椀 椀	S 197a	
		石製品	OB F 1
S195茶褐土		S 197c	
土師器 石製品	高坏 OB F 2	須恵器	坏、椀
弥生土器 後前 弥生土器 後中 弥生土器 後後	椀 壺 長頸壺、椀、高坏、支脚	国産陶器 近代 弥生土器	壺、鉢、瓶 片
		S 197c堀り方	
S 195a		須恵器	坏
弥生土器 後	高坏	土師器	坏、皿 b 椀
S 195b		S 198	
弥生土器 後	器台	土師器 弥生土器 後中 弥生土器 後後	小型特殊器台 壺 椀
S 195c		S 199	
弥生土器	片	石製品	OB F 1
S 195d		弥生土器 後 弥生土器 後中 弥生土器 後後	支脚 椀、脚付鉢 椀、鉢、高坏
S 195e		S 200	
土師器	坏 c3	弥生土器 後中 弥生土器 後後	壺 椀、鉢
S 196		S 200暗茶粘	
弥生土器	片	弥生土器 前前 弥生土器 後中	椀 椀
S 197a			
弥生土器 後	壺、椀		

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 20

S 202		S 210 a	
石製品	OB F 1	弥生土器	片
弥生土器	片	弥生土器 前	甕
S 203		S 210b	
土師器	坏 c3	石製品	OB F 1
		弥生土器 後中	壺
S 204		S 210 c	
弥生土器	片	弥生土器	片
S 205 黄茶土		S 210 淡黄土	
石製品	OB F 2	弥生土器 後中	壺
弥生土器 後	甕、器台		
S 205 茶褐土		S 211	
弥生土器 後	器台	須恵器	蓋 3 坏 c3
		土師器	蓋 3 坏 c
S 205 暗茶土		弥生土器	片
弥生土器 後中	壺	S 212	
S 206		弥生土器	片
須恵器	坏片	S 214	
土師器	坏 a	弥生土器 後中	甕
弥生土器 後後	甕	弥生土器 後後	高坏
S 207		S 215 茶褐土	
須恵器	坏	石製品	OB F 2
弥生土器 後中	甕	弥生土器 前	甕
S 209		弥生土器 後中	鉢
		弥生土器 後後	壺、器台
弥生土器	片	S 216	
S 210 茶褐土		須恵器	蓋 3 坏 c 甕
石製品	磁石 1、OB F 13	土師器	甕
弥生土器 後後	壺、甕、高坏、器台	弥生土器	片
縄文土器 後	深鉢		
土製品	棒状土製品		

Tab 11 32 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 20



前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 21

S 217		S 222	
弥生土器 後後	高坏	弥生土器	片
S 219		S 223	
石製品	OB F 1	土師器	長頸壺
弥生土器 後後	甕、高坏	石製品	OB F 1
		弥生土器 後後	支脚
S 220		S 224	
石製品	OB F 1		
弥生土器 後後	壺、甕、大甕、高坏、支脚	弥生土器	片
S 220 茶褐土		S 225 茶褐土	
石製品	磁石 1、OB F 3、AND F 1	石製品	OB F 1
弥生土器	壺、甕、甕、支脚、器台 甕	弥生土器 前	甕
弥生土器 前	甕、壺、瀬戸内系壺	弥生土器 後	壺、甕、鉢
弥生土器 後中	壺		
弥生土器 後後	壺、甕、鉢、器台	S 226	
S 220 a		弥生土器	片
石製品	OB F 1	S 227	
S 220 b		弥生土器	片
弥生土器	片	S 228	
S 220 c		弥生土器	片
石製品	OB F 1	S 229	
弥生土器	片	弥生土器	片
S 220 暗茶褐土		S 230 茶褐土	
須惠器	蓋 3		
弥生土器 前	甕	弥生土器	鉢
弥生土器 後後	甕、鉢		
		S 230	
S 221		須惠器	坏、甕
弥生土器	片	石製品	OB F 2
		弥生土器 後後	甕、鉢

Tab 11 33 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 21

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 22

S 231		S 240 a	
弥生土器	片	弥生土器 後	高坏
S 232		S 240 b	
弥生土器 前中	椀	弥生土器	片
弥生土器 後後	椀		
S 233		S 241	
弥生土器 後後	器台	弥生土器	片
		土製品	手づくね鉢
S 234		S 242	
弥生土器	片	須恵器	坏
S 235 茶褐土		弥生土器 後	壺
		S 243	
石製品	AND F 1		
弥生土器 後	鉢	須恵器	片
S 236		石製品	AND F 1
		弥生土器	片
弥生土器 前	壺	S 244	
弥生土器 後	壺、高坏	弥生土器 後	鉢、高坏
S 237		縄文土器 後	深鉢
須恵器	坏	S 245 淡灰茶土	
弥生土器 後中	壺	弥生土器 後後	椀
S 238		S 245 灰茶砂	
弥生土器	片	弥生土器	片
S 239		S 245	
弥生土器 後後	椀	弥生土器 後	高坏
S 240 茶褐土		S 246	
須恵器	坏 c3	弥生土器 後中	壺、鉢
弥生土器 中前	椀		
弥生土器 後中	壺、鉢		

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 23

S 247		S 255 淡灰茶土	
弥生土器	片	弥生土器 前	鉢
S 248		S 255a	
石製品	磁石 1	弥生土器	片
弥生土器	片		
		S 255d	
S 249		石製品	OB F 1
須恵器	坏 c		
弥生土器 後前	甕	S 256	
弥生土器 後後	高坏	石製品	OB F 1
S 250 茶褐土		弥生土器 後後	高坏
弥生土器 後後	壺、甕	S 257	
S 251		石製品	OB F 1
		弥生土器	片
弥生土器	片		
		S 258	
S 252		弥生土器	片
弥生土器	片		
		S 259	
S 253		弥生土器 後前	甕
石製品	OB F 13		
		S 260 茶褐土	
S 254		石製品	OB CORE 5、OB F 9
弥生土器	片	弥生土器 前前	鉢
		弥生土器 後後	甕
S 255 茶褐土			
		S 260 a	
石製品	磁石 1、OB AP 1 AND AP 1、OB CORE 2、 OB F 8、AND F 1、	石製品	OB F 1
弥生土器 前中	甕、壺	S 260 b	
S 255 淡茶褐土		石製品	OB F 1
弥生土器	鉢	S 261	
		弥生土器	片

Tab 11 35 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 23

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 24

S 262		S 270a	
弥生土器 後	壺	弥生土器	片
S 263		S 270b	
弥生土器	片	弥生土器 後中	壺
S 264		S 270c	
弥生土器	片	弥生土器	片
S 265茶褐土		S 270d	
土師器	布留系壺	弥生土器	片
弥生土器 後	高坏	S 270e	
S 266		弥生土器	片
石製品	OB F 1	S 270f	
弥生土器 後	椀	弥生土器 後	高坏
弥生土器 後中	椀	S 270g	
S 267		弥生土器	片
弥生土器 後後	椀	S 271	
S 268		弥生土器 後後	壺、椀、鉢、高坏、器台
弥生土器	壺片	S 272	
S 269		弥生土器 後中	壺、椀
弥生土器 後後	高坏	S 273	
S 270茶褐土		須惠器	坏
		石製品	磨石 1、OB F 4、AND F 2
		弥生土器 後後	壺、椀、鉢、高坏、器台
		S 274	
S 270淡黄土		石製品	OB F 1
		弥生土器	鉢
		弥生土器	壺、片

Tab 11 36 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 24

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 25

S 275		S 284	
弥生土器 前	椀	土師器	椀
弥生土器 後後	壺、鉢	弥生土器 後	椀
		弥生土器 後中	壺
S 276			
須恵器	坏	S 285	
石製品	OB F 2	石製品	OB F 1、OB 姫島 F 1
弥生土器	片		石鍬 1、AND F 1
			AND 1
S 278		弥生土器 前	壺
		弥生土器 前中	椀
弥生土器	片	弥生土器 後	椀
弥生土器 後	壺		
		S 285 明茶灰土	
S 279			
石製品	AND F 1	弥生土器	壺、椀
弥生土器 前	椀		
弥生土器 後	壺	S 285 明茶灰砂	
S 280 茶褐土		石製品	OB CORE 1、OB F 5
		弥生土器 前前	大壺(壺棺)、椀
須恵器	坏		
石製品	OB F 8、AND F 2	S 285 明黄褐粘	
弥生土器	片		
弥生土器 前	壺、椀	石製品	OB F 5
縄文土器	浅鉢		
		S 285 明茶褐粘	
S 281			
		石製品	AND F 2
弥生土器 中	壺、椀	弥生土器 前	壺
弥生土器 後	椀		
弥生土器 後前	椀	S 285 茶粘	
S 282		弥生土器	片
石製品	OB F 4	S 285 暗茶土	
弥生土器 前	壺		
弥生土器 後	壺、椀	弥生土器	片
S 283		S 285 明茶褐土	
須恵器	高坏	弥生土器 前前	壺、椀
弥生土器 後	壺	弥生土器 前中	椀

Tab 11 37 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 25

前田遺跡第1次調査出土遺物一覧表 26

S 285 暗赤茶粘		S 298	
弥生土器 前	甕	弥生土器	片
S 286		S 299	
弥生土器 後前	甕、片	弥生土器	片
S 287		S 301	
弥生土器 後	器	弥生土器	片
S 288		S 302	
弥生土器 後中	壺、器台	弥生土器	片
S 289		S 303	
弥生土器 後	高坏	須恵器	坏、甕
S 292		弥生土器	片
弥生土器	片	S 304	
S 293		弥生土器	片
弥生土器	片	S 305 茶褐土	
S 294		石製品	OB F 4
石製品	AND F 1	弥生土器	甕
弥生土器	片	弥生土器 前	壺
S 295 茶褐土		S 306	
弥生土器 後後	鉢、器台	弥生土器	片
S 295 暗茶灰粘		S 308	
弥生土器 後前	壺、器台	弥生土器	片
S 296		S 313	
弥生土器	片	石製品	OB F 1
S 297		S 317	
弥生土器 後	甕	弥生土器	片
		S 318	
		弥生土器	片
		S 324	
		石製品	OB F 1
		S 325	
		弥生土器	片
		S 326	
		弥生土器	片

Tab 11 38 前田遺跡第1次調査 出土遺物一覧表 26

## 前田遺跡第1次

前田1次遺物観察表凡例

①号とは遺物に付与された整理番号で、収蔵後の棟票にはこの番号を用いる。

土器以外の遺物は口径・高さ・直径・長さ・厚み・断面に読み取る。

数値後の「は」は厚み以外の寸法、「径」は直径以外の寸法で表記している。  
 脚注手法は以下の通りとした。たはちめ→た、なで→な、はけ→は、よこはけ→よ、けずり→け、みがき→み。

前田1次遺物観察表1

遺 物	No	部 種	F	P	R	口 径 cm	高 度 cm	底 径 cm	外 面			内 面		
									た	な	は	よ	け	み
11582008黄褐色土	5-6緑灰土	1	須 蓋 3	11/28	11/27	003	1.2							
＃	5-6緑灰土		弥生 甕			001	3.8	6.6						
＃	5-6緑灰土		弥生 高坪			002	18.0	3.8						
11582009黄棕色砂質土	5-5黄緑灰土	2	須 蓋	11/28	11/27	003	2.6							
＃	5-5黄緑灰土		弥生 壺			001	2.4							
＃	5-5黄緑灰土		土師 甕			002	3.2							
11582010黄褐色土	5-20黄灰土		弥生 甕			001	3.4							
11582011黄褐色土	5-50黄灰土	3	須 蓋 3	11/28	11/27	002	13.6	1.65						
＃	5-50黄灰土	4	須 蓋 C3	11/28		001	2.5	14.3						
＃	5-50黄灰土	5	土師 蓋 3	11/28	11/27	003	20.8	1.8						
＃	5-50黄灰土	6	土師 甕	11/28	11/27	004								
11582012黄褐色土	5-50黄灰土	7	土師 甕	11/28		001	27.4	7.75						
1158201a	5-50a	8	土師 甕 a	11/28	11/27	002	30.7	13.8						
＃	5-50a	9	土師 甕 a	11/28		001	24.5	24.0						
11582013黄褐色土	5-20黄灰土	10	弥生 壺	11/28		001	16.4	6.2						
＃	5-20黄灰土	11	弥生 壺	11/28		004	2.5							
＃	5-20黄灰土	12	弥生 壺	11/28		014	2.9							
＃	5-20黄灰土	13	弥生 支脚	11/28		002	5.2							
11582014黄褐色土	5-800黄灰土	14	須 蓋 C3	11/28	11/27	003	13.2	2.0	9.0					
＃	5-800黄灰土	15	須 蓋 C3	11/28	11/27	003	15.1	1.7	10.6					
＃	5-110	16	須 坪 a	11/28	11/28	001	1.4	6.6						
＃	5-110黄灰土	17	須 坪 c	11/28	11/28	001	10.2	3.5	3.0					
＃	5-800黄灰土	18	須 坪 c	11/28	11/28	005	10.9	3.4	7.2					
＃	5-800黄灰土 1	19	須 坪 c	11/28	11/28	004	13.0	3.7	7.9					
＃	5-800黄灰土 1	20	土師 大坪 c	11/28	11/28	001	19.8	5.2	13.2					
＃	5-800黄灰土	21	土師 煎 a	11/28	11/28	006	20.2	3.0	16.9					
11582015黄褐色土	5-800黄灰土 1	22	須 蓋 C3	11/29	11/28	002	14.0	2.5	9.8					
＃	5-800黄灰土 1	23	須 坪 c4	11/29	11/28	001	12.2	3.2	8.2					
＃	5-800黄灰土 2	24	須 坪 c	11/29	11/28	001	1.2	9.4						
＃	5-800黄灰土 2	25	土師 大坪 c	11/29	11/28	002	2.0	17.4						
11582016黄褐色土	5-800黄灰土	26	土師 甕	11/29	11/28	001	24.2	5.4						
11582017黄褐色土	5-100黄灰土	27	弥生 壺	11/29	11/28	001		4.4						
＃	5-100黄灰土	28	弥生 甕	11/29	11/28	003	3.9							
＃	5-100黄灰土	29	弥生 甕	11/29	11/28	002	4.9							
11582018黄褐色土	5-120黄灰土	30	弥生 鉢	11/29	11/28	001	20.2	10.0	3.6					
＃	5-120黄灰土	31	土師 脚付釜鉢	11/29	11/28	001	10.6	7.4						
＃	5-120黄灰土	32	弥生 支脚	11/29	11/28	002								
11582019黄褐色土	5-120黄灰土	33	弥生 高坪	11/29	11/28	001	4.9	13.5						
11581428黄褐色土	5-140	34	弥生 壺	11/29	11/28	001	16.0	3.4						
＃	5-140黄灰土	35	弥生 壺	11/29	11/28	003	11.4							
＃	5-140黄灰土	36	弥生 壺	11/29	11/28	004	2.1	3.8						
11581429黄褐色土	5-140黄灰土	37	弥生 甕	11/29	11/30	001	24.6	20.5						
＃	5-140黄灰土	38	弥生 甕	11/29	11/30	002		18.4						
＃	5-140黄灰土	39	弥生 鉢	11/29	11/30	004	30.9	8.4						
11581509黄褐色土	5-150黄灰土	1	弥生 甕	11/30	11/30	001	3.6							
＃	5-150黄灰土	2	弥生 甕	11/30	11/30	002	4.3	8.0						
＃	5-150黄灰土	3	弥生 高坪	11/30	11/30	001	30.0	6.9						
＃	5-150黄灰土	4	弥生 坪	11/30	11/30	004	4.3							
11581510黄褐色土 4帖点	5-155d	5	弥生 壺	11/30	11/30	001	11.4	21.7						
＃	5-155d	6	古土師 甕	11/30	11/30	002	18.0	8.6						
＃	5-155d	7	古土師 甕	11/30	11/30	003	2.7							
11581511黄褐色土 4帖点	5-155e	8	弥生 壺	11/30	11/30	001	18.0	9.9						
11581512黄褐色土 4帖点	5-155f	9	弥生 鉢	11/30	11/30	002	6.3							
＃	5-155f	10	弥生 鉢	11/30	11/30	001	13.3	5.7						
11581609黄褐色土	5-165	11	弥生 壺	11/30	11/30	001	18	4.7						
＃	5-160黄灰土	12	弥生 甕	11/30	11/31	001	4.2							
＃	5-160黄灰土	13	弥生 高坪	11/30	11/31	003	4.4							
＃	5-160	14	弥生 甕	11/30	11/31	003	19.1	6.8						
＃	5-199	15	弥生 甕	11/30	11/31	003	8.5							
＃	5-199	16	弥生 甕	11/30	11/31	002	24.0	9.0						
＃	5-160黄灰土	17	弥生 甕	11/30	11/31	004	6.3	9.0						

前田1次遺物観察表 2

遺 種	No	器 種	F区	P区	R番号	口 径	高 さ	底 径	外 面						内 面								
									た	な	は	よ	か	み	な	は	け	み					
#	5-160紫粘土	18	弥生 甕	11 30	11 40	002																	
#	5-199	19	弥生 甕	11 31	11 32	001	240	306															
#	5-160紫粘土	20	弥生 甕	11 31	11 32	001	224	320															
#	5-165	21	弥生 鉢	11 31	11 31	006	342	91															
#	5-165	22	弥生 鉢	11 31	11 31	002	164	57															
#	5-165	23	弥生 鉢	11 31	11 31	005	266	68															
#	5-165	24	弥生 高坏	11 31	11 31	004		28															
#	5-160紫粘土	25	弥生 高坏	11 31	11 31	006		66	118														
151216a	5-165a	26	弥生 甕	11 31	11 31	001		52	51														
151216b	5-165b	27	弥生 甕	11 31	11 31	001	139	52															
#	5-160紫粘土	31	土製品 メンコ	11 31	11 31	007	24	24	09														
#	5-160紫粘土	32	土製品 メンコ	11 31	11 31	008	32	33	07														
151216黄褐色土	5-160黄褐色土	28	弥生 高坏	11 31	11 32	001		56	192														
151216黄褐色土	5-160黄褐色土	29	弥生 甕	11 31	11 32	001		50															
#	5-165b	30	手づくね 坏	11 31	11 31	002	51	50	30														
151217紫褐色土	5-170紫褐色土	1	弥生 甕	11 32	11 32	008	135	32															
#	5-170紫褐色土	2	弥生 甕	11 32	11 32	004	260	79															
#	5-170紫褐色土	3	弥生 甕	11 32	11 32	001	432	80															
#	5-170紫褐色土	4	弥生 鉢	11 32	11 32	003	120	60	44														
#	5-170紫褐色土	5	弥生 鉢	11 32	11 32	006		39															
#	5-170紫褐色土	7	土師 小型特殊器台	11 32	11 32	007		21															
151217紫褐色土	5-170紫褐色土	6	手づくね 小鉢	11 32	11 32	005		32															
#	5-170紫褐色土	8	手づくね 坏	11 32	11 32	002	50	40	46														
151217黄褐色土	5-170黄褐色土	9	弥生 甕	11 32	11 33	001	166	47															
#	5-170黄褐色土	10	弥生 甕	11 32	11 33	002		55															
151217a	5-175a	11	弥生 甕	11 32	11 32	003		100															
#	5-175a	12	弥生 鉢	11 32	11 33	002		77															
#	5-175a	13	土師 鉢	11 32	11 32	001	137	57	135														
151217c	5-175c	14	弥生 高坏	11 32	11 33	001		25															
151217e	5-175e	15	弥生 高坏	11 32	11 33	001		39															
151217f	5-175f	16	温 甕	11 32	11 33	001		32															
151218紫褐色土	5-180紫褐色土	17	弥生 甕	11 32	11 33	001		124															
#	5-180紫褐色土	18	弥生 長鉢壺	11 32	11 33	005																	
#	5-180紫褐色土	19	弥生 甕	11 32	11 33	004		49															
#	5-180紫褐色土	20	弥生 甕	11 32	11 33	001	212	50															
#	5-180紫褐色土	21	弥生 鉢	11 32	11 33	006	134	55															
#	5-180紫褐色土	22	弥生 鉢	11 32	11 33	006	166	48															
#	5-180紫褐色土	23	弥生 鉢	11 32	11 33	001		26															
#	5-180紫褐色土	24	弥生 鉢	11 32	11 33	006		46															
#	5-180紫褐色土	25	弥生 高坏	11 32	11 33	002	296	73															
#	5-180紫褐色土	26	弥生 高坏	11 32	11 33	010		49	140														
#	5-180紫褐色土	27	弥生 高坏	11 32	11 33	011		60	150														
151218a	5-180a	28	弥生 器台	11 32	11 33	001	102	148	124														
151218c	5-180c	29	弥生 甕	11 32	11 33	001	200	41															
151218紫褐色土	5-180紫褐色土	30	弥生 甕	11 33	11 33	002		28															
#	5-180紫褐色土	31	弥生 甕	11 33	11 33	001		37															
#	5-180紫褐色土	32	弥生 甕	11 33	11 33	003		22															
#	5-180紫褐色土	33	弥生 甕	11 33	11 33	004	212	67															
151219紫褐色土	5-190紫褐色土	34	弥生 甕	11 33	11 33	002		34															
#	5-190紫褐色土	35	弥生 甕	11 33	11 33	003		45															
#	5-190紫褐色土	36	弥生 甕	11 33	11 33	001		43															
#	5-190紫褐色土	37	土師 高坏	11 33	11 33	004		14															
151210紫褐色土	5-210紫褐色土	38	弥生 甕	11 33	11 34	003	220	49															
#	5-210紫褐色土	39	弥生 甕	11 33	11 34	002		77															
#	5-210紫褐色土	40	弥生 高坏	11 33	11 34	004		48															
#	5-210紫褐色土	41	弥生 器台	11 33	11 34	001	124	182	141														
151210黄褐色土	5-210黄褐色土	43	弥生 甕	11 33	11 34	001		18															
151210b	5-210b	44	弥生 甕	11 33	11 34	001		27															
151210紫褐色土	5-210紫褐色土	42	土製品 棒状 脚	11 33	11 34	005		36															
151220紫褐色土	5-220紫褐色土	1	弥生 甕	11 34	11 34	008		33															
#	5-220紫褐色土	2	弥生 甕	11 34	11 34	004		35															
#	5-220紫褐色土	3	弥生 甕	11 34	11 34	002		17															

Tab 11 40 前田遺跡第1次調査 出土遺物観察表 2



前田1次遺物観察表 3

遺 構	No	器 種	F区	P区	R番号	口径	高さ	底径	外 面					内 面						
									た	な	は	よ	か	み	な	は	け	み		
	5-220	4	弥生 甕	1134	1134	002		24	35											
"	5-220焼粘土	5	弥生 甕	1134	1134	005		33												
"	5-220焼粘土	6	弥生 甕 器台	1134	1134	003		18												
11S20焼褐色土	5-220焼粘土	7	弥生 支脚	1134	1134	007		48												
"	5-220	8	弥生 支脚	1134	1134	001		47	100											
"	5-220焼粘土	9	弥生 器台	1134	1134	001		82	140											
"	5-220焼粘土	10	弥生 甕	1134	1134	001		18												
11S20焼褐色土	5-220焼粘土	11	弥生 鉢	1134	1134	002		78												
"	5-220焼粘土	12	弥生 甕	1134	1134	002		35												
11S20焼褐色土	5-230	13	弥生 鉢	1134	1134	001	145	78												
"	5-230	14	弥生 鉢	1134	1134	001	228	104	62											
"	5-230焼粘土	15	弥生 鉢	1134	1134	001		37												
11S20焼褐色土	5-230焼粘土	16	弥生 甕	1134	1135	001		41	48											
11S24焼褐色土	5-240焼粘土	17	弥生 鉢	1134	1135	002		46												
"	5-240焼粘土	18	弥生 甕	1134	1135	001		55												
11S20焼褐色土	5-250焼粘土	19	弥生 甕	1134	1135	002		32												
"	5-250焼粘土	20	弥生 甕	1134	1135	004		23												
11S20焼褐色土	5-250焼粘土	21	弥生 甕	1134	1135	003		25	70											
"	5-250焼粘土	22	弥生 甕	1134	1135	001	220	89												
"	5-250焼粘土	23	弥生 甕	1134	1135	002		45	82											
"	5-250茶褐色土	24	弥生 鉢	1134	1135	001		33												
11S27焼褐色土	5-260	25	弥生 甕	1134	1135	001	232	328												
"	5-270焼粘土	26	弥生 高坏	1134	1135	001		23												
"	5-270焼粘土	27	弥生 高坏	1134	1135	003		24												
11S20焼褐色土	5-300焼粘土	28	弥生 甕	1134	1135	001		32	84											
11SK40灰赤色土	5-40赤土	1	須 蓋 c3	1135	1135	003	182	27												
"	5-40赤土	2	須 大坏 c3	1135	1135	001	180	50	115											
"	5-40赤土	3	須 大皿 a	1135	1135	002	230	17	181											
"	5-40赤土	4	土師 坏 a	1135	1135	001	160	30	120											
11SK40灰赤色土	5-40灰赤土	5	須 高坏	1135	1135	001	237	94												
11SK40灰赤色砂粘質土	5-40灰赤砂粘質土	6	須 蓋 c3	1135	1135	005	188	10												
"	5-40灰赤砂粘質土	7	須 蓋 c3	1135	1135	002	134	13												
"	5-40灰赤砂粘質土	8	須 蓋 c3	1135	1135	001	159	22												
"	5-40灰赤砂粘質土	9	須 坏 c	1135	1135	004	128	36	88											
"	5-40灰赤砂粘質土	10	須 坏 c	1135	1135	003	134	39	94											
11SK40灰赤色砂粘質土	5-40灰赤砂粘質土	11	須 蓋 3	1135	1136	011	150	23												
"	5-40灰赤砂粘質土	12	須 蓋 c3	1135	1136	001	160	11	118											
"	5-40灰赤砂粘質土	13	須 蓋 c3	1135	1136	002	150	23	96											
"	5-40灰赤砂粘質土	14	須 坏 c4	1135	1136	005		22	72											
"	5-40灰赤砂粘質土	15	須 坏 c	1135	1136	010	126	36	78											
"	5-40灰赤砂粘質土	16	須 坏 c	1135	1136	008	138	43	99											
11SK40灰赤色砂粘質土	5-40灰赤砂粘質土	17	須 盤	1136	1136	017		36												
"	5-40灰赤砂粘質土	18	須 高坏	1136	1136	003	190	20												
"	5-40灰赤砂粘質土	19	須 横 a	1136	1136	013		44												
"	5-40灰赤砂粘質土	20	須 小皿 a	1136	1136	004		53												
"	5-40灰赤砂粘質土	21	須 横	1136	1136	007	190	130												
"	5-40灰赤砂粘質土	22	須 鉢 a	1136	1136	012	210	52												
"	5-40灰赤砂粘質土	23	土師 高坏	1136	1136	009	266	90	120											
"	5-40灰赤砂粘質土	24	土師 横 a	1136	1136	016		27												
"	5-40灰赤砂粘質土	25	土師 横 a	1136	1136	015	180	51												
"	5-40灰赤砂粘質土	26	土師 横 a	1136	1136	014	269	68												
"	5-40灰赤砂粘質土	27	土師 横	1136	1136	006	230	104												
11SK040灰赤色土	5-40灰赤土	28	須 坏 c	1136	1137	006	111	36	76											
"	5-40灰赤土	29	須 坏 c	1136	1137	001	139	45	95											
"	5-40灰赤土	30	須 坏 c	1136	1137	002	144	42	100											
"	5-40灰赤土	31	須 坏 c	1136	1137	008	145	52	106											
"	5-40灰赤土	32	須 大坏 c	1136	1136	005		52	124											
"	5-40灰赤土	33	須 大皿 a	1136	1137	004	192	24	163											
"	5-40灰赤土	34	須 香蓋	1136	1137	003	147	38												
"	5-40灰赤土	35	須 高坏	1136	1136	007	146	17												
"	5-40灰赤土	36	須 高坏	1136	1137	002	208	70	107											
"	5-40灰赤土	37	須 蓋 b	1136	1137	007		17	144											

Tab 11 41 前田遺跡第1次調査 出土遺物観察表 3

前田1次遺物観察表4

遺 積	No	器 種	F紀	P/a	R番号	口 径 cm	高 さ cm	底 径 cm	外 面					内 面						
									た	な	は	よ	か	み	な	は	け	み		
115K 40 黄赤色土	5 40 黄赤土	38	須 蓋c	11 36	11 37	008	138	24												
#	5 40 黄赤土	39	須 蓋c	11 36	11 37	005	154	18												
#	5 40 黄赤土	40	須 蓋c	11 36	11 36	001	164	25												
#	5 40 黄赤土	41	須 環c	11 36	11 36	004	106	32 76												
#	5 40 黄赤土	42	須 環c	11 36	11 36	009	112	37 80												
#	5 40 黄赤土	43	須 環c	11 36	11 36	003	126	37 89												
#	5 40 黄赤土	44	須 環c	11 36	11 36	010	133	36 99												
#	5 40 黄赤土	45	須 環c	11 36	11 36	006	142	47 94												
#	5 40 黄赤土	46	須 環c	11 36	11 36	001	162	48 108												
115K 04 黄赤色土	5 40 赤土	47	須 蓋c	11 36	11 36	003	156	13												
#	5 40 赤土	48	須 環c	11 36	11 36	002	146	41 102												
#	5 40 赤土	49	須 大環c	11 36	11 36	001	182	58 114												
#	5 40 赤土	50	土師 大環c	11 36	11 36	004		23 142												
#	5 40 赤土	51	土師 甕	11 36	11 39	008	140	49												
#	5 40 赤土	52	甕 土師 埴壇 壺 II b	11 36	11 36	005	124	62												
#	5 40 赤土	53	甕 土師 埴壇 壺 II b	11 36	11 36	006	120	67												
#	5 40 赤土	54	甕 土師 埴壇 壺 II b	11 36	11 36	007	114	83												
115K 04 黄赤黄色粘質土	5 40 赤黄粘質土	55	須 蓋 3	11 36	11 39	002	190	18 115												
#	5 40 赤黄粘質土	56	須 環c	11 36	11 39	001	156	40 98												
115K 150	5 150	57	弥生 鉢	11 36	11 39	001	157	62 61												
115K 150	5 150	58	弥生 鉢	11 37	11 39	002	82	29												
115K 160	5 160 研土	59	須 蓋c	11 37	11 39	002	94	46 80												
#	5 160 研土	60	須 蓋c	11 37	11 39	005	192	14 120												
#	5 160 研土	61	須 蓋c	11 37	11 39	003	141	21 79												
#	5 160 研土	62	須 環c	11 37	11 39	001	138	36 99												
115K 275	5 275	63	弥生 甕	11 37	11 39	001	202	60												
#	5 275	64	弥生 鉢	11 37	11 39	002		51												
115K 28 赤黄色粘質土	5 285	1	弥生 甕	11 38	11 40	001		26.8												
#	5 28 赤黄粘質土	2	弥生 甕	11 38	11 40	001		8.6 8.2												
#	5 28 明所黄土	3	弥生 甕	11 38		001		47												
#	5 285	4	土製品 メンコ	11 38	11 39	002	52	31 07												
115K 28 赤黄灰色砂質土	5 28 明所灰砂質土	5	弥生 甕	11 38	11 39	001		47												
115K 28 明所灰色土	5 28 明所灰土	6	弥生 甕	11 38	11 39	001		64												
#	5 28 明所灰土	7	弥生 甕	11 38	11 40	003	210	107												
#	5 28 明所灰土	8	弥生 甕	11 38	11 40	001		100 72												
115T 075	5 75	1	土師 環a	11 39	11 41	002	110	22 75												
#	5 75	2	蓋B 樽c	11 39	11 41	001	148	5.8 75												
115T 100 灰白色土	5 100 灰土	3	土師 環a	11 39	11 41	001	132	32 72												
115T 130 褐色土	5 130 研土	4	須 蓋IV	11 39	11 41	001		118 35 8.8												
115K 130 灰白色土	5 130 灰土	1	土師 環a	11 40	11 41	003		15 100												
#	5 130 灰土	2	土師 環a	11 40	11 41	002		13 112												
#	5 130 灰土	3	白磁 樽V 2a	11 40	11 41	001	168	6.8 67												
115K 130 褐色土	5 130 赤土	4	青磁 樽I 3	11 40	11 41	001	149	60												

Tab 11.42 前田遺跡第1次調査 出土遺物観察表4

## 金属器観察表の凡例

Aは木質残存部の長さ(ただし、金属部は含まない)

Bは釘の頂部が残存している個体の木質残存部の上部からの長さ(ただし、金属部は含まない)

前田 11次金属観察表

遺構	No	種別	器種	Fg	P1	R番号	長さ cm	幅1 cm	幅2 cm	A cm	B cm
SI120赤褐色土	S120赤褐色土	1	銅製品	鐏先	11 41	11 42	005	4.35	3.70	1.30	
SI165赤褐色土	S165赤褐色土	2	鉄製品	不明	11 41	11 42	009	6.3	1.00	0.25	
SI165黒色土	S165黒色土	3	"	刀子	11 41	11 42	002	3.4	1.30	0.40	
"	"	4	"	"	11 41	11 42	003	4.1	1.40	0.50	
SI175赤褐色土	S175赤褐色土	5	"	手鎌	11 41	11 42	010	3.0	2.30	0.15	
SI180赤褐色土	S180赤褐色土	6	"	鎌	11 41	11 42	014	3.95	3.10	0.80	
SK040赤灰色土	S40赤灰色土	7	"	釘	11 41	11 42	002	5.20	0.35	0.30	
"	"	8	"	不明	11 41	11 42	004	1.7	0.60	0.35	
"	"	9	"	"	11 41	11 42	003	1.8	0.8	0.30	
SK040灰茶色砂質土	S40灰茶砂	10	"	斧	11 41	11 42	018	8.2	3.20	1.50	
"	"	11	"	刀子	11 41	11 42	019	9.9	1.30	0.40	
SK040淡黄茶色土	S40淡黄茶土	12	"	釘	11 41	11 42	011	4.70	0.65	0.60	
SK040暗灰色土	S40暗灰色土	13	"	鎌	11 41	11 42	009	6.9	2.90	0.60	
ST090	S90	1	"	釘	11 42		001	2.0	0.40	0.40	160
"	"	2	"	"	11 42		002	3.4	0.40	0.30	210
"	"	3	"	"	11 42		003	1.2	0.30	0.30	
ST090北部	S90北部	4	"	"	11 42	11 42	001	6.05	0.52	0.40	020
"	"	5	"	"	11 42	11 42	003	3.25	0.29	0.25	0.70
"	"	6	"	"	11 42	11 42	004	2.8	0.55	0.55	1.20
"	"	7	"	"	11 42	11 42	002	2.6	0.35	0.28	2.00
"	"	8	"	"	11 42	11 42	007	2.2	0.30	0.35	
"	"	9	"	"	11 42	11 42	005	2.7	0.40	0.35	0.20
"	"	10	"	"	11 42	11 42	006	2.4	0.35	0.28	
ST90南部	S90南部	11	"	"	11 42	11 42	005	5.35	0.25	0.25	1.20
"	"	12	"	"	11 42	11 42	010	1.4	0.35	0.35	1.50
"	"	13	"	"	11 42	11 42	003	2.25	0.75	0.70	1.40
"	"	14	"	"	11 42	11 42	004	3.4	0.45	0.40	2.15
"	"	15	"	"	11 42	11 42	007	2.4	0.35	0.30	2.40
"	"	16	"	"	11 42	11 42	006	1.2	0.40	0.40	1.00
"	"	17	"	"	11 42	11 43	001	5.0	0.75	0.75	0.20
"	"	18	"	"	11 42	11 43	002	4.45	0.40	0.30	4.35
"	"	19	"	"	11 42	11 43	009	2.15	0.50	0.40	2.15
"	"	20	"	"	11 42	11 43	008	1.25	0.45	0.45	1.25
"	"	21	"	"	11 42	11 43	011	0.8	0.40	0.30	1.30
ST090暗灰色土	S90暗灰色土	22	"	"	11 42	11 43	002	1.95	0.55	0.45	1.95
"	"	23	"	"	11 42	11 43	003	1.4	0.40	0.30	
ST090北東暗灰色土	S90北東暗灰色土	24	"	"	11 42	11 43	002	1.3	0.60	0.50	1.10
"	"	25	"	"	11 42	11 43	003	0.8	0.65	0.40	0.60
"	"	26	"	"	11 42	11 43	001	4.5	0.60	0.50	1.20

Tab 11-43 前田遺跡第1次調査 出土金属器観察表1

遺構	No	種別	器種	Fg	Pl	R番号	長さ cm	幅1 cm	幅2 cm	A cm	B cm
ST 090南西暗灰色土	S 90南西暗灰土	27	#	#	11 42	11 43	001	35	0 40	0 35	2 90
#	"	28	#	#	11 42	11 43	002	24	0 35	0 25	1 90
#	"	29	#	#	11 42	11 43	003	18	0 40	0 35	1 80
#	"	30	#	#	11 42	11 43	005	16	0 25	0 25	1 60
#	"	31	#	#	11 42	11 43	004	15	0 35	0 25	
ST 090明灰黄色土	S 90明灰黄土	32	#	#	11 43	11 43	002	46	0 50	0 40	4 10
#	"	33	#	#	11 43	11 43	001	54	0 50	0 50	5 40
#	"	34	#	#	11 43	11 43	003	33	0 40	0 30	3 00
#	"	35	#	#	11 43	11 43	006	28	0 31	0 31	2 10
#	"	36	#	#	11 43	11 43	005	28	0 31	0 31	2 10
#	"	37	#	#	11 43	11 43	004	25	0 35	0 20	
#	"	52	#	毛抜き	11 43	11 43	007	12 45	1 15	0 70	
ST 090北西暗灰色土	S 90北西暗灰土	38	#	釘	11 43	11 43	001	3 75	0 25	0 20	1 80
#	"	39	#	#	11 43	11 43	002	38	0 45	0 40	3 80
#	"	40	#	#	11 43	11 43	003	28	0 30	0 30	2 80
#	"	41	#	#	11 43	11 43	007	13	0 60	0 35	0 90
#	"	42	#	#	11 43	11 43	006	1 25	0 50	0 45	1 25
#	"	43	#	#	11 43	11 43	004	41	0 45	0 40	4 00
#	"	44	#	#	11 43	11 43	005	28	0 30	0 30	2 80
ST 090南東暗灰色土	S 90南東暗灰土	45	#	#	11 43	11 42	001	49	0 25	0 25	1 40
#	"	46	#	#	11 43	11 43	002	13	0 40	0 40	0 40
ST 090箱内	S 90箱内	47	#	#	11 43	11 43	001	31	0 30	0 30	3 30
#	"	48	#	#	11 43	11 43	003	18	0 48	0 40	1 10
#	"	49	#	#	11 43	11 43	002	29	0 30	0 30	2 90
#	"	50	#	#	11 43	11 43	004	15	0 25	0 25	1 80
#	"	51	#	#	11 43	11 43	005	18	0 40	0 40	1 60
SX 01赤灰土	S 10赤灰土	1	#	#	11 44	11 44	004	30	0 50	0 30	
#	"	2	鉄製屈	刀子	11 44	11 44	005	93	1 40	0 85	
#	"	3	#	不明	11 44	11 44	006	1 85	1 50	1 10	
SX 038	S 38	4	#	#	11 44	11 44	001	3 45	3 05	0 50	
#	"	5	#	#	11 44	11 44	002	2 55	1 45	0 75	
SX 059	S 59	6	#	釘	11 44	11 44	001	29	0 50	0 40	
SX 125	S 125	7	#	#	11 44	11 44	001	15	0 40	0 35	
SX 176	S 176	8	#	不明	11 44	11 44	001	49	1 05	0 50	
茶褐色土	茶褐土	9	#	刀子	11 44	11 44	002	5 25	1 20	0 20	
#	"	10	#	鎌	11 44	11 44	003	76	3 15	0 40	
#	"	11	#	不明	11 44	11 44	012	48	2 20	0 20	
#	"	12	#	#	11 44	11 44	005	4 55	2 50	0 90	
#	"	13	#	#	11 44	11 44	006	4 65	2 40	0 90	
#	"	14	#	#	11 44	11 44	010	4 05	3 00	0 10	
#	"	15	#	釘	11 44	11 44	007	3 55	0 65	0 55	
#	"	16	#	#	11 44	11 44	008	24	0 55	0 45	
#	"	17	#	#	11 44	11 44	009	39	0 35	0 30	
#	"	18	#	不明	11 44	11 44	004	2 70	1 50	0 35	

Tab 11 44 前田遺跡第1次調査 出土金属器観察表 2

## 前田1次石器観察表凡例

石器の設置方向は、剥片の場合は剥離面の打点部分を上とし、リングの広がりを中心部分を下としている。石核の場合は最終剥離面ないし最も明瞭な剥離面を正面としている。

長さの測定はノギスを、重量の測定には0.1g表示の電子測りを使用した。

は欠損値、\*は復原値、は測定不能の状況を示している。

石器観察表について

観察表中の略号は次のとおり。

OB(黒曜石)、AND(安山岩)、F(剥片)、RF(二次加工のある剥片)、

UF(微細剥離など使用痕のある剥片)、AP(石籠)

## 前田11次石器観察表

(は欠損、\*は復原値)

遺 集	No	石材	器種	F号	P1	R番号	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	
S105燧石灰色土	S 50燧石	1	OB	F	1145	1144	005	3300	1000	1100	40
S105燧石灰色土	S 50燧石	2	*	F	1145	1144	002	1800	1600	0300	08
S108燧石灰色土	S 60燧石	3	火成岩	磨り石	1145	1145	007	10250	9400	6350	8186
#	#	4	黒色片岩	磨製石斧	1145	1144	008	14950	6150	2900	4102
S108燧石灰色土	S 80燧石	5	安山岩	AP	1145	1144	003	1900	1200	0200	02
S109燧石灰色土	S 100燧石	6	安山岩	AP	1145	1145	005	17	18	0300	09
#	#	7	緑色片岩	石包丁	1145	1145	004	35	38	0700	128
S120燧石灰色土	S 120燧石	1	OB	AP	1146	1145	003	22	12	0550	17
#	#	2	OB	AP	1146	1145	004	2100	2100	0500	16
S170燧石灰色土	S 170燧石	3	OB	AP	1146	1145	009	17	14	0250	04
S180燧石灰色土	S 180燧石	4	OB	AP	1146	1145	013	2300	1800	0300	08
#	#	5	玄武岩	砕石	1146	1145	012	10250	7500	3000	4437
S121燧石灰色土	S 210燧石	6	泥岩	砥石	1146	1145	006	9450	4250	1850	1123
S122燧石灰色土	S 220燧石	7	砂岩	砥石	1146	1145	006	565	40	2900	1033
S125燧石灰色土	S 250燧石	8	AND	AP	1146	1145	006	3240	1800	0415	18
#	#	9	OB	CORE	1146	1145	007	2300	2935	1670	95
#	#	10	泥岩	砥石	1147	1146	005	18800	3950	3200	3202
#	#		OB	F			008	2385	2685	0500	23
#	#		OB	F			009	1670	1635	0300	09
#	#		OB	F			010	1775	1385	0230	06
#	#		OB	F			011	1760	1470	3600	05
#	#		OB	F			012	1280	1645	0385	04
#	#		OB	F			013	1310	9200	0545	04
#	#		OB	F			014	1790	1200	0500	07
#	#		OB	F			015	1800	1100	0620	10
#	#		OB	F			016	1280	1025	0335	03
S126燧石灰色土	S 260燧石	11	OB	CORE	1147	1146	004	1500	1890	1270	29
#	#	12	OB	CORE	1147	1146	003	2650	2540	1685	72
#	#	13	OB	CORE	1147	1146	002	2620	3565	1640	155
#	#	14	OB	CORE	1147	1146	001	2390	2945	1965	141
#	#		OB	F			005	2355	3340	1100	64
#	#		OB	F			006	2910	2070	1000	36
#	#		OB	F			007	2145	2325	0640	22
#	#		OB	F			008	1615	1600	0460	15
#	#		OB	F			009	1420	1575	0280	05
#	#		OB	F			010	0850	1580	0535	05
#	#		OB	F			011	2220	1340	0580	15
#	#		OB	F			012	1575	1155	0400	06
#	#		OB	F			013	0850	1085	0290	03
#	#		OB	CHP			014	0525	0875	0325	01
#	#		OB	CHP			015	0320	0950	0140	
S126燧石灰色土	S 260燧石		OB	CHP			016	0260	0360	0650	
S1260a	S 260a		OB	F			001	2160	1700	1330	36
S1260b	S 260b		OB	F			001	2800	1755	1950	52

Tab 1145 前田遺跡第1次調査 出土石器・石製品観察表1

遺 構	No	石材	器種	F号	P1	R番号	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	
S127赤褐色土	S 27赤褐色土	15	火成岩	磨り石	1147	1146	002	6650	5 700	3 200	176.3
S130赤褐色土	S 30赤褐色土		OB	F			002	2 200	3 375	0 845	32
"	"		OB	F			003	2 285	2 850	0 435	19
"	"		OB	F			004	2 725	1 720	0 550	18
"	"		OB	F			005	1 970	1 900	0 475	13
SK 040灰黄茶色土	S 40灰黄茶土	1	泥岩	石包丁	1148	1146	013	33	10	23	06
"	"	2	OB	A P	1148	1147	012	1 800	2 200	0 500	18
SK 285	S 285		OB	F			003	2 785	3 500	0 700	43
"	"		OB	F			004	3 850	2 215	1 245	70
"	"		OB	F			005	3 000	1 760	0 670	27
"	"		OB	F			006	21 000	1 880	1 100	22
"	"		OB	F			007	2 100	2 050	0 645	12
"	"		OB	F			008	1 990	1 945	0 700	19
SK 288明黄褐色粘質土	S 288明黄褐色粘質土		OB	F			001	3 160	2 665	0 615	43
"	"		OB	F			002	2 690	2 650	0 350	16
"	"		OB	F			003	2 345	1 835	0 670	17
"	"		OB	F			004	2 000	1 100	0 380	06
"	"		OB	F			005	1 000	1 615	0 335	04
SK 288暗茶灰色砂質土	S 288暗茶灰色砂質土		OB	F			002	1 650	3 040	0 780	23
"	"		OB	F			003	1 330	1 885	0 800	12
"	"		OB	F			004	2 050	1 520	0 230	02
"	"		OB	F			005	1 240	1 650	0 280	04
SK 288明茶灰色土	S 288明茶灰土		OB	F			004	2 200	3 940	1 500	104
"	"		OB	F			005	1 040	3 835	0 555	11
ST 13赤褐色土	S 13赤褐色土	16			1147	1147	002	2 700	1 7	0 350	11
SK 00赤褐色土	S 00赤褐色土	3	OB	RF	1148	1147	001	1 700	1 850	0 330	10
SX 039	S 39	4	OB	A P	1148	1147	001	2 200	1 800	0 500	17
SX 058	S 58	5	凝灰岩	石包丁	1148	1146	001	73	52	0 700	38.2
SX 076	S 76	6	OB	A P	1148	1147	001	1 500	1 250	0 350	04
SX 113	S 113	7	OB	RF	1148	1147	001	2 800	2 600	0 800	44
SX 248	S 248	1	泥岩	磨石	1149	1147	001	23 900	8 700	4 800	13640
茶褐色土	茶褐色土	2	OB	A P	1149	1147	015	20	145	0 210	06
"	"	3	OB	A P	1149	1147	011	24	20	0 400	19
"	"	4	OB	石核	1149	1147	001	2 500	2 300	1 400	75
"	"	8	緑色凝灰岩	打製石片	1148	1147	013	96	5 950	2 050	09

T ab 11.46 前田遺跡第1次調査 出土石器・石製品観察表 2



前田遺跡第1次調査 調査区遠景（上が北西）

凡例  
 写真図版右下の番号は、以下の  
 要領で理解できる。

11 28 1  
 F 号番号 挿図番号



前田遺跡第1次調査 遺構面検出状況近景（西から）



前田遺跡第1次調査 遺構面検出状況遠景（西から）





前田遺跡第1次調査 調査区全景（上が北西）



前田遺跡第1次調査 調査区北西部（上が北）



前田遺跡第1次調査 調査区北西部（上が北）



前田遺跡第1次調査 調査区北東部（上が北）



前田遺跡第1次調査 調査区中央部（北から）



前田遺跡第1次調査 調査区北壁土層観察（南から）



前田遺跡第1次調査 調査区南壁土層観察（北から）



前田遺跡第1次調査  
SB200検出状況（南から）



前田遺跡第1次調査  
SB200完掘状況（上が北）  
（ただし、前11SB200は未検出段階）



前田遺跡第1次調査  
SB200土層観察（南から）



前田遺跡第1次調査  
SB200完掘状況（南から）



前田遺跡第1次調査  
SB200t検出状況（北から）



前田遺跡第1次調査  
SB200t完掘状況（北から）



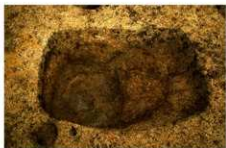
前田遺跡第1次調査 SB200b、前11ST 075t土層観察（南から）



前田遺跡第1次調査 SB200t土層観察（南から）



前田遺跡第1次調査  
SB200検出状況（南から）



前田遺跡第1次調査  
SB200完掘状況（南から）



前田遺跡第1次調査 SB200検出状況（南から）



前田遺跡第1次調査 SB200土層観察（南から）



前田遺跡第1次調査 S1D50床面検出状況（西から）



前田遺跡第1次調査  
S1D50竈検出状況（西から）



前田遺跡第1次調査  
S1D50暗茶粘質土土層観察（西から）



前田遺跡第1次調査  
S1D50土師器襷検出状況（西から）



前田遺跡第1次調査  
S1D50遺物検出状況（西から）



前田遺跡第1次調査  
SID70検出状況(南から)



前田遺跡第1次調査 SID70完掘状況(西から)



前田遺跡第1次調査 SID80履検出状況(西から)



前田遺跡第1次調査  
SID80床面検出状況(西から)



前田遺跡第1次調査  
SID80遺物検出状況(北から)



前田遺跡第1次調査 SID80完掘状況(西から)



前田遺跡第1次調査  
SID80遺物検出状況(北から)





前田遺跡第1次調査 SI100床面検出状況(東から)



前田遺跡第1次調査 SI120床面検出状況(北から)

前田遺跡第1次調査 SI120遺物検出  
状況(南から)

前田遺跡第1次調査 SI120土層観察(西から)

前田遺跡第1次調査  
SI120青銅製鐙先検出状況(北から)前田遺跡第1次調査  
SI120a土層観察(西から)前田遺跡第1次調査  
SI120b土層観察(西から)前田遺跡第1次調査  
SI120c土層観察(西から)



前田遺跡第1次調査 SI140床面検出状況（西から）



前田遺跡第1次調査 SI159床面検出状況（西から）



前田遺跡第1次調査 SI155・169床面検出状況（南東から）



前田遺跡第1次調査  
SI165土層観察（南東から）



前田遺跡第1次調査 SI170床面検出状況(北から)



前田遺跡第1次調査 SI175床面検出状況(南から)



前田遺跡第1次調査 SI175土層観察(北から)

前田遺跡第1次調査  
SI175土層観察(南から)前田遺跡第1次調査  
SI175土層観察(南から)前田遺跡第1次調査  
SI175土層観察(南から)



前田遺跡第1次調査 SI180床面検出状況、前11SI26検出状況（東から）



前田遺跡第1次調査  
SI180土層観察（東から）



前田遺跡第1次調査  
SI180土層観察（東から）



前田遺跡第1次調査  
SI180土層観察（東から）



前田遺跡第1次調査 SI185床面検出状況（南から）



前田遺跡第1次調査 SI199床面検出（南東から）



前田遺跡第1次調査  
SI210床面検出状況、SI259検出状況（東から）



前田遺跡第1次調査  
SI210床面検出状況、SI259検出状況（南から）



前田遺跡第1次調査 SI220床面検出状況(南から)



前田遺跡第1次調査  
SI220±層観察(南から)



前田遺跡第1次調査 SI230床面検出状況(南から)



前田遺跡第1次調査 SI225 SI239床面検出状況(東から)



前田遺跡第1次調査 SI240床面検出状況(西から)



前田遺跡第1次調査 SI250床面検出状況(北から)



前田遺跡第1次調査 SI259床面検出状況（西から）



前田遺跡第1次調査 SI255完掘状況（南から）



前田遺跡第1次調査  
SI260完掘状況（上が北）





前田遺跡第1次調査 SI270床面検出状況（南から）



前田遺跡第1次調査 SI270床面検出状況（西から）



前田遺跡第1次調査 SI280床面検出状況（北から）



前田遺跡第1次調査  
SK 04Q土層観察状況（南から）



前田遺跡第1次調査  
SK 04Q検出状況（南から）



前田遺跡第1次調査  
SK 04Q土層観察状況（南から）



前田遺跡第1次調査  
SK 04Q炭灰茶色土層完掘状況（南から）



前田遺跡第1次調査 SK 04Q完掘状況（南から）



前田遺跡第1次調査  
SK 150検出状況(南から)



前田遺跡第1次調査 SK 150炭化米検出状況(南から)



前田遺跡第1次調査 SK 150完掘状況(南から)



前田遺跡第1次調査 SK 275完掘状況(西から)



前田遺跡第1次調査 SK 16完掘状況（南から）



前田遺跡第1次調査 SK 28完掘状況（上が北）



前田遺跡第1次調査  
SK 28土層観察  
（南から）



前田遺跡第1次調査 ST 075遺物検出状況 (西から)

前田遺跡第1次調査  
ST 075遺物検出状況 (西から)前田遺跡第1次調査  
ST 090遺物検出状況 (西から)前田遺跡第1次調査  
ST 090毛抜き検出状況 (南から)

前田遺跡第1次調査 ST 090完掘状況 (南から)

前田遺跡第1次調査  
ST 090土師器坏 a  
検出状況 (西から)



前田遺跡第1次調査 ST 13Q遺物検出状況 (南から)



前田遺跡第1次調査 ST 13Q完掘状況 (南から)



前田遺跡第1次調査 SX 01Q検出状況 (北から)



前田遺跡第1次調査  
SX 01Q遺物検出状況 (北から)



前田遺跡第1次調査  
SX 01Q吐層観察 (西から)



前田遺跡第1次調査  
SX 01Q完掘状況 (北から)



前田遺跡第1次調査 SX 236土層観察（東から）



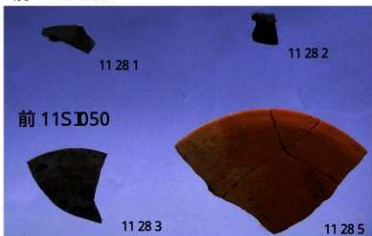
前田遺跡第1次調査 SX 32土層観察（南から）



前田遺跡第1次調査 調査終了後遠景（西から）

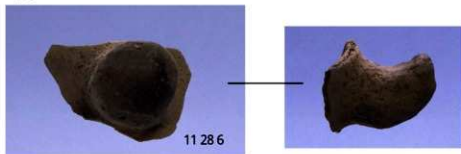


前 11SB200



前 11SD50

前 11SD50



前 11SD80



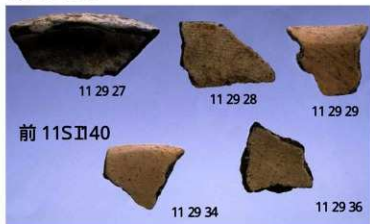
前 11S1080



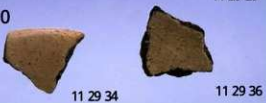
## 前 11SI080



## 前 11SI00



## 前 11SI40



## 前 11SI20



## 前 11SⅡ40



11 29 37



11 29 38

## 前 11SⅡ55



11 30 1

11 30 2

11 30 4

11 30 9



11 30 5



11 30 6



11 30 8



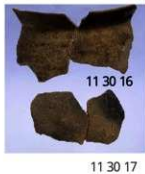
11 30 3

11 30 7



11 30 10

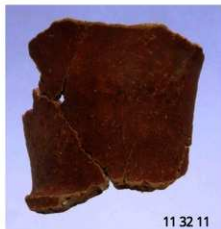
## 前 11SⅡ65



## 前 11SI65



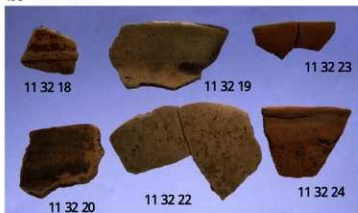
## 前 11SI75



## 前 11SⅡ75



## 前 11SⅡ80



## 前 11SⅡ85      前 11SⅡ95

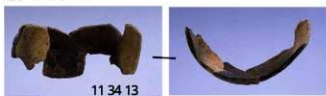


前 11S $\bar{I}$ 10

## 前 11S220

前 11S $\bar{I}$ 225 230 235

## 前 11S230

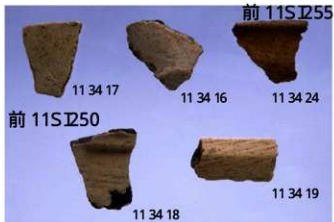




P111 35

前田遺跡第1次

前 11S240



前 11SK040



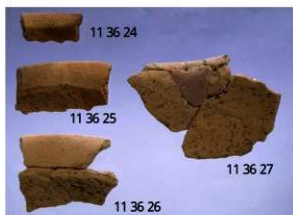
前 11S255 270 305



前 11S270



## 前 11SK040



## 前 11SK040



## 前 11SK040



前 11SK040



前 11SK040



前 11SK150



前 11SK160



前 11SK275

前 11SK285



P111 40

前田遺跡第1次

前 11SK285



P111 41

前田遺跡第1炊

前 11ST075



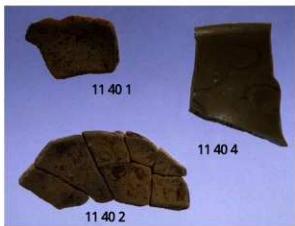
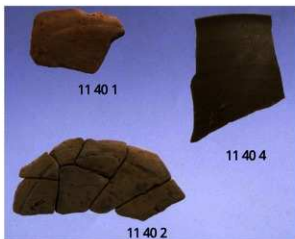
前 11ST090



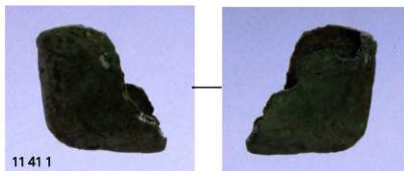
前 11ST130



前 11SX010



## 前 11SI20



## 前 11SI65 175 180 SK040

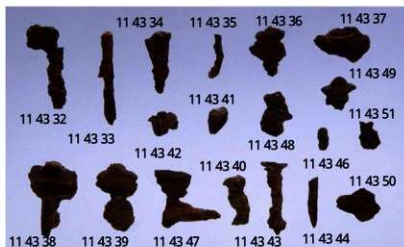


## 前 11ST090





## 前 11ST090



前 11SX010 038 069 125 176茶褐色土



前 1茶褐色土



前 11SID50



前 11SID50



P111 45

前田遺跡第1次

前 11SⅡ80



前 11SⅡ80



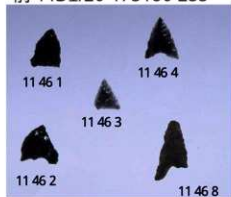
前 11SⅡ00



前 11SⅡ10



前 11SⅡ20 175180 255



前 11SⅡ55



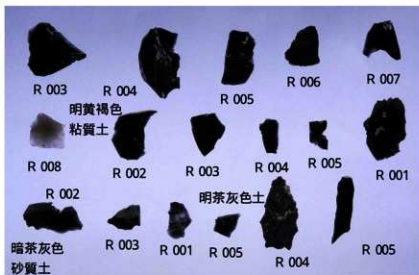
前 11S $\Sigma$ 55前 11S $\Sigma$ 70前 11S $\Sigma$ 60前 11S $\Sigma$ 05

前 11SK040

前 11SX058



## 前 11SK285

前 11SK040 ST130 SX002  
SX039 SX076茶褐色土

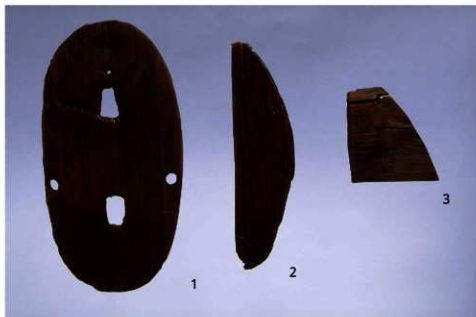
## 前 1茶褐色土



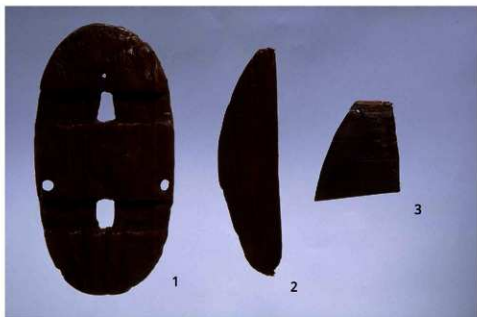
## 前 11SX248



P128 29

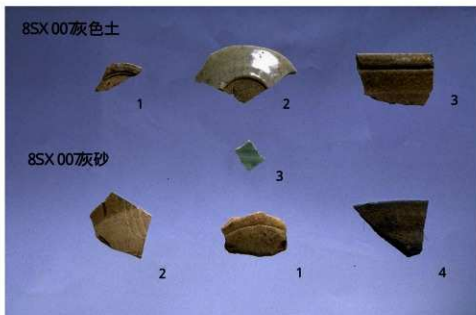


PL08 28 8SD00 灰粘出土木製品 1

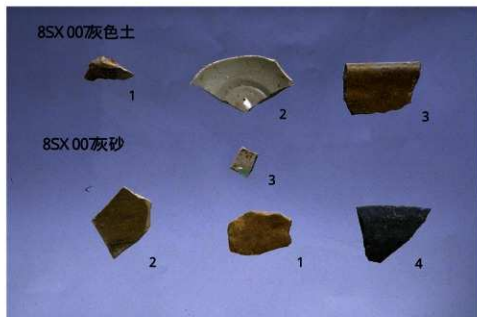


PL08 29 8SD00 灰粘出土木製品 2

P130 31



PL08 30 8SX00 出土遺物 1



PL08 31 8SX00 出土遺物 2